

科 目 名	生涯発達論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to the Human Development		シラバスNo.	250010040
担 当 教 員 名	結城 佳子 長谷川 博亮			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	栄養・看護：必修 社会福祉：選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	5 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 6 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。 1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。 2. 主な生涯発達理論について、説明できる。 3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べるができる。			
受 講 の 留 意 点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。 アクティブ・ラーニングの内容 少人数でのグループワークを取り入れた講義である。			
授 業 の 計 画	1 生涯発達とは 発達段階と発達課題 2 生涯発達の基本的理解 人の生涯発達にかかわる理論 3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信 4 乳児期後期 信頼 対 不信 5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑 6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感 7 学童期 勤勉性 対 劣等感 8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者 9 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだところの変化 10 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機 11 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (3) 成年期へ 12 成人前期 親密性 対 孤独感 13 成人後期 生成継承性 対 停滞 14 成熟期 統合 対 絶望 15 まとめ 人が生きるということ			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。	
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。	

成績評価方法	レポート課題：中間、最終各 50 点、計 100 点 5 段階評価 S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：素点 60～69 点、D：素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点 69 点までとする。
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。
参考書 (購入任意)	必要時指示する。

科 目 名	社会福祉概論（栄養学科）					
科 目 名（英 語）	Introduction to Social Welfare		シラバスNo.	250010070		
担 当 教 員 名	小泉 隆文 江連 崇					
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	障害福祉サービス事業所の社会福祉士として相談支援業務等に携わった経験をもとに、看護職に求められる社会福祉（社会保障）関連の知識等について、実務経験を活用した実践的な講義を行います。					
対応する ディプロマ・ポリシー	1 地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 2 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給のための開発等を行うために必要な力を身につけている。 3 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	1 社会福祉の基本理念や制度、現状を理解し、保健・医療・福祉における連携の重要性を説明することができる。 2 一人の生活者として人間の福祉への理解が深まる。					
受 講 の 留 意 点	・看護職に求められる多くの知識の中に社会福祉（社会保障）関連の知識があることを意識し、受講してほしい。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会福祉の歴史をたどりながら、社会福祉の理念や制度が社会の変化などと相まって発展してきたことを学習し、21 世紀を迎えての社会福祉の動向と課題を現実の中で考察します。また、看護職として知っておくべき生活支援の知識と技術、福祉職との関係についても言及します。 アクティブ・ラーニングの内容 基本的には講義形式で行います。授業の理解度を高めるために対話形式やグループワークなどの学習形態を通して、学習者の能動的な参加を求めます。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、社会福祉の原理（江連） 2 社会福祉の歴史①（江連） 3 社会福祉の歴史②（江連） 4 現代社会の福祉（江連） 5 社会福祉の法と行財政（小泉） 6 ソーシャルワーク（江連） 7 生活保護制度（小泉） 8 子ども家庭福祉（江連） 9 障害者の福祉①（小泉） 10 障害者の福祉②（小泉） 11 高齢者の福祉（小泉） 12 介護保険制度（小泉） 13 地域福祉（江連） 14 社会保障制度①（小泉） 15 社会保障制度②（小泉）					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	教科書の該当部分等に目を通し、分からない言葉等は調べておいてください。			
	復習	9 0 分	授業を聞いた上で、理解できた点、よく分からなかった点を確認し、分からなかった点については、どこが分からなかったのかを確認し、関連情報を収集して理解を深めてください。			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパー 30%、定期試験 7 0 %					

教科書 (購入必須)	大久保秀子『新 社会福祉とは何か 第4版』(中央法規)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	健康管理論				
科 目 名（英 語）	Introduction to Healthcare Management		シラバスNo.	250010100	
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目B
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	本学の健康サポートセンター長・学校医として、学校保健、産業保健に関する実務経験がある。国際協力機構の専門家として国際保健に関する活動経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている 3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 7 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	健康の概念、健康を規定する要因、健康に関する統計データ、健康管理に関する制度・法規の基礎が理解できる。				
受 講 の 留 意 点	公衆衛生学、保健医療福祉連携論、臨床医学など関連科目の内容との関連を考えながら学修すること。理解できない部分については講義後に質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	管理栄養士として求められる必要最小限の「社会・環境と健康」分野に関する基礎的な知識と、専門職として求められる健康管理についてのリテラシーを養う。健康管理活動に必要な基本的な概念、手法、統計、法規、制度、歴史・現状を理解することを目指す。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 健康・公衆衛生の概念：健康、公衆衛生、社会的公正と健康格差 2 環境と健康：生態系、地球規模の環境問題、環境汚染と健康影響、環境衛生 3 疫学 1：疫学の概念、研究手法と倫理 4 疫学 2：因果関係、スクリーニング、EBM、年齢調整死亡率、標準化死亡比 5 人口静態統計・保健統計指標：人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計 6 生活習慣の現状と対策 1：健康管理に関する行動と社会、身体活動・運動、喫煙 7 生活習慣の現状と対策 2：飲酒、ストレス、歯科保健 8 主要疾患の疫学と予防対策 1：がん、循環器疾患、代謝性疾患 9 主要疾患の疫学と予防対策 2：骨・関節疾患、感染症、精神疾患、その他の疾患 10 地域の保健予防システム・社会保障制度：保健所、社会保障の概念、医療制度、福祉制度 11 高齢者・成人の健康管理：特定健診・保健指導、健康増進事業、介護保険法 12 母子の健康管理：母子保健事業、健やか親子 21、子育て支援、児童虐待 13 学校の健康管理：学校健診・保健指導、栄養教諭、保健教育、学校保健統計、問題行動 14 職場の健康管理：労働と健康、法律、労働安全衛生政策、職業と健康被害、労働災害 15 特別講義：国際保健				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				

教科書 (購入必須)	尾島俊之・堤明純編『基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第 6 版』南江堂 (2025 年)
参考書 (購入任意)	辻一郎・吉池信男編『社会・環境と健康 2025-2026』南江堂 2025 年 3 月発行予定 清水忠彦・佐藤拓代編『わかりやすい公衆衛生学 第 4 版』ヌーベルヒロカワ 1 年次に購入済 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生統計協会 1 年次に購入済

科 目 名	健康管理論実習			
科 目 名（英 語）	Practice in Introduction to Healthcare Management		シラバスNo.	250010110
担 当 教 員 名	塚原 高広			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件 食品衛生：科目B
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	本学の健康サポートセンター長・学校医として、学校保健、産業保健に関する実務経験がある。国際協力機構の専門家として国際保健に関する活動経験がある。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	具体的な健康情報に基いて、行動変容プログラムを組み立てることができる。 健康に関する実際の数値データを統計ソフトを使って分析し、得られた結果を解釈できる。			
受 講 の 留 意 点	前半：グループワークにより毎回、課題を提出する。最終回には発表を行う。 後半：統計演習では、毎回、課題を提出する。また、データより各自が仮説を立て検証しレポートを作成する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	ヒトの健康を観察し、改善を図るために必要な手法を学ぶことがこの実習の目的である。グループワークにより認知行動療法、動機づけ面接技法を理解する。また、統計ソフトにより統計学の基本的手法を習得する。 アクティブ・ラーニングの内容：毎回の課題シート提出、グループワーク、プレゼンテーション、仮説検証学習			
授 業 の 計 画	1 統計演習 1：変数の種類、データの読み込み、データの要約 1 2 統計演習 2：データの要約 2 3 統計演習 3：2 つの連続変数の相関を評価する、独立した 2 群の比率を比較する 4 統計演習 4：独立した 2 群間の連続変数を比較する、連続変数についての多変量解析を行う（重回帰）、解析前のデータファイルを編集する 5 統計演習 5：仮説検証による統計レポート作成（1） 6 統計演習 6：仮説検証による統計レポート作成（2） 7 統計演習 7：仮説検証による統計レポート作成（3）・提出 8 グループワーク 1：イントロダクション 9 グループワーク 2：行動技法・動機づけ面接の精神と原理（PACE） 10 グループワーク 3：行動理論・動機づけ面接の基本技法（OARS） 11 グループワーク 4：行動分析・チェンジトーク 12 グループワーク 5：引き金と認知行動療法・抵抗への応答 13 グループワーク 6：シナリオの作成 14 グループワーク 7：シナリオの口頭発表 15 特別講義：国際栄養学			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分		
	復習	分		
成 績 評 価 方 法	グループワークでの提出物および口頭発表 50 点（50%）、個人単位での統計レポート 50 点（50%）の合計点で評価する。			

教科書 (購入必須)	新たに購入の必要はない。必要な資料を配布する。
参考書 (購入任意)	武見ゆかり、足達淑子ら編『栄養教育論 改訂第 5 版』南江堂（2021 年）すでに購入済 神田善伸『初心者でもすぐにできるフリー統計ソフト EZR で誰でも簡単統計解析』南江堂（2015 年）

科 目 名	医学概論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Introduction to Medicine			シラバス№.	250010130
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができる。				
受 講 の 留 意 点	教科書および講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義時などに質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、はじめに総論および人体の解剖生理の基本的な知識を学んだのち、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。				
	アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1	ライフステージにおける心身の特徴			
	2	心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題			
	3	健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）：器官			
	4	身体構造と心身機能（2）体液、循環器			
	5	身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器			
	6	身体構造と心身の機能（4）消化器・神経			
	7	身体構造と心身の機能（5）内分泌・生殖器			
	8	身体構造と心身の機能（6）筋・骨格・皮膚			
	9	身体構造と心身機能（7）免疫・感覚器			
	10	疾病と障害（1）疾病の発生原因と成立機序、リハビリテーション			
	11	疾病と障害（2）神経疾患、脳血管疾患、心疾患			
	12	疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患			
	13	疾病と障害（4）消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患			
	14	疾病と障害（5）免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患			
	15	疾病と障害（6）精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を通読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第 4 版』医学書院（2015 年）				

科 目 名	医療福祉論				
科 目 名（英 語）	Medical Welfare			シラバスNo.	250010130
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 5 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 7 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得できるようになる。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実践方法を習得できるようになる。				
受 講 の 留 意 点	保健医療福祉領域の広がりや連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努めること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向 3 保健医療における福祉的課題 4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解 5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題 6 患者の権利と保健医療における意思決定支援 7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割） 8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度） 9 介護保険制度と地域包括ケア 10 保健医療における社会福祉士の役割 11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法） 12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW） 13 地域の関係機関との連協・協働 14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援） 15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込んでおくこと
	復習	90 分	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規) 2021 年		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書については別途指示する		

科 目 名	病理学				
科 目 名（英 語）	Pathology		シラバスNo.	250010250	
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目B
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	人体の構造と機能についての知識（生理学、解剖学、生化学）をベースに、人はなぜ、どのように病を得、老い、死に至るかの過程を医学用語で説明できる。				
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進める。これまで学んだ生理学、解剖学、生化学をベースに説明するので、これらの科目の教科書や配布資料も参考にすること。復習しても理解できない部分は、質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	病理学で学ぶ事項は、臨床医学、臨床栄養学を学修する際に必要不可欠な内容を含んでいる。病理学の総論を学び、病気になるメカニズムや過程について全体的な概念を理解することが重要である。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 病気と病理学：病理学とは何か 2 細胞の異常・病気の本態：細胞障害・再生 3 先天異常・遺伝性疾患 4 循環障害 5 代謝異常：糖代謝異常・脂質代謝異常・核酸代謝異常・タンパク代謝異常・電解質代謝異常 6 老化 7 免疫と免疫異常 8 炎症 9 腫瘍 1：分類・原因・進展過程 10 腫瘍 2：がん遺伝子・がん抑制遺伝子 11 腫瘍 3：診断・治療 12 様々な臓器の働き、症状、病態 1 13 様々な臓器の働き、症状、病態 2 14 様々な臓器の働き、症状、病態 3 15 様々な臓器の働き、症状、病態 4				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を通読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	小林正伸著『なるほどなっとく病理学 plus 病態形成の機序と各器官の疾病の特徴』南山堂（2022 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	小田義直・相島慎一編『わかりやすい病理学』南江堂（2021 年）				

科 目 名	感染微生物学				
科 目 名（英 語）	Clinical Microbiology and Infectious Disease			シラバス№.	250010260
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目A
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の 3 要素、検査、化学療法、感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症の病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。				
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単なる知識の暗記ではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後に質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な考え方を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 微生物学総論：歴史、微生物の種類と特徴 2 細菌総論：形態と構造、グラム染色性、病原性 3 ウイルス・真菌・寄生虫総論 4 免疫：自然免疫、獲得免疫、アレルギー 5 ワクチン・感染症総論：予防接種、感染の 3 要素、感染経路、検査、診断、治療 6 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 7 呼吸器感染症 1：上気道感染症、インフルエンザ 8 呼吸器感染症 2：感染性肺炎、結核、新興呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼・特殊な細菌による感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 敗血症・人獣共通感染症・新興再興感染症 15 感染制御：感染対策、消毒と滅菌				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	神谷茂監修『標準微生物学第 15 版』医学書院（2024 年） 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院（2022 年）				

科 目 名	薬理学			
科 目 名 （ 英 語 ）			シラバスNo.	250010270
担 当 教 員 名	長多 好恵・山端 孝司・結城 幸一			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が薬の作用機序，薬物動態等薬物療法の基礎となるメカニズムを教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	薬物治療の基礎となるメカニズムを理解する。			
受 講 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの内 容	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、抗がん薬など）の作用および作用メカニズムと副作用について解説する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1	総論： アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方		
	2	総論： 薬の作用機序、薬物動態		
	3	各論： 末梢神経活動作用薬Ⅰ		
	4	各論： 末梢神経活動作用薬Ⅱ		
	5	各論： 中枢神経活動作用薬Ⅰ		
	6	各論： 中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬		
	7	各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅰ		
	8	各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物		
	9	各論： 高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物		
	10	各論： 消化器・生殖器に作用する薬物		
	11	各論： 物質代謝に作用する薬物		
	12	各論： 生物学的製剤、皮膚・眼科用薬		
	13	各論： 抗感染症薬		
	14	各論： 消毒薬、抗がん薬		
	15	各論： 生薬、漢方薬		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。	
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。	
成 績 評 価 方 法	筆記試験（マークシート方式、配点 100 点）により評価する。			

教科書 (購入必須)	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第 15 版』医学書院 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2024』南江堂
参考書 (購入任意)	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第 5 版』メディカル・サイエンス・インターナショナル (2007 年) 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版 (2013 年)

科 目 名	臨床医学				
科 目 名（英 語）	Clinical Medicine			シラバスNo.	250010290
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	主要な疾病の原因、病態生理、症状、診断治療の基礎的な医学知識を習得し、医学用語を使って説明できる。				
受 講 の 留 意 点	これまで学んだ解剖学、生理学、病理学、感染微生物学の知識、とくに病理学の知識が重要である。予習の段階でこれらの知識を再確認した上で、授業にのぞむこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	管理栄養士として実地臨床で役割を果たすためには、重要な疾病の原因・発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法を理解しておく必要がある。とくに臨床栄養学、栄養管理、栄養指導を学ぶ際に必要不可欠な基礎的な医学的知識をこの講義で学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 診断のための身体診察と検査・疾患の治療 2 栄養・代謝系疾患（1）栄養障害・糖尿病 3 栄養・代謝系疾患（2）脂質異常症・肥満・高尿酸血症 4 栄養・代謝系疾患（3）その他の代謝異常 5 内分泌系疾患 6 消化管疾患 7 肝・胆・膵疾患 8 循環器系疾患 9 腎・尿路系疾患 10 神経・精神系疾患 11 呼吸器系疾患 12 血液・造血管系疾患 13 運動器（骨格系）疾患 14 皮膚・免疫・アレルギー疾患 15 婦人科・生殖器・その他の疾患				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	田中明・宮坂京子・藤岡由夫編『栄養学科イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第 3 版』羊土社（2021 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	羽生大記・河手久弥編『臨床医学改訂第 2 版 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』南江堂（2024 年）				

科 目 名	調理学				
科 目 名 （ 英 語 ）	Cookery Science			シラバスNo.	250010410
担 当 教 員 名	福士 一恵				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	福祉施設での管理栄養士としての実務経験をもとに、管理栄養士として必要な調理学の知識について講義を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人文・社会・自然および地域社会を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 2.幅広い教養と栄養に関する専門知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 5.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.調理の目的や意義、食品の調理特性について説明できるようになる。 2.調理による栄養や食品の変化をふまえた調理操作と食事設計について理解できるようになる。 3.食事様式とその背景にある食文化を理解し、献立作成に活用できるようになる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	調理学では、調理の意義や目的を理解し、調理法の種類、調理による食品や嗜好性の変化を学ぶ。さらに、食文化や食べ物の特性をふまえた食事設計について理解し、対象者に合わせた調理方法について学ぶ。最終回では、調理学で学んだ知識をふまえて献立作成をグループ・ワークを交えて行う。 アクティブ・ラーニングの内容 講義時間内に練習問題に取り組み、次の講義時解説する。 その他グループ・ワークを行う。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス、調理学の基礎 食文化と調理の目的や意義、少量調理と大量調理、食事作りと食料・環境問題 2 非加熱調理法：調理操作、食品の特徴に応じた調理の特性 3 加熱調理法：調理操作、食品の特徴に応じた調理の特性 4 調理操作と栄養（1）：米、小麦、いも 5 調理操作と栄養（2）：野菜、果物、海藻、きのこ 6 調理操作と栄養（3）：肉、魚 7 調理操作と栄養（4）：卵、牛乳・乳製品 8 調理操作と栄養（5）：成分抽出素材 9 調理操作による食品の組織・物性と栄養成分の変化 10 対象者に適した調理操作；摂食機能に対応した調理 11 食事設計（1） 供食、食卓構成、食事環境、ガイドライン 12 食事設計（2） 嗜好性：嗜好性の主観的評価・客観的評価 13 食事設計（3） 食品成分表の構成と内容、栄養価計算 14 食事設計（4） 献立作成手順 15 食事設計（5） 献立作成				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書の授業内容に関連する章を読み、理解を深める。		
	復習	90 分	授業内容を振り返り教科書、参考書、参考資料を活用しノートにまとめる。		

成績評価方法	課題（30％）と定期試験（70％）を合計して評価する。 課題は指示された内容であるかについて評価する。 定期試験は、講義内容を理解しているか評価する。 評価基準は5段階評価とする。 秀 90 点以上 優 80 点以上 90 点未満 良 70 点以上 80 点未満 可 60 点以上 70 点未満 不可 60 点未満
教科書 （購入必須）	中嶋加代子・山田志麻編著「調理学の基本 第5版」同文書院 香川明夫監修「八訂食品成分表 2025」女子栄養大学出版部 松本仲子監修「調理のためのベーシックデータ 第6版」女子栄養大学出版部
参考書 （購入任意）	山崎清子他「NEW 調理と理論 第二版」同文書院

科 目 名	基礎調理学実習					
科 目 名 （ 英 語 ）	Practice in Basic Cookery Science		シラバスNo.	250010420		
担 当 教 員 名	富士 一恵					
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	福祉施設での管理栄養士としての実務経験をもとに、管理栄養士として必要な調理学の知識や技術について講義を行う。					
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人文・社会・自然および地域社会を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 2.幅広い教養と栄養に関する専門知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 5.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	1.食材に適した調理操作、調理技術が修得できる。 2.基本的な調理器具について、適切に使用することができる。 3.衛生、安全を考慮した調理を修得できる。					
受 講 の 留 意 点	体調不良時の場合には実習に参加出来ないことがあるので、体調管理に十分留意する。 清潔な白衣、帽子、実習用シューズ、マスクを着用する。爪は短く切りアクセサリーはつけない。 事前に配布資料を読み、調理法や手順などを確認し理解して実習に望むこと。実習後は、実習で学んだ内容や課題についてレポートにまとめる。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	基礎調理学実習では、調理学で学んだ理論を基礎として、下処理から調理、盛り付けまで体系的に学修する。その中で、基本的な調理操作、調理技術、食品の扱い方、衛生管理を学ぶ。また、修得した知識や技術を日常生活で実践できる力を養う。					
	アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ワーク、グループ・ディスカッション					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス、調理実習室の使い方 2 包丁の安全な扱い方、コーヒー・紅茶の淹れ方 3 料理に応じた野菜の切り方 4 計量方法 5 炊飯とだしの取り方（1） 6 炊飯とだしの取り方（2） 7 乾物を使用した調理 8 調理操作（1）（煮る） 9 調理操作（2）（焼く） 10 調理操作（3）（和える） 11 調理操作（4）（蒸す） 12 調理操作（5）（炒める） 13 調理操作（6）（混ねつ、揚げる） 14 調理操作（7）（揚げる） 15 調理操作（8）（寄せる）					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分				
	復習	分				

成績評価方法	課題・レポート（75%）と実習の取り組み状況（25%）の評価を合計した総合評点で評価する。 課題・レポートは指示された内容であるかについて評価する。 評価基準は5段階評価とする。 秀 90 点以上 優 80 点以上 90 点未満 良 70 点以上 80 点未満 可 60 点以上 70 点未満 不可 60 点未満
教科書 （購入必須）	山崎清子他「NEW 調理と理論 第二版」同文書院 松本仲子監修「調理のためのベーシックデータ 第6版」女子栄養大学出版部 香川明夫監修「八訂食品成分表 2025」女子栄養大学出版部
参考書 （購入任意）	

科 目 名	応用調理学実習				
科 目 名 （ 英 語 ）	Practice in Advanced Cookery Science			シラバスNo.	250010430
担 当 教 員 名	福士 一恵				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	福祉施設での管理栄養士としての実務経験をもとに、管理栄養士として必要な調理学の知識や技術について講義を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人文・社会・自然および地域社会を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 2.幅広い教養と栄養に関する専門知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 5.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.食品の調理特性や栄養特性をふまえた調理操作を理解し実践できる。 2.喫食時刻に合わせて調理工程・作業工程を組み立てることができる。 3.食品の衛生や安全管理を理解し調理することができる。 4.食文化や対象に配慮した食事提供をすることができる。				
受 講 の 留 意 点	体調不良時の場合には実習に参加出来ないことがあるので、体調管理に十分留意する。 清潔な白衣、帽子、実習用シューズを着用する。爪は短く切りアクセサリーはつけない。 事前に配布資料を読み手順などを確認して実習に望むこと。実習後は、実習で学んだ内容や課題についてレポートにまとめる。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	調理学、基礎調理学で学修した調理理論、衛生管理、調理操作を応用した調理技術を修得し、食品の調理性をより発展させる。また、安全で美味しい状態で喫食できるように、調理工程、作業工程について修得する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ワーク、グループ・ディスカッション				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス、災害時の調理 2 調理法による肉の軟化 3 スチームコンベクションオーブンを使用した調理 4 牛乳の調理 5 嚥下調整食の調理 6 野菜の調理 7 穀類の調理 8 魚介類の調理 9 卵の調理 10 もち粉の調理 11 ハーブやスパイスの調理 12 もち米の料理 13 小麦粉の料理 14 郷土料理の調理 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分			
	復習	分			

成績評価方法	課題・レポート（75%）、実習の取組状況（25%）の評価を合計した総合評点で評価する。 課題・レポートは指示された内容であるかについて評価する。 評価基準は5段階評価とする。 秀 90 点以上 優 80 点以上 90 点未満 良 70 点以上 80 点未満 可 60 点以上 70 点未満 不可 60 点未満
教科書 （購入必須）	山崎清子他「NEW 調理と理論 第二版」同文書院 松本仲子監修「調理のためのベーシックデータ 第 6 版」女子栄養大学出版部 香川明夫監修「八訂食品成分表 2024」女子栄養大学出版部
参考書 （購入任意）	

科 目 名	臨床栄養学 I				
科 目 名（英 語）	Clinical Nutrition I			シラバスNo.	250010550
担 当 教 員 名	中村 育子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目 B
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験は医療機関の管理栄養士。 授業内容は傷病者に対する栄養ケアマネジメント、臨床栄養学。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 2.地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 5.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	臨床栄養管理における管理栄養士の役割を学び理解できる。 1 臨床における管理栄養士の役割について理解できる。 2 管理栄養士が実践する臨床栄養管理について説明できる。 3 各疾患における「栄養代謝の特徴」を理解し、栄養食事療法について説明できる。				
受 講 の 留 意 点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1～2 時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1～2 時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 臨床栄養学では、解剖生理学、基礎栄養学、食品学など専門基礎・専門科目のすべての教科と関連している。従って、1 年次に学んだ教科については十分に復習した上で、授業に臨むこと。 質問等はオフィスアワーを特に定めないが、必ず事前連絡をしてから訪問すること。 研究室：3108				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	傷病者に対する療養のために必要な「栄養の指導」および「栄養ケア」など、臨床栄養学の基本について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 発見学習、問題解決型学習				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス / 臨床栄養学とは 1 学習ガイダンス 2 医療における臨床栄養学とは ・臨床栄養学の意義 ・臨床栄養管理の方法・効果 2 臨床における管理栄養士の役割 1.医療機関における栄養管理業務とは 2.医療機関における管理栄養士業務の実際 3 傷病者に対する栄養管理とは 1.疾病に伴う栄養代謝の変化 2.治療としての栄養管理の実際 4 臨床における栄養管理の実際 1.各疾患で求められる栄養管理の特徴 2.一般治療食 3.特別治療食 5 疾病別栄養食事療法① ナトリウムコントロール食 1.ナトリウムコントロールの必要な主な疾患 2.高血圧症 3.心臓病				

	6	疾病別栄養食事療法② ナトリウムコントロールと食事療法の実際 1.ナトリウムコントロール食の献立作成	
	7	疾病別栄養食事療法③ エネルギーコントロール食 1.エネルギーコントロールが必要な主な疾患 2.糖尿病	
	8	疾病別栄養食事療法④ エネルギーコントロールと食事療法の実際 1.エネルギーコントロール食の献立作成	
	9	疾病別栄養食事療法⑤ 易消化食 1.消化器疾患と消化吸収機能 易消化食の必要性	
	10	疾病別栄養食事療法⑥ 易消化食と食事療法の実際 1.消化吸収面を配慮した食品選択 2.易消化食の献立作成	
	11	疾病別栄養食事療法⑦ 脂質コントロール食 1.脂質コントロールが必要な主な疾患 2.膵臓病 3.胆石・胆のう炎	
	12	疾病別栄養食事療法⑧ 脂質コントロールと食事療法の実際 1.脂質コントロール食の献立作成	
	13	疾病別栄養食事療法⑨ たんぱく質コントロール食 1.腎臓の機能とたんぱく質コントロール 2.急性腎臓病 3.慢性腎臓病	
	14	疾病別栄養食事療法⑩ たんぱく質コントロールと食事療法の実際 1.たんぱく質コントロール食の献立作成	
	15	臨床における栄養ケアの実際 1.傷病者に対する栄養ケアとは 2.栄養ケア・マネジメント 3.クリニカルサービスの実際	
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	教科書を読み込む
	復習	90分	講義内容を振り返る
成績評価方法	【定期試験 80 点、受講参加態度 20 点】 詳細な評価基準は開講時に提示する。		
教科書 (購入必須)	1 佐藤和人他「エッセンシャル臨床栄養学」医歯薬出版 2 日本糖尿病学会編「糖尿病治療ガイド」文光堂		
参考書 (購入任意)	開講時に参考文献等を提示する。		

科 目 名	臨床栄養学Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Clinical NutritionⅡ		シラバスNo.	250010560
担 当 教 員 名	中村 育子			
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件 なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験は医療機関の管理栄養士。 授業内容は傷病者に対する栄養ケアマネジメント、臨床栄養学			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 2.地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 5.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1.疾患の特徴および病態について理解できる。 2.各疾患の栄養食事療法について理解できる。 3.傷病者に対する栄養ケアマネジメントについて理解できる。 ①栄養スクリーニングについて説明できる。 ②栄養アセスメントについて説明できる。 ③栄養ケアプランの作成方法について説明できる。			
受 講 の 留 意 点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1～2 時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1～2 時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 臨床栄養学では、解剖生理学、基礎栄養学、食品学など専門基礎・専門科目のすべての教科と関連している。従って、1 年次に学んだ教科については十分に復習した上で、授業に臨むこと。 質問等はオフィスアワーを特に定めないが、必ず事前連絡をしてから訪問すること。 研究室：3108			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	傷病者に対する栄養食事療法実践に必要な知識・スキルを習得する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 発見学習、問題解決型実習			
授 業 の 計 画	1 疾病別栄養食事療法① 末期腎不全の病態と透析療法 1.末期腎不全期の臨床像と栄養代謝の特徴 2.末期腎不全期の透析療法と栄養管理の実際 2 疾病別栄養食事療法② 肝臓病 1.急性肝炎の病態と栄養管理の実際 2.慢性肝炎、肝硬変の病態と栄養管理の実際 3 疾病別栄養食事療法③ 脂質異常症 1.脂質代謝異常の病態 2.脂質異常症の栄養管理の実際 4 疾病別栄養食事療法④ 高尿酸血症、肥満症 1.高尿酸血症の病態と栄養管理の特徴 2.肥満症の病態と栄養管理の特徴 5 疾病別栄養食事療法⑤ 血液疾患、骨疾患 1.血液疾患の病態と栄養管理の特徴 ・鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血 2.骨疾患の病態と栄養管理の特徴 ・骨粗鬆症・くる病・骨軟化症・ロコモティブシンドローム			

	6 疾病別栄養食事療法⑥ 消化器がん 周術期		
	1.消化器がんの病態		
	2.消化器がんの治療法		
	3.栄養管理の実際		
	7 疾病別栄養食事療法⑦ 内分泌疾患 薬と食物の相互作用		
	1.甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）		
	2.薬剤に影響する食物摂取との相互作用		
	8 ライフステージと栄養食事療法① 妊娠期および思春期		
	1.妊娠期		
	・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病		
	2.思春期		
	・神経性摂食障害		
	9 ライフステージと栄養食事療法② 乳幼児・小児期		
	1.先天性代謝異常症		
	・フェニルケトン尿症 ・メープルシロップ尿症 ・ガラクトース血症		
	2.食物アレルギー		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	10 ライフステージと栄養食事療法③ 高齢期（1）		
	1.摂食・嚥下機能について		
	2.摂食嚥下障害と嚥下調整食		
	・嚥下調整食分類 2013		
	11 ライフステージと栄養食事療法④ 高齢期（2）		
	1.フレイル、サルコペニア		
	2.褥瘡		
	3.認知症		
	12 臨床栄養における栄養補給の実際		
	1.経腸栄養法		
	2.経静脈栄養法		
	13 栄養ケアマネジメント① 栄養スクリーニング		
	1.傷病者における栄養ケアマネジメントとは		
	2.栄養スクリーニングの実際		
	14 栄養ケアマネジメント② 栄養アセスメント		
	1.傷病者に対する栄養アセスメントの実際		
	・身体計測 ・血液生化学検査 ・食事調査 ・問診、観察		
	15 栄養ケアマネジメント③ 栄養ケアプラン		
	1.傷病者における栄養必要量の算定方法		
	・エネルギー必要量 ・たんぱく質必要量・脂質必要量および脂肪酸組成		
	・ビタミン・ミネラルの必要量・水分必要量		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書を読み込む
	復習	90 分	講義内容を振り返る
成 績 評 価 方 法	【定期試験 80 点、受講参加態度 20 点】 各評価基準は開講時に提示する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	佐藤和人他「エッセンシャル臨床栄養学」医歯薬出版		
参 考 書 (購 入 任 意)	開講時に、参考文献等を提示する。		

科 目 名	臨床栄養学Ⅲ				
科 目 名 （ 英 語 ）	Clinical Nutrition Ⅲ			シラバスNo.	250010570
担 当 教 員 名	三輪 孝士				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 する 授 業 内 容	病院管理栄養士としての経験を活かし、チーム医療の一員として対象者の栄養状態の維持・改善、QOLの向上を目標とした栄養管理の実践に必要な様々な栄養アセスメントの方法について示す。また、専門用語や医学用語は単に覚えるのではなく、Nutrition Support Team（NST）活動を実践するには必須であり、理解が必要なことを講義する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 3. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 5. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 7. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	臨床領域の管理栄養士は、臨床の場において、すべての診療科との連携や NST をはじめとしてさまざまな専門の知識と技術をもったチーム医療の場で関わる。とくに NST で重要な役割を担う管理栄養士として知っておかねばならない臨床栄養学の基本の習得を目指すため、以下の目標をおく。 1. 疾病の治療や栄養・食事支援を目的として、個別の疾患・病態や心身機能の特徴に基づいた適切な栄養管理の方法の基本である経口・経静脈・経腸栄養補給法について理解している。 2. 栄養管理プロセスに沿ったプランニングを様々な病態に応じて立案することができる。 3. チーム医療を実践するための医療従事者が使用する共通用語を理解している。				
受 講 の 留 意 点	臨床栄養学は、専門基礎・専門科目のすべての教科と関連している。臨床栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだ事項および解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、臨床医学などで学んだ知識について復習すること。また準備学習（予習）と振り返り（復習）をその日のうちに行うこと。 オフィスアワーは、授業内で示す。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	毎回プリントを配布するが、ポイントだけを覚えるのでは知識は定着しない。多くの情報を提供するので、ポイントの前後を含めて授業中は必ず記録し、他の学生と意見交換をすること。 ヒトの栄養を責任をもって管理することを考えながら学習する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 PBL（課題解決型）を取り入れた学習				
授 業 の 計 画	1 医療機関における管理栄養士の役割、医療と臨床栄養 チーム医療場面で求められる管理栄養士の役割と栄養サポートチームの意義と役割 2 医療保険制度における診療報酬と栄養管理 診療報酬の算定と診療機能別入院基本料 3 傷病者に対する効率的な栄養管理の手順 栄養アセスメントの目的 栄養スクリーニングと栄養状態の判定（栄養診断） 4 栄養アセスメントの方法（1） 客観的データ栄養評価法(ODA)と臨床検査（尿検査、血算） 5 栄養アセスメントの方法（2） 臨床検査（生理・生化学検査①） 6 栄養アセスメントの方法（3） 臨床検査（生理・生化学検査②） 7 栄養アセスメントの方法（4） 身体構成成分と身体計測による栄養評価 8 栄養アセスメントの方法（5） 基礎代謝量とエネルギー消費量およびエネルギー必要量の考え方 9 栄養アセスメントの方法（6） たんぱく質必要量、水分必要量、その他栄養素必要量の考え方 10 栄養補給法（1）				

	確認テスト① 栄養補給法の選択、経口栄養補給法 11 栄養補給法（２） 経腸栄養補給法、胃瘻、病態別経腸栄養剤の特徴 12 栄養補給法（３） 経静脈栄養補給法 13 摂食嚥下障害と 摂食嚥下障害のアセスメント 14 摂食嚥下リハビリテーション 確認テスト② 摂食嚥下障害のリハビリテーションの実際 15 診療報酬と介護報酬と障害福祉サービス等の報酬 管理栄養士に関する診療報酬と介護報酬と障害福祉サービス等の報酬		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	教科書の関係する章を読み込む。
	復習	90 分	講義内容と配布資料を振り返る。
	シラバスを確認し、教科書や参考書の内容を予習して授業に臨むこと。		
成績評価方法	定期試験（評価の 80％）と 2 回の確認テスト（評価の 20％）で評価する。確認テストは 40％以上の理解が必須である。		
教科書 （購入必須）	エッセンシャル臨床栄養学第 10 版 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-70125-6（2 年次臨床栄養学Ⅰ、Ⅱで使用した教科書）		
参考書 （購入任意）	参考書は、授業内で提示する。		

科 目 名	臨床栄養学Ⅳ			
科 目 名 (英 語)	Clinical Nutrition Ⅳ		シラバスNo.	250010580
担 当 教 員 名	三輪 孝士			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件 なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 与 する 業 内 容	病院管理栄養士としての経験を活かし、チーム医療の一員として対象者の栄養状態の維持・改善、QOLの向上を目標とした栄養管理の実践に必要な栄養アセスメントの方法について示す。また、専門用語や医学用語は単に覚えるのではなく、Nutrition Support Team (NST) 活動を実践するには理解が必要なことを講義する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 3. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 5. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 7. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	臨床領域の管理栄養士に必要な知識と技術の統合を図る。 栄養療法が必要な疾患の本質および栄養療法の必要な病態についての総合的な理解、NST 活動に必要な専門的・医学的治療に関する理解、複合的な疾患であっても優先順位を説明できる栄養管理の方法を習得するため、以下の目標をおく。 ① 疾病の治療や栄養・食事支援を目的として、個別の疾患・病態や心身機能の特徴に基づいた適切な栄養管理の方法について説明できる。 ② 病態に応じた栄養療法のプランニングを適切に選択し、立案することができる。 ③ 複合的な栄養療法について、疾患との関連を理解したうえで栄養管理を計画できる。			
受 講 の 留 意 点	これまでの臨床栄養学の講義・実習で学んだ内容はもちろん、解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、臨床医学などで学んだ知識について復習すること。また準備学習（予習）と振り返り（復習）をその日のうちに行うこと。 オフィスアワーは、授業内で示す。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	毎回プリントを配布するが、ポイントだけを覚えるのでは知識は定着しない。多くの情報を提供するので、ポイントの前後を含めて授業中は必ず記録し、他の学生と意見交換をすること。ヒトの栄養を責任をもって管理することを考えながら学習する。 アクティブ・ラーニングの内容 PBL（課題解決型）を取り入れた学習、ディベート			
授 業 の 計 画	1 フィジカルアセスメントの活用（臨床診査） 栄養アセスメントにフィジカルアセスメントを活かす 2 臨床栄養管理（1） 2 型糖尿病 3 臨床栄養管理（2） 脂質異常症 4 臨床栄養管理（3） 動脈硬化性疾患、高血圧症 5 臨床栄養管理（4） 肥満症、メタボリックシンドローム 6 臨床栄養管理（5） 心不全 7 臨床栄養管理（6） がん、緩和ケアにおける病態に応じた栄養療法のプランニング 8 周産期の臨床栄養 周産期における臨床栄養管理／妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病 9 小児期の臨床栄養 新生児期における臨床栄養管理／先天代謝異常、小児期における臨床栄養管理			

	10 高齢者の栄養ケアの実際（１） 老年症候群とサルコペニア・フレイル予防と栄養ケアプランの実際 11 高齢者の栄養ケアの実際（２） 廃用性症候群と褥瘡の栄養管理 12 これまで学んだ臨床栄養管理のまとめ 輸液療法の基礎（１） 輸液（水・電解質）の基礎① 13 輸液療法の基礎（２） 輸液（水・電解質）の基礎②、体液の評価 14 輸液療法の基礎（３） 輸液の種類 15 輸液療法の基礎（４） 高カロリー輸液と静脈栄養補給法の合併症		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	教科書の関係する章を読み込む
	復習	90分	講義内容と配布資料を振り返る
	シラバスを確認し、教科書や参考書の内容を予習して授業に臨むこと。		
成績評価方法	定期試験（評価の100％）で評価する。必要によりレポートの提出を求めることがある。		
教科書 （購入必須）	エッセンシャル臨床栄養学第10版 医歯薬出版株式会社 ISBN：978-4-263-70125-6（2年次臨床栄養学Ⅰ、Ⅱで使用した教科書） 糖尿病治療ガイド 2023-2024（2年次臨床栄養学Ⅰ、Ⅱで使用した教科書）		
参考書 （購入任意）	参考書は、授業内で提示する。		

科 目 名	臨床栄養学実習 I					
科 目 名 （ 英 語 ）	Practice in Clinical Nutrition I		シラバスNo.	250010590		
担 当 教 員 名	中村 育子					
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験は医療機関の管理栄養士。 授業内容は傷病者に対する栄養ケアマネジメント、臨床栄養学。					
対応する ディプロマ・ポリシー	1.医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 2.地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 5.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	①栄養食事療法の必要性について説明できる。 ②病院食提供の基本が理解できている。 ③疾患の特徴を理解し、特別治療食の献立作成・供食が出来る。 ・ナトリウムコントロール食の献立が作成できる。 ・エネルギーコントロール食の献立が作成できる。 ・易消化食の献立が作成できる。 ・脂質コントロール食の献立が作成できる。 ・たんぱく質コントロール食の献立が作成できる。 ・献立展開技法について説明できる。					
受 講 の 留 意 点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1～2 時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1～2 時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 授業毎に課せられる課題は、栄養食事療法をより深く理解するために重要である。授業終了後に復習をしながら速やかに課題に取り組むことが望ましい。 返却された課題を見直し復習して理解を深めること。 質問等はオフィスアワーを特に定めないが、必ず事前連絡をしてから訪問すること。 研究室：3108					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	治療の一環として実践される栄養食事療法の基本について学ぶ。 特別治療食として活用される場面の多いナトリウムコントロール食、エネルギーコントロール食、易消化食、脂質コントロール食、たんぱく質コントロール食について学ぶ。 各食事療法について、献立の作成および治療食の供食の演習・実習を通じて理解を深める。					
	アクティブ・ラーニングの内容 体験学習、グループディスカッション、グループワーク等					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス / 栄養食事療法の実践に必要なスキル 1 学習ガイド 2 栄養食事療法の実践に必要なスキルとは ①傷病者に対する病院食提供の実際 ②病院食提供の実際 ③一般治療食、特別治療食 2 栄養食事療法の基本① 病院食提供の実際 1 傷病者に対する栄養食事療法の必要性 2 入院患者に対する病院食提供の実際 3 栄養食事療法の基本② 一般治療食献立の実際 1.病院食提供と入院時食事療養制度について 2.一般治療食の提供と献立作成のポイント 3.指示栄養量に基づく献立作成の演習					

- 4 栄養食事療法の基本③ 特別治療食献立の実際
 1. 特別治療食とは
 2. 栄養成分別栄養管理と疾病別栄養管理
 3. 食品構成活用の重要性について
- 5 ナトリウムコントロール食① 献立の設計
 1. ナトリウムコントロールの必要な主な疾患
 2. 治療の一環としてのナトリウムコントロール食のポイント
 3. ナトリウムコントロール食 献立作成の演習
- 6 ナトリウムコントロール食② 治療食の供食
 1. ナトリウムコントロール食調理における留意事項
 2. 減塩テクニック活用の実際
 3. 栄養基準に基づく治療食試食を通じての考察
 4. 治療食を必要とする患者について考察する
- 7 エネルギーコントロール食① 献立の設計
 1. エネルギーコントロールの必要な主な疾患
 2. 治療の一環としてのエネルギーコントロール食のポイント
 3. 糖尿病食品交換表の活用方法
 4. エネルギーコントロール食 献立作成の演習
- 8 エネルギーコントロール食② 治療食の供食
 1. エネルギーコントロール食調理における留意事項
 2. 指示エネルギーによる献立の違いについて考察する。
 3. 指示エネルギーによる献立の特徴を試食を通じて考察する。
 4. 治療食を必要とする患者について考察する
- 9 易消化食① 献立の設計
 1. 消化器疾患と易消化食
 2. 易消化食の種類
 3. 消化吸収を考慮した調理法の選択
 4. 易消化食 献立作成の演習
- 10 易消化食② 治療食の供食
 1. 易消化食調理における留意事項
 2. 消化吸収に配慮した調理法の実際
 3. 栄養基準に基づく治療食試食を通じて考察する
 4. 治療食を必要とする患者について考察する
- 11 脂質コントロール食① 献立の設計
 1. 脂質コントロールの必要な主な疾患
 2. 治療の一環としての脂質コントロール食のポイント
 3. 脂質コントロール食 献立作成の演習
- 12 脂質コントロール食② 治療食の供食
 1. 脂質コントロール食調理における留意事項
 2. 脂質コントロールの食材選択および調理の工夫について理解する
 3. 栄養基準に基づく治療食試食を通じて考察する
 4. 治療食を必要とする患者について考察する
- 13 たんぱく質コントロール食① 献立の設計
 1. たんぱく質コントロールの必要な主な疾患
 2. 治療の一環としてのたんぱく質コントロール食のポイント
 3. たんぱく質 50 g 食献立作成の工夫について理解する。
 3. たんぱく質コントロール食 献立作成の演習
- 14 たんぱく質コントロール食② 治療食の供食
 1. たんぱく質コントロール食調理における留意事項
 2. 腎機能に配慮したたんぱく質 50 g 献立・調理の実際を理解する
 3. 栄養基準に基づく治療食試食を通じて考察する
 4. 治療食を必要とする患者について考察する
- 15 医療機関における治療食提供の実際 献立展開技法
 1. 複数の治療食提供が求められる医療機関における給食管理の工夫
 2. 特別治療食の献立展開について理解する。
 3. 各疾患の栄養基準に基づく献立の展開 献立作成の演習

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	分	教科書または配布資料を読み込む
	復習	分	講義や実習を振り返る
成績評価方法	定期試験（50 点）、課題レポート（40 点）、実習参加態度（10 点） 詳細については授業の際に説明する。		
教科書 （購入必須）	1 「栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント」医歯薬出版株式会社 2 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 3 「腎臓病食品交換表」 4 臨床栄養学 I で指定した教科書 それぞれの最新版使用		
参考書 （購入任意）	開講時に参考文献等を提示する。		

科 目 名	臨床栄養学実習Ⅱ					
科 目 名 （ 英 語 ）	Practice in Clinical Nutrition Ⅱ		シラバス No.	250010600		
担 当 教 員 名	中村育子					
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験は医療機関の管理栄養士。 授業内容は傷病者に対する栄養ケアマネジメント、臨床栄養学。					
対応する ディプロマ・ポリシー	1.医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 2.地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 5.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	臨床栄養管理の実践的スキルについて学ぶ。 疾患治療の一環としての栄養食事療法の基本を理解できる。 ①各種疾患の栄養食事療法の特徴を説明できる。 ②疾患の特徴を理解し、特別治療食の献立作成・供食が出来る。 ③栄養ケアマネジメントについて説明できる。 ④栄養スクリーニング、栄養アセスメントの方法が説明できる。 ⑤傷病者に対する栄養ケアプランのたて方を説明できる。					
受 講 の 留 意 点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1～2 時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1～2 時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 授業毎に課せられる課題は、栄養食事療法をより深く理解するために重要である。授業終了後、復習をしながら速やかに課題に取り組むことが望ましい。 返却された課題を見直し復習を行い理解を深めること。 質問等はオフィスアワーを特に定めないが、必ず事前連絡をしてから訪問すること。 研究室：3108					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	治療の一環として実践される栄養食事療法の基本について学ぶ。 メタボリックシンドローム、食物アレルギー、先天性代謝異常など様々な疾患の栄養食事療法のスキルを習得する。 臨床場面で実践されている栄養ケアマネジメントの方法を習得する。					
	アクティブ・ラーニングの内容 体験学習、グループディスカッション、グループワーク等					
授 業 の 計 画	1 たんぱく質コントロール食（P r 40 g）① 献立の設計 1.腎機能低下とたんぱく質コントロールの重要性 2.たんぱく質コントロール以外の献立作成上の留意点 3.たんぱく質 40 g 食の献立の作成の工夫について理解する 3.たんぱく質コントロール食（40 g） 献立作成の演習 2 たんぱく質コントロール食（P r 40 g）① 治療食の供食 1.腎機能に配慮したたんぱく質 40 g 献立・調理の実際について理解する 2.腎臓病食事療法で活用される治療用特殊食品について理解する 3.栄養基準に基づく治療食試食を通じて考察する 4.治療食を必要とする患者について考察する 3 医療機関における治療食提供の実際 献立展開の演習 1.医療機関で活用されている献立の展開技法について理解する ・一般食の基本献立からエネルギーコントロール、たんぱく質コントロール、易消化食に展開して献立作成 の演習を行う ・演習を通じて献立展開スキルを習得する					

	4 メタボリックシンドローム 栄養食事療法① 脂質異常症 献立の設計		
	1.脂質代謝異常の病態を理解し、ガイドラインに基づく栄養食事療法を理解する		
	・脂肪酸組成に配慮した献立作成のポイント		
	・脂質異常症食の献立作成の留意事項を説明できる		
	・脂質異常症食 献立作成の演習		
	5 鉄欠乏性貧血 骨粗しょう症 献立の実際		
	1.鉄欠乏性貧血 栄養食事療法のポイント		
	・鉄、ビタミンC、ビタミンB6、ビタミンB12の摂取に留意した献立		
	2.骨粗しょう症 栄養食事療法のポイント		
	・カルシウム、ビタミンD、ビタミンKの摂取に留意した献立		
	3.貧血および骨粗しょう症治療のための治療用特殊食品の活用について		
	6 食物アレルギー食 献立の実際		
	1.即時型食物アレルギーのアレルゲンとなる食品		
	2.アレルゲン除去食療法の実際		
	3.食物アレルギー除去食の試食を通じ栄養ケアの必要性について考察する		
	7 メタボリックシンドローム 栄養食事療法② 高尿酸血症 肥満症		
	1.高尿酸血症の病態を理解し、ガイドラインに基づく栄養食事療法を理解する		
	・プリン体に留意した献立作成のポイント		
	・高尿酸血症の献立作成の留意事項を説明できる		
	・高尿酸血症 献立作成の演習		
	8 医療機関における治療食提供の実際 展開献立の実習		
	1.演習で作成した展開献立に基づき調理する。展開時の留意すべき事項について学ぶ		
	2.献立の検食を通じ、献立の評価方法について学ぶ		
	9 摂食嚥下障害患者への栄養ケアの実際①		
	1.摂食・嚥下機能の5つのステージについて理解する		
	2.摂食・嚥下体験を通じて嚥下機能について理解を深める		
	3.嚥下調整食を必要とする傷病者の状況について理解を深める		
	10 摂食嚥下障害患者への栄養ケアの実際②		
	1.学会分類の嚥下調整食分類 2013 について説明できる		
	2.医療機関で実施されている嚥下調整食献立の実習を通じ、嚥下調整食について理解でき		
	11 先天性代謝異常症患者の献立の実際		
	1.先天性代謝異常症の病態が理解できる		
	2.先天性代謝異常症の食事療法の基本が理解できる		
	2.フェニルケトン尿症の献立の供食を通じて、栄養ケアの重要性を理解する		
	12 栄養ケアマネジメント① 栄養スクリーニング		
	1.傷病者に対する栄養管理の必要性		
	2.栄養ケアマネジメントシステムについて		
	3.栄養スクリーニングの実際		
	13 栄養ケアマネジメント② 栄養アセスメント（問診・聞き取り）		
	1.栄養アセスメントの有用性		
	2.栄養アセスメントの方法		
	3.栄養アセスメントにおける問診・聞き取りの実際		
	14 栄養ケアマネジメント③ 栄養アセスメント（身体計測、血液生化学検査）		
	1.傷病者に対する栄養代謝の変化を評価する		
	2.栄養アセスメントにおける身体計測の実際		
	3.栄養アセスメントにおける血液生化学検査の読み取り方		
	15 栄養ケアマネジメント④ 栄養ケアプランの実際		
	1.傷病者に対する栄養必要量の算定方法		
	2.栄養アセスメントに基づく栄養ケアプランの実際		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	教科書または配布資料を読み込む
	復習	分	復習：講義や実習を振り返る
成 績 評 価 方 法	定期試験（50点）、課題レポート（40点）、実習参加態度（10点） 詳細については授業の際に説明する。		

教科書 （購入必須）	1 「栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント」医歯薬出版株式会 2 「糖尿病食事療法のための食品交換表」「糖尿病腎症の食品交換表」 3 「腎臓病食品交換表」 4 臨床栄養学Ⅰで指定した教科書 それぞれの最新版使用 教科書は「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ」、「臨床栄養学実習Ⅰ」で指定したものを主に使用する。
参考書 （購入任意）	開講時に、参考文献等を提示する。

科 目 名	臨床栄養学実習Ⅲ				
科 目 名（英 語）	Practice in Clinical Nutrition Ⅲ		シラバスNo.	250010610	
担 当 教 員 名	三輪 孝士				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	病院管理栄養士としての経験を活かし、チーム医療の一員として対象者の栄養状態の維持・改善、QOLの向上を目標とした栄養管理の具体的実践方法について指導する。 責任をもってヒトの栄養を管理することを考え学習する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 2. 幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 3. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 7. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	傷病者の病態を理解し、栄養状態評価して適切な栄養ケアの実施に向けての技術習得を目的とする。 医療機関で実際に行われている栄養管理を想定し実践的なスキルを習得する。 1. 各疾患の栄養ケアの特徴が理解できる。 2. 疾患の特性に応じた栄養ケアプランが作成できる。				
受 講 の 留 意 点	授業毎に与える課題は、栄養食事療法の根拠や手順を深く理解するために重要である。授業終了後、復習をしながら速やかに課題に取り組むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	傷病者の栄養管理の基礎となる栄養ケアマネジメントの方法と様々な栄養アセスメントの技術を修得するために、食事調査や身体計測、臨床診査を実施する。栄養管理の方法や食事摂取状況の評価には、食事摂取基準を用いるので復習しておくこと。さらに、栄養管理プロセスに沿った栄養管理計画を作成するための症例検討を実施する。 アクティブ・ラーニングの内容 体験学習、探求学習、グループディスカッション、グループワーク				
授 業 の 計 画	1 実習ガイダンス 行動と生活環境について考える 2 医療・福祉施設における栄養管理の方法（1） エネルギー階級別給与エネルギー基準量の設定 3 医療・福祉施設における栄養管理の方法（2） 一般治療食における給与栄養目標量の設定 4 医療・福祉施設における栄養管理の方法（3） 栄養指導で用いる食品構成表の作成 5 医療・福祉施設における栄養管理の方法（4） 糖尿病食事療法のための食品交換表の詳細な利用 6 医療・福祉施設における栄養管理の方法（5） 1型糖尿病患者に対する食事療法（カーボカウントの利用） 7 栄養ケアマネジメントの実際（1）：モニタリング・評価 秤量記録法について、解析・評価する 8 栄養ケアマネジメントの実際（2）：モニタリング・評価 24時間思い出し法について、解析・評価する 9 栄養ケアマネジメントの実際（3）：モニタリング・評価 食物摂取頻度調査法について、解析・評価する 10 栄養ケアマネジメントの実際（4）：栄養管理計画作成 生活習慣病複合疾患（症例検討） 栄養関連課題の整理と栄養状態の判定（栄養診断） 11 栄養ケアマネジメントの実際（5）：栄養管理計画作成 生活習慣病複合疾患（症例検討） 栄養介入計画から栄養モニタリングによる経過報告				

	12 集団栄養指導のプランニング（１） 糖尿病・高血圧患者への集団栄養指導のプランニング 13 集団栄養指導のプランニング（２） 糖尿病・高血圧患者への集団栄養指導の実践 14 傷病者への栄養補給法：経腸栄養補給法 病態を考慮した経腸栄養補給方法について学ぶ 経腸栄養剤／栄養補助食品の特徴と種類について理解する 15 摂食嚥下障害と嚥下調整食の実践【調理実習】 摂食嚥下障害のアセスメント 嚥下機能に適応した嚥下調整食の実践、とろみ調整食の評価		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	分	教科書および配布する実習書の読み込み
	復習	分	課題作成と実習の振り返り
	シラバスを確認し、配布実習書の内容をよく読んで実習ができるように準備して授業に臨むこと。		
成績評価方法	本科目は技術を習得する実習であるため、出席をしていないと評価ができないことに留意する。 ループリックによる実習レポート課題（評価の 70%）、実習の取り組み状況（評価の 30%）で評価する。		
教科書 （購入必須）	教員作成の実習書を用いる。 【2 年次臨床栄養学関連科目で使用した教科書】 エッセンシャル臨床栄養学第 10 版 医歯薬出版株式会社 ISBN 978-4-263-70125-6 糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版 文光堂 ISBN 978-4-263-72031-8 栄養食事療法の実習 第 14 版 栄養ケアマネジメント 医歯薬出版株式会社 ISBN 978-4-263-70843-9 日本食品標準成分表（八訂）		
参考書 （購入任意）	「日本人の食事摂取基準（2025 年版）策定検討会報告書」令和 6 年 10 月：download 可能 参考書は、授業内で示す。		

科 目 名	臨床栄養学実習Ⅳ				
科 目 名（英 語）	Practice in Clinical Nutrition Ⅳ		シラバスNo.	250010620	
担 当 教 員 名	三輪 孝士				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	病院での管理栄養士としての経験を活かし、これまでに修得した臨床栄養学に係る内容の根拠および医療施設において栄養管理を実践できるよう、実習を通して学ぶ。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 2.幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 3.医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 7.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	臨床栄養学領域で学修した知識・技術・態度の統合と発展をはかる。 1. 傷病者の治療上、栄養学上の課題をアセスメントするための根拠を理解し、対象の特性に応じた栄養ケアプランが作成できる。 2. 医療における管理栄養士の専門性について理解し説明できる。 3. 医療施設から福祉施設や在宅につながる地域包括ケアにおける課題を理解し、栄養ケアの重要性と管理栄養士の役割について説明できる。				
受 講 の 留 意 点	授業毎に課せられる課題は、栄養食事療法をより深く理解するために重要である。授業終了後、復習をしながら速やかに課題に取り組むことが望ましい。 また、課題を見直しスキルアップを心がけ、栄養管理のスキル習得に主体的に取り組むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	近年の NST の活動は、静脈・経腸栄養補給から経口栄養補給への移行を求められることが増えてきている。個別の疾患・病態や心身機能の特徴について他の医療従事者とディスカッションができ、また専門性を発揮するために、提示した症例、資料などを参考に自ら調べ、考え、計算などを行い議論することにより実際の臨床の場で行われている臨床栄養の知識の習得を目指す。さらに、医療と特定健診・保健指導など、より専門性の高い内容について学習する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 体験学習、グループディスカッション、グループワーク等				
授 業 の 計 画	1 実習ガイダンス 臨床栄養管理実習を実践するための準備 2 症例による臨床栄養管理（１） 肥満・メタボリックシンドローム症例 3 症例による臨床栄養管理（２） ２型糖尿病症例 4 症例による臨床栄養管理（３） 肝疾患（肝硬変）症例 5 症例による臨床栄養管理（４） 炎症性腸疾患と CD（クローン病）症例 6 症例による臨床栄養管理（５） COPD（慢性閉塞性肺疾患）症例 7 症例による臨床栄養管理（６） 腎臓病・透析療法症例 8 症例による臨床栄養管理（７）：周術期およびクリティカルケア 胃がん（胃切除後症候群）症例 9 症例による臨床栄養管理（８）：周術期およびクリティカルケア 食道がん（化学療法中心）症例 10 症例による臨床栄養管理（９）：周術期およびクリティカルケア 熱傷、外傷症例				

	11 症例による臨床栄養管理（10） 摂食嚥下障害症例 12 栄養アセスメントの実践（1） 様々な身体状況の把握方法について実践する【A】身体計測 13 栄養アセスメントの実践（2） 様々な身体状況の把握方法について実践する【B】24 時間蓄尿法によるアセスメント 14 栄養アセスメントの実践（3） 様々な身体状況の把握方法について実践する【C】安静時代謝量の実測 15 まとめ 管理栄養士として信頼される専門職になるために		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	教科書および配布する実習書の読み込み
	復習	分	課題作成と実習の振り返り
	シラバスを確認し、配布実習書の内容をよく読んで実習ができるように準備して授業に臨むこと。		
成 績 評 価 方 法	本科目は技術を習得する実習であるため、出席をしていないと評価ができないことに留意する。 ループリックによる実習レポート課題（評価の 70%）、実習の取り組み状況（評価の 30%）で評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	教員作成の実習書を用いる。 【2 年次臨床栄養学関連科目で使用した教科書】 エッセンシャル臨床栄養学第 10 版 医歯薬出版株式会社 ISBN：978-4-263-70125-6 糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版 文光堂 ISBN：978-4-263-72031-8 日本食品標準成分表（八訂）		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	「日本人の食事摂取基準（2025 年版）策定検討会報告書」令和 6 年 10 月：download 可能 参考書は、授業内で示す。		

科 目 名	公衆栄養学 I				
科 目 名（英 語）	Public Nutrition I		シラバスNo.	250010630	
担 当 教 員 名	近江 孝典				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目 B
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、公衆栄養の概念、健康・栄養問題の現状と課題及び栄養政策について、指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	人間の食生活は、社会水準・社会環境などさまざまな影響を受けて営まれ、食に関わる行動が地域の健康水準を規定している。地域や集団における人間の栄養・食生活を自然的・社会的・経済的・歴史的観点から問題点を取り上げ、それらを左右している要因について多角的視点から理解し、公衆栄養学の概念について学習し、我が国及び諸外国の健康・栄養の現状、課題に対応した栄養政策について説明できることを到達目標とする。				
受 講 の 留 意 点	公衆栄養学では、自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・推進する能力を養う。予習としては、報道等に接し国内外の健康・栄養に関する動向をつかんでおくこと。復習としては、ノートの記載内容の見直し、追加記載を行うこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	国際、国、都道府県、市町村の各レベルにおける住民の健康・栄養問題及びそれらの問題を予防・改善するためのさまざまな栄養政策について、講義により学習する。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 2 公衆栄養の概念 3 公衆栄養活動の年表と概要 4 栄養士法 5 人口と生活の変化 6 健康と食事の変化 7 食糧需給 8 健康増進法 9 健康政策（健康日本 21） 10 行政栄養士について 11 食事調査法 12 国民・健康栄養調査 13 食環境について 14 栄養政策実施に関する指針、ツール 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書の関係する章を読み込む。		
	復習	90 分	授業内容を再度思い出し、ノートに必要事項を追加記載する。		
成 績 評 価 方 法	ノート（30 点）、レポート（20 点）、試験（50 点）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	公衆栄養学 改訂第 8 版（編集吉池信男／林宏一、南江堂）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	公衆栄養学Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Public NutritionⅡ		シラバスNo.	250010640	
担 当 教 員 名	近江 孝典				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、栄養疫学、公衆栄養マネジメント及び公衆栄養プログラムについて、指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	公衆栄養学Ⅰをふまえ、地域や住民の生活の質の向上ならびに健康状態の改善のために、公衆栄養マネジメントに必要な栄養疫学の基本的知識と技術を説明できる。また、食生活・栄養アセスメントに基づく事業計画の作成、実施、評価について、各方法論の基本を説明できる。加えて、以上のことを効果的に進めるために重要とされる住民参加、地域の資源の活用、コミュニケーション管理などについて、国内外の事例を通して国、都道府県、市町村などにおける公衆栄養マネジメントを説明できる。				
受 講 の 留 意 点	公衆栄養プログラム立案の方法論と関連する理論を行っていくので、予習としては、日頃から公衆栄養に関する報道等に接しておくこと。復習としては、ノートの記載内容の見直し、追加記載を行うこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	栄養疫学の方法及び公衆栄養マネジメントの計画、実施、評価の具体的な手順や方法について、講義により学習する。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 栄養疫学の概要 2 栄養疫学2 栄養疫学の指標 3 栄養疫学3 栄養疫学の方法 4 栄養疫学4 栄養疫学のための食事調査法 5 栄養疫学5 食事摂取量の測定方法 6 栄養疫学6 食事摂取量の評価方法 7 公衆栄養マネジメント1 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス 8 公衆栄養マネジメント2 公衆栄養アセスメント 9 公衆栄養マネジメント3 公衆栄養プログラムの目標設定 10 公衆栄養マネジメント4 公衆栄養プログラムの計画 11 公衆栄養マネジメント5 公衆栄養プログラムの実施 12 公衆栄養マネジメント6 公衆栄養プログラムの評価 13 公衆栄養プログラムの展開1 地域特性に応じたプログラムの展開 14 公衆栄養プログラムの展開2 食環境づくりのためのプログラムの展開 15 公衆栄養プログラムの展開3 地域集団の特性別プログラムの展開				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書の関係する章を読み込む。		
	復習	90 分	授業内容を再度思い出し、ノートに必要事項を追加記載する。		
成 績 評 価 方 法	ノート（30 点）、レポート（20 点）、試験（50 点）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	公衆栄養学 改訂第8版（編集吉池信男／林宏一、南江堂）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	公衆栄養学実習				
科 目 名（英 語）	Public Nutrition Practice		シラバスNo.	250010650	
担 当 教 員 名	近江 孝典				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、公衆栄養マネジメントについて、指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	公衆栄養学Ⅰ及び公衆栄養学Ⅱで習得した知識と技術を実践的に活用できる力の形成をねらいとする。地域において、住民主体で QOL を高める公衆栄養プログラムの特徴や役割を説明できる。国民健康・栄養調査や北海道健康増進計画、名寄市健康増進計画など既存の資料を活用しながらグループで学習し、総合的に公衆栄養マネジメントの理解を深め、管理栄養士の役割を説明できる。				
受 講 の 留 意 点	小グループで学習するので、各自積極的な姿勢で臨むこと。予習としては、アセスメントする地域の概要を調べておくこと。復習としては、作成した資料を適宜見直すこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	総論として理解した公衆栄養プログラムの計画、実施、評価について具体的な手順や方法を学習し、理解を深める。特に、アセスメント及び計画策定については、国、道、市町村等のホームページから情報収集を行い、パワーポイントのスライドにより資料を作成し、プレゼンテーションをするなどして理論と実践を結びつける方法やその具体的スキルについて実習を行う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 ・資料作成についてグループ・ディスカッションを行い完成し発表する				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 公衆栄養学臨地実習報告会 1 2 公衆栄養学臨地実習報告会 2 3 公衆栄養アセスメント1 4 公衆栄養アセスメント2 5 企画書作成 1 6 企画書作成 2 7 資料作成 1 8 資料作成 2 9 アセスメント発表準備 10 アセスメント発表 11 企画書発表準備 12 企画書発表 13 資料発表・レビュー1 14 資料発表・レビュー2 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習				
	復習				
成 績 評 価 方 法	各授業における作成資料（50 点）、地域における公衆栄養プログラムへの取組状況（50 点）で評価				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	公衆栄養学実習 第三版～事例から学ぶ公衆栄養プログラムの展開～（手嶋哲子・田中久子編）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	総合演習Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Interdisciplinary learning or practiceⅡ		科目ナンバリング	250010700	
担 当 教 員 名	近江孝典				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 2 幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 3 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 4 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 5 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 6 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。 7 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	公衆栄養学、臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、応用栄養学などで学んだ知識と理論をふまえ、臨地実習及び学内演習をとおして、地域住民の栄養状態の把握、栄養改善活動の効果判定、傷病者の栄養状態の評価および給食の提供、栄養教育、栄養管理を行うための実践的能力を身につけることを到達目標とする。				
受 講 の 留 意 点	なし				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1 公衆栄養学臨地実習の準備及び課題作成、事後評価、報告会をふまえて、地域住民の栄養管理、栄養改善活動について理解を深める。 2 前年度に実施した臨床栄養学臨地実習を振り返り、医療機関における管理栄養士の役割について理解を深める。 3 専門基礎・専門各科目を振り返り、管理栄養士各業務について理解を深める。 上記のために、情報の整理、資料の作成などについて演習を行う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 調査学習等				
授 業 の 計 画	1-15 公衆栄養分野 16-22 臨床栄養分野 23-30 専門基礎・専門分野 各科目における総合的な学習				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	22.5 分	教科書の関係する章を読み込む。		
	復習	22.5 分	演習内容を振り返り、ノートにまとめる。		
成 績 評 価 方 法	課題取組（70%）、報告書（30%）により、本学履修規程に基づき評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	・公衆栄養学 改訂第8版（編集吉池信男／林宏一、南江堂、2023年） ・公衆栄養学実習 第三版～事例から学ぶ公衆栄養学プログラムの展開～（手嶋哲子、田中久子編集、同文書院、2022年） 他別途指示				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	給食経営管理論実習Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Practice in Food Service ManagementⅡ		シラバスNo.	250010710	
担 当 教 員 名	沼口 晶子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特定給食施設において、施設の管理栄養士の指導のもと給食業務を行うために必要な知識および技術を学ぶ。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる力を身につけている。 2.幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 5.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。 7.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識および技術を修得する。				
受 講 の 留 意 点	実習の意義や目的を理解し、実習を通して学びたいことを明確にして実習に臨む。関連する科目の復習や実習施設についての事前学習を十分に行う。実習期間中は、一日ごとに体験したこと、学んだことを実習日誌にまとめて理解を深めるとともに自身の課題を整理する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	実習施設の組織・運営の特徴、目的、目標などについて理解する。 対象者の把握、献立作成、調理、品質管理、衛生管理、施設・設備管理などの給食実務を実地に体験する。 対象者の身体機能や栄養状態などに対応した食事サービスについて学ぶ。 施設利用者への対応や他職種との連携をはかるための方法について学ぶ。 食堂等、利用者の適切な食環境について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 実習、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション				
授 業 の 計 画	実習施設のプログラムに基づいて、実習指導者の指導のもと実施する。				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分			
	復習	分			
成 績 評 価 方 法	実習施設指導者による評価 50%、事前課題 25%、実習報告書 25%				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	臨床栄養学臨地実習 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Practical Training in Clinical Nutrition I		シラバスNo.	250010720	
担 当 教 員 名	三輪 孝士, 中村 育子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験のある教員および医療機関の管理栄養士等による傷病者に対する栄養ケアマナジメントと臨床栄養学について実践的に授業を行う。 実習での経験を通して、適切な栄養ケアの実施に必要な専門的知識および技術の統合・発展を図る。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 3.医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 5.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 7.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 医療における管理栄養士の役割と機能について説明できる。 2. 医療施設における栄養食事管理とその過程および栄養療法の展開に必要な基本的知識、技術を説明できる。 3. 栄養指導を通じた各種疾患に対する具体的な栄養管理方法が実践できる。 4. 管理栄養士を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。				
受 講 の 留 意 点	365 日実働している場での実習である。自発的に行動し、チームワークをとり、積極的な姿勢で学ぶこと。 自己課題を明確にし、実習に臨むこと。 事前／事後指導に対する課題の連絡など、メールや掲示を必ず確認すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	医療施設が設定したプログラムに沿って、管理栄養士の実践活動について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 体験学習、問題解決型学習、発見学習				
授 業 の 計 画	患者、家族や多職種との連携や関係を円滑に進めることの重要性について学ぶ。 医療の場で実際にどのような栄養管理が行われているかを知る。 栄養食事指導に必要な能力とはどのようなものかを実体験から学ぶ。 疾患やライフステージにより栄養管理が異なることを実際に観察する。 栄養評価（栄養診断）・プランニング・モニタリングを実際に経験する。 栄養部門業務の全体像の概略を知る。				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	臨地実習先をよく調べる。事前課題を作成する。		
	復習	分	臨地実習で学んだことを振り返り、実習ノートにまとめる。		
	3 年前期までの学習を統合する重要な実習である。臨地実習は事前の準備が重要であるため、これまで学んだ内容を単に振り返るのではなく、栄養ケアへ活かすことを考えながら準備をすること。				
成 績 評 価 方 法	実習担当教員と実習施設指導管理栄養士からの評価（80 点） および事前事後準備に関わる書類作成や実習課題の準備（20 点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定しない。教員作成の実習ノートを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	これまでに使用した臨床栄養学に関する教科書や資料を参考にする。				

科 目 名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Practical Training in Clinical NutritionⅡ			シラバスNo.	250010730
担 当 教 員 名	三輪 孝士、中村 育子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	なし
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験のある教員および医療機関の管理栄養士等による傷病者に対する栄養ケアマネジメントと、臨床栄養学について実践的に授業を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 2.地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3.地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 5.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	臨床栄養学領域で習得した知識・技術・態度の統合・発展をはかり、医療現場で実践されている栄養管理について理解する。 1.医療における管理栄養士の専門性について理解し説明できる。 2.栄養ケアマネジメントの実際を理解する。 3.傷病者に対する栄養学的課題を抽出し、栄養ケアプランが作成できる。 4.チーム医療、NSTの実際を理解し、患者および医療スタッフと適切なコミュニケーションがとれる。				
受 講 の 留 意 点	臨床栄養学臨地実習Ⅰの単位を修得済みのこと。臨床領域の管理栄養士を目指す学生向けのプログラムである。 三年次までに学んだ知識・スキルを統合し実践的に学習する。 質問等はオフィスアワーを特に定めないが、必ず事前連絡をしてから訪問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	三年次の臨床栄養学臨地実習Ⅰを踏まえ、臨床現場におけるより実践的な知識・スキルを学び取る。 臨地実習の事前学習に十分な時間をかけ準備する。 自主研究テーマを設定し、テーマに特化した学びを深める。				
	アクティブ・ラーニングの内容 体験学習、問題解決型学習、発見学習				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	臨地実習先をよく調べ、実習に必要な勉強をする。事前課題作成		
	復習	分	臨地実習で学んだことを振り返り、実習ノートにまとめる		
成 績 評 価 方 法	実習担当教員と実習施設指導者からの評価（80 点）および事前事後準備に関わる書類作成（20 点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特に指定しない。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	公衆栄養学臨地実習				
科 目 名 （ 英 語 ）	Public Nutrition Field Practicum		シラバスNo.	250010740	
担 当 教 員 名	近江 孝典				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、臨地実習で行う公衆栄養マネジメントについて、指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	保健所または保健センターなどにおいて、地域における QOL の向上や生活習慣の改善を考えた健康づくりの推進や公衆栄養活動を理解し、管理栄養士の役割および業務についての実習ができる。また、健康づくり・栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定についての実習ができる。さらに、地域の特性をふまえた事業内容や方法の実際、地域住民に応じた公衆栄養プログラムの作成・実施・評価および総合的なマネジメントの実習ができる。				
受 講 の 留 意 点	実習先において、対象の視点に立った支援について考え、他職種との連携や社会人としての責任ある行動をとることについて理解を深めるために、予習として地域アセスメントを行い、復習として実習終了後のふりかえりと自己評価を行う。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	実習先での学習を中心に、事前の書類作成、自らの課題設定、実習地域の健康課題について実習を行う。 アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	各実習施設での実習プログラムに沿って、実習指導者の指示のもと実施				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習				
	復習				
成 績 評 価 方 法	臨地実習に関わる書類作成（20 点）及び臨地実習先の評価（80 点）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	・ 公衆栄養学 改訂第8 版（編集吉池信男／林宏一、南江堂） ・ 公衆栄養学実習 第三版～事例から学ぶ公衆栄養学プログラムの展開～（手嶋哲子、田中久子編集、同文書院）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	教育心理学		
科 目 名 (英 語)	Educational Psychology	シラバスNo.	250050040
担 当 教 員 名	糸田 尚史		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	心理臨床の現場（児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センター）において心理職（判定員・福祉専門員・心理士）として勤務した経験を有し、現在も児童相談所で児童心理司研修の講師も務めている実務家出身教員が、人間性にとって不可欠な「教育」という営為に寄与する科学としての心理学について指導する科目		
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	教育にかかわる心理学の理論と実践について学び、知識や応用力を修得する ・教育にかかわる心理学の理論を理解している ・教育にかかわる心理学の知識を有し、教育現場で活用できる力が身についている ・教師としての自覚と責任をもつことができる		
受 講 の 留 意 点	教育心理学の実験や演習も行うので積極的に参加してほしい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	発達、神経発達症（知的能力障害・ASD・ADHD・SLDなどの発達障害）、学習、記憶、モチベーション（動機づけ）、知能、学校心理学、教育心理学史など、教育と関連の深い心理学的なトピックスについて解説する。 アクティブ・ラーニングの内容 実際の知能検査用具や教育相談事例などにもふれ、検討する。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材、教育にかかわる優れた絵本などのビジュアルなコンテンツ、教育的な遊びなども織り交ぜ、その体験をシェアリングし合う。		
授 業 の 計 画	1 発達(1)：発達（獲得と喪失）、生理的早産（ポルトマン）、遺伝・環境、比較行動学（ローレンツ）、パーソナリティ発達理論（フロイト）、ライフサイクル論（エリクソン）、発生的認識論（ピアジェ）、愛着（アタッチメント）理論、発達の最近接領域（ヴィゴツキー） 2 発達(2)：言語発達、概念発達、認知発達、遊びの発達、道徳性の発達、アイデンティティ（自我同一性）論 3 発達の障害（神経発達症群）と特別支援教育(1)：知的能力障害、ASD（自閉スペクトラム症）、心の理論、サリーとアン課題（誤信念課題）、発達検査（新版 K 式 2020） 4 発達の障害（神経発達症群）と特別支援教育(2)：SLD（限局性学習症）、ADHD（注意欠如多動症）、教育（発達支援）法 5 学習(1)：レスポナント（古典的）条件づけ（パブロフ）、オペラント（道具的）条件づけ（スキナー）、社会的学習（社会的認知）理論（バンデューラ） 6 学習(2)：状況論的アプローチ（レイブとウエンガー）、生態学的システム理論（Bronfenbrenner）、 7 学習(3)：発見学習（ブルナー）、有意味受容学習（オズベル）、適性処遇交互作用（クロンバック） 8 記憶(1)：二重貯蔵モデル（記憶の貯蔵庫モデル）、感覚記憶、ワーキングメモリー（中央実行系、視空間スケッチパッド・音韻ループ・エピソードバッファ）、長期記憶 9 記憶(2)：陳述記憶（エピソード記憶、意味記憶）、非陳述記憶（非連合学習（馴化・鋭敏化）、条件づけ、プライミング記憶、手続き記憶）、系列（内）位置効果、忘却、メタ認知、記憶方略 10 動機づけ(1)：欲求階層説（マズロー）、内発的動機づけ・外発的動機づけ、好奇心、過剰正当化効果 11 動機づけ(2)：学習性無力感（セリグマン）、原因帰属理論（ワイナー）、自己効力感（バンデューラ） 12 知能(1)：2 因子説（スピアマン）、多因子説（サーストン）、流動性知能・結晶性知能（キャッテル）、CHC（キャッテル・ホーン・キャロル）理論		

	13 知能(2)：知能検査法、ビネー法、ウェクスラー法（WPPSI-Ⅲ、WISC-V、WAIS-Ⅳ）、カウフマン法（KABC-Ⅱ）、知能指数（IQ） 14 学校心理学：教育評価、教育相談、不登校、心理検査法、心理的支援 15 教育心理学史：まとめ		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	上記授業計画に基づき、事前に当該の教育心理学的トピックスについて、山村豊・青木智子 編著『改訂版 学びのための心理学』（北樹出版）の教科書を読み、大学図書館、インターネットなどを活用し、専門用語の意味を理解しておく。
	復習	90分	授業で配布された PowerPoint の紙媒体資料とそれに書き加えられたメモ書きをもとに、事後にも教科書、参考書、大学図書館、インターネットなどのツールやリソースにより、復習していただく。
成績評価方法	(1) 期末レポート：70% (2) 授業毎のリアクション・ペーパー：30%		
教科書 (購入必須)	山村豊・青木智子 編著 『改訂版 学びのための心理学』 北樹出版 2020年		
参考書 (購入任意)	斎藤富由起・守谷賢二 編著 『教育心理学の最前線』 八千代出版 2019年 子安増生・丹野義彦・箱田裕司 監修 『有斐閣 現代心理学辞典』 有斐閣 2021年 ナイジェル・C・ベンソン 著（清水・大前 訳） 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年		

科 目 名	道徳教育論			
科 目 名 (英 語)			シラバスNo.	250050070
担 当 教 員 名	日下部憲一			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資格要件 教職(栄養)：必修 教職（高公・高福）：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道徳は「特別の教科 道徳」として教科化され、各学校では検定教科書が使用されている。中学校道徳科教科書「新しい道徳」(令和3年度発行 東京書籍株式会社)の編集委員として教科書、教師用指導書等の執筆及び校閲に当たった。実務経験を活かして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の実践的課題や展望等を踏まえ、教育現場に求められる教員の資質・能力及び実践的指導力の向上とその在り方について説明していきたい。			
対応する ディプロマ・ポリシー	次の要件の育成を図り専門職業人としての実践力の修得の支援をしていきたい。 ・幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身に付けている。(栄養学) ・児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身に付けている。(栄養学) ・個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身に付けている。(社会福祉学)			
学 修 到 達 目 標	学修テーマ 1 道徳の理論：道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 2 道徳の指導法：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 1-1)：道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 1-2)：道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 1-3)：子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 1-4)：学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 2-1)：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 2-2)：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 2-3)：道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 2-4)：授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 2-5)：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 2-6)：模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。			
受 講 の 留 意 点	日頃から書籍や新聞報道等を通して身近な教育問題に関心を持つとともに、事前・事後学修を適切に行い常に課題意識をもち授業に臨む。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの内 容	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 アクティブ・ラーニングの内容 毎回の授業でのグループワーク（討議）やポスターセッションによる発表会を通して、多様な見方・考え方を深めるとともに、問題解決的な学習等を積極的に取り入れ実践的指導力の向上を図る。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション及び道徳教育の意義、道徳教育の現状と課題（子供を取り巻く現状等） 2 道徳教育の歴史（戦前と戦後）及び道徳の理論（本質、子供の道徳性の発達等） 3 道徳教育の実際 1（道徳教育と道徳科の目標及び道徳科の内容） 4 道徳教育の実際 2（指導計画の作成及び道徳科の特質とその指導の在り方） 5 道徳教育の実際 3（アクティブ・ラーニングを位置づけた課題解決的な学習やモラルジレンマ学習等学習指導の多様な展開及び情報モラル等の現代的課題の指導） 6 道徳教育の実際 4（教材開発の創意工夫と道徳科に生かす教材）			

	7	道徳教育の実際 5（道徳科の評価）
	8	道徳授業の実際 1（アクティブ・ラーニングを位置づけた読み物教材「おかあさんのせい求書」の模擬授業）
	9	道徳授業の実際 2（読み物教材「バスと赤ちゃん」の模擬授業と授業改善の視点）
	10	学習指導案の研究と作成 1（読み物教材による学習指導案の研究）
	11	学習指導案の研究と作成 2（読み物教材による研究結果から学習指導案の作成）
	12	学習指導案の研究と作成 3（視聴覚教材による学習指導案の研究）
	13	学習指導案の研究と作成 4（新聞教材による学習指導案の研究）
	14	学習指導案の研究発表と意見交流（ポスターセッションによる発表会）
	15	道徳教育のまとめと展望（道徳の本質と子供の心の成長及び教育活動全体を通じた指導の在り方等）及び試験
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	120 分 学修内容を確認し、適宜教科書等を読むなど疑問や課題等を把握する。
	復習	120 分 学修内容や課題レポート等をまとめる。
	シラバスを確認し授業全体の学修内容を把握するとともに、小中学時代に学んだ道徳授業の内容等について整理しておく。	
成 績 評 価 方 法	次項の項目及び割合で総合的に評価する。 ■試験：50 % ■課題レポート：25 % ■学習態度・発表：25 % 試験（第15回目の授業で実施する）：50点 課題レポート（5回）：25点（5点×5回） 学習態度・発表：25点（毎回の授業の自己評価カード 1点×15回 + ポスターセッションによる発表作品 10点）	
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（教育出版）	
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	授業中に適宜資料を配付する。	

科 目 名	生徒指導論			
科 目 名 （ 英 語 ）	Student teaching theory		シラバスNo.	250050110
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	学校教育教員、社会教育主事の経験から、実際に教育現場でおこった出来事を例示しながら授業を展開していく。			
対応する ディプロマ・ポリシー	<栄養学科> 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。 <社会福祉学科> 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができるようになる。 ②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができるようになる。 ③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができるようになる。 ④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができるようになる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為の対応など幅広い生徒指導の内容を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について、事例をもとに学習を深める。教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 ケーススタディ、グループワーク、グループディスカッション			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①－目標と課題 2 生徒指導の目的②－発達観・指導観・新しい生徒指導の使命 3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導 4 生徒指導の組織と計画 5 生徒指導の意義と機能 6 生徒理解の内容 7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導 8 教育相談の理解と進め方 9 適応と発達 防衛機制と適応障害 10 問題行動①－様相 11 問題行動②－種類と原因 12 問題行動③－処遇 13 進路指導の目的と内容 14 教育現場の実際にふれる（ケーススタディ）グループ協議と発表 15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師」講義のまとめ			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	次時の学習内容について、生徒指導提要（改訂版）の該当部分を予習する。	
	復習	30 分	授業の内容を整理し、ノートにまとめる。	

成績評価方法	1. 定期試験 85 点 2. リアクションペーパー 15 点（授業の感想、課題提出など） 3. 授業態度を加味する
教科書 （購入必須）	授業ごとに資料を用意する。
参考書 （購入任意）	講義の中で適宜紹介する。生徒指導提要（改訂版）（文部科学省 令和4年 12 月）については、文科省の hp から閲覧できるので適宜活用すること。

科 目 名	栄養教諭論		
科 目 名 (英 語)	Nutrition Teacher Theory	シラバスNo.	250050140
担 当 教 員 名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」について理解を深め、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させる科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。 7.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	1. 児童生徒の現状・課題を踏まえ食に関する指導の必要性、学校給食の意義、役割等を説明できる。 2. 栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について理解を深め、栄養教諭としての使命、役割や職務内容を理解し、教育に関する専門性および栄養に関する専門性を横断的に身に付け、児童、生徒への指導ができる力を活用できる。		
受 講 の 留 意 点	栄養教諭は管理栄養士・栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識し、自らの課題を持ち意欲的に授業に臨んでほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達・食生活習慣などについて理解し、学校における食に関する指導の現状、課題の抽出、分析を行い、偏食や食物アレルギー、さらに肥満、糖尿病などの生活習慣病を予防する上で、児童生徒、保護者に対する有効な食に関する指導のあり方について論じる。 ②学校給食および食に関する指導にかかわる法令を理解する。 ③食に関する指導と各教科および給食管理のかかわりについて理解する。 ④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき、指導案の作成に繋がることを理解する		
	アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・授業実践の DVD 鑑賞後、授業内容と指導案についてグループ・ディスカッションを行う。 ・個別指導の実践 DVD の鑑賞後、内容についてグループ・ディスカッションを行う。		
授 業 の 計 画	1 ガイダンス (シラバス説明)・栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達の現状と課題 2 児童生徒の生活状況 3 学校給食、食に関する指導の歴史 4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令 5 「食に関する指導」(1)ー全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点 6 「食に関する指導」(2)ー指導計画・成果・評価 7 「食に関する指導」(3)ー①給食の時間 ②発達段階に応じた内容 8 「食に関する指導」(4)ー教科「総合的な学習の時間」「特別活動」 9 「食に関する指導」(5)ー教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」 10 「食に関する指導」(6)ー教科「道徳」「生活科」 11 「食に関する指導」(7)ー個別栄養相談指導 家庭・地域との連携 12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成 13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準 14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理 15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備		

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	「栄養教諭論」「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む
	復習	90 分	講義内容を振り返りノートにまとめる
	＊ 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。		
成 績 評 価 方 法	小テスト（20 点）、レポート（20 点）、試験（60 点）により総合的に評価する。		
	成績の評価基準		
	5	栄養教諭の職務である給食管理と食に関する指導についての法的根拠を理解し、児童生徒の実態から課題を見出し、教科と連携した食に関する指導に結び付けることができる。	
	4	栄養教諭の職務である給食管理と食に関する指導についての法的根拠を理解し、児童生徒の実態から課題を見出し、食に関する指導に結び付けることができる。	
	3	栄養教諭の職務である給食管理と食に関する指導について理解し、児童生徒の実態から課題を見出し、食に関する指導に結び付けることができる。	
	2	栄養教諭の職務について理解し、児童生徒の実態から課題を見出すことができる。	
	1	食に関する指導における栄養教諭の役割が理解できる。	
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	『栄養教諭論－理論と実際－4 訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領〈平成 29 年 3 月告示〉』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領〈平成 29 年 3 月告示〉』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成 29 年 7 月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月—平成 29 年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月』 文部科学省 教育出版 『栄養教諭論－理論と実際－4 訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領〈平成 29 年 3 月告示〉』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領〈平成 29 年 3 月告示〉』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成 29 年 7 月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月—平成 29 年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月』 文部科学省 教育出版		
	参 考 書 （ 購 入 任 意 ）		

科 目 名	食生活・食文化論				
科 目 名（英 語）	Nutrition and Food Culture theory		シラバスNo.	250050150	
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資 格 要 件	教職（栄養）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を広く横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法技法等を修得させる科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	小中学生の生活環境に適した食に関する指導の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、日本の食生活の変遷や現状について知識を深め、地域の風土及び伝統に根ざした文化的な営みや食文化の継承、地場産物に関する知識を修得し、児童生徒へ食に関する指導ができるようになる。				
受 講 の 留 意 点	食生活と食文化および地域について広く関心を持ち、栄養教諭を目指すものとしての自覚と自らの課題を持ち授業に臨んでほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習をし食文化継承、行事食、地場産品を活用することの意義について理解する。 アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・地場産物について調べ発表する。（G.W） ・模擬授業の発表会に向け、学生自身が作成した献立・学習指導案についてグループ・ディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス（シラバス説明）、日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況 4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況 5 家庭における食の変遷 6 学校給食の変遷 7 地場産物と食に関する指導 8 地場産物と学校給食①北海道の地場産物 9 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物 10 演習①関心のある地域の地場産物調べ 11 演習②給食における地場産物の活用（学校給食献立作成）（学校給食衛生管理基準） 12 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える（地場産物活用の授業づくり） 13 演習④地場産物を用いた給食を教材として活用する授業の指導案作成 14 地場産物を用いた給食における食に関する指導の模擬授業（1）発表会（前半グループ） 15 地場産物を用いた給食における食に関する指導の模擬授業（2）発表会（後半グループ）				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む		
	復習	90 分	講義内容を振り返りノートにまとめる		
	＊ 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。				

成績評価方法	提出物提出状況（30点）、試験（70点）により総合的に行う。	
	成績の評価基準	
	5	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。 地場産物を生きた教材として活用した食に関する指導の授業づくりができる。 食育の視点と教科目標を連携させた学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
	4	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。 地場産物を生きた教材として活用した学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
	3	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。 地場産物を生きた教材として活用した学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
	2	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。 地場産物を生きた教材として活用した学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
教科書 （購入必須）	1	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。
	文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』（東山書房） 文部科学省『小学校学習指導要領』（東京書籍） 文部科学省『中学校学習指導要領』（東京書籍） 金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年	
参考書 （購入任意）		

科 目 名	食教育指導論			
科 目 名 （ 英 語 ）	Food Education Teaching Theory		シラバスNo.	250050160
担 当 教 員 名	黒河 あおい			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資 格 要 件 教職（栄養）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を広く横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法技法等を修得させる科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見ることができるようになる。 学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得し児童生徒と保護者・地域への食に関する指導が行えるようになる。			
受 講 の 留 意 点	栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるため、予習復習を充分に行い、積極的に取り組んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	栄養教諭として各自のテーマをもつことができるよう知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。 学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。 アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・個別的な相談指導を G.W で演習する。 ・模擬授業の発表会に向け、学生自身が作成した献立・学習指導案についてグループ・ディスカッションを行う。			
授 業 の 計 画	1 ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性 2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開 3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進 4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価 5 食に関する指導の教育理論と技術、新学習指導要領（2027） 6 栄養教諭の職務の実際（1）学校における職務内容（校務分掌） 7 栄養教諭の職務の実際（2）調理場における職務内容（衛生管理） 8 食に関する指導と学校給食の管理を一体のものと行う職務の実際 9 給食時間における食に関する指導の授業づくり 10 教材研究（媒体・I C T教材など）、指導案作成 11 給食を教材として活用する授業の指導案作成（1）教科目標と会に関する指導 12 給食を教材として活用する授業の指導案作成（2） 13 給食における食に関する指導の模擬授業（1）発表会（前半グループ） 14 給食における食に関する指導の模擬授業（2）発表会（前半グループ） 15 まとめ			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む
	復習	90 分	講義内容を振り返りノートにまとめる
	＊ 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。		
成 績 評 価 方 法	提出物提出状況（30 点）、試験（70 点）により総合的に行う。		
	成績の評価基準		
	5	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科目標を連携させた学習指導要案を作成でき,模擬授業を行える。	
	4	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科目標を連携させた学習指導案指導案を作成できる。	
	3	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科を連携させた学習指導案指導案を作成できる。	
	2	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、学校給食を教材とした学習指導要案を作成できる。	
	1	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解できる。	
教 科 書 (購 入 必 須)	文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』（東山書房） 『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成 29 年 7 月)』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月—平成 29 年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月』 文部科学省 教育出版 『栄養教諭論－理論と実際－4 訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成 29 年 7 月)』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月—平成 29 年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年 7 月』 文部科学省 教育出版		
	参 考 書 (購 入 任 意)		

科 目 名	栄養教育実習				
科 目 名（英 語）	Teaching Practice of Nutrition Teacher		シラバスNo.	250050180	
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択		資 格 要 件	教職（栄養）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実栄養教諭としての経験を持つ教員が、実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解させ、実習校指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行い、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解させるための科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	教育実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解できる。 指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行うことができる。 また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。				
受 講 の 留 意 点	教育実習に必要な準備を整えて臨むこと。 健康管理に十分に留意して実習に専念すること。 実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。 また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 ・研究授業をはじめ児童生徒や教職員との関わり総て。				
授 業 の 計 画	1 学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解 2 児童および生徒への個別的な相談、指導の実習 3 児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習 4 食に関する指導の連携・調整の実習 5 研究授業の実施・事後研修				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	実習日程表に沿った翌日の実習準備		
	復習	分	実習内容と反省を実習ノートに記載		
	* 実習ノートは毎日記載後、指導担当教諭へ提出する。				
成 績 評 価 方 法	実習校による「実習評価票」、出席状況、実習ノート等の提出物などから総合的に評価する。				
	成績の評価基準				
	5	学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解し研究授業を実施できる。さらに「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。			
	4	栄養教諭の職務や役割について理解し研究授業を実施できる。さらに「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。			
	3	学校教育に対する理解と認識を深め、研究授業を実施できる。さらに「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。			
	2	学校教育に対する理解と認識を深め、研究授業を実施できる。			
	1	研究授業を実施できる。			

教科書 (購入必須)	栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第 6 版）学術図書出版社 教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	教育実習事前事後指導			
科 目 名 （ 英 語 ）	Pre- and Post- Guidance for Teaching Practice		シラバスNo.	250050250
担 当 教 員 名	小西 二郎・石川 貴彦			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件 教職(高公・高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	これまでの教職課程の学びを学校現場で実践するための準備を十分行い、生徒や教師から様々なことを吸収できる体制を作ることができる。また、教育実習の経験を踏まえて自ら成長できる教師を目指すために自己課題を設定し、その達成状況について内省することができる。			
受 講 の 留 意 点	1～3年次まで開講された教職必修科目をすべて修得していることが望ましい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育実習に必要な事項を確認し、各自の実習課題を明確にすることを目的として、事前指導で実習の取り組み方や授業方法について学習する。また、受講者に模擬授業を課し、指導案の流れや発問、板書技術などを検討する。そして、教育実習で得られた経験や学び、自らの今後の課題を受講者間で共有することを目的として事後報告会を開催し、各発表を通じて実習課題の達成状況について意見交換を行う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 事前指導では指導案作成、模擬授業を行い、事後指導では報告会での発表を行う。			
授 業 の 計 画	1 教育実習の目的と意義、自己課題の設定 2 教育実習の内容と準備 3 実習日誌の書き方 4 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（1） 5 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（2） 6 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（3） 7 教育実習後の意見交流（実習報告会）（1） 8 教育実習後の意見交流（実習報告会）（2）			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	指導案作成や教材づくり、授業練習を行い、模擬授業に向けた準備を進める。	
	復習	90 分	講義内容を振り返り、教育実習に向けての準備を進める。	
成 績 評 価 方 法	実習前の取組状況（指導案・教材作成、模擬授業）（50%）、教育実習事後レポートおよび実習報告（50%）			
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習の手引き（第7版）、学術図書出版社、2019年 教育実習日誌（第4版）、学術図書出版社、2019年			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	病理学		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	250020050
担 当 教 員 名	和泉 裕一・室野 晃一・鈴木 康秋・眞岸 克明・立川 夏夫		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修
開 講 形 態	講義		
資 格 要 件			
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。		
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 5 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	病気の原因、発生機序、発症・進展の過程や患者に対する影響について理解し、臨床の現場でその知識を応用して、科学的根拠に基づく看護が出来ることを目指す。		
受 講 の 留 意 点	講義を受ける前に各臓器の解剖・生理を復習しておく。 講義の要点を講義資料で把握し、教科書で補足する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	いろいろな疾病は、細胞障害、感染症・炎症・免疫、循環障害、遺伝子異常、腫瘍、代謝異常、環境因子の複合的な関与、蓄積により引き起こされる。総論では、疾病の成り立ちを臓器の違いを超えて解説する。 各論では、臓器別に各種疾病の病因・症状・治療について臓器特異性の視点から解説する。		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	1 総論 1：病理学とは何か、組織・細胞の障害と修復 2 総論 2：循環障害 3 総論 3：炎症と免疫、移植と再生医療 4 総論 4：感染症 5 総論 5：代謝障害 6 総論 6：先天異常と遺伝子異常、老化と死 7 総論 7：腫瘍 8 各論 1：循環器疾患（先天性、心不全、虚血性、心筋症、心内膜と血管の疾患） 9 各論 2：血液・造血器系の疾患 10 各論 3：呼吸器系疾患（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜と縦隔の疾患） 11 各論 4：消化器系疾患（口腔・食道、胃、腸、腹膜、肝臓、胆管、胆のう、膵臓の疾患） 12 各論 5：腎、泌尿器、生殖器および乳腺の疾患 13 各論 6：内分泌系の疾患 14 各論 7：脳、神経系の疾患 15 各論 8：骨、関節、筋肉系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。
成 績 評 価 方 法	試験（90 点）と授業態度を評価（10 点）		
教 科 書 (購 入 必 須)	病理学「疾病のなりたちと回復の促進 1」医学書院		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	臨床治療学 I			
科 目 名 (英 語)	Clinical Therapeutics I		シラバスNo.	250020060
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子・大久保未央・松浦真理			
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての実務経験を有する教員が、病院など医療の現場で求められる病態生理・検査・治療等の医学的専門知識に関して、看護師の視点も踏まえながら教授する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の高頻度に見られる疾患について、その原因・病態・診断のための検査・治療について理解することができる。 2. ケアにつなげるための基礎的知識を習得し、要点を述べることができる。			
受 講 の 留 意 点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学を復習しておくことが望ましい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の疾患についてその原因・病態・診断のための検査や治療法について学ぶ。治療は、内科的治療法と外科的治療法について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 疾患の原因・病態・検査・治療に関して探求するグループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行い学びを深める。			
授 業 の 計 画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	消化器疾患（主に食道がん、胃がん、大腸がん、イレウス、クローン病、胃・十二指腸潰瘍、膵炎、肝炎、食道静脈瘤、肝がん、肝硬変）の原因・病態・診断のための検査・治療 呼吸器疾患（主に肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全）の原因・病態・診断のための検査・治療 循環器疾患（主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢血管疾患）の原因・病態・診断のための検査・治療 腎・泌尿器疾患（主に腎不全、・・・	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	腎・泌尿器疾患（・・・腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症）の原因・病態・診断のための検査・治療 血液・造血器疾患（主に白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）の原因・病態・診断のための検査・治療 脳神経疾患（主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経難病）の原因・病態・診断のための検査・治療 骨関節筋肉疾患(主に骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性関節症)の原因・病態・診断のための検査・治療 内分泌・代謝疾患（主に糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）の原因・病態・診断のための検査・治療 免疫疾患（主に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、AIDS）の原因・病態・診断のための検査・治療

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	各章に関連する教科書を読み込んでおく。
	復習	150 分	講義内容を振り返りノートにまとめながら知識を整理する。
成績評価方法			
	評価方法：試験は、前期定期試験日に実施する。定期試験前に 2 回の小テストを実施する。 評価割合：定期試験と小テストで 100%に換算する。ただし割合はグループによって異なる。 1) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、骨関節筋肉疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患の 9 つの領域を 3 つのグループ（①循環器・呼吸器・内分泌/代謝；②脳神経・腎/泌尿器・血液/造血器；③消化器・運動器）に分けて、3 回の試験を行う。各グループは 100 点満点とし、1 つのグループで 60 点未満の場合はそのグループの領域全てが再試験となる。 2) 小テストは、グループ①では循環器 10 点、呼吸器 10 点、(グループ②は小テストなし)、グループ③では消化器 15 点満点で換算する。小テストの得点は、再試験には含めない。 評価基準： 1) 再試験となった場合は、再試験の点数が 60 点以上でも「60 点」として計算される。 「臨床治療学Ⅰ」の成績評価は、300 点満点で判定し（3 つの試験の合計点）、最終成績評価は、100 点に換算する。 例：270～300 点⇒秀、240～269 点⇒優、210～239 点⇒良、180～209 点⇒可、180 点未満⇒不可 2) 1 つのグループでも再試験となった場合は、合格しても最終評価は「可」となる。		
教科書 (購入必須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症、医学書院 今日の治療薬 2025 解説と便覧、南江堂 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院		
参考 (購入任意)			

科 目 名	臨床治療学Ⅱ				
科 目 名 （ 英 語 ）				シラバスNo.	250020070
担 当 教 員 名	医師				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	本講義は、成人期に高頻度に見られる疾患の原因・病態・診断・治療についての基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
受 講 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	健康障害のある患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行う必要がある。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職に求められている。ここでは、感覚器系・女性生殖器系・歯科口腔系で高頻度に見られる疾患についてその原因・病態・診断・治療について学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1-2 主な皮膚疾患の原因・病態・診断・治療 3-4 主な眼疾患の原因・病態・診断・治療 5-6 主な歯・口腔疾患の原因・病態・診断・治療 7-8 主な耳鼻咽喉疾患の原因・病態・診断・治療 9-15 主な女性生殖器系疾患の原因・病態・診断・治療				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。		
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。		
成 績 評 価 方 法	①歯科疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ②皮膚疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ③眼疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ④耳鼻咽喉科疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ⑤女性生殖器系疾患について、試験もしくはレポート課題（70 点） 合計 150 点満点で評価する。 各領域で 6 割未満の場合はその領域分が再試となる。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔9〕	女性生殖器、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔12〕	皮膚、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔13〕	眼、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔14〕	耳鼻咽喉、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔15〕	歯・口腔、医学書院	
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	必要時、指示する。				

科 目 名	臨床治療学Ⅲ				
科 目 名 （ 英 語 ）				シラバスNo.	250020080
担 当 教 員 名	市立病院医師				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	本講義は、母性および小児看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。周産期ではハイリスクおよび異常と治療、小児では小児に特有な疾病の症状・治療・予後を中心に学修する。				
受 講 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	母性および小児の健康状態をアセスメントするためには、対象の解剖学的・生理学的特徴に関する知識の活用が不可欠である。また、母性および小児看護においてはウェルネスからハイリスク・健康障害の各ステージに応じた看護が要求される。そのため、妊娠・分娩・産褥の生殖生理、周産期母子の病態とハイリスク、周産期および小児期に高頻度に見られる疾病の原因・病態・診断・治療・予後などに関する基礎的知識を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（1）妊娠の成立、胎児、胎児付属物 2 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（2）妊娠による母体・胎児の変化 3 妊娠期の病態と異常（1）ハイリスク妊娠と妊娠合併症 4 妊娠期の病態と異常（2）異常妊娠 5 分娩期の病態と異常（1）産道・娩出力・胎児・胎児付属物の異常、新生児仮死 6 分娩期の病態と異常（2）分娩時の損傷、異常出血、産科処置と産科手術 7 産褥期の病態と異常（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥血栓症、マタニティブルーズ） 8 新生児とその疾患、小児の神経・筋疾患 9 染色体異常・先天異常 10 小児の感染症 11 小児のアレルギー疾患 12 小児の循環器疾患、川崎病 13 小児の呼吸器・消化器疾患、血液疾患 14 小児の免疫疾患、膠原病 15 小児の内分泌・代謝疾患、腎疾患				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。		
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。		
成 績 評 価 方 法	①妊娠・分娩・産褥期について、試験もしくはレポート課題（100 点） ②小児期について、試験もしくはレポート課題（100 点） 合計 200 点満点で評価する。 教員領域ごとの試験で 60 点未満の場合はその領域分が再試となる。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論、医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	必要時，指示する。				

科 目 名	感染微生物学				
科 目 名（英 語）	Clinical Microbiology and Infectious Disease		シラバス No.	250020090	
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の 3 要素、検査、化学療法、感染制御、感染対策について説明できる。主要な感染症の病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。				
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単なる知識の暗記ではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後に質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な考え方を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 微生物学総論：歴史、微生物の種類と特徴 2 細菌総論：形態と構造、グラム染色性、病原性 3 ウイルス・真菌・寄生虫総論 4 免疫：自然免疫、獲得免疫、アレルギー 5 ワクチン・感染症総論：予防接種、感染の 3 要素、感染経路、検査、診断、治療 6 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 7 呼吸器感染症 1：上気道感染症、インフルエンザ 8 呼吸器感染症 2：感染性肺炎、結核、新興呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼・特殊な細菌による感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 敗血症・人獣共通感染症・新興再興感染症 15 感染制御：感染対策、消毒と滅菌				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	神谷茂監修『標準微生物学第 15 版』医学書院（2024 年）				
	中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院（2022 年）				

科 目 名	薬理学			
科 目 名 （ 英 語 ）			シラバスNo.	250020100
担 当 教 員 名	長多 好恵・山端 孝司・結城 幸一			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が薬の作用機序，薬物動態等薬物療法の基礎となるメカニズムを教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	薬物治療の基礎となるメカニズムを理解する。			
受 講 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、抗がん薬など）の作用および作用メカニズムと副作用について解説する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1	総論：	アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方	
	2	総論：	薬の作用機序、薬物動態	
	3	各論：	末梢神経活動作用薬Ⅰ	
	4	各論：	末梢神経活動作用薬Ⅱ	
	5	各論：	中枢神経活動作用薬Ⅰ	
	6	各論：	中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬	
	7	各論：	心・血管系に作用する薬物Ⅰ	
	8	各論：	心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物	
	9	各論：	高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物	
	10	各論：	消化器・生殖器に作用する薬物	
	11	各論：	物質代謝に作用する薬物	
	12	各論：	生物学的製剤、皮膚・眼科用薬	
	13	各論：	抗感染症薬	
	14	各論：	消毒薬、抗がん薬	
	15	各論：	生薬、漢方薬	
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。	
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。	
成 績 評 価 方 法	筆記試験（マークシート方式、配点 100 点）により評価する。			

教科書 (購入必須)	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第 15 版』医学書院 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2024』南江堂
参考書 (購入任意)	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第 5 版』メディカル・サイエンス・インターナショナル (2007 年) 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版 (2013 年)

科 目 名	臨床薬理学				
科 目 名 （ 英 語 ）	Clinical Pharmacology		シラバスNo.	250020110	
担 当 教 員 名	本郷文教				
学 年 配 当	3	単 位 数	1	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必須	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師の役割を知る。薬物療法の施行過程及び医薬品の取り扱いに必要な知識を習得し、看護師として果たす役割等を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけて いる。 5 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	適切な薬物療法を遂行するための基礎知識を習得する				
受 講 の 留 意 点	臨床薬理学で学ぶ薬物療法の内容は基礎となる薬理学、生理学、病態生理学、微生物学、栄養学など関連科目を理解しておく必要がある。特に受講に際して薬理学のテキストを十分に読み、各々の医薬品の作用機序、有害事象（副作用）を整理しておくことが重要である				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	薬理学で学んだ薬の作用機序を基礎として、疾病に対して医薬品がどのように用いられ、また危険される副作用を回避するためのチェックポイントを説明する				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1	総論	薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等		
	2	総論	薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用、医薬品情報の利用の仕方		
	3	各論	医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い		
	4	各論	感染症に使用する薬の特徴と薬物血中濃度モニタリングの有用性について		
	5	各論	生活習慣病治療薬の種類と使い方 1 高血圧症、心疾患、脂質異常症		
	6	各論	生活習慣病治療薬の種類と使い方 2 糖尿病、腎疾患		
	7	各論	抗がん薬の特徴と使用する際の注意点について		
	8	各論	輸液療法とその他の注射薬の取り扱いについて		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする		
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する		
成 績 評 価 方 法	選択式・論述式の試験により評価（90 点）するが、場合によって授業態度（10 点）を加味する。必要によりレポートの提出を求めることがある				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	赤瀬智子、柳田 俊彦編 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進 2 臨床薬理学				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	今日の治療薬 2025 南江堂 治療薬マニュアル 2025 医学書院				

科 目 名	生涯発達論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Introduction to the Human Development		シラバスNo.	250020120	
担 当 教 員 名	結城 佳子 長谷川 博亮				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。 1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。 2. 主な生涯発達理論について、説明できる。 3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べることができる。				
受 講 の 留 意 点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 少人数でのグループワークを取り入れた講義である。				
授 業 の 計 画	1 生涯発達とは 発達段階と発達課題 2 生涯発達の基本的理解 人の生涯発達にかかわる理論 3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信 4 乳児期後期 信頼 対 不信 5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑 6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感 7 学童期 勤勉性 対 劣等感 8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者 9 思春期・青年期 同一性 対 拡散（1）思春期・青年期のからだところどころの変化 10 思春期・青年期 同一性 対 拡散（2）アイデンティティとその危機 11 思春期・青年期 同一性 対 拡散（3）成年期へ 12 成人前期 親密性 対 孤独感 13 成人後期 生成継承性 対 停滞 14 成熟期 統合 対 絶望 15 まとめ 人が生きるということ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。		
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。		

成績評価方法	レポート課題：中間、最終各 50 点、計 100 点 5 段階評価 S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：素点 60～69 点、D：素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点 69 点までとする。
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。
参考書 (購入任意)	必要時指示する。

科 目 名	カウンセリング・コミュニケーション論				
科 目 名（英 語）				シラバスNo.	250020150
担 当 教 員 名	松浦 智和				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神保健福祉士としてソーシャルワークの実務経験を有する教員が、対人援助職に不可欠なカウンセリングやコミュニケーションについて教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①カウンセリングやコミュニケーションに関する理論と方法について学び、対人援助職者に必要なカウンセリングマインドとコミュニケーション能力を身につける。 ②保健・医療・福祉・教育各領域における専門家に必要な資質（心構え、態度、関係性等）を涵養する。				
受 講 の 留 意 点	各領域における有為な対人援助者を育成することを目的としているため、ある程度他者に対して自分自身があらわになることを了解のうえで受講すること。 グループ（またはペア）ワークではシェアリングを行うので、積極的に発言・参加してくれるよう望む。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	スライド（PowerPoint）の提示及び板書をしながら講義形式ですすめるが、一部グループ（またはペア）ワークも取り入れる。 毎講義資料を配布し、講義の最後にリアクションペーパーを提出する。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 対人援助に求められるコミュニケーション技術 2 カウンセリング理論による信頼関係づくりの効用 3 対人援助者に求められる自己覚知の重要性 4 自身の思考・行動傾向に気づくために 5 精神分析療法 6 来談者中心療法 7 行動療法 8 その他の理論－認知行動療法を中心に 9 コミュニケーションの仕組み－非言語の重要性 10 傾聴・面接技法の展開 11 マイクロカウンセリングに学ぶ－かかわり技法を中心に 12 アサーションでチーム力を高める 13 クライアントへの支援および人材育成のためのコーチング 14 対人援助職のメンタルケア 15 多職種連携の課題と展望				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分			
	復習	90 分			
成 績 評 価 方 法	期末レポート（50%）、リアクションペーパー（30%）、小レポート（20%）を総合的に評価する。				
教 科 書	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。				

(購 入 必 須)	
参 考 書 (購 入 任 意)	

科 目 名	社会福祉概論（看護学科）				
科 目 名（英 語）	Introduction to Social Welfare			シラバスNo.	250020170
担 当 教 員 名	小泉 隆文 江連 崇				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	障害福祉サービス事業所の社会福祉士として相談支援業務等に携わった経験をもとに、看護職に求められる社会福祉（社会保障）関連の知識等について、実務経験を活用した実践的な講義を行います。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1 社会福祉の基本理念や制度、現状を理解し、保健・医療・福祉における連携の重要性を説明することができる。 2 看護学を専門に学びつつも、一人の生活者として人間の福祉への理解が深まる。				
受 講 の 留 意 点	・看護職に求められる多くの知識の中に社会福祉（社会保障）関連の知識があることを意識し、受講してほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会福祉の歴史をたどりながら、社会福祉の理念や制度が社会の変化などと相まって発展してきたことを学習し、21 世紀を迎えての社会福祉の動向と課題を現実の中で考察します。また、看護職として知っておくべき生活支援の知識と技術、福祉職との関係についても言及します。				
	アクティブ・ラーニングの内容 基本的には講義形式で行います。授業の理解度を高めるために対話形式やグループワークなどの学習形態を通して、学習者の能動的な参加を求めます。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、社会福祉の原理（江連） 2 社会福祉の歴史①（江連） 3 社会福祉の歴史②（江連） 4 現代社会の福祉（江連） 5 社会福祉の法と行財政（小泉） 6 ソーシャルワーク（江連） 7 生活保護制度（小泉） 8 子ども家庭福祉（江連） 9 障害者の福祉①（小泉） 10 障害者の福祉②（小泉） 11 高齢者の福祉（小泉） 12 介護保険制度（小泉） 13 地域福祉（江連） 14 社会保障制度①（小泉） 15 社会保障制度②（小泉）				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	4 5 分	教科書の該当部分等に目を通し、分からない言葉等は調べておいてください。
	復 習	6 0 分	授業を聞いた上で、理解できた点、よく分からなかった点を確認し、分からなかった点については、どこが分からなかったのかを確認し、関連情報を収集して理解を深めてください。
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパー 30%、定期試験 70%		
教 科 書 (購 入 必 須)	大久保秀子『新 社会福祉とは何か 第4版』(中央法規)		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	人間関係論				
科 目 名（英 語）	Human Relations		シラバスNo.	250020220	
担 当 教 員 名	山本勝則				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として多様な場面での心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助の基盤となる人間関係に関する基本的知識と考え方を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 人間関係を構築するための基礎的知識を説明できる。 2. 看護における人間関係の意味を説明できる。 3. 自己理解と他者理解及び人間関係およびそれらの関係を説明できる。 4. 人間関係を形成するための基本的コミュニケーション技法を用いることができる。				
受 講 の 留 意 点	授業中及び授業の前後で、自らの人間関係を振り返る機会が求められるので、積極的かつ真剣に取り組んでください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	日常生活や社会生活における人間関係、および看護実践の場で生じる患者・家族・医療者との人間関係について、多様な見方考え方を学び、そこで用いられるコミュニケーション技術を授業の内外で体験する。そして、人間関係場面の振り返りを行う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 授業で学んだ人間関係形成に関する知識について、認知プロセスの外化（対人関係場面で知識を使用する）に取り組む課題を課す。つまりコミュニケーションスキルを実践する。				
授 業 の 計 画	1 人間関係の基礎：関係的存在としての人間 2 出会い・自己理解・他者理解：『我と汝』『自己と他者』 3 社会的相互作用：人間関係とアイデンティティ 4 集団と社会的役割：集団の人間関係、役割行動、グループダイナミクス 5 人間関係の生涯発達：新生児期から老年期までの人間関係の推移 6 人間関係過程と問題解決過程：人間関係場面の再構成としてのプロセスレコード 7 援助的コミュニケーション：医療の場における面接、ジョイニング 8 人間関係とカウンセリング：マイクロカウンセリング 9 看護の場における人間関係①：患者及び家族との人間関係 10 看護の場における人間関係②：医療関係者との人間関係及び多職種連携 11 人間関係と看護論：ペプロウ看護論、トラベルビー看護論 12 人間関係とケア：ケアとケアリングの理論 13 人間関係と交流分析：交流分析とエゴグラム 14 人間関係とロープレイング：ロールプレイングの歴史と実践 15 対人関係技能：アサーション、SST、アンガーマネジメント				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回の授業に関わる資料を図書館で探し、関心のあるものに目を通す。		
	復習	90 分	各回の授業内容に関わる学習又は実践を 200 字程度にまとめて提出する。		
成 績 評 価 方 法	1. 復習として示している課題の提出物：4 点×15 回 = 60 点 2. 最終試験：40 点 合計 100 点				

	5段階評価 S:90点以上、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:59点以下 C以上の評価は単位を認定する。D評価は単位を認めない。ただし、59点以下の場合は再試験（レポート課題、質問紙、口頭試問のいずれか）を行うことがある。
教科書 （購入必須）	教科書は指定しない。
参考書 （購入任意）	購入の必要はないが、図書館に関連する図書が豊富にあるので、活用すること。

科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅰ				
科 目 名（英 語）	Health and Welfare AdministrationⅠ		シラバスNo.	250020240	
担 当 教 員 名	播本雅津子・室矢剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。保健医療福祉行政で必要とされる法律や制度について解説する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを理解できる。 さまざまな対象者の健康と生活を支える保健医療福祉行政の役割について理解できる。				
受 講 の 留 意 点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健医療福祉行政に関する理念や仕組みを学んだ上で、あらゆる対象者の健康を支えるための根拠となる法律や制度について理解する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを取り入れる				
授 業 の 計 画	1 保健医療福祉行政の理念 2 保健医療行政の仕組み 3 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷 4 社会保障制度の理念と仕組み 5 医療法と医療提供体制 6 母子保健に関する法律と制度 7 成人保健に関する法律と制度 8 高齢者保健に関する法律と制度 9 地域包括ケアシステムにおける保健師の役割 10 精神保健に関する法律と制度 11 難病保健に関する法律と制度 12 障害者福祉に関する法律と制度 13 感染症対策に関する法律と制度 14 健康危機管理に関する法律と制度 15 保健医療福祉計画と根拠法				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと		
	復習	90 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		
成 績 評 価 方 法	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。				

教科書 (購入必須)	野村陽子・加藤典子編『保健学講座 5 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社
参考書 (購入任意)	藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生統計協会

科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Health and Welfare AdministrationⅡ		シラバスNo.	250020250	
担 当 教 員 名	播本雅津子・室矢剛志				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。保健師が実践している保健医療福祉行政での活動の実際について解説する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを活用して健康課題に応じた活動を実践するプロセスを学習し、保健医療福祉行政における保健師の役割を理解できる。				
受 講 の 留 意 点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健医療福祉行政の立場から、さまざまな健康課題に応じた活動を展開するために必要な制度や保健医療福祉サービスの立案・実施・評価の流れについて学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを取り入れる				
授 業 の 計 画	1 地域保健行政と地方自治の理念 2 地域保健行政の体系 3 地域保健行政の予算の仕組み 4 地域保健行政における保健師の役割(1)-都道府県の保健師活動 5 地域保健行政における保健師の役割(2)-市町村の保健師活動 6 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(1)-母子保健 7 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(2)-成人・高齢者保健 8 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(3)-感染症対策 9 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(4)-健康危機管理 10 保健医療福祉計画の策定と評価 11 保健事業の立案と評価(1)-健康課題の検討 12 保健事業の立案と評価(2)-事業内容の検討（企画の全体像） 13 保健事業の立案と評価(3)-事業内容の検討（保健指導方法） 14 保健事業の立案と評価(4)-評価方法の検討 15 保健事業の立案と評価(5)-立案内容の報告と共有				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと		
	復習	90 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		
成 績 評 価 方 法	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。				

教科書 (購入必須)	野村陽子・加藤典子編『保健学講座 5 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社
参考書 (購入任意)	藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院 厚生統計協会編『厚生の指標・国民衛生の動向』厚生統計協会

科 目 名	医療福祉論			
科 目 名 （ 英 語 ）	Medical Welfare		シラバスNo.	250020290
担 当 教 員 名	榊原次郎			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 世界や 地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係 機関職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得できるようになる。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実践方法を習得できるようになる。			
受 講 の 留 意 点	保健医療福祉領域の広がり連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努めること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。			
授 業 の 計 画	1 保健医療サービスの变化と社会福祉専門職の役割 2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向 3 保健医療における福祉的課題 4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解 5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題 6 患者の権利と保健医療における意思決定支援 7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割） 8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度） 9 介護保険制度と地域包括ケア 10 保健医療における社会福祉士の役割 11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法） 12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW） 13 地域の関係機関との連携・協働 14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援） 15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込んでおくこと
	復習	90 分	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規) 2021 年		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書については別途指示する		

科 目 名	看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Nursing Science		シラバスNo.	250020300
担 当 教 員 名	岡田 郁子			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 4.世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 看護とは何かについて説明できる。 2. 看護学の構成要素である看護、人間、健康、環境の概念および概念間の関連性について説明できる。 3. 看護理論の複数のキーワードについて説明できる。 4. 保健医療福祉分野における看護の役割について説明できる。 5. 看護における倫理の重要性について説明できる。			
受 講 の 留 意 点	看護に関するさまざまな文献を読むなど積極的に学習し、「看護とは何か」について、主体的に考えていきましょう。また、グループワークの際は協力しましょう。 事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。 授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について理解する。そのために中心的な看護概念を把握し、主な看護理論を学ぶ。また、近年の保健医療福祉分野における看護職の役割と機能を理解する。さらに、看護の対象である人間を理解するための倫理的態度やケアリングを学び、看護職としての看護観の確立に努める。 アクティブ・ラーニングの内容 ・学習のねらいに沿ったテーマについて、ペアで自分の考えを述べ合い、全体発表し学び合う。 ・看護の各主要概念について調べ、全体で発表し学びを共有する。 ・看護覚え書と看護理論については、各自講読し、グループでまとめ、全体発表し学びを共有する。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、看護の変遷―看護の原点、看護の語源 2 看護の変遷―看護の歴史 3 「看護覚え書」からナイチンゲールの述べる看護について (グループワーク) 4 看護の主要概念 看護とは 5 看護の主要概念 看護の対象である人間 6 看護の主要概念 看護における健康、人間と環境の関係 7 ナイチンゲール「看護覚え書」講読の発表 (グループ発表) 8 看護理論の変遷と概要 9 看護理論の講読 (グループワーク) 10 職業的看護の発展 11 看護の役割と機能 12 看護制度と政策、看護サービス 13 看護における倫理・法 14 看護理論の講読 (グループワーク) 発表資料作成 15 看護理論の講読 (グループ発表)			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	看護覚え書や看護理論の講読および事前課題として提示するものを読み込んだり調べる。
	復 習	90 分	講義内容を振り返りノートにまとめるなどして復習する。
成 績 評 価 方 法	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割 (48 点) 以上、提出物 6 割 (12 点) 以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。		
教 科 書 (購 入 必 須)	① 茂野香おる代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]看護学概論 第 17 版、医学書院 ② フローレンス・ナイチンゲール著『看護覚え書』(改訳第 8 版)現代社 ③ ヘンダーソン, V (湯楨ます・小玉香津子訳):看護の基本となるもの、日本看護協会出版会		
参 考 書 (購 入 任 意)	・城ヶ端初子編:新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイオ出版		

科 目 名	看護技術論				
科 目 名（英 語）	Nursing Technical Theory		シラバスNo.	250020310	
担 当 教 員 名	岡田 郁子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 看護技術の特徴について説明することができる。 2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援について説明することができる。 3. 科学的根拠に基づいた看護を展開する技術について説明することができる。 4. 看護の専門性と看護技術の発展について説明することができる。 5. 看護技術の修得過程における課題を述べることができる。				
受 講 の 留 意 点	授業で提示した参考資料は熟読しましょう。 事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。 授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。 グループワークでは、メンバーの考えを聞いて、学修を深めてください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について理解する。看護技術は、科学的根拠に基づいて、個別性を重視して実践されること、看護技術の修得過程における課題について考察していく。 アクティブ・ラーニングの内容 ・本時の学習のねらいに沿ったテーマについて、ペアで自分の考えを述べ合い、全体発表し学び合う。 ・実習室において療養環境について安全性・安楽性・自立支援に着目し、グループで検討した後、全体で発表し学びを共有する。				
授 業 の 計 画	1 看護技術の特徴 2 看護技術の特徴:サイエンスでありアートであるという意味について 3 看護技術の要素:安全性、安楽性、自立支援 4 看護技術の要素:グループワーク 5 看護技術の要素:グループワークの発表 6 看護技術と看護過程 7 看護技術と看護理論 8 看護の専門性と看護技術の発展				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	事前に提示した課題について調べてまとめる。		
	復習	90 分	講義内容を振り返りノートにまとめるなどして復習する。		
成 績 評 価 方 法	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				

教科書 (購入必須)	深井喜代子編:基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社
参考書 (購入任意)	授業中に提示する。

科 目 名	看護共通技術 I			
科 目 名（英 語）	Common Nursing Skills I		シラバスNo.	250020320
担 当 教 員 名	齋藤千秋・藤野正太郎・岡田郁子			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	演 習
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 看護実践の基本となる感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術について、科学的根拠を踏まえて説明することができる。 2. 看護実践に共通する感染予防技術、安楽促進技術に関する基本的な看護技術を実施できる。			
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、看護実践に共通して必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 本時の学習のねらいに沿ったテーマについて、演習を行い、グループで自分の考えを述べあい、全体発表し学びあう。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、感染予防技術（感染予防の原則、スタンダードプリコーション） 2 感染予防技術（感染経路別予防策、感染源対策、無菌操作） 3 感染予防技術の実際：手洗い、個人防護用具の装着① 4 感染予防技術・スタンダードプリコーション（認定看護師） 5 安楽促進技術（安楽の概念、体位保持、ボディメカニクス） 6 安楽促進技術（安楽をもたらす看護技術） 7-8 安楽促進技術の実際：ボディメカニクスの基本、安楽な体位、体位変換 9 安楽促進技術の実際：温電法、冷電法 10-11 病院見学 12-13 感染予防技術の実際：消毒、滅菌、個人防護用具の装着② 14 安全管理技術（看護における安全、ヒューマンエラー） 15 安全管理技術（転倒転落事故、誤薬、患者誤認）			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。	
	復習	30 分	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。	

成 績 評 価 方 法	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。なお、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	① 深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社 ② 任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術アドバンス、インターメディカ

科 目 名	看護共通技術Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Common Nursing Skills Ⅱ		シラバスNo.	250020330
担 当 教 員 名	岡田 郁子・齋藤 千秋・藤野 正太郎			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要なコミュニケーション技術、終末期における援助を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 看護場面における効果的なコミュニケーション技法について実施できる。 3. 援助的なコミュニケーションについて自己の課題を説明できる。 4. 死の看取りにおける技術の目的、留意点、方法について説明できる。			
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1. 看護の基本となる援助的人間関係の構築について学ぶ。コミュニケーション理論を基礎に、コミュニケーションに必要な技法を体験的に学ぶ。ロールプレイングを通して、自己のコミュニケーションの傾向や援助者としてのコミュニケーションスキルをリフレクションし、自己の課題を見出す。 2. 終末期における援助を学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 本時の学習のねらいに沿ったテーマについて、演習を行い、グループで自分の考えを述べあい、全体発表し学びあう。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、コミュニケーション技術 2 看護職として必要な接遇・マナー 3 看護職として必要な接遇・マナーの実際 4 コミュニケーション技術（看護師と患者の関係、対人関係の成立に不可欠な要素） 5 コミュニケーション技術（コミュニケーションの構成要素と成立過程） 6 コミュニケーション技術（効果的なコミュニケーションの実際） 7 コミュニケーション技術の実際（自身のコミュニケーションを振り返る） 8 コミュニケーション技術の実際（伝える・伝わる経験） 9 コミュニケーション技術の実際（ロールプレイ） 10 コミュニケーション技術の実際（アサーティブなコミュニケーション、グループワーク） 11 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成：失語症の方とのコミュニケーション） 12 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成をもとにグループワーク） 13 コミュニケーション技術（自己課題の明確化）			

	14 死の看取りの技術（悲嘆へのケア）		
	15 死の看取りの技術（死後のケア）		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。
	復習	30 分	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。
成 績 評 価 方 法	定期試験 50 点と提出物（レポート含む）50 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（30 点）以上、提出物 6 割（30 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	① 深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社 ② 任 和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	基礎看護技術 I			
科 目 名 (英 語)	Basic Nursing Skills I		シラバスNo.	250020340
担 当 教 員 名	岡田 郁子・齋藤 千秋・藤野 正太郎			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護の対象となる人への興味・関心をもち、生活行動を整えることの意義を理解し、生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活に関する基本的な看護援助の方法や原理・原則を学び、根拠をもって知識・技術を習得できるよう、看護師として臨床経験を持つ教員が教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 看護における環境調整の意義およびその援助方法について説明できる。 2. 人間にとっての活動と休息の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 3. 人間にとっての栄養と食事の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 4. 環境調整、活動と休息、栄養と食事に関する基本的な看護技術を実施できる。			
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容、手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の援助技術の目的・方法・留意点・根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるように、実践できるための基盤を学習する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 演習では、事例を活用しながら看護師役・患者役等の役割を担い、目的意識的に技術を修得する。その際、対人援助職としての倫理的側面も意識しながら、主体的に学び、自己の課題を明確化していく。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、環境調整技術 2 環境調整技術 3 活動・休息援助技術 4 活動・吸気援助技術・廃用症候群の予防(認定看護師) 5-6 環境調整技術の実際：ベッドメイキング 7 食生活と栄養摂取の技術 8-9 食生活と栄養摂取の技術の実際：食事の援助・口腔ケア 10-11 技術試験(ベッドメイキング) 12-13 環境調整技術の実際：リネン交換 14-15 活動・休息援助技術の実際：車椅子・ストレッチャーの移乗・移送			

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	指定した教科書の該当する単元を読み込み、教員から動画視聴の指示があった場合はイメージが付くまで視聴する。技術項目に対して看護技術実践ノート(目的、実施内容、手順、根拠、留意点他)を作成する。
	復習	30 分	授業内容を教科書やレジュメを使用し振り返る。教員から指示があった場合はリフレクションシートを作成する。
成績評価方法	定期試験 60 点、技術試験 20 点、提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（36 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。		
教科書 （購入必須）	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院		
参考書 （購入任意）	吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ		

科 目 名	基礎看護技術Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Basic Nursing Skills Ⅱ			シラバスNo.	250020350
担 当 教 員 名	岡田 郁子・齋藤 千秋・藤野 正太郎				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	清潔・排泄に関する援助技術を根拠に基づき、基本原則を理解し習得する。学んだ知識と技術をもとに、具体的にどのように看護援助を行うか相手の身になって発想豊かに考え、自己研鑽していきけるよう、看護師として実務経験を持つ教員が教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.人間にとっての清潔・衣生活の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 2.人間にとっての排泄の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 3.清潔・排泄に関する基本的な看護技術を実施できる。				
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成し、演習に臨んでください。授業で配布した資料や自己学習したものはファイリングしてください。看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本科目においては、基本的な生活援助技術である清潔・排泄の援助技術の目的・方法・留意点・根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、実践できるための基盤を学習する。 アクティブ・ラーニングの内容 演習では、事例を活用しながら看護師役・患者役などの役割を担い、目的を意識しつつ技術を修得する。その際、対人援助職としての倫理的側面も意識しながら、主体的に学び、自己の課題を明確にしていく。				
授 業 の 計 画	1-2 オリエンテーション、清潔・衣生活の援助技術：清潔の意義、入浴 3-4 清潔・衣生活の援助技術の実際：清拭・寝衣交換 5 技術試験 6-7 清潔・衣生活の援助技術の実際：足浴 8-9 清潔・衣生活の援助技術の実際：洗髪 10 排泄援助技術：排泄の意義、尊厳を踏まえた援助の基本 11-12 排泄援助技術の実際：ベッド上の排泄介助・おむつ交換・陰部洗浄 13 排泄援助技術：排泄障害と処置が必要な患者への援助 14-15 排泄援助技術の実際：導尿・浣腸				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	教科書の該当部分を予習する。教科書を参照し、看護技術実践ノートを作成する。		
	復習	30 分	教科書や講義資料を振り返り、授業内容をまとめる。リフレクションシートを作成して、演習内容を振り返る。		
成 績 評 価 方 法	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、定期試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は守ること。以上試験、提出物の全ての合格により単位は認定されます。				

教科書 (購入必須)	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第3版、医学書院
参考書 (購入任意)	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ

科 目 名	基礎看護技術Ⅲ			
科 目 名 (英 語)	Basic Nursing Techniques Ⅲ		シラバスNo.	250020360
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・藤野 正太郎・岡田 郁子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査・診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 診療に伴う援助技術における看護師の役割を説明できる。 2. 栄養・呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術について、安全・安楽を配慮した援助方法について説明できる。 3. 栄養・呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術を安全・安楽で確実に実施できる。 4. 紙上事例を用いて、看護過程を展開することができる。			
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んでください。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 事例検討では、提示された課題について個人学習をして授業に臨み、グループワークなどを通して学びを深めましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 本時の学習のねらいに沿ったテーマについて、演習を行い、グループで自分の考えを述べあい、全体発表し学びあう。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、栄養摂取の援助技術 2-3 栄養摂取の援助技術の実践：経鼻胃チューブ経管栄養法 4 栄養摂取の援助技術・摂食嚥下障害看護（認定看護師） 5 呼吸・循環を整える技術（姿勢・呼吸法、酸素吸入療法、吸入療法、気道分泌物排出の方法） 6 呼吸・循環を整える技術（胸腔ドレナージ、人工呼吸療法、末梢循環促進の援助） 7-8 呼吸・循環を整える技術の実践：酸素吸入、気道内加湿法、口腔内・鼻腔内吸引、弾性ストッキング 9 創傷管理技術 10 創傷管理技術の実践：創傷処置、包帯法 11 創傷管理技術・褥瘡予防のためのケア（認定看護師） 12 看護過程演習：アセスメント 13 看護過程演習：看護上の問題の特定			

	14 看護過程演習：計画立案		
	15 看護過程演習：実施・評価		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。
	復習	30 分	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。
成績評価方法	定期試験 70 点、看護過程レポート 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、看護過程レポート 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。 以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。		
教科書 （購入必須）	① 深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ② 任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院		
参考書 （購入任意）	・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰアドバンス、インターメディカ ・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第 5 版、学研 ・松尾ミヨ子・城生弘美・習田明裕編：ナースング・グラフィカ基礎看護学（2）ヘルスアセスメント、第 5 版、メディカ出版		

科 目 名	基礎看護技術Ⅳ				
科 目 名 （ 英 語 ）	Basic Nursing Techniques Ⅳ			シラバスNo.	250020370
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・藤野 正太郎・岡田 郁子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査、診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的リテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 生命の危機状態と救命救急処置の意義および看護師の役割を説明できる。 2. 救命救急処置を確実に実施できる。 3. 検査の基本的な知識および看護師の役割と検査時の看護における留意事項について説明できる。 4. 血液検査の静脈血採血の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 5. 与薬に関する基本的な知識および看護師の役割、留意事項について説明できる。 6. 注射法の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 7. 輸血法に関する基本的な知識および留意事項について説明できる。				
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 本時の学習のねらいに沿ったテーマについて、演習を行い、グループで自分の考えを述べあい、全体発表し学びあう。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、救命救急処置 2 救命救急処置の実際：名寄消防署救急隊員 3 検査・治療に関わる技術（検体の採取と扱い方、尿・便検査 他） 4 検査・治療に関わる技術（血液検査、血液検体の取り扱い） 5-6 検査・治療に関わる技術の実際：静脈血採血 7 与薬の技術（薬理作用、薬物療法、経口与薬） 8 与薬の技術（外用薬の与薬法） 9 与薬の技術（皮下・皮内・筋肉内注射） 10-11 与薬の技術の実際：注射器・注射針の取り扱い、薬剤の準備 12-13 与薬の技術の実際：皮下・筋肉内注射 14 与薬の技術（静脈内注射・点滴静脈注射、輸血療法） 15 与薬の技術の実際：静脈内注射・点滴静脈注射				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	30 分	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。
	復 習	30 分	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。
成 績 評 価 方 法	定期試験 90 点と提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（54 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。		
教 科 書 (購 入 必 須)	① 深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ② 任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院		
参 考 書 (購 入 任 意)	・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰアドバンス、インターメディカ ・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第 5 版、学研 ・松尾ミヨ子・城生弘美・習田明裕編：ナースング・グラフィカ基礎看護学（2）ヘルスアセスメント、第 5 版、メディカ出版		

科 目 名	ヘルスアセスメント			
科 目 名 (英 語)	health assessment.		シラバスNo.	250020380
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・藤野 正太郎・岡田 郁子			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、フィジカルアセスメントの基本技術と系統的な知識と技術を身につけるための、具体的な看護援助を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的リテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 2. ヘルスアセスメントの一つであるフィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）について説明できる。 3. バイタルサインズの基本的な知識と正確な測定方法について説明できる。 4. バイタルサインズ測定を正確に実施できる。 5. 系統的フィジカルアセスメントの基本的な知識と方法について説明できる。 6. 系統的フィジカルアセスメントの方法を実施できる。			
受 講 の 留 意 点	この科目は、講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって、講義を受けた上で、事前学習、演習に臨み、事後学習として、リフレクションを行ってください。 学生個々が主体的に練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。 自己学習として、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	ヘルスアセスメントとは、対象者が身体的に、心理・社会的に健康であるといえるかどうか、健康問題があるとすればその要因は何かを明らかにする行為である。フィジカルアセスメントの基本技術（問診・打診・聴診・視診・触診）と系統的な知識と技術を身につけ、臨床判断やコミュニケーション技術を用い具体的な看護援助を見い出していく。 アクティブ・ラーニングの内容 演習では、事例を活用しながら看護師役・患者役等の役割を担い、目的意識的にアセスメントを行う。その際、対人援助職としての倫理的側面も意識しながら、主体的に学び、自己の課題を明確化していく。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントにおける技術（問診・視診・触診・打診・聴診） 2 バイタルサインズ測定（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識） 3-4 バイタルサインズ測定の実際：体温、脈拍、呼吸、血圧 5 技術試験：バイタルサインズ測定 6 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器 7 系統的フィジカルアセスメントの実際：呼吸器系 問診・視診・触診・打診・聴診 8 系統的フィジカルアセスメント：循環器系 9 系統的フィジカルアセスメント：腹部 10-11 系統的フィジカルアセスメントの実際：循環器系・腹部 問診・視診・触診・打診・聴診 12 系統的フィジカルアセスメントの実際：事例についてのアセスメント演習 13 系統的フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ系、排泄系 （認定看護師）			

	14 系統的フィジカルアセスメント：運動系・脳神経系 （認定看護師）		
	15 系統的フィジカルアセスメント：感覚器系 （認定看護師）		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	指定した教科書の該当する単元を読み込み、教員から動画視聴の指示があった場合はイメージが付くまで視聴する。技術項目に対して看護技術実践ノート(目的、実施内容、手順、根拠、留意点他)を作成する。
	復習	30 分	授業内容を教科書やレジュメを使用し振り返り、教員から指示があった場合はリフレクションシートを作成する。
成 績 評 価 方 法	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。		
教 科 書 (購 入 必 須)	① 深井喜代子編：基礎看護技術 I ② 横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メチカルフレンド社 ③ 任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院		
参 考 書 (購 入 任 意)	・田中裕二編：わかって身につくバイタルサイン、学研 ・藤野智子監修：基礎と臨床がつながるバイタルサイン、学研 ・松尾ミヨ子・城生弘美・習田昭裕編：ナースング・グラフィカ基礎看護学（2）ヘルスアセスメント、第 5 版、メディカ出版 ・守田美奈子監修：写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス、インターメディカ		

科 目 名	看護過程演習			
科 目 名（英 語）	Nursing process		シラバスNo.	250020390
担 当 教 員 名	齋藤千秋			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、看護実践に必要な看護過程の展開技術を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的リテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1.看護実践における看護過程の意義および看護過程の構成要素を説明できる。 2.紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断を基に、対象者のニーズや看護上の問題を明らかにし、対象者の目標とそれを達成するための看護ケアを具体的に立案できる。 3.対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的な看護ケアを模擬実施し、評価できる。 4.計画立案・看護ケアの実施において、コミュニケーション技術、倫理的判断や行動についてリフレクションできる。			
受 講 の 留 意 点	看護過程の展開技術は、生活援助技術のアセスメントや基礎看護学実習Ⅱで実際に活用します。提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。またグループワークなどを通して自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護における看護過程の意義を理解し、クリティカルシンキングとリフレクションを用いながら、看護上の問題を解決するために論理的看護実践ツールとしての看護過程を学ぶ。紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断に基づくアセスメントを行い、看護上の問題を特定、計画立案、実施、評価について学ぶ。さらに、対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的看護ケアを模擬実施する過程においては、コミュニケーション技術、倫理的判断に基づいた行動を併せて学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 個人学習とともに、グループ学習での意見交換やクラス全体での発表により学びを共有する。			
授 業 の 計 画	1 看護過程の展開技術 2 ゴードンの11の機能的健康パターン 3 アセスメント：健康知覚－健康管理パターン 4 アセスメント：栄養－代謝パターン、排泄パターン 5 アセスメント：活動－運動パターン、睡眠－休息パターン 6 アセスメント：認知－知覚パターン、自己知覚－自己概念パターン 7 アセスメント：役割－関係パターンなど 8 看護上の問題の特定 9 関連図・全体像 10 計画立案 11 実施・評価 12 紙上事例の計画立案 13 看護記録 14 紙上事例の計画に基づく実践 15 紙上事例の記録と評価			

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	事前課題の看護過程記録を作成する。
	復習	30 分	講義内容をもとに、看護過程記録を見直し修正する。
成績評価方法	定期試験 40 点と看護過程レポート 40 点および提出物 20 点の合計点で評価します。尚、定期試験 6 割（24 点）以上、看護過程レポート 6 割（24 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、定期試験、看護過程レポート、提出物の全ての合格により単位は認定されます。		
教科書 （購入必須）	① 深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社 ② 渡邊トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護実践アセスメント、第 3 版、ヌーヴェルヒロカワ		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	地域看護学概論				
科 目 名（英 語）	Introduction to Community Nursing		シラバスNo.	250020400	
担 当 教 員 名	播本雅津子・伊藤亜希子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師の経験を持つ教員と、市町村保健師と病院看護師の経験を持つ教員が担当する。地域看護の歴史的変遷およびその定義や理念、目的を学ぶ。様々な場における地域看護活動とその特徴を知り、地域看護の機能と役割について学習する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・地域看護の概念と機能を理解し、健康の保持増進と疾病予防における看護の役割を知る。 ・地域における看護職の活動および求められる役割について説明できる。 ・在宅ケアにおける看護職の活動および求められる役割について説明できる。				
受 講 の 留 意 点	授業は2人の教員によるオムニバスで進め、一部は協力して進める。欠席や遅刻のないよう健康管理に留意すること。欠席・遅刻時は必ず連絡をすること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	地域包括ケアの時代に応じた地域看護および在宅ケアの視点や方法を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる				
授 業 の 計 画	1 地域看護学の概念と機能 2 地域看護の歴史（1）明治～平成初期 3 地域看護の発展と今後の展望 4 公衆衛生の考え方（プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション） 5 地域看護を支える専門職と活動の場（1）保健所・市町村の活動 6 地域看護を支える専門職と活動の場（2）産業保健・学校保健 7 地域看護を支える専門職と活動の場（3）訪問看護 8 継続看護と退院調整 9 地域で療養生活をする人々を支える社会資源 10 地域包括ケアシステムと多職種連携 11 地域で療養する人々に関する制度 1) 介護保険 2) 高齢者虐待防止 12 地域看護の歴史（2）平成～令和 3) 医療保険 4) 障害者支援 13 在宅療養者の権利擁護と倫理 14 災害時の看護活動（自然災害・感染症蔓延時） 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	60 分	社会のニュース、地域社会の情報について常に関心を持って暮らすこと		
	復習	120 分	授業に関する教科書および資料を読んでおくこと。また関連する社会や地域の情報を確認すること		
成 績 評 価 方 法	筆記試験 100 点で評価する。				

教科書 (購入必須)	公衆衛生看護学 第3版(中央法規)
参考書 (購入任意)	厚生指標 国民衛生の動向 河野あゆみ編 新体系看護学全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社

科 目 名	地域看護活動論 I			
科 目 名（英 語）	Activity of Community Nursing I		シラバスNo.	250020410
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志			
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	演 習
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所または市町村での保健師実務経験を有する教員が担当する。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	・地域で暮らす人々を理解するための地域診断の要素について説明できる。 ・家庭訪問に必要な基本的留意事項について説明できる。 ・電話相談の特徴を知り、電話対応の留意事項について説明できる。			
受 講 の 留 意 点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	地域看護活動の基本となる地域診断および家庭訪問の基本技術等について学習する。 アクティブ・ラーニングの内容 PBL 型のグループワークおよびロールプレイを取り入れて実施する。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 地域看護活動に必要な技術について 2 地域診断：コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて 3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介① 4 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介② 5 啓発活動：ポピュレーションアプローチについて 6 ポピュレーションアプローチの実際 7 地域診断・啓発活動演習① グループ分けとテーマ選定 8 地域診断・啓発活動演習② テーマ別基本学習その 1 9 地域診断・啓発活動演習③ テーマ別基本学習その 2 10 地域診断・啓発活動演習④ 報告会準備 11 地域診断・啓発活動報告会 テーマ別学習の共有 12 家庭訪問活動の基礎 13 家庭訪問活動の応用 14 電話相談の基礎 15 電話相談の応用			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	グループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。	
	復習	30 分	グループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。	
成 績 評 価 方 法	筆記試験 80 点、レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。			
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第 3 版（中央法規）			
参 考 書 (購 入 任 意)	なし			

科 目 名	地域看護活動論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Activity of Community NursingⅡ		シラバスNo.	250020420	
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	担当教員は保健所または市町村での保健師実務経験を有している。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・地域で暮らす人々を対象とした看護技術について理解できる。 ・健康相談・健康教育に必要な技術や態度について説明できる。				
受 講 の 留 意 点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	地域看護活動のうち、集団への健康教育および個人・家族への健康相談や問診・面談等の技術について演習を通して学習する。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワークおよびロールプレイを取り入れて実施する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 地域で暮らす人々を対象とした看護活動 2 健康教育について 3 演習：健康教育 先輩によるデモンストレーション 4 演習：健康教育① グループ分けとテーマ選定 5 演習：健康教育② テーマ別基本学習 情報収集 6 演習：健康教育③ テーマ別基本学習 媒体と原稿の作成 7 演習：健康教育④ 報告会準備 8 健康教育報告会 テーマ別学習の共有 9 健康相談・問診について 10 演習：健康相談・問診① グループ分けとテーマ選定 11 演習：健康相談・問診② テーマ別基本学習 情報収集 12 演習：健康相談・問診③ テーマ別基本学習 原稿作成 13 演習：健康相談・問診④ 報告会準備 14 健康相談・問診報告会 テーマ別学習の共有 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	グループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。		
	復習	30 分	グループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。		
成 績 評 価 方 法	筆記試験 80 点、レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。				

教科書 (購入必須)	公衆衛生看護学 第3版(中央法規)
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	在宅看護活動論 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Methods of Home Care Nursing I			シラバスNo.	250020430
担 当 教 員 名	伊藤 亜希子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師および保健師として地域・在宅看護に関する実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、セルフケア能力に着目した指導、家族ケアを中心に、在宅看護活動の基本的な方法論について指導する科目である。 オフィスアワーは実習巡回指導期間など不在のことがあるため特に定めないが、事前に連絡をしてから訪問することを推奨している。 研究室：3 号館北 3119 伊藤亜希子研究室				
対応する ディプロマ・ポリシー	1．職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2．科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3．対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4．世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5．知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己研鑽する力を身につけている。 6．異文化を理解するとともに、多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動することができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1．在宅療養者とその家族の生活について理解できる。 2．在宅療養者とその家族に必要な生活援助を考えることができる。 3．在宅看護に必要な生活援助技術を取得することができる。 4．対象別在宅療養者の看護について理解できる。				
受 講 の 留 意 点	1．在宅看護は、応用看護学領域である。そのため、既習の看護学領域での基礎知識と関連させながら在宅看護の特徴を踏まえて学んでいくことを期待している。 2．講義やグループワークなどを通して、主体的に考え自ら学びとる姿勢で臨む姿勢で臨むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1．在宅看護の対象と基盤となる概念をもとに、在宅療養者の生活を支える看護について考え技術を学ぶ。 2．在宅看護における医療管理と医療依存度が高い療養者への看護について学びを深める。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク等を取り入れることで、個人およびグループ間で視野を広げて問題解決能力を養う。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 在宅看護について 2 在宅看護の対象と基盤となる概念 1) 在宅看護の対象と背景 3 2) 在宅看護における援助技術 4 訪問看護の実際 5 訪問看護において必要な倫理と態度 「対象を取りまく様々な場面での看護活動」 1) 療養者の尊厳を守るコミュニケーション 6 2) 訪問看護に必要な看護倫理 3) 訪問の準備とマナー 7 在宅療養生活を支える看護				

	1) 食事と栄養 8 2) 在宅栄養療法を行う療養者の看護 ・在宅中心静脈栄養（HPN）の基礎知識と実際 ・在宅経腸栄養法の基礎知識と訪問看護の実際 9 3) 清潔と排泄 10 在宅看護での看取りと訪問看護師の役割 11 在宅における医療依存度が高い方への看護 1) 慢性呼吸疾患のある療養者の看護の実際 2) 在宅酸素療法 12 3) 人工呼吸器療法 13 在宅療養を可能とする医療機器演習 1) 医療機器管理と在宅療養者への提供実際と他職種連携 14 2) 在宅酸素療法と在宅人工呼吸器療法① 15 在宅酸素療法と在宅人工呼吸器療法②		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い、解決したい内容や疑問点を明らかにして講義に臨むこと。
	復習	30 分	講義後は、教科書およびレジュメ、配布資料を振り返り知識を定着させること。さらに、学びを深め広げるためには、当事者および介護者の手記、訪問看護師や在宅医師の著書など幅広い読書も推奨する。
	講義 70%と演習 30%を併用する。		
成績評価方法	評価 定期試験期間中に筆記試験 100 点で評価する。 秀：90 点以上、優：80-89、良：70-79、可：60-69、不可：59 点以下とし、可以上の評価で単位を認定する。		
教科書 （購入必須）	河野あゆみ編：新体系看護学全書 地域・在宅看護論.メジカルフレンド社 石垣和子・上野まり編：在宅看護論 南江堂		
参考書 （購入任意）	河原加代子著：系統看護学講座統合分野 「地域在宅看護論」医学書院 渡辺裕子監修：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 日本看護協会出版会		

科 目 名	在宅看護活動論Ⅱ				
科 目 名 （ 英 語 ）	Methods of Home Care NursingⅡ		シラバスNo.	250020440	
担 当 教 員 名	伊藤 亜希子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師および保健師として地域・在宅看護に関する実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、セルフケア能力に着目した指導、家族ケアを中心に、在宅看護活動の基本的な方法論について指導する科目である。 オフィスアワーは実習巡回指導期間など不在のことがあるため特に定めないが、事前に連絡をしてから訪問することを推奨している。 研究室：3 号館北 3119 伊藤亜希子研究室				
対応する ディプロマ・ポリシー	1．職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2．科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3．対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4．世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5．知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己研鑽する力を身につけている。 6．異文化を理解するとともに、多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動することができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1．全てのライフサイクルにおける在宅療養者とその家族への支援を理解する。 2．在宅療養者における口腔ケアの必要性を理解し支援技術を学び実践することができる。 3．地域・在宅看護における看護過程を展開し支援方法を考え実践することができる。 4．地域包括ケアシステムにおける在宅ケアを支える他職種、他機関の役割や連携および協働について考えることができる。				
受 講 の 留 意 点	1．在宅看護は、応用看護学領域である。そのため、既習の看護学領域での基礎知識と関連させながら在宅看護の特徴を踏まえて学んでいくことを期待している。 2．講義やグループワークなどを通して、主体的に考え自ら学びとる姿勢で臨む姿勢で臨むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	地域で生活する在宅療養者やその家族の生活および健康上の課題は多様であるため、支援にも様々な方法により展開していくことが求められる。その中で、医療処置等の必要な在宅療養者について理解し、看護過程の展開を通して対象に応じた日常生活援助の技法について考え実践能力を養う。また、地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関との連携や協働についても演習を通して学びを深めていく。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク等を取り入れることで、個人およびグループ間で視野を広げて問題解決能力を養う。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 在宅看護における看護過程 1)在宅看護における看護過程とは 2 2)在宅における看護過程の意義 3)看護過程の展開 3 在宅看護における看護過程の展開演習ガイダンス 事例を通して対象者の理解し看護過程を展開し支援内容を検討する グループワーク 4 1)情報収集とアセスメント 5 2)アセスメント：事例の分析と判断 6 3)関連図を作成して対象の問題点および課題を整理する 7 4)対象者とその家族が利用している社会資源と多職種を整理する 8 5)看護計画立案：具体的な支援方法を検討しながら計画案を導く 9 在宅療養生活を支える看護技術演習:創意工夫による支援の展開				

	10 1) 立案した看護計画の支援の展開を通して、支援内容、方法および技術を検討する 11 ロールプレイと意見交換および全体討議 2) 在宅療養生活を支える看護師の姿勢や看護技術について理解を深める 12 看護過程の展開および実践を通して、事例から以下の視点を考える 13 1) 在宅看護における多職種・他機関の役割と機能 2) 在宅看護における多職種・他機関との連携・協働方法 14 在宅療養者への様々な支援 1 他職種の役割と支援 知識編 1) 在宅で療養する障がい者,摂食・嚥下障害,高齢者への口腔ケアの実際のその意義 15 在宅療養者への様々な支援 2 技術編 2) 口腔ケアの実際		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い、解決したい内容や疑問点を明らかにして講義に臨むこと。
	復習	30 分	講義後は、教科書およびレジュメ、配布資料を振り返り知識を定着させること。さらに、学びを深め広げるためには、当事者および介護者の手記、訪問看護師や在宅医師の著書など幅広い読書および新聞記事に関心を持つことも推奨する。
	講義 30%と演習 70%を併用する。		
成績評価方法	評価 定期試験期間中に筆記試験 80 点と演習課題 20 点で評価する。 なお、筆記試験および演習得点それぞれ、60%以上の点数を取得して単位認定とする。 成績は、合計得点で以下の通り評価する 秀：90 点以上、優：80-89、良：70-79、可：60-69、不可：59 点以下とし、可以上の評価で単位を認定する。		
教科書 (購入必須)	河野あゆみ編：新体系看護学全書 地域・在宅看護論.メジカルフレンド社 石垣和子・上野まり編：在宅看護論 南江堂		
参考書 (購入任意)	上田泉編集：在宅看護過程演習—アセスメント・統合・看護計画から実施・評価へ（改訂版）クオリティケア 河原加代子著：系統看護学講座統合分野 「地域在宅看護論」医学書院 渡辺裕子監修：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 日本看護協会出版会		

科 目 名	成人看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Adult Nursing		シラバスNo.	250020450
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医療の実践、および実践に必要な知識について指導する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに、多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動することができる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 個人としての成人期の身体的・精神的・社会的特徴、および集団としての国民衛生の動向について理解を深めることができる。 2. 知識と諸理論を活用しながら、成人を対象とした看護におけるアセスメント方法を習得することができる。			
受 講 の 留 意 点	成人期の対象者を看護する際には、対象者を取り巻く家族環境や社会・医療情勢など背景要因の分析が欠かせない。日頃から新聞などに目を通すとともに、両親や祖父母などの生活行動に高い関心を寄せると、講義内容の理解が深まる。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	ライフサイクルにおける成人の位置づけと、対象者を取り巻く生活環境、社会環境、保健医療情勢、および看護の礎となる概念や理論について学ぶ。グループワークなどの演習を通じて、学んだ知識を活かしたアセスメント方法を習得する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 成人を対象とした看護について、グループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。			
授 業 の 計 画	1. 成人看護学の位置づけと特徴、成人期にある人の特徴 2. 成人の生活と健康問題 3. 保健・医療・福祉システムの概要 4. 保健・医療・福祉システムの連携 5. 成人保健の動向（人口静態、人口動態） 6. 成人保健の動向（保健増進対策、感染症対策） 7. 成人看護学で用いる概念と理論①ニード論、ケアリング・アンドラゴジー、エンパワメント 8. 成人看護学で用いる概念と理論②自己効力理論、危機理論、ストレス理論、セルフケア 9. 成人看護学で用いる概念と理論③ロイの適応モデル、死の受容理論、病みの軌跡、など 10. 先進医療と看護 11. リハビリテーションと看護 12. 老年期に向かう過程での身体機能の変調 13. 終末期医療 14. 患者と家族への教育支援 15. 多様なケア環境とチーム医療、看護における倫理および法的責任			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各章に関連する教科書を読み込んでおく。
	復習	150 分	①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②レポート作成に取り組む。
成 績 評 価 方 法	評価方法：レポートは、後期定期試験日前に提出する。試験は、後期定期試験日に実施する。 評価割合：定期試験 70%、レポート 30% 評価基準：定期試験は、長谷部 40 点、南山 30 点を合わせて 70 点満点で評価する。 レポートは、長谷部 15 点、南山 15 点を合わせて 30 点満点で評価する。 総合成績は、定期筆記試験 70 点、レポート 30 点、を合わせて 100 点を満点とする。 評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満及び不可 60 点未満とする。		
教 科 書 (購 入 必 須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論、医学書院 成人看護学概論 第 3 版、ヌーヴェルヒロカワ 厚生 の 指 標 増 刊 国民衛生の動向、厚生労働統計協会		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	成人看護活動論 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Methods of Adult Nursing (Acute)		シラバスNo.	250020460	
担 当 教 員 名	長谷部佳子・大久保未央				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、主として急性期治療を受ける患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為における看護実践について、講義や演習を通じて教授する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 周手術期を中心とした急性期から回復期までの過程における患者について、身体的・精神的に理解することができる。 2. 手術療法および集中治療や検査にまつわる看護技術について学び、実践のための基礎知識を得ることができる。 3. 周手術期における対象者の健康問題を解決するための看護過程の展開方法について実践力を養うことができる。				
受 講 の 留 意 点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	講義と演習を組み合わせながら進めていく。周手術期などで行われる手術療法や生体侵襲の大きい検査、急性期治療に関する総論と各論を学ぶ。各論としての技術・観察方法の実際を演習で体験し、成人看護学概論や臨床治療学Ⅰ～Ⅲで得た知識との統合を図れるように学んでいく。 アクティブ・ラーニングの内容 周手術期に必要な看護技術について、実践毎にグループ・ワークを行う。				
授 業 の 計 画	1 今日の外科看護の特徴と課題、外科医療の基礎（手術侵襲と生体反応、炎症、感染、創傷管理法）	16	看護過程④（看護計画の作成）【演習】		
	2 外科治療を要する疾患・症状（外傷・熱傷とショック）	17	看護過程⑤（看護計画の評価・修正）【演習】		
	3 外科的治療を支える分野①（麻酔法、呼吸管理）	18	外科治療・集中治療に用いる器具類（膀胱留置カテーテル、麻酔器具、挿管器具）		
	4 外科的治療を支える分野②（体液管理・栄養管理、輸血療法）	19	外科治療・集中治療に用いる器具類（心電図モニター）		
	5 外科治療の実際（胃管挿入、低侵襲手術、臓器移植）	20	手術／検査を受ける対象者への看護の実際①（病床環境の準備）		
	6 救急看護の基礎、周術期看護の概論	21	手術／検査を受ける対象者への看護の実際②（全身の観察）		
	7 手術前の患者の看護	22	手術／検査を受ける対象者への看護の実際③（全身の観察）		
	8 手術中の患者の看護	23	手術／検査を受ける対象者への看護の実際③（輸液・栄養管理）		
	9 手術後の患者の看護	24	手術／検査を受ける対象者への看護の実際④（胸腔ドレナージと低圧持続吸引装置の管理）		
	10 集中治療を受ける患者の看護	25	手術／検査を受ける対象者への看護の実際⑤（清潔ケア）		

	11	手術を受ける高齢者の看護		26	手術／検査を受ける対象者への看護の実際⑥ （創部のケア、ストーマパウチ交換）
	12	疼痛の評価と看護		27	手術／検査を受ける対象者への看護の実際⑦ （創部のケア、ストーマパウチ交換）
	13	看護過程①（情報の分析）【演習】		28	手術／検査を受ける対象者への看護の実際⑧ （離床に向けた援助）
	14	看護過程②（看護問題の抽出）【演習】		29	手術中の看護①（手洗い、ガウンテクニック、 滅菌手袋装着、等）【演習】
	15	看護過程③（看護問題の整理）【演習】		30	手術中の看護②（手洗い、ガウンテクニック、 滅菌手袋装着、等）【演習】
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各講義に該当する教科書のページを読み、疾患や関連する看護問題、技術手順、 留意事項、質問事項等をまとめておく。		
	復習	120 分	再度教科書を読み、講義・演習内容に追記をしながらノートをまとめる。		
成 績 評 価 方 法	評価方法：期末試験とレポート（※定期試験前に提出）で行う。。 評価割合：期末試験 70％・レポート(看護過程一式)30％とする。 評価基準：期末試験とレポートを合算した 100 点満点として、S（秀）90 点以上、A（優）80 点以上 90 点未満）、B（良）70 点以上 80 点未満、C（可）60 点以上 70 点未満、D（不可）60 点未満とする。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院 新訂版 看護技術ベーシックス 第 2 版、サイオ出版 今日の治療薬、南江堂				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	（臨床治療学Ⅰで購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器、医学書院				

科 目 名	成人看護活動論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Methods of Adult Nursing (Chronic)Ⅱ		シラバスNo.	250020470	
担 当 教 員 名	南山祥子・松浦真理				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、主として慢性期治療を受ける患者に対する看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為における看護実践について、演習も行いながら系統的に講義を展開する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 慢性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。 2. ライフサイクル上の背景をふまえた看護過程の展開について理解することができる。 3. 慢性疾患をもつ人の事例について、科学的根拠をもったアセスメントを行い、個別性のある看護計画を立案することができる。 4. 慢性疾患をもつ人への看護実践について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。				
受 講 の 留 意 点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくこと。看護過程は、講義で説明を受けた内容をもとに主体的に考えずめていくことを求める。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	慢性的な身体機能障害を持ちながら生活する人々とその家族が、症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら健康的な生活を営むことを支える看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法について学習する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 演習時には、慢性疾患をもつ人への看護実践についてグループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	1	オリエンテーション、慢性疾患をもつ人の看護過程	17	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑤【演習】	
	2	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開①	18	慢性腎臓病患者への看護、透析療法を受ける患者の看護	
	3-4	呼吸器系の障害をもつ人への看護—気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など	19	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑥【演習】	
	5-6	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開②【演習】	20	がん患者への看護①—がん患者の特徴、放射線患者の看護	
	7-8	代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護①—糖尿病	21-22	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑦【演習】	
	9-10	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開③【演習】	23-24	代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護③【演習】自己血糖測定	
	11	代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護②—糖尿病	25-26	代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護④【演習】退院指導（ロールプレイング）	
	12	消化器系の障害をもつ人への看護—慢性肝炎、肝硬変	27-28	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑧【演習】	
	13-14	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開④【演習】	29	がん患者への看護②—緩和ケアについて～認定看護師	

	15- 脳・神経系の障害をもつ人への看護 16 一脳梗塞、筋委縮性側索硬化症	30	がん患者への看護③—化学療法を受ける患者の看護～認定看護師
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	各章に関連する教科書を読み込んでおく。看護過程のアセスメントに活用する疾患の病態、検査、治療、看護について調べノートに整理しておく。
	復習	120 分	講義内容を振り返りノートにまとめ、看護過程は講義・演習時の説明を取り入れて、随時追加・修正する。
成績評価方法	評価方法：看護過程は講義・演習毎に追加、修正し、前期定期試験前週に提出する。 レポートは、自己血糖測定、退院指導（ロールプレイング）の演習後に提出する。 試験は、前期定期試験日に実施する。 割 合：看護過程 30 点、レポート 10 点、定期試験 60 点 評価基準：看護過程は、追加・修正状況・内容 10 点、演習の取り組み方 5 点、最終提出記録の内容 15 点の合わせて 30 点満点で評価する。 レポートは、自己の振り返り 7 点、学び 3 点の合わせて 10 点満点で評価する。 総合成績は、看護過程 30 点、レポート 10 点、定期筆記試験 60 点を合わせて 100 点を満点とする。 評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満及び不可 60 点未満とする。		
教科書 （購入必須）	鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第 4 版 南江堂 江川 隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 [第 6 版]、 ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院		
参考書 （購入任意）	（臨床治療学Ⅰで購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院		

科 目 名	老年看護学概論				
科 目 名（英 語）	Gerontological Nursing		シラバスNo.	250020480	
担 当 教 員 名	高橋智美				
学 年 配 当	2	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の意義と役割、老年期を生きる方の特徴とともに老年看護の実践に必要な知識について指導する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4.地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.老年期の発達とその課題について身体・心理・社会面から理解できる。 2.老年期を生きる人の生活と健康の特徴を理解できる。 3.老年期を生きる人とその家族が地域で生活するためのケアシステムについて理解できる。 4.老年看護における倫理的課題について理解できる。				
受 講 の 留 意 点	・高齢者を理解するために以下の2つのグループワーク及び発表を実施する。 ・高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 ・急性・慢性疾患に付随する症候アセスメント				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	老年期の自我発達を基盤に置いた上で、高齢者を環境との相互作用する存在と位置づけ、老年期を生きる人とその家族の多様性・個別性を理解するとともに、病を抱えながらも「健やかに老い、安らかに永眠する」ことを目指す老年看護の理念、高齢者を取り巻く社会について学修する。講義、グループワーク、体験学習を通して、自分とは異なる文化・生活背景を持つ人々への理解を深め、皆さん自身の高齢者観をよりいっそう豊かに育むことを期待する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 ブレインストーミング				
授 業 の 計 画	1 老年看護学の歩み、老年看護学の意義 2 高齢者の理解 3 高齢者の健康と暮らし、高齢者の健康課題 4 高齢者の保健・福祉・医療の動向 5 高齢者を支えるための連携・協働 6 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴グループワーク 7 高齢者疑似体験演習 8 高齢者感覚器体験演習 9 健康逸脱から回復を促す看護1（褥瘡・褥瘡予防） 10 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴グループ発表 11 健康逸脱から回復を促す看護2（急性・慢性疾患に付随する症候とそのアセスメント）グループワーク 12 老年看護学に係る理論、生活機能評価スケール 13 高齢者の権利擁護 14 高齢者と医療安全 15 症候アセスメントグループワーク発表、まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習	予習	90分	講義に関連する教科書の章を精読する。		
学 修 時 間 の 割 り 当 て	復習	90分	講義内容を振り返りノートにまとめる。また講義内容に関連した書籍を読む。		

成 績 評 価 方 法	・レポート：25%（25 点） ・ミニテスト：15%（15 点） ・定期試験：60%（60 点） 合計 100 点
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	北川公子，他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学第 9 版，医学書院，2018. 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論第 5 版，医学書院，2018. 厚生労働統計協会：厚生指標増刊 国民衛生の動向（購入済みのもので可）
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	なし

科 目 名	老年看護活動論 I					
科 目 名 （ 英 語 ）	Nursing Care of the older adults I		シラバスNo.	250020490		
担 当 教 員 名	高橋智美、澤田知里、上原主義					
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方や高齢者に多い疾患とその看護等について実践を踏まえながら指導する。					
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	1.高齢者の特徴的な疾患・症状について理解できる。 2.高齢者を全人的・包括的にアセスメントするための健康障害・生活機能障害について理解できる。 3.高齢者の生活機能を維持・向上するための看護支援方法が理解できる。 4.高齢者に必要な看護支援方法を考察できる。					
受 講 の 留 意 点	・ 老年看護学概論で学んだ内容を必ず復習して臨む。 ・ 長期休暇期間中に課題学習（高齢者の生活史インタビュー）に取り組む。 ・ 演習では事前課題・事後課題がある。 ・ グループディスカッションは積極的に参加して自己の考えを深める。 ・ 技術の習得には反復練習が必須であることを踏まえ、技術演習後には自主的に練習を重ねる。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	平均寿命の延伸に伴い健康寿命が延びている一方で、平均寿命と健康寿命の差（日常生活に制限のある不健康な期間）は男性では約 9 年、女性では約 12 年にも及んでいる。「長く生きる」だけではなく、「サクセスフル・エイジング」を前提に、加齢変化や老年期に特有な疾患と生活機能障害についての理解を深め、疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための、高齢者の自立・自律・尊厳に配慮した BSC（best-supportive-care）について学修する。					
	アクティブ・ラーニングの内容 ブレインストーミング					
授 業 の 計 画	1 高齢者の生活史、高齢者の終末期看護 2 高齢者の健康障害・生活機能 1 摂食（食事）行動 3 高齢者の健康障害・生活機能の支援 食事介助・口腔ケア演習 4 高齢者の健康障害・生活機能 2 排泄行動 5 高齢者の健康障害・生活機能 3 清潔（身支度）行動 6 高齢者の健康障害・生活機能の支援 オムツ交換演習 7 高齢者の健康障害・生活機能の支援 陰部洗浄演習 8 高齢者の健康障害・生活機能 4 覚醒・活動 9 高齢者の健康障害・生活機能 5 睡眠・休息 10 高齢者の健康障害・生活機能 6 コミュニケーション 11 高齢者の特徴を踏まえた睡眠・休息支援技術 リラクゼーション, マッサージケア演習 12 高齢者の特徴を踏まえた安全・安楽の技術 耐圧分散・ポジショニング実験 器具を用いた移動, 背抜き・足抜き, エコー操作（残尿）演習 13 健康逸脱から回復を促す看護 1 検査・入院時の高齢者看護 14 健康逸脱から回復を促す看護 2 薬物療法・手術を受ける高齢者看護 15 まとめ					

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	講義・演習に関連する教科書の章を精読する。
	復習	30 分	講義・演習内容を振り返り、ノートにまとめる。また講義・演習内容に関連した書籍を読む。
成 績 評 価 方 法	レポート (20%) 20 点 ミニテスト (20%) 20 点 定期試験 (60%) 60 点 合計 100%		
教 科 書 (購 入 必 須)	北川公子, 他: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学第 9 版, 医学書院, 2018. (老年看護学概論で購入済み) 鳥羽研二, 他: 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論第 5 版, 医学書院, 2018. (老年看護学概論で購入済み)		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	老年看護活動論Ⅱ				
科 目 名 （ 英 語 ）	Nursing Care of the older adultsⅡ		シラバスNo.	250020500	
担 当 教 員 名	高橋智美、澤田知里、上原主義				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、看護過程の展開方法、ケアのスキルと提供方法について実践を踏まえながら指導する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.高齢者に多くみられる健康障害について理解できる。 2.高齢者の健康障害について対象者の持てる力を活用した看護過程の展開ができる。 3.高齢者看護に必要な技術を身に着けることができる。 4.自主的学修姿勢を身に着けることができる。				
受 講 の 留 意 点	・知識の取得では日々の復習を怠らず、課題にはコツコツと取り組む。 ・グループディスカッションは積極的に参加して自己の考えを深める。 ・技術の習得には反復練習が必須であることを踏まえ、技術演習後には自主的に練習を重ねる。 ・疑問点や不明点は放置せずに教員に積極的に質問や相談をする。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	論理的思考法を基とした老年看護過程の展開方法について理解し、紙上事例を用いて看護過程の展開を行う。また老年期特有の疾患や老年看護技術の目的・方法・倫理的配慮、持てる力を活かした援助の工夫のあり方について学修する。疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための、高齢者の自立・自律・尊厳に配慮した BSC（best-supportive-care）について学修する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 IBL、ブレインストーミング				
授 業 の 計 画	1 高齢者の看護過程展開 高齢者看護の視点 2 高齢者の看護過程展開 学習課題の明確化、病態 Map 3 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ①（情報の整理） 4 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ②（分析、総合） 5 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ③（全体像の把握） 6 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ④（問題抽出、優先順位の設定） 7 情報収集対応の技術 1.コミュニケーション 8 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑤（目標設定、計画立案：O-P） 9 高齢者の健康障害 1.脳神経疾患の看護 2.骨運動器疾患の看護 10 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑥（計画立案：T-P） 11 高齢者への日常生活援助技術 1.アクティビティケア				

	12 高齢者への日常生活援助技術 1.オムツ交換 2.陰部洗浄 13 高齢者への日常生活援助技術 1.食事介助 2.口腔ケア 14 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑦（計画立案：E-P, 経過記録：SOAP） 15 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑧（実施,評価）		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	講義・演習に関連する教科書の章を精読する。
	復習	90分	講義・演習内容を振り返りノートにまとめる。また講義・演習内容に関連した書籍を読む。
成績評価方法	ケースレポート（50%）50点 実技演習レポート（20%）20点 定期試験（30%）30点 合計 100点		
教科書 （購入必須）	リンダ J. カルペニート（黒江ゆり子監訳）：看護診断ハンドブック代 12 版，医学書院，2023.		
参考書 （購入任意）	亀井智子（編）：根拠と事故防止からみた老年看護技術第 4 版，医学書院，2024.		

科 目 名	小児看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Pediatric nursing		シラバスNo.	250020510
担 当 教 員 名	鎌田 佳奈美			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本講義では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解しながら、新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期の発達段階における成長・発達、擁護と看護について学ぶ。さらに、子どもの基本的人権と小児看護倫理から、子どもの利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修していく。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民 及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1.小児看護の対象である小児と家族の存在を環境との相互作用から理解する 2.小児看護を支える法的根拠から小児医療における子どもの権利について理解する 3.成長・発達の概念および新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期の発達の特徴とその評価方法を理解する 4.現代の小児と家族の健康問題について社会の変化から捉え小児看護の役割を理解する 5.母子保健の動向と小児の健康を支える社会資源、制度について理解する			
受 講 の 留 意 点	講義を中心に、自己学習や演習を組み合わせた授業展開をしていく。積極的な参加態度を期待します。日ごろ、新聞・TV・映画・書籍などで子どもの生活や健康問題、自身の生い立ちや家族との関係、社会で起きている子どもに関する問題などに目を向けることで、本講義の学習がより深まります。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもをとりまく現在社会に関連した健康問題について課題学習していきます。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループでディスカッションして、学びを共有していきます。			
授 業 の 計 画	1 小児看護とは 小児看護の対象、小児の範囲と区分、小児の成長発達を支える家族と発達 2 小児看護の歴史と意義、小児看護の課題、小児を取り巻く社会 3 子どもの権利と看護、子どもの最善の利益にかなう医療と看護 小児看護と倫理的配慮 4 小児看護と法律・施策、子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、小児に関する法律など 5 子どもの成長発達 成長・発達の原理原則 影響要因 6 新生児期の子どもの成長発達 身体生理の特徴 各機能の発達、新生児の養護および看護、愛着形成（ボウルビイ愛着理論） 7 乳児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達、乳児期の日常生活の世話（離乳食、排泄、衣服、睡眠等） 8 乳児期の子どもの成長発達 見る・聞くコミュニケーション機能、情緒・社会的機能、乳児期の健康問題 9 幼児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達 情緒・社会性の発達 幼児期の日常生活の自律 10 幼児期の生活行動の発達と看護 コミュニケーション機能、遊びの意義、エリクソン自我発達理論、幼児期の健康問題、			

	11 学童期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達・知的・情緒・社会的発達、ピアジェの認知発達理論 12 学童期の子どものセルフケアの発達と看護 学校不適応、学童期をとりまく諸環境、養護と看護、健康問題 13 思春期の子どもの成長発達 形態的発達・身体機能・知的・情緒・心理社会的発達 思春期によくみられる性、逸脱行動などの健康問題 14 発育の評価 形態的成長の評価、心理社会的発達の評価 15 小児看護学概論 まとめ	
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分
	復習	90 分
	課題を提示します。それを基に予習してください。講義後は、その日の講義目標に沿って復習してください。	
成 績 評 価 方 法	定期試験：学習内容の理解度を評価する 60 点 小テスト:成長・発達の理解 30 点（各 10 点×3 回） 子ども観察レポート 10 点	
教 科 書 (購 入 必 須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院	
参 考 書 (購 入 任 意)		

科 目 名	小児看護活動論 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Pediatric nursing I		シラバスNo.	250020520	
担 当 教 員 名	笹尾あゆみ、網野真由美				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	小児看護の経験を有する教員が健康障害や入院が小児や家族に与える影響、病時期の違いによる必要とされるケア、外来や在宅などの看護の場の違いにおける小児と家族の状況とケアについて教授する科目。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について理解する。 2.急性期、慢性期、終末期の子どもと家族の看護について理解する。 3.外来や在宅など場の違いによる看護を理解する。 4.障害のある子どもと家族の看護について理解する。				
受 講 の 留 意 点	講義や演習、自己学習を組み合わせた授業展開をしていく。グループ学習もとりいれるため積極的な参加態度を期待する。小児の入院環境、在宅における療養生活などイメージ化できるように視聴覚教材を取り入れていく。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	小児や家族の状況を理解するために課題を取り入れながら、自身の考えをもって、グループワークを行う。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションにより学びを共有していく。				
授 業 の 計 画	1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護、健康問題をもつ子どもと家族の看護 2 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 入院中の子どもと家族の看護 3 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 外来における子どもと家族の看護、在宅療養中の子どもと家族の看護 4 検査・処置を受ける子どもの看護、子どもにとっての検査・処置体験 5 症状を示す子どもの看護 一般状態、痛み、発熱、呼吸困難 6 症状を示す子どもの看護 下痢・嘔吐、脱水、痙攣、小児特有の感染性 7 急性期にある小児と家族の看護、 周手術期にある小児と家族の看護 8 発達に凸凹ある子どもと家族の看護 発達障害の理解と支援 9 障害のある子どもと家族の看護 医療的ケア児への支援 10 慢性期にある小児と家族の看護（1）慢性状態とある子どもと家族の状況 11 慢性期にある小児と家族の看護（2）子どもの生活の実際と支援 12 被虐待児と家族の看護 13 終末期にある小児と家族の看護（1） 子どもの死の概念 14 終末期にある小児と家族の看護（2） グリーフケア 15 小児看護活動論 I まとめ				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各章の内容を読み込む
	復習	30 分	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う
	課題を提示します。それを基に予習してください。講義後は、その日の講義目標に沿って復習してください。		
成 績 評 価 方 法	1. 定期試験 60 点 2. 小テスト 20 点 2. 課題レポート 20 点 講義中に課題を提示する		
教 科 書 (購 入 必 須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	小児看護活動論Ⅱ			
科 目 名（英 語）	Pediatric nursingⅡ		シラバスNo.	230020530
担 当 教 員 名	笹尾あゆみ、網野真由美			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	小児看護の経験を有する教員が健康障害のある小児と家族の看護展開技術、小児に特有な生活援助技術、診療に伴う援助技術について教授する科目。			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1.小児で関わることの多い疾患や症状を有する事例について、アセスメントし看護問題の明確化、看護計画の立案ができる。 2.小児特有の基本的な看護技術について習得することができる。 3.発達段階を考え状況に応じたプレパレーションができる。			
受 講 の 留 意 点	事例の看護過程の展開・プレパレーションの準備と技術演習については、グループ毎交互に行なう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	小児の看護過程、プレパレーションは、グループで作りあげていきます。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションにより学びを共有します。			
授 業 の 計 画	1 小児看護活動論Ⅱ ガイダンス 検査処置を受ける子どもの看護、プレパレーションの概念と実際 2 遊びの意義と実際 3 検査処置を受ける子どもの看護、プレパレーションのグループ制作 4 プレパレーション報告会 5 小児における看護過程の展開 ゴードンの機能的健康パターン 情報収集とアセスメントプロセス 6 小児における看護過程の展開 看護問題の明確化、看護計画の立案・評価・修正 7 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（抱っこの仕方、おむつ交換、身体計測、検体採取） 8 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（抱っこの仕方、おむつ交換、身体計測、検体採取） 9 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（吸入・バイタルサイン測定）（1） 10 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（吸入・バイタルサイン測定）（2） 11 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（輸液管理、点滴固定、与薬）（1） 12 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（輸液管理、点滴固定、与薬）（2） 13 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（心肺蘇生、応急処置）（1） 14 看護過程のグループワーク 小児看護技術演習（心肺蘇生、応急処置）（2） 15 小児看護過程 まとめ			

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	技術演習は、教科書にて予習をしてください。
	復習	30 分	演習問題があります。復習に活用してください。
	看護過程は、個人学習後にグループでディスカッションを行いますので、図書館などを利用して個人学習を行い予習してください。		
成績評価方法	1. 看護過程（個人提出）40 点 2. 技術演習問題 50 点 3. プレゼンテーション 10 点		
教科書 （購入必須）	小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術（メディカ出版）		
参考書 （購入任意）	子どもの地図帳 講談社		

科 目 名	母性看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction Maternity Nursing		シラバスNo.	250020540
担 当 教 員 名	加藤千恵子			
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学の概観を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1.学生は、母性の概念を、女性の生涯にわたる健康と権利の視点から捉えることができる。 2.学生は、女性の健康を身体・心理社会・文化的視点から理解することができる。 3.学生は、母子関連組織・法律、母子保健システムから看護のあり方を考察することができる。 4.学生は、女性のライフステージ各期の特徴を学び、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防のありかたについて考察することができる。 5.学生は、生命の尊重の意義を確認し自分なりの生命倫理について考えることができる。			
受 講 の 留 意 点	授業に参加するにあたり、予習、復習を行うこと。 GWには積極的に参加すること。 DVD は、欠席した場合も後日必ず視聴しレポートを提出すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	学生が、母性看護学の対象がすべての女性とその家族を含み、対象を取り巻く環境が大きく変化し、少子高齢化、晩婚化、晩産化が進んでいることを理解できるように授業を構成する。 また、女性のライフステージの特徴を知り、女性の一生を通じた健康の保持増進と疾病の予防についても学習する。 学生が、母性の概念、母子保健の変遷と統計指標、関連法規と施策などから、母子保健の現状と課題について学習できるように教授する。 さらに、リプロダクティブヘルス、ライツの観点から周産期に至る思春期からの性教育のあり方や婚前学級、婚活、妊活などの現代社会で生きる若者の実情や医学情報のトピックスを紹介し、学生が、生命倫理や生命尊重について考えを深化させられるように教授する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 母性の中心となる概念 1) 母親になること、2) 愛着理論、3) ボンディングと親子相互作用、4) 家族の発達 5) 家族を中心としたケア、6) 女性と中心としたケア 2 母性看護実践を支える概念 1) ヘルスプロモーション、2) エンパワメント、3) ウエルネス、4) セルフケア 5) リプロダクティブヘルス/ライツ 3 リプロダクティブヘルスに関する概念 1) セクシュアリティ、2) ジェンダー、3) 性意識の発達、4) 性的指向、 5) 性同一性障がい 4 リプロダクティブヘルスに関する動向 1) 出生に関する統計、2) 死亡に関する統計、3) 家族形成に関する統計 5 リプロダクティブヘルスに関する倫理 1) 出生前診断、2) 生殖補助医療、3) 生殖補助医療に関する倫理的課題 6 命の大切さを考える DVD 視聴 妊娠期の妊婦夫婦と胎児の生活、出産後の母親、新生児の1か月までの成長を、科学的視点を交えて解説する DVD。生命の神秘から命について考える。 7 子どもと女性の保護に関する法律 1) 母性看護の歴史的変遷、2) 児童福祉法、3) 母子保健法、4) 母体保護法、5) 労働基準法、6) 雇用機会均等法(略称)、7) 育児休業、介護休業法(略称)			

	8 子育て支援に関する制度・施策（少子化対策の変遷、健やか親子 21 1次・2次） 児童虐待 9 性差医療 DVD 視聴 1) 女性特有の疾患、2) 性差医療、 DVD 視聴「何が違う？なぜ違う？」性差に注目して対象理解や医療のあり方を考える。 10 生殖に関する生理 ・ライフサイクル作成と紹介 1) 女性の生殖器、2) 男性の生殖器、3) 第二性徴、4) 性周期、5) 妊娠のメカニズム 6) 性行動・性反応 11 生殖における健康問題と看護 1) 月経異常、2) 性感染症（コミュニケーションゲーム含む）と予防、3) 女性生殖器の腫瘍 12 不妊症 1) 妊孕性と不妊、2) 不妊の原因と治療、3) 不妊カップルの心理・社会的反応 4) 不妊治療に関する社会的・医療的支援 13 加齢とホルモン変化 1) 更年期女性の特徴、2) 更年期女性の健康問題と看護、3) 老年期女性の特徴 4) 老年期女性の健康問題と看護 14 リプロダクティブヘルスケア 1) 人工妊娠中絶と看護、2) デート DV、性暴力を受けた女性に対する看護、3) 喫煙女性の健康と看護 15 周産期医療システム、母子保健の国際化 まとめ		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	関係した章を読み込む。
	復習	90 分	授業の内容のポイントをまとめる。
成 績 評 価 方 法	各単元のまとめの課題提出（15 点）、ミニ模試や各授業の提出物（15 点）とテスト（70 点）で合算して評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	・ ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版）		
参 考 書 (購 入 任 意)	・ 母子保健の主なる統計令和 6 年度刊行：母子保健事業団 ・ 令和 6 年度こども白書 ・ 国民衛生の動向 2023/2024：厚生労働統計協会		

科 目 名	母性看護活動論 I					
科 目 名（英 語）	Maternity Nursing I		シラバスNo.	250020550		
担 当 教 員 名	加藤千恵子、北田恵美、笹尾あゆみ、永井紅音					
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての臨床経験を持つ教員が、妊娠期・分娩期の母子の看護を教授する科目					
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	目的 本講義では、女性のライフサイクルの中で周産期の妊産婦と胎児およびその家族を対象とする。学生は母性看護学における看護実践能力、周産期医療における問題解決力を高め、 1.妊産婦の主体性を重んじた安全で安楽な出産及び役割獲得への援助に必要な知識と看護技術を習得できる。 2.妊婦・産婦の発達課題の達成や健康の保持増進、健康障害の予防に必要な母子看護の基礎知識を学び展開できる。 3.対象が正常な妊娠、分娩経過をたどるために必要な看護技術を習得できる。 以上の3つの目標を達成するため、以下のA 知識、B 技術、C 態度に関する学習到達目標を挙げる。 A.知識 1)学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する生理的現象や身体的特徴を説明できる。 2)学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する心理社会的特徴を説明できる。 3)学生は胎児の成長発達と健康度の評価、胎児の特徴を説明できる。 4)学生は親になることを支える援助、相談、教育について説明できる。 B.技術 1)学生は妊婦の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。 2)学生は胎児の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。 3)学生はウェルネスの視点から看護問題・看護目標が挙げ、記述できる。 4)学生は個別性のある看護計画を立案し、記述できる。 C.態度 1)学生は積極的に学習し、自己の能力の向上に努めることができる。 2)学生は教員の支援を受けながら、多様な学習資源を活用した学習ができる。 3)学生はグループの一員としての自分の役割を遂行し、協力して演習を進めることができる。					
受 講 の 留 意 点	講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。 看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。 配布する学習ノート（妊娠期・分娩期）は教科書・参考書を利用して完成させること。 技術演習前には、講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。 技術演習には原則、ユニフォーム着用のこと。 演習は、技術演習と看護過程の展開の2組に分かれて実施する。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1. 学生は妊娠・分娩経過の女性および胎児と新生児に必要な知識と看護技術を習得する。 1) 学生は妊婦・産婦・胎児・新生児の身体的・心理社会的特徴を学び、健康状態を観察する技術を学ぶ。 2) 学生は母子の健康の保持・増進、健康障害の予防および健康障害からの回復を促す日常生活において必要なセルフケアとセルフケアを維持促進するための看護の方法を学ぶ。 3) 学生は妊娠期、分娩期の母子事例を活用、周産期の対象の身体的、心理的、社会的アセスメントの方法を習得し、対象の全体像を統合する。					
	アクティブ・ラーニングの内容					
授 業 の 計 画	1 妊娠期のアセスメント1 妊娠の成立と経過（妊娠の定義、妊娠の生理、胎児の成長と発達） 2 妊娠期のアセスメントとケア1 妊婦の身体的特徴と妊娠期の変化妊娠各期と保健指導（健康管理の目的、妊娠期の日常生活、栄養管理、乳房の手当） 3 妊娠期のアセスメントとケア2、妊婦の心理的特徴と妊娠期の変化					

	4 妊娠各期の胎児の成長と発達 5 <演習 1> 妊娠期のケア：子宮底・腹囲測定，レオポルド触診法，妊産婦体操，疑似体験 分娩期のアセスメントとケア（分娩が胎児に与える影響，胎児の健康状態の把握） 6 ハイリスク妊娠と看護 （妊娠悪阻，胞状奇胎，妊娠高血圧症候群，切迫流産，前置胎盤，常位胎盤早期剥離） 7 妊婦の健康教育と育児準備サポート、出産準備教育 8 分娩期のアセスメント1、 分娩の経過（分娩の定義、分娩の三要素と分娩機序、分娩経過） 分娩期にある母子の理解（分娩のメカニズム、心理・社会的状況の理解） 〔分娩の視聴覚教材〕 9 分娩期のアセスメントとケア1 （産痛のメカニズムと緩和方法、産婦の心理、家族への包括的援助） 10 分娩期の胎児の健康状態 11 分娩期の母体と胎児のための安全安楽を考えたケア 12 分娩室における各スタッフの役割分担と衛生管理および物品管理 13 <演習 2> 分娩期のケア： 呼吸法、弛緩法、産婦の安全・安楽と主体性を育むための看護 14 ハイリスク分娩の看護（微弱陣痛・過強陣痛、分娩時異常出血、帝王切開） 15 妊産婦の健康管理のまとめ		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30 分	各章の内容を読み込む。
	復習	30 分	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う。
成績評価方法	ミニレポート 15 点 課題；看護過程 15 点 試験 70 点		
教科書 （購入必須）	（母性看護活動論Ⅱと共通） ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美（医学書院） ・ナースンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術（メディカ出版） ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編（医歯薬出版株式会社）		
参考書 （購入任意）	・カラー写真で学ぶ妊産婦褥婦のケア 第二版 櫛引美代子（医歯薬出版株式会社） ・病気がみえる VOL10 産科 第3版（メディックメディア） ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子（中央法規出版）		

科 目 名	母性看護活動論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Maternity Nursing Ⅱ		シラバスNo.	250020560	
担 当 教 員 名	加藤千恵子、北田恵美、笹尾あゆみ、永井紅音				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての臨床経験を持つ教員が、産褥期・新生児期の母子の看護を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 学生は、妊娠期・分娩期の既習の知識を基に、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体・心理社会的特性を理解できる。 2. 学生は、産褥・新生児期にある母子への看護援助を行うために必要とされる基礎的知識と技術を習得できる。 3. 学生は、産褥・新生児期の母子関係確立のための援助に必要な知識と技術を習得できる。 4. 学生は、産褥・新生児期における主な異常とその看護を理解できる。				
受 講 の 留 意 点	講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。 看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。 配布する学習ノート（産褥・新生時期）は教科書・参考書を利用して完成させること。 技術演習前には、講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。 技術演習には原則、ユニフォーム着用のこと。 演習 2 は、技術演習と看護過程の展開の 2 組に分かれて実施する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	学生は、母性看護活動論Ⅰで学習した妊娠期・分娩期の援助を踏まえて褥婦および新生児とその家族の特性を理解する。 学生は、産褥期では分娩の影響からの心身の回復と母子関係確立・母親役割獲得へのケアおよび産褥の異常を持つ産婦のケアについて学ぶ。 学生は、新生児については胎外生活への適応と生理的変化、正常からの逸脱時のケアについて学習する。 また、母子の健康の保持増進・回復を促すためのセルフケアの方法および逸脱徴候を早期に発見できるための観察方法を習得する。 学生は、母子一対を対象として、母子関係形成のためのケアの重要性を理解し、褥婦・新生児の看護過程では、ウェルネスの視点を取り入れた展開方法を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 正常な産褥の基本的理解： 産褥の定義、褥婦の全身の変化、進行性変化、退行性変化、心理・社会的変化 2 産褥期のアセスメント： 退行性変化、進行性変化、身体の回復状態家族の機能と役割の再編、サポート体制 3 褥婦と家族のケア：セルフケアを高めるケア、母乳育児に向けてのケア、 育児技術に関わるケア、家族関係再構築へのケア 4 褥婦と家族のケア：母子関係確立への援助、母親役割、家族役割関係、 産後のメンタルヘルスカ、産後の母子保健施策 5 異常産褥の病態と看護：子宮復古不全、産褥感染症、精神障害、母子分離・死産 6 <演習 1> 産褥期のケア：子宮収縮状態の観察とケア 乳房観察とケア、産褥体操 7 正常新生児の基本的理解： 新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児の生理的変化、成熟度の評価 8 新生児のアセスメント： 出生直後の状、体格、哺乳状態、栄養状態、親子関係、家族関係 9 新生児のケア：看護の原則、保育環境、出生直後の看護、日常生活への援助、栄養				

	10 異常新生児の病態と看護： 新生児仮死、分娩障害、高ビリルビン血症、低出生体重児、ディベロップメンタルケア 11.12. <演習 2>新生児のケア： 13.14 バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴/褥婦・新生児の看護過程の展開 15 褥婦・新生児の看護過程、学習ノートの提出 まとめ		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各章の内容を読み込む。
	復習	30 分	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う。
成 績 評 価 方 法	ミニレポート 15 点 課題；看護過程 15 点 試験 70 点		
教 科 書 (購 入 必 須)	(母性看護活動論Ⅰと共通) ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ 森恵美 (医学書院) ・ナースングラフィカ 母性看護学③母性看護技術 (メディカ出版) ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編 (医歯薬出版株式会社)		
参 考 書 (購 入 任 意)	・病気がみえる VOL10 産科 第3版 (メディックメディア) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子 (中央法規出版)		

科 目 名	精神看護学概論				
科 目 名（英 語）	Introduction to the Mental Health and Psychiatric Nursing		シラバスNo.	250020570	
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として広く心の健康にかかわるケアを実践した経験を有する教員が、心の健康とそのケアに関する基本的知識と考え方を教授する科目				
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	精神健康において支援を必要とする人を対象とする看護についての基本的考え方を理解し、精神科医療および精神保健福祉の課題に問題意識を持って取り組む姿勢を修得することを目指す。 1. 人の発達段階やさまざまな生活の場における精神健康の様相について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。 2. さまざまな社会的背景と精神健康との関連について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。 3. 精神健康において支援を必要とする人とそれを取り巻く環境について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。				
受 講 の 留 意 点	少人数でのグループワークやディスカッションを多く取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。精神科医療および精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち、自ら考える姿勢が望ましい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1. 心とは何か、心の健康とは何か、その基本的考え方を学ぶ。 2. 心に関する諸理論、ライフサイクルと生活の場における心の健康について学ぶ。 3. 精神保健福祉活動の実際とそれを支える法・制度のあり方、精神保健福祉の歴史を学ぶ。 4. 精神科医療および精神保健福祉における人権と倫理について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 少人数でのグループワークを中心とした講義である。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション/心とは 2 健康な心とは 3 生活の場と精神保健① 家庭 4 生活の場と精神保健② 学校 5 生活の場と精神保健③ 職場 6 生涯発達と精神保健① 乳幼児期～思春期・青年期 7 生涯発達と精神保健② 成人前期～老年期 8 中間まとめ 人が生きることと精神保健 9 社会と精神保健① ストレス 10 社会と精神保健② 危機 11 社会と精神保健③ 自殺 12 精神障害と精神保健① 精神疾患と精神障害/統合失調症 13 精神障害と精神保健② 精神保健福祉の変遷と法/人権擁護 14 精神障害と精神保健③ 地域精神保健福祉活動 15 最終まとめ 心をケアするということ				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明らかにする。
	復 習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。
成 績 評 価 方 法	レポート課題：中間、最終各 50 点、計 100 点 5 段階評価 S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：素点 60～69 点、 D：素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出 の評価は素点 69 点までとする。		
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、資料を配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。		

科 目 名	精神看護活動論 I				
科 目 名（英 語）	Mental Health and Psychiatric Nursing:Assessment and Skills I		シラバスNo.	250020580	
担 当 教 員 名	結城 佳子 中島 泰葉				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、精神疾患・精神障害に関する基本的知識と治療・看護・リハビリテーションについて教授する科目				
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	精神疾患の病態や精神障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、支援を必要としている人とその家族に対する看護援助方法について基本的考え方を習得することを目標とする。 1. 主要な精神疾患の病態及び診断、治療について、要点を述べることができる。 2. 主要な精神症状のアセスメントについて、要点を述べることができる。 3. 主要な精神疾患及び精神症状に対する看護について、要点を述べることができる。				
受 講 の 留 意 点	具体的な事例等を通して、精神疾患・精神障害を適切に理解するとともに、精神疾患・精神障害を持つ人の生きる困難さや苦悩を共に感じ、看護援助の展開について主体的に考えることを期待する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1. 主要な精神疾患等の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響を学ぶ。 2. 主要な精神疾患等の治療およびリハビリテーションと看護援助を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 精神症状のアセスメントおよび看護の実際に関するグループワークを含む。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション/抑うつ症群① 概念と病態 2 抑うつ症群② 治療とリハビリテーション, 看護 3 双極症群及び関連症群 4 心的外傷及びストレス因関連症群 5 不安症群 6 強迫症/解離症群/身体症状症及び関連症群 7 食行動症及び摂食症群 8 物質関連症及び嗜癖症群① 概念と病態 9 物質関連症及び嗜癖症群② アルコール使用症 10 物質関連症及び嗜癖症群③ 治療、リハビリテーションと看護、ギャンブル行動症 11 パーソナリティ症群 12 神経発達症群 13 神経認知障害群① 主な認知症とその特徴 14 神経認知障害群② 行動・心理症状（BPSD） 15 神経認知障害群③ 治療と看護、せん妄				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回でテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。		

	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。
成績評価方法	筆記試験により評価する。 以下の 5 段階で評価する。 S : 素点 90 点以上、A : 素点 80～89 点、B : 素点 70～79 点、C : 素点 60～69 点、D : 素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点 69 点までとする。		
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。		
参考書 (購入任意)	必要時指示する。		

科 目 名	精神看護活動論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Mental Health and Psychiatric Nursing: Schizophrenia, Legal System, and human lightsⅡ		シラバスNo.	250020590	
担 当 教 員 名	結城 佳子 中島 泰葉				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、関連する法・制度、安全管理、人権と倫理および質の高い看護実践について教授する科目				
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	精神疾患の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法と看護過程の展開について基本的考え方を習得する。また、精神科領域における治療・看護について理解し、対象者の安全を守り、人権を擁護する看護のあり方を学ぶ。 1. 統合失調症の病態や後遺障害、診断や治療及び看護について、要点を述べることができる。 2. 精神科領域における治療やリハビリテーションについて、要点を述べることができる。 3. 精神科領域における治療等に関連する法や制度について、要点を述べることができる。 4. 精神科領域において患者を守る医療安全、危機管理及び人権と倫理について、要点を述べることができる。 5. 精神科領域における看護実践について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。				
受 講 の 留 意 点	精神科看護の実践に不可欠な知識・技術を学ぶとともに、精神障害者を取り巻く社会のありようを理解するため、主体的に考える姿勢を求める。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1. 統合失調症について疾患・障害のありようと生活に与える影響、治療や看護について学ぶ。 2. 精神科領域に特有の治療およびリハビリテーションと看護について学ぶ。 3. 精神科領域における安全管理、法・制度、人権と倫理について学ぶ。 4. 精神科看護の実践について、ゲストスピーカーによる講義から学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 看護の実践に関するグループワークを含む。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション/統合失調症① 概念と病態 2 統合失調症② 救急急性期の看護 3 統合失調症③ 休息期、回復期の看護 4 精神科領域における治療と看護① 身体的治療/薬物療法 5 精神科領域における治療と看護② 薬物療法, 電気けいれん療法 6 精神科領域における治療と看護③ 心理療法, 精神科リハビリテーション 7 精神科領域における法と制度① 法・制度の概要/精神保健福祉法 8 精神科領域における法と制度② その他関連する法・制度 9 精神科領域における医療安全・危機管理 10 精神科看護における人権と倫理 11 精神科看護における自己理解・自己活用 12 精神科看護の実践① 救急急性期看護 13 精神科看護の実践② 認知症看護				

	14 精神科看護の実践③ 退院支援		
	15 精神科看護の実践④ 精神科訪問看護		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	各回でテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。
	復 習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。
成 績 評 価 方 法	筆記試験（80%）、レポート課題（20%）により評価する。 以下の5段階で評価する。 S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：素点 60～69 点、D：素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点 69 点までとする。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	テキストは使用せず、資料を配布する。		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	必要時指示する。		

科 目 名	基礎看護学実習 I				
科 目 名 (英 語)	Clinical practice in fundamentals of nursing I		シラバスNo.	250020600	
担 当 教 員 名	岡田 郁子・齋藤 千秋				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、臨地において対象者とのかかわりやケアを通して対象理解、看護の目的や役割について、臨床指導者と協力し教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4.世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.病院の役割・機能、医療の場で働く看護者および他職種の専門職としての役割を説明できる。 2.対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて説明できる。 3.対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を説明できる。 4.看護学生としてチームの一員としての責任を自覚し、自律した行動ができる。 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。				
受 講 の 留 意 点	本科目は、看護学生として医療の現場で体験的に学ぶ学習であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること、事前学習が必要である点を十分認識して実習に臨むことが求められる。 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位取得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程演習の単位習得見込みである。計画的に学習し、体調を整えて実習に臨みましょう。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について学ぶ。同時に臨床判断・コミュニケーション技術・倫理的判断についても学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 実習グループで毎日振り返りを行い、学びを共有する。学内報告会では全体で学びや経験を共有し、他の実習施設で学んだ学生とも意見交換する。				
授 業 の 計 画	実習内容 1 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける。 2 実習病院の特徴や看護部の方針などについてオリエンテーションを受ける。 3 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける。 4 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う。 5 カンファレンスで学習内容を整理し、学びを共有する。 6 学内報告会では体験や学びを共有し、自己の課題を明確にする。 詳細は実習要項参照 * 実習目標に基づき、臨地実習 4 日間、学内実習 1 日間を予定している。 * 詳細な実習計画は、実習開始前オリエンテーションで説明する。 * 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習		
	復 習		
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。		
教 科 書 (購 入 必 須)	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙などの資料は実習前に配布されるので、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。		
参 考 書 (購 入 任 意)	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。		

科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Clinical Practice in Fundamentals of Nursing Ⅱ		シラバスNo.	250020610	
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・岡田 郁子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、臨地において臨床指導者と協力して、既習の知識や技術を基に看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護ケアをもとに、対象に必要な看護を理解し、その対象の看護上の問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開し、同時に問題解決思考能力を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的リテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4.世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5.知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 対象者とコミュニケーションをとることができる。 2. 対象者を統合的に理解し、看護過程を展開できる。 3. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について説明することができる。 4. 看護の専門性、学問を探究する学習者として自己洞察し、今後の学習課題を明確にできる。 5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。				
受 講 の 留 意 点	1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学習したことを復習し、実習に臨んでください。また、実習で体験する内容について事前学習を十分行ってください。学習は計画的に行い、体調を整えて実習に臨みましょう。 2. 看護実践を通じて専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学習者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨んでください。 3. 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、看護過程演習、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることである。基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護学生として初めて一人の対象を受け持ち、健康に障がいをもつ人を理解すると共に、健康障がいをもつ対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護を実践する思考プロセスを学ぶ。また、他の専門職と連携・協働するチーム医療について学ぶ。同時に臨床判断、コミュニケーション技術、倫理的判断・行動についても学ぶ。これらを通して看護職に求められる知識・技術・態度についての学びを深める。 アクティブ・ラーニングの内容 臨地において一人の対象を受け持ち臨床判断、コミュニケーション技術、倫理的判断・行動について学ぶ。				
授 業 の 計 画	実習内容 ＊ 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している。 ＊ 成人期・老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ＊ 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける。 ＊ 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である。 詳細は、実習要項を参照 ＊ 詳細な実習計画・資料等は、実習開始オリエンテーションで説明する ＊ 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分			
	復習	分			

成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。
教 科 書 (購 入 必 須)	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。
参 考 書 (購 入 任 意)	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。

科 目 名	地域看護学実習			
科 目 名 (英 語)	Practicum: Home Care Nursing		シラバスNo.	250020620
担 当 教 員 名	播本 雅津子・伊藤 亜希子・室矢 剛志・松下 由惟			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師および看護師として臨床経験のある教員が、地域で暮らす在宅療養者の様々な生活場面において、各実習施設の専門資格を有する実習指導者のもと、在宅看護活動に必要な支援方法や家族ケアの実施に必要な専門的知識と技術についてまなび、看護師の役割について教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに、多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動することができる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 地域で暮らす在宅療養者と家族の特性や生活上の課題やニーズを理解することができる。 2. 在宅療養者の疾病や障がいに対する気持ちの受け止めや価値観について考えることができる。 3. 在宅療養者や看護者である家族の健康や生活状態に応じた様々な支援のあり方について考えることができる。 4. 対象者が利用している社会資源について理解し、地域包括ケアシステムについて考えることができる。 5. 在宅療養者および地域全体の健康問題の解決に必要な保健・医療・福祉サービスの連携および協働から地域包括ケアシステムを理解する。			
受 講 の 留 意 点	地域看護学および障害者福祉に関する制度や社会資源を復習して実習に臨むこと。実習では、在宅療養者の自宅や施設を訪問するため、学生として節度ある態度とマナーを大切に学ばせていただく姿勢で臨むこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	訪問看護ステーション、診療所の訪問看護、地域包括支援センター、障害者施設において実習を行う。訪問看護ステーションの実習では、在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ。地域包括支援センターの実習では、役割と機能および支援の実践について学ぶ。障害者支援施設での実習では、地域で生活する障がい者について、生活モデルを用いた支援の方法を学ぶ。 これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療の連携および協働について理解する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 実習前後にグループワーク等を取り入れることで、個人およびグループ間で視野を広げて問題解決能力を養う。			
授 業 の 計 画	別途配布する「地域看護学実習要項」に基づいて、学内オリエンテーションを受けて実習を進める。 実習期間と実習施設 1 週目 訪問看護ステーション 2 週目 地域包括支援センター、障害者支援施設 実習方法と内容 数名ごとの小グループに分かれて、1 週目は訪問看護ステーション、2 週目は地域包括支援センターと障害者支援施設で実習を行う。実習最終日に、カンファレンスを行い、全員で各実習先での学びを発表し疑問点などを共有し学びの視点を広げるとともに学びを深める。 1. 訪問看護ステーション 在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ			

	2. 地域包括支援センター 地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ 地域包括支援センターの保健師や社会福祉士などに同行し対象者への訪問および事業などを見学する 3. 障害者支援施設 障害者支援施設において、地域で生活する障害者および生活を理解し、様々なプログラムより生活モデルを用いた関わり方や支援の方法を学ぶ これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解するとともに地域包括ケアシステムについて考える		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	分	実習要項で示す事前課題を中心に、教科書およびレジュメ、配布資料を振り返り知識を養う。 また、当事者および介護者の手記、訪問看護師や在宅医師の著書など幅広い読書および新聞記事に関心を持ち、訪問する対象者理解に繋げる。 実習する地域の地域包括ケアシステムについては把握しておくこと。
	復習	分	訪問した利用者さんについて疾病および病態、訪問の目的、結果を振り返りレポートへ反映させる。
成績評価方法	実習要項の評価方法に準じる。 秀：90点以上、優：80-89、良：70-79、可：60-69、不可：59点以下とし、可以上の評価で単位を認定する。		
教科書 (購入必須)	河野あゆみ編：新体系看護学全書 地域・在宅看護論.メジカルフレンド社 石垣和子・上野まり編：在宅看護論 南江堂		
参考書 (購入任意)	上田泉編集：在宅看護過程演習—アセスメント・統合・看護計画から実施・評価へ（改訂版）クオリティケア 河原加代子著：系統看護学講座統合分野 「地域在宅看護論」医学書院 渡辺裕子監修：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 日本看護協会出版会		

科 目 名	成人看護学実習 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Clinical Practice in Adult Nursing I (Acute)		シラバスNo.	250020630	
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子・大久保未央・松浦真理				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 健康障害の急性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 人間関係の重要性を認識し、健康障害の急性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。 3. 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 4. 回復期および社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。				
受 講 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨むこと。 履修には、成人看護活動論Ⅰと成人看護活動論Ⅱの単位を修得している必要がある。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	健康障害の急性期（周手術期）にある成人期の患者を 1 名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。外科的治療法を受ける患者への援助を実施して看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 学生カンファレンスのテーマ、目的、内容についてグループワークを行う。				
授 業 の 計 画	1. 成人看護学実習要項に基づいて実習オリエンテーションを行う。 2. 実習期間は 3 週間としている。 3. 成人期にある患者を受け持ち、臨床指導者の指導のもと看護実践する。 4. 教員の指導のもと、受け持ち患者の看護過程を展開し、評価を行う。 5. 学生カンファレンスを行い、看護について考えるとともに学びの共有をする。 6. 実習終了後、実習記録、看護過程、実習レポートを提出する。				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	人体形態学・人体機能学・病理学・薬理学・生化学などの疾患にまつわる予習。		
	復習	分	受け持ち対象者の病態の復習、看護実践にまつわる内容の復習。		
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。				

教科書 (購入必須)	履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で使用した教科書、参考書、講義資料などを活用する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ			
科 目 名（英 語）	Clinical Practice in Adult NursingⅡ（Chronic）		シラバスNo.	250020640
担 当 教 員 名	南山祥子・長谷部佳子・大久保未央・松浦真理			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1．職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2．科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3．対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4．世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5．知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1．健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2．人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。 3．患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 4．社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 5．看護学生として責任ある行動をとることができる。			
受 講 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨むこと。 履修には、成人看護活動論Ⅰと成人看護活動論Ⅱの単位を修得している必要がある。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	健康障害の慢性期にある成人期の患者を 1 名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実際を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 学生カンファレンスのテーマ、目的、内容についてグループワークを行う。			
授 業 の 計 画	1．成人看護学実習要項に基づいて実習オリエンテーションを行う。 2．実習期間は 3 週間としている。 3．成人期にある患者を受け持ち、臨床指導者の指導のもと看護実践する。 4．教員の指導のもと、受け持ち患者の看護過程を展開し、評価を行う。 5．学生カンファレンスを行い、看護について考えるとともに学びの共有をする。 6．実習終了後、実習記録、看護過程、実習レポートを提出する。			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	人体形態学・人体機能学・病理学・薬理学・生化学などの疾患にまつわる予習。	
	復習	分	受け持ち対象者の病態の復習、看護実践にまつわる内容の復習。	
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。			

教科書 (購入必須)	履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論）で使用した教科書、参考書、講義資料などを活用する。
参考書 (購入任意)	

科目名	老年看護学実習				
科 目 名 （ 英 語 ）	Gerontological Nursing Practice		シラバスNo.	250020650	
担 当 教 員 名	高橋智美、澤田知里、上原主義				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、高齢者との関わり方、看護過程の展開方法、ケアの方法等について実践を踏まえながら指導する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4.地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.老年期は、老いと病による健康障害を有しやすいものの、自らの持てる力を活用して生活を営んでいる。入院医療から保健医療福祉施設および通所・居住施設で生活する高齢者を対象に、望む（自律・自立）生活の実際や意思決定支援の在り方を体験的に学ぶ。 2.高齢者のヘルスアセスメント（身体・心理・社会的な視点）と加齢変化による生活への影響を総合的に理解し、その人がもてる力を活かした生活支援の在り方や健康回復に向けた看護のプロセスを学ぶ。 3.看護実践するために必要な基礎的能力と人生の先輩である高齢者を尊重する態度を養う。老年看護学実習全体を通して、高齢者を対象にした多職種連携と老年看護の役割・機能、高齢者の権利擁護を学ぶ。				
受 講 の 留 意 点	・本科目は老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ、Ⅱの単位を取得していなければ履修できない。 ・病院及び施設内感染症流行時は臨地実習が中止、中断になることがある。 ・インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設や在宅等さまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための、高齢者の自立・自律・尊厳に配慮した BSC（best-supportive-care）について実践する。 アクティブ・ラーニングの内容 ・カンファレンス時のディスカッション、ブレインストーミング、ラウンド・ロビン等				
授 業 の 計 画	実習方法：老年看護学実習は、居宅施設・通所サービスでの体験型実習（2週間）と、病院もしくは老人保健施設での受持ち制実習（2週間）で構成される。 Ⅰ 体験型実習（2週間） 高齢者施設で生活をする対象の発達課題、特性を理解し、対象の健康障害や生活状況に応じた援助を体験する。また、高齢者施設の役割と課題、施設における看護の役割・機能を考察する。 1.認知症高齢者の生活の場の機能と役割について理解できる。 2.認知症高齢者の生活支援の特徴について理解できる。 3.要介護高齢者が通所サービスを活用する意義について理解できる 4.保健医療福祉活動における連携・協働と看護の役割について理解できる。 5.看護学生としての規範に基づき自律した行動ができる。 Ⅱ. 受持ち制実習（2週間） 健康障害をもつ高齢者およびその家族に対して、知識・技術・態度を統合し、残存機能の維持、QOL の向上を目指した看護を実践するための基礎的能力を修得する。 1.対象の身体的・精神的・社会的特徴が説明できる。 2.対象の健康障害の特徴が説明できる。 3.対象の健康障害の特徴と日常生活動作を関連付けて説明できる。 4.健康問題に応じた看護計画が立案できる。 5.立案した看護計画に基づき、安全・安楽な看護実践ができる。 6.看護実践の結果から、計画の修正・追加ができる。 7.看護計画の評価ができる。 8.対象とその家族を支援する他職種との連携を知る。 9.対象の意思、主体性を尊重した関わりができる。				

	10.実習に意欲的に取り組むことができる。 *実習場所 ・体験型実習：名寄市内（風連町）・士別市内・美深町・下川町 ・受持ち制実習：名寄市内 *事前ガイダンスや課題がある。		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	分	老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱで学習した内容について復習をする。
	復習	分	毎日の実習内容を実習記録にて振り返り、翌日に向けた課題を明確にする。
成績評価方法	実習要項記載の評価項目、評価方法に準ずる。		
教科書 （購入必須）	なし		
参考書 （購入任意）	なし		

科 目 名	小児看護学実習				
科 目 名 （ 英 語 ）	Child Care Nursing-Clinical Practicum		シラバスNo.	250020660	
担 当 教 員 名	笹尾あゆみ、網野真由美				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を有する教員と医療施設における臨床指導者が、小児看護の実践について教授する科目。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民 及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.保育所実習を通して、成長発達に応じた日常生活、遊びの支援ができる。 2.小児看護における外来看護の役割を理解できる。 3.入院している小児とその家族の看護問題を明らかにできる。 4.発達段階や個性性を考慮した看護ケアを考え実施できる。 5.小児看護における看護職の責務を考察できる。				
受 講 の 留 意 点	感冒や感染症の疑い・発症などは必ず報告してください。感染源・媒介の危険性がある場合は実習に行くことはできません。予防接種の履行および日常生活・健康の管理に留意してください。実習前には各自、既習の知識・技術の確認を行い、準備を整えて実習に臨みましょう。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	別途配付する「小児看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行い実習を進める。 実習施設：小児病棟、小児科外来、市内保育所 実習期間：2 週間 実習方法：1 グループ1 週間単位で小児病棟と小児科外来・保育所に入る 実習内容 1) 小児病棟 ・受け持ち患児を決め、看護計画を立案する ・受け持ち患児の看護ケアを実施する ・実施した看護ケアについて評価し看護計画の修正を行う 2) 小児科外来 ・受け持ち患児を決め、家庭で行っているケアについて情報収集を行い、必要な看護ケアについてアセスメントする ・健診や予防接種に来ている子どもや家族に必要なプレパレーションを実施する				

	3) 保育所 ・ 健康な子どもの日常生活や遊びについて発達段階に応じた支援を行う		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	
	復習	分	
	受け持ち患児の行動計画、看護計画、実習記録などを行います。		
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる		
教 科 書 (購 入 必 須)			
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	母性看護学実習				
科 目 名 （ 英 語 ）	Maternity Nursing Practicum		シラバスNo.	250020670	
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠分娩産褥期の母親と新生児の看護実践の基本を医療施設の臨床指導者と共に指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	学生は、女性およびその家族を対象として、母性の健全な成長発達を促し、健康の維持・増進、発達課題の達成を促すための看護方法を学び、母性看護の役割について考えることができる。 1）学生は、妊娠、分娩、産褥期における女性の特性を身体的、心理的、社会的側面から理解し、各期の過程に影響する要因について理解できる。 2）学生は、母性意識の育成および母子関係、家族関係成立にむけての支援を学ぶことができる。 3）学生は、妊産褥婦がセルフケア行動や養育行動を獲得していく過程の支援を学ぶ。 4）学生は、新生児の生活を整える働きかけを通して、新生児が胎外生活に適応していく過程を理解することができる。 5）学生は、生命の尊厳や母性の尊重について、自己の考えを深めることができる。 6）学生は、母子保健活動の実践を通し、母子を継続して支援する方法を学び、その必要性を理解できる。				
受 講 の 留 意 点	母性看護学概論，母性看護活動論Ⅰ，母性看護活動論Ⅱをすべて履修済であること。 事前に配布する実習要項，特に達成目標を読み，事前学習を行い，活動論Ⅰ・Ⅱで作成したまとめを実習で活用すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1）学生は、妊娠・分娩・産褥期にある母子を受け持ち，身体的，心理的，社会的アセスメントにより発達課題や発達危機，健康状態を把握し，母子の健康を維持促進するために必要な看護実践の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2）学生は、地域で生活する褥婦及び新生児の健康状態および地域が抱える課題について学ぶ。 3）学生は、地域における母子保健活動の実践を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	実習内容(産科病棟実習・産科外来実習) 周産期からの母性看護の対象が訪れる施設と地域を理解する。また、実習中に関わる1事例以上の対象の特性を理解し，看護過程のアセスメントを通して看護の方法を学ぶ。 実習方法 1）実習場所（2か所） ・名寄市立総合病院3階西病棟，旭川厚生病院4階病棟、 名寄市立総合病院産婦人科外来 1グループ：1週間単位で病棟・分娩参加見学チームと外来・学内事例展開チームで交替する（1G8名） 2）実習内容 （1）周産期母子実習（病棟） ・褥婦と新生児の看護：1例受持ち ・産婦の看護は参加見学 （2）産婦人科外来実習 ・妊婦健康診査・保健指導の見学及び一部実施（1例以上） ・事例展開 計 実習期間 2週間				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	分	
	復 習	分	
成 績 評 価 方 法	実習方法の評価方法に準ずる。		
教 科 書 (購 入 必 須)	・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美 (医学書院) ・ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護技術 ・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 太田操 (医歯薬出版)		
参 考 書 (購 入 任 意)	・病気がみえる VOL10 産科 第4版 (メディックメディア) ・看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ,Ⅱ 前原 澄子 (編集) (中央法規出版) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 1 森恵美 (医学書院)		

科 目 名	精神看護学実習				
科 目 名（英 語）	Mental Health and Psychiatric Nursing: Clinical Practicum		シラバスNo.	250020680	
担 当 教 員 名	結城 佳子 中島 泰葉				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科医療機関等において、看護師等として実務経験を持つ教員及び臨地実習指導者による指導のもとで看護援助を実践し、それを通して対象理解、看護援助方法ならびに人権擁護等を学び、看護師の役割について教授する科目				
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	心を病む人とのかかわりを通して、これまで学習した知識を活用しながら、対象の精神的・身体的・社会的側面を含めた包括的な理解を深め、精神看護を実践する能力を身につける。さらに、精神科医療チームにおける看護師の役割を理解する。既習の知識を基盤とし、知識・技術・態度の統合を図りつつ、病院、施設、在宅、地域等の多様な場において、多様な人を対象として援助実践を行う。 1. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、精神的・身体的・社会的側面等からアセスメントすることができる。 2. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助方法を用いて、看護を実践することができる。 3. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、実践した看護を省察できる。 4. 精神科領域における医療チームの一員として、必要な報告連絡相談ができる。				
受 講 の 留 意 点	履修には、精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱの単位を修得している必要がある。対象者および家族の人権を擁護しつつ看護実践に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を求める。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1. 精神科病棟等において患者・家族を対象とした看護実践を行う。あわせて、施設見学、精神科における治療・リハビリテーションの見学を行う。 2. 看護実践を通して、精神看護に必要な基礎的な知識・技術を習得し、精神科において看護職に求められる基本的な態度を養う。 3. 治療・リハビリテーションの見学や看護実践を通して、他職種の役割と医療チームにおける看護職の役割を理解する。 アクティブ・ラーニングの内容 既習の知識を基盤とし、知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護実践を通して学ぶ。また、看護実践を通して、対象者や関係者との人間関係形成、看護専門職としての批判的・創造的思考、自己省察の能力を涵養する。				
授 業 の 計 画	別途配布する要項に基づき、オリエンテーションを行う。 実習施設において、臨地実習指導者および教員の指導のもと、看護実践を行う。 1～30 精神科における治療・リハビリテーションの実際を見学する。 受け持ち患者等とのかかわりをプロセスレコードに記録し、自己理解に活用する。 実習記録、総合レポートを提出する。				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	学習到達目標の達成に必要な学習を行う。		
	復習	分	学習到達目標の達成に必要な学習を行う。		

成 績 評 価 方 法	評価項目・評価方法を実習要項に提示、実習前に実施するオリエンテーションにて説明する。 総合点 60 点以上を単位認定する。
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用しない。
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。

科 目 名	統合実習			
科 目 名 (英 語)	Integrated Clinical Practicum		シラバスNo.	250020690
担 当 教 員 名	看護学科教員			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件 保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、より実践的な状況場面における看護の展開を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 DP2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 DP3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 DP4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 DP5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 DP6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	保健医療チームの一員としての看護職の役割を学び、他職種、他機関との連携・協働を通して主体的に看護を展開する実践的能力を修得する。また、既習の講義・実習の統合により看護実践能力の向上をめざし、看護学を探究する姿勢および態度を学ぶ。 1.保健医療チームの組織・機能・管理及びチームの一員としての看護師の役割を具体的に説明できる。 2.他職種、他機関等との連携・協働および統合的・継続的な看護実践の必要性について具体的に説明できる。 3.看護実践に必要な知識・技術を統合し、より実践的な状況・場面における看護展開に取り組み、自己評価できる。 4.看護職に求められる専門性とその責任、質の高い看護実践をめざして自己研鑽を継続する必要性を具体的に説明できる。			
受 講 の 留 意 点	4 年間の学びの集大成の実習であり、主体的に学び、自己を研鑽する姿勢をもって実習に臨むこと、看護学生として責任ある行動をとることが期待される。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	各看護学領域または領域間の連携により実習する。各領域の専門性を反映した実習内容により実習目的・目標の到達をめざす。学生は、選択した領域の実習計画に基づき、配置された実習施設での実習を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 既習の知識を基盤とし、知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護実践を通して学ぶ。また、看護実践を通して、対象者や関係者との人間関係形成、看護専門職としての批判的・創造的思考、自己省察の能力を涵養する。			
授 業 の 計 画	別途配布する「統合実習要項」に基づき、学内でのオリエンテーションを行う。 各領域等の実習計画について説明し、領域等の配置について希望調査を行う。 希望に応じて領域ならびに実習施設配置を調整する。 教員および臨地実習指導者等の指導のもと、領域の専門性を反映した、より実践的な看護活動を行う。 1～30 学内演習等により学びを深め、その統合を行う。 看護実践を省察し、記録類を作成、提出する。			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	分	学習到達目標の達成に必要な学習を行う。
	復 習	分	学習到達目標の達成に必要な学習を行う。
成 績 評 価 方 法	評価表に基づき, 評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用しない。		
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。		

科 目 名	看護倫理				
科 目 名（英 語）	Nursing Ethics			シラバスNo.	25002070
担 当 教 員 名	泉澤真紀				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師・助産師として病院や助産院で臨床経験をもつ教員が、実際の事例や看護場面も紹介しながら、プロフェッショナルとしての看護職が持つべき倫理観、看護倫理について教授する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養やリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1．生命倫理の考え方をもとに看護倫理とは何かについて説明できる 2．医療倫理の沿革から、生命倫理と看護倫理の原則について説明できる 3．医療における倫理的問題に気づき、その問題に看護の立場から考えを述べることができる 4．看護職の倫理綱領から、専門職としての看護についての自覚と責任を持つことができる				
受 講 の 留 意 点	看護が倫理の実践であることを踏まえ、よい看護とは何かについて一緒に考えたいと思います。 毎回の授業の最後にリアクションペーパーを配布し、感想や学びを書いてもらいます。 授業の最後にレポート課題を課します。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	講義をもとにグループワークを通して看護倫理について深めていきたいと思います。 アクティブ・ラーニングの内容 ビデオ学習・グループワーク・グループディスカッション・リフレクションシート				
授 業 の 計 画	1 倫理の基本的考え方 2 古典的な医療倫理（ヒポクラティスの誓い・ナイチンゲール誓詞） 3 生命倫理とは何か 4 看護倫理とは何か（善行と無害・正義・自律・誠実・忠誠） 5 看護実践上の倫理概念（アドボカシー・責務・協力・ケアリング） 6 （グループワーク）性と生殖の生命倫理（私たちの選択：出生前診断） 7 （グループワーク）死の生命倫理（生きていく理由：エンド・オブ・ライフ） 8 専門職の倫理：看護師の倫理綱領				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。		
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。		
成 績 評 価 方 法	授業態度 10% リアクションペーパー30% レポート課題 60%				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	宮坂道夫（2025）. 系統看護学講座別巻看護倫理, 医学書院.				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	手島恵（2025）.看護職の基本的責務, 日本看護協会出版会.				

科 目 名	看護マネジメント論			
科 目 名 （ 英 語 ）			シラバスNo.	250020710
担 当 教 員 名	井戸川 みどり・久保 千夏・植山 さゆり・日下 玲子			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	現在、看護管理者として看護マネジメントを実践している教員が、看護を取り巻く法制度、マネジメントの知識・技術を教授する科目。			
対応する ディプロマ・ポリシー	3.対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4.地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	看護サービスを提供するためには、看護職同士の協同、他職種との連携、対象者自身や家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となる。人的・物的・財的資源は、自然発生的に無限にあるのではなく、多くの場合有限である。これらの資源をいかに有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための仕組みを理解することを目標とする。 1.看護マネジメントの概念及び関連する法や諸制度について説明できる。 2.看護業務の実践のために必要なマネジメントについて説明できる。 3.看護サービスのマネジメントとその対象となるさまざまな資源について説明できる。 4.看護マネジメントに必要な知識・技術について説明できる。			
受 講 の 留 意 点	開講前の準備として、実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1.チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを学ぶ。 2.看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのか等を追及し、多数の人々が共に働くための「技」を学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護ケアのマネジメント 4 看護ケアのマネジメント 5 看護サービスのマネジメント 6 看護サービスのマネジメント 7 看護サービスのマネジメント 8 看護サービスのマネジメント 9 看護を取りまく諸制度 10 看護を取りまく諸制度 11 看護を取り巻く諸制度 12 看護を取り巻く諸制度 13 マネジメントに必要な知識と技術 14 マネジメントに必要な知識と技術 15 マネジメントに必要な知識と技術			

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。
成績評価方法	レポート 100 点で評価する。		
教科書 (購入必須)	上泉和子他 『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 [1]』 医学書院		
参考書 (購入任意)	必要時指示する。		

科 目 名	看護教育学				
科 目 名（英 語）	Nursing Education		シラバスNo.	250020720	
担 当 教 員 名	定廣 和香子・松田 安弘				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての実務経験及び看護教育における豊富な実践、研究経験を持つ教員が、看護教育学の基本を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	5.主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	① 看護教育学の構造・基本概念を理解し、看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。 ② 看護教育カリキュラム編成・授業展開・教育評価の基本を理解する。 ③ 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習し、その特徴と意義を明らかにする。 ④ ①から③を通して、大学において看護学を学習する上での自己の課題を明らかにする。				
受 講 の 留 意 点	看護教育学は、学生の皆様を含む看護職者の発達の支援を通して、看護の対象に質の高い看護を提供することを目指す学問です。また、その研究対象は、看護学教育の各領域に共通して普遍的に存在する要素（学習活動、教育活動、カリキュラム、教育評価、看護学実習 etc）です。講義では、様々な看護教育学の研究成果を紹介しながら授業を進めていきます。皆様が、看護学の学習を進める上での課題や問題を解決するヒントを見つけていただければ幸いです。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護教育学の構造・基本概念の理解を基本として、わが国における看護教育制度、看護学教育におけるカリキュラムのプロセス、教授＝学習過程、教育評価について学習することを通し、看護職養成教育の現状と今後の課題について考察する。また、専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習するとともに、これらの学習を通して、大学において看護学を学ぶ意義と課題を確認する。				
	アクティブ・ラーニングの内容：講師が提供した話題を出発点とした対話型の授業を行う。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス・看護教育学と看護学教育 2 看護教育制度（１）基礎 3 看護教育制度（２）発展 4 看護教育カリキュラム 5 看護学教育における授業展開（教授＝学習過程） 6 看護学教育における教育評価 7 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果 8 看護学教育の現状と今後の課題				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明確にしておく。		
	復習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を一編以上読む。		
成 績 評 価 方 法	レポートで評価する。（100 点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	なし（授業資料を配布する）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学第 8 版、医学書院、2024				

科 目 名	災害看護学・国際看護学			
科 目 名 (英 語)	Disaster Nursing and International Nursing		シラバスNo.	250020730
担 当 教 員 名	播本雅津子 長谷部佳子			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	災害看護学では、大規模自然災害時および大規模感染拡大時に保健師として支援活動を実施した教員が担当する。国際看護学では、看護師資格を有し、JICA の草の根事業申請のためモンゴル国で活動した経験、および赤十字関連のインドネシアで活動した経験を通じて講義を展開する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	災害看護学では、災害の種別および災害に関する法令等を理解する、災害看護の歴史および基礎知識を理解する、災害時の医療・看護活動の実際について理解する、災害時を念頭においた日々の看護活動について考察する、の4点を目標とする。国際看護学では、グローバルな視点で看護活動を考えられるようになることを目標とする。			
受 講 の 留 意 点	出席および成績評価は、災害看護学部分と国際看護学部分に分かれそれぞれ6割を必要とする。極力遅刻や欠席のないように臨む。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業は災害看護学部分と国際看護学部分のオムニバスである。災害看護学では、災害に関する基礎知識および災害看護学に関する実際の活動等について講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動についての体験談や演習を通じて、ひとり一人が災害時の看護活動について考える機会を持つことのできる授業とする。国際看護学も同様に、総論・各論の講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動に関する体験談を含む演習を通じて、国際看護の視座を養う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。			
授 業 の 計 画	1 災害看護学オリエンテーション・災害について・災害看護学の歴史について 2 災害に関する法律・法令 3 様々な災害から生まれた支援活動の教訓について 4 災害時の看護活動について（DMAT の実際） 5 トリアージについて 6 災害保健について（保健師活動の実際） 7 放射線災害について 8 国際看護を考えるうえでの理論・制度 9 国際協力の仕組み、日本との関係 10 世界の健康問題 11 海外での国際看護活動 1 12 海外での国際看護活動 2 13 日本における国際看護活動 1 14 日本における国際看護活動 2 15 統合学習			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと
	復習	30 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること
成 績 評 価 方 法	災害看護学部分はレポート評価を行う。国際看護学部分もレポート評価を行う。		
教 科 書 (購 入 必 須)	なし		
参 考 書 (購 入 任 意)	なし		

科 目 名	看護情報学				
科 目 名 （ 英 語 ）				シラバスNo.	250020740
担 当 教 員 名	村上 正和				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が看護実践における情報の活用と情報倫理を含む情報管理の実際を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2.科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3.対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①看護情報学における基礎的知識を理解する。 ②看護における情報の特徴とその扱い、看護者としての情報倫理を理解する。 ③今日、臨床で活用されている情報システムとその活用について理解する。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は、これまで学習してきたコンピュータリテラシーを再確認するとともに、看護が扱う情報についての基本的特徴、看護場面における情報の持つ意味・特徴、医療情報システムの概要と看護における活用について学習し、プライバシーに関する基本的知識と態度を習得し、自らが看護に関する情報をより効率的にのり的確に利用できる能力を涵養することを目指す。 アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 コースオリエンテーション・看護情報学の概要と看護師が身に着けるべき ICT 能力 2 コンピュータリテラシーと情報リテラシー 3 情報倫理と法 4 看護におけるデータ・情報の特徴 ※情報共有演習含む 5 医療情報システム ※電子カルテ演習含む 6 看護用語の標準化と標準看護計画 7 看護における情報システム活用例 8 統合学習				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	次回講義箇所の疑問点をまとめる。		
	復習	90 分	配布された資料を再度読み返す。		
成 績 評 価 方 法	試験(60 点)、課題(30 点)、授業態度・講義ごとのリアクションペーパー(10 点)により総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)	・中山和弘他：系統看護学講座 別巻 看護情報学/医学書院 2012 ・太田勝正他：看護情報学/医歯薬出版 2014 ・坂田信裕監修：だいじょうぶ？あなたの情報リテラシー(DVD)/医学映像教育センター				

科 目 名	看護総合演習			
科 目 名 (英 語)	Integrated Nursing Practice		シラバスNo.	250020750
担 当 教 員 名	看護学科教員			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護職として実践経験のある教員が講義およびグループ活動を担当する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 DP2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 DP3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 患者の身体への侵襲が強く実習や学内演習では体験することができなかった診療補助技術や、実際臨床で行われている実践に近い看護技術のスキルを習得することができる。 2. 卒業生の講演や懇談から臨床現場の実際を知り、看護専門職として・社会人としての心構えができる。			
受 講 の 留 意 点	卒業直前の演習であり、看護師として働いている卒業生の指導を受けられる。実習では体験できなかった現場のスキルや、看護師として働くということについて、卒業生から積極的に学ぶことを期待する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	臨床に即した看護技術実践力の向上、専門的看護技術の向上、看護専門職者としての心構えを涵養する。 1. 優先度や判断力を育成する多重課題を有する患者のロールプレイを行う。 2. 卒業生を含む臨床現場の看護師の指導を受けながら、実習や学内演習では体験できない診療補助技術の演習を行う。 3. 卒業生から「看護専門職者として求められていること」や「社会人としての心構え・新人としての臨床の体験」などの講演を聞く。			
	アクティブ・ラーニングの内容 既習の知識・技術を統合し、実践的な看護実践を行う。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 新人看護師に期待すること 3 看護職者に社会が求めること 4 講義① 点滴静脈内注射・筋肉注射 5 講義② 輸液ポンプ・シリンジポンプ/採血 6 ロールプレイ① 多重課題 7 ロールプレイ② 多重課題 8 卒業生講演① 看護師として、社会人として 9 卒業生講演② 卒業1年を経過して 10 技術演習① 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 11 技術演習② 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 12 技術演習③ 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 13 技術演習④ 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 14 卒業生・臨床看護師との交流会① 15 卒業生・臨床看護師との交流会②			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	既習の知識・技術を統合し、より実践的な看護実践とその評価を行う科目である。演習で実践する技術項目および関連する知識を必ず予習しておく
	復習	30 分	演習での実践を自己評価し、知識・技術を必ず補足学習する。
成 績 評 価 方 法	レポート 100 点		
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用しない。		
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。		

科 目 名	看護研究の基礎			
科 目 名（英 語）	Fundamentals of Nursing Research		シラバスNo.	250020760
担 当 教 員 名	長谷部佳子・南山祥子・高橋智美			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師資格を有し、医療施設や大学院などでの指導実績がある教員が基礎知識および研究について教授する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに、多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動することができる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 看護における様々な事象について、専門的知識・技術の向上や開発につながる信頼性・妥当性の高い知見を導き出すために必要な看護研究の知識や研究方法への理解を深めることができる。 2. 実践の場における研究活動を自立して行うための知識的な基盤を習得することができる。			
受 講 の 留 意 点	卒業研究での学習を進めるために必須な学習内容であり、グループワークも多いことを留意のうえで出席すること。積極的に講義に参加することを期待する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	新しい知見を導き出すために必要な看護研究の方法論について、先行研究論文のクリティークや具体的な研究例等を通して学び、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や、研究者としての倫理について理解を深める。 アクティブ・ラーニングの内容 先行研究論文のクリティークや研究計画書の作成、具体的な研究例の提示等によりグループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。			
授 業 の 計 画	1. 看護研究とは、看護における研究の必要性和意義 2. 看護研究の方法 3. 看護研究における倫理 4. 文献検索と検討①クリティークの視点 5. 文献検索と検討②自己の研究テーマへの活用 6. 研究計画の立て方①研究方法の決定方法 7. 研究計画の立て方②評価項目の決定方法 8. 調査研究①量的研究と質的研究 9. 調査研究②データ収集の方法と注意点 10. 実験研究 11. 調査研究③調査の実施 12. 調査研究④質的データの整理 13. 研究発表の技法 14. 看護研究の実際①研究計画書の作成 15. 看護研究の実際②データ処理			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	10 分	各章に関連する教科書を読み込んでおく。
	復習	35 分	①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②レポート作成に取り組む。
成 績 評 価 方 法	評価方法：レポートで評価する。 評価割合：レポート 100% 評価基準：レポートは、長谷部 55 点、南山 30 点、高橋 15 点を合わせて 100 点満点で評価する。 評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満 及び不可 60 点未満とする。		
教 科 書 (購 入 必 須)	岡本和土，長谷部佳子：看護研究ははじめの一步，第 1 版，医学書院，2006		
参 考 書 (購 入 任 意)	下記の他、必要時指示する。 黒田裕子：看護研究 step by step，第 6 版，医学書院，2017		

科 目 名	卒業研究			
科 目 名 (英 語)	Graduation research		シラバスNo.	250020770
担 当 教 員 名	看護学科教員			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件 看護師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、看護に関する研究のプロセスや方法を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	4. 世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち継続的に自己研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに、多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動することができる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	看護研究の基礎で学んだことをもとに、科学的・論理的思考を学ぶとともに、将来にわたって研究に対する関心を深め、研究的態度と姿勢を修得する。 1. 既修の知識・経験から看護学に関する研究課題を明確化し、説明できる。 2. 研究課題に関する先行研究を適切に収集、検討することができる。 3. 自らが取り組む研究について、研究目的を説明できる。 4. 研究目的に適した研究方法および倫理的配慮について説明できる。 5. 研究方法にそってデータ収集することができる。 6. 収集したデータを分析し、結果にまとめ、考察することができる。 7. 研究成果を論文形式で記述することができる。 8. 研究成果を報告会で発表し、討議することができる。			
受 講 の 留 意 点	担当教員の指導のもと、研究対象者への倫理的配慮を十分に検討し、必要な倫理審査を受審する。調査等においては、研究対象者に対し十分な説明を行ったうえで、協力への同意を得て実施する。患者・看護職等外部者に協力を依頼する場合は特に倫理的配慮に留意し、必要であれば関係機関の倫理審査を受審する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	既習の知識や看護学実習から生まれた問題意識を研究課題へ発展させ、研究計画書作成から論文作成、発表までの過程について学ぶことを目的とする。小人数ゼミナール及び担当教員の指導により、研究課題に関する文献検索から目的を明確にし、適した研究方法を選択し研究計画書を作成する。必要時は倫理審査を受ける。研究計画に基づきデータ収集（実施）、分析、考察を行い、論文としてまとめていく。更に、報告会で発表と討議を行う。研究計画から実施、まとめ、発表の一連を通して、科学的・論理的思考を学ぶとともに、継続的に自己を研鑽する態度を養う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 ゼミナール形式での演習である。			
授 業 の 計 画	1 全体ガイダンス 2 関心のある課題を設定して、その課題追究の可能性を探究する 3 先行研究のクリティークを行い、研究の目的や価値・意義を検討する 4 先行研究のクリティークを行い、研究デザインを検討する 5 研究目的に合った研究方法を検討し、データ収集するための資料を作成する 6 研究計画書を作成する 7 倫理的配慮を検討し、必要に応じて倫理審査を受審する 8 研究の実施設、対象者に依頼・調整して協力を得る 9 研究計画書に基づき、データを収集する 10 収集したデータの整理を行い分析する 11 分析結果を先行研究の結果と対比しながら、考察を行う 12 研究の結論を明らかにして文章化に取り組む 13 定められた体裁に整えて、研究成果を論文・抄録にまとめる			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	14 研究成果の発表と討議を行う		
	15 研究の全過程を振り返って自己課題の達成度および取り組みの態度への自己評価を行う		
	予習	分	各担当教員が指示する。
成 績 評 価 方 法	復習	分	各担当教員が指示する。
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用しない。		
参 考 書 (購 入 任 意)	各担当教員が指示する。		

科 目 名	公衆衛生看護学概論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Introduction to Public Health Nursing		シラバスNo.	250020780	
担 当 教 員 名	播本雅津子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師の実務経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護学の導入として公衆衛生看護の発展および保健師活動について概説する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	公衆衛生看護活動は、地域において、個人・家族・集団・組織等を対象に、人々の健康への援助を看護の立場から活動展開することである。公衆衛生看護の視点は、公衆衛生を基盤とし、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指している。ここでは公衆衛生看護の活動の概要および、公衆衛生看護の専門職である保健師について学び、保健師という専門職の役割を理解することを目標とする。				
受 講 の 留 意 点	遅刻・欠席のないよう健康管理に努めた上で授業に臨むこと。遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健師という専門職を理解し、その活動分野および職種の役割について学ぶ。保健師という職業の成り立ちや時代背景、現代における役割期待など、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ導入とする。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。				
授 業 の 計 画	オリエンテーション 公衆衛生看護の理念と活動分野 保健師の専門性について 対象としての個人・家族 対象としての集団・組織 公衆衛生看護の歴史（１）保健師活動の源流 公衆衛生看護の歴史（２）健康課題の解決と保健師活動（昭和時代） 公衆衛生看護の歴史（３）健康課題の解決と保健師活動（平成時代） 社会環境の変化と健康課題（１）人口・社会構造・文化的背景 社会環境の変化と健康課題（２）社会情勢・政治経済等の変化 公衆衛生看護活動の基本展開（１）個人・家族へのアプローチ 公衆衛生看護活動の基本展開（２）集団・グループへのアプローチ 保健師活動の基本姿勢（１）保健指導 保健師活動の基本姿勢（２）保健師活動指針 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと		
	復習	90 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		

成 績 評 価 方 法	筆記試験およびレポート試験を行う。筆記試験 80 点、レポート試験 20 点としそれぞれ 6 割以上の評価点が必要である。
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第 3 版（中央法規）
参 考 書 (購 入 任 意)	なし

科 目 名	創成看護活動論 I				
科 目 名（英 語）	Activity of Creation Nursing I		シラバスNo.	250020790	
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護学科教員が看護実践および研究活動を通して精通している課題に則して講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。				
受 講 の 留 意 点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けて下さい。授業回数が少ないため 5 回以上の出席が必要です。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	基本となる看護学から発展した看護実践活動から、看護学の深まりや発展に気づくと同時に、生来的に新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する科目である。現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。看護学科教員が実務経験や研究活動を通して現代の社会問題や健康課題、看護活動の課題に関して教授する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。				
授 業 の 計 画	1 睡眠公衆衛生学および睡眠保健指導 2 自殺予防対策とゲートキーパー活動 3 看護カンファレンスの実際 4 虐待予防への社会的取り組み 5 健全な親子関係育成の取り組み 6 Covid-19 対策の実際 7 看護職員確保対策について 8 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと		
	復習	90 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		
成 績 評 価 方 法	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	なし				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	なし				

科 目 名	創成看護学活動論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Methods of Innovative Nursing Ⅱ		シラバスNo.	250020800	
担 当 教 員 名	長谷部佳子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	医療施設や保健所で看護師、保健師の経験を有する教員が担当する。看護実践が今後さらに期待される場について、多面的な分析を加えながら教授する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1．職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2．科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3．対象となる人々の生活の質を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4．世界や地域社会の諸問題を学び、複眼的な視点で保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、地域住民及び関係機関の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5．知的関心を持ち、主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	実践的な看護活動に触れることにより、看護職としての将来イメージを明確にできる。 新たな看護分野の創成に取り組む意欲が高められる。				
受 講 の 留 意 点	健康管理を心掛けて出席して下さい。授業回数が少ないため5回以上の出席が必要です。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護学科教員の研究活動を紹介するほか、臨地で活躍する看護職をゲストに招いて、実践活動に基づいた講義を展開する。 アクティブ・ラーニングの内容 看護分野の新たな創成について討論を行う。				
授 業 の 計 画	1 こどもに関わる分野の研究・実践活動 2 新たな命を育む研究・活動 3 移植医療における研究・看護活動 4 救命救急における研究・看護活動 5 へき地における研究・看護活動 6 ターミナルケアに関する研究・看護活動 7 暮らしの中の心の看護（ひきこもり・とじこもり） 8 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	図書や新聞などを活用した自己学習。		
	復習	90 分	講義を振り返り、追加の情報収集とノートの整理。		
成 績 評 価 方 法	評価方法：期末試験とレポート（※定期試験前に複数回提出）で行う。 評価割合：期末試験 50%・レポート 30%とする。 評価基準：期末試験とレポートを合算した 100 点満点として、S（秀）90 点以上、A（優）80 点以上 90 点未満、B（良）70 点以上 80 点未満、C（可）60 点以上 70 点未満、D（不可）60 点未満とする。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	講義中に適宜資料を配付する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	公衆衛生看護技術論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Skills of Public Health Nursing		シラバスNo.	250020810	
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術についての理論と実践活動例について教授する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	保健師活動の基本となる地域診断のモデルについて説明できる。 健康教育の理論を学び、場や対象に応じた方法を説明できる。 保健事業ごとに適した評価方法を選定することができる。				
受 講 の 留 意 点	他の演習科目の基本となる科目である。他の演習科目と合わせて学習を進めること。授業の進行は、他の科目の進行と合わせて上記とは順番が変わることがあり、オリエンテーションで具体的な日時を説明する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健師活動に必要な技術について学習する。地域診断、地区組織活動、グループ活動、家庭訪問の展開、地域包括ケアにおける保健師の役割、ネットワークづくりとシステム化・事業化、保健活動の評価について教授する。 アクティブ・ラーニングの内容 並行して開講する演習科目で行うフィールドワーク、ロールプレイ、PBL 学習を念頭に本科目に取り組む				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 様々な地域診断モデルについて 3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて 4 地域診断の応用 5 住民活動・組織化の実際 6 保健師が関わる地区組織活動・グループ 7 グループ活動とその支援 8 保健指導技術としての家庭訪問（１）理論 9 保健指導技術としての家庭訪問（２）実践 10 地域包括ケアにおける保健師の役割 11 ネットワークづくりとシステム化（１）理論 12 ネットワークづくりとシステム化（２）実践 13 保健活動の評価について 14 さまざまな評価方法 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと		
	復習	90 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		

成 績 評 価 方 法	筆記試験 100 点で評価する。
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第 3 版 (中央法規)
参 考 書 (購 入 任 意)	なし

科 目 名	公衆衛生看護技術論演習				
科 目 名（英 語）	Activity of Public Health Nursing Skills			シラバスNo.	250020820
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術を活用した演習を実施する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・地域診断モデルを活用した地域の情報収集を行い、地域の特性を説明できる。 ・継続訪問活動を通じて、継続的な関わりの意義や必要性を説明することができる。 ・カンファレンスを通じて、お互いの事例や学習を共有し、チームで課題解決に取り組むことの意義を説明できる。 ・地区組織活動の経験を通じて、住民自治組織の役割について説明することができる。				
受 講 の 留 意 点	グループ演習が中心であるため、積極的な態度で臨むこと。 授業の進行は上記とは順番が変わるため、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健師活動に必要な技術について演習を通して学習する。地域診断・継続的な家庭訪問、住民自治組織における住民自治活動や安否確認・防災・減災活動について学習する。 アクティブ・ラーニングの内容 PBL 学習を取り入れたグループワーク、フィールドワーク、家庭訪問、カンファレンスを行う。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション	16	演習：継続訪問カンファレンス2回目		
	2 演習：地域診断の実際（1）名寄市を対象に－グループ分け	17	演習：継続訪問3回目		
	3 演習：地域診断の実際（2）名寄市を対象に－テーマ別情報収集	18	演習：継続訪問個別指導		
	4 演習：地域診断の実際（3）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（市街地）	19	演習：継続訪問カンファレンス3回目		
	5 習：地域診断の実際（4）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（農村部）	20	継続訪問全体カンファレンス		
	6 演習：地域診断の実際（5）名寄市を対象に－テーマ別報告準備	21	名寄市町内会連合会との懇談会		
	7 報告会（1）名寄市の地域診断	22	名寄市内単位町内会との懇談会		
	8 演習：様々な地域の地域診断（1）市町村別情報収集	23	演習：地区踏査		
	9 演習：様々な地域の地域診断（2）市町村別報告準備	24	演習：地区組織活動への参加・夏季行事		
	10 報告会（2）様々な市町村の地域診断	25	地区組織活動カンファレンス1回目		
	11 演習：継続訪問1回目	26	演習：地区組織活動への参加：秋季行事		
	12 演習：継続訪問個別指導	27	演習：地区組織活動への参加：冬季行事		
	13 演習：継続訪問カンファレンス1回目	28	地区組織活動カンファレンス2回目		

	14	演習：継続訪問 2 回目	29	地区組織活動全体カンファレンス
	15	演習：継続訪問個別指導	30	まとめ
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと	
	復習	30 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること	
成 績 評 価 方 法	レポート試験 60 点・演習記録 40 点で評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第 3 版（中央法規）			
参 考 書 (購 入 任 意)	なし			

科 目 名	公衆衛生看護活動論 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Activity of Public Health Nursing I			シラバスNo.	250020830
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、成人保健・高齢者保健、健康障害の種別として難病保健について教授する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	成人期の生活の特徴と健康課題について理解する。 地域で暮らす高齢者の生活の特徴と健康課題および介護予防活動について理解する。 難病患者の生活の特徴と、健康課題・社会課題について理解する。 ライフステージ別・対象のもつ条件別の保健医療福祉制度の活用方法について説明できる。 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。				
受 講 の 留 意 点	オムニバス授業である。3 本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	成人保健、高齢者と介護予防活動、難病保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワークおよびロールプレイングを取り入れて実施する。				
授 業 の 計 画	1 成人保健活動の変遷 2 成人保健の動向と健康課題 3 健康日本 21（第 2 次） 4 データヘルス計画について 5 特定健康診査 6 特定保健指導 7 健康増進事業 8 がん対策 9 演習：個別を対象とした成人保健指導 10 演習：集団を対象とした成人保健指導 11 高齢者保健施策の変遷 12 高齢者保健活動について 13 高齢者の現状の理解（元気高齢者） 14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者） 15 高齢者保健に関する制度	16 介護保険制度と保健活動 17 地域包括支援センターの役割 18 介護予防活動とその制度 19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族 20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織 21 演習：地域の関係機関を知る（1）社会福祉協議会・福祉事務所等 22 演習：地域の関係機関を知る（2）介護保険施設・地域包括支援センター 23 難病対策の変遷 24 今日の難病対策 25 高度経済成長期の公害・薬害 26 難病患者と家族が抱える課題 27 難病患者に対する社会の取り組み 28 保健師と難病保健活動 29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解 30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	15 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと
	復 習	30 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること
成 績 評 価 方 法	試験 100 点により評価する。試験は成人保健、高齢者保健、難病保健の 3 つに分けて実施するため、各試験で 60 点以上を必須とする。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。		
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第 3 版 (中央法規) 対象別公衆衛生看護活動 (医学書院)		
参 考 書 (購 入 任 意)	なし		

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅱ					
科 目 名（英 語）	Activity of Public Health Nursing Ⅱ		シラバスNo.	250020840		
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志・糸田 尚史					
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	担当教員はそれぞれ保健所保健師、市町村保健師、児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所における心理判定員・地域活動福祉司の経験を有している。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、親子保健活動に必要な知識と技術を教授する。					
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	母子保健施策の体系と保健師の役割について説明できる。 新生児訪問の準備・実施・報告までの一連の過程について説明できる。 乳幼児健康診査の準備・実施・事後処理までの一連の過程について説明できる。 こども虐待と保健師活動について理解する。 こどもの発達相談の実際について説明できる。 こどもの発達支援活動の実際について説明できる。 親子保健における多職種連携について説明できる。					
受 講 の 留 意 点	オムニバス授業または複数で協力して教授する授業である。2本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	母子保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワークおよびロールプレイングを取り入れて実施する。					
授 業 の 計 画	1 母子保健施策の変遷 2 母子保健施策の体系 3 妊娠期の保健指導 4 乳幼児の健康観察 5 乳幼児期の予防接種 6 新生児・乳幼児訪問 7 乳児健康診査 8 幼児健康診査 9 演習：新生児訪問（1）デモンストレーション 10 演習：新生児訪問（2）家庭訪問の手順 11 演習：新生児訪問（3）新生児モデルを用いた演習	16 児童虐待の早期発見 17 児童虐待における親支援 18 近年の親子保健の課題（1）就労・生活 19 近年の親子保健の課題（2）健康課題と育児 20 母子保健活動と関係法令 21 子どもの発達支援・発達の理解 22 神経発達症とその理解 23 家族支援について 24 子どもの発達相談 25 演習：事例検討会 26 演習：発達相談の実際（1）知能発達検査の種類と特徴・検査セットの紹介				

	12	演習：乳幼児健康診査（１）案内・設営	27	演習：発達相談の実際（２）保健師と心理判定員の連携実践
	13	演習：乳幼児健康診査（２）計測・問診	28	演習：発達支援の実際（１）絵本の読み聞かせ
	14	演習：乳幼児健康診査（３）結果説明・保健指導	29	演習：発達支援の実際（２）親子遊び・手遊び歌
	15	母子保健包括支援	30	まとめ
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと	
	復習	30 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること	
成 績 評 価 方 法	試験 100 点で評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で 60 点以上取ること。			
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	公衆衛生看護学 第 3 版（中央法規） 対象別公衆衛生看護活動（医学書院） 子育ての発達心理学（同文書院）			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	なし			

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅲ				
科 目 名（英 語）	Activity of Public Health Nursing Ⅲ			シラバスNo.	250020850
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師の経験を有する教員と市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは健康障害の種別ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	健康障害の種別ごとの健康課題と公衆衛生看護活動について理解する。 対象別の保健医療福祉制度の活用方法を理解する。 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。				
受 講 の 留 意 点	授業の順番は上記とは異なる場合もあり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	健康障害の種別ごとの活動として、精神保健福祉、感染症予防、健康危機管理、災害時の保健師活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師としての具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワーク及びロールプレイングを取り入れて実施する。				
授 業 の 計 画	1 地域精神保健活動の歴史 2 地域精神保健活動①予防と早期発見 3 地域精神保健活動②受療から回復期 4 地域における自殺予防対策について 5 ゲートキーパー養成活動 6 触法精神障がい者への支援 7 睡眠と健康 8 睡眠保健指導について 9 感染症保健の動向 10 感染症保健施策と保健師活動 11 結核の基本知識 12 結核に対する保健師活動 13 結核集団感染発生時の保健活動 14 新興感染症について 15 新型インフルエンザ対策	16 HIV/AIDS の動向 17 HIV/AIDS に対する保健師活動 18 Covid-19 感染症の動向 19 Covid-19 に対する公衆衛生活動 20 Covid-19 に対する保健師活動 21 新興感染症について 22 集団施設における感染症対策 23 腸管出血性大腸菌感染症について 24 大規模食中毒発生時の保健活動 25 健康危機管理とは 26 保健所における健康危機管理業務 27 災害時の健康危機管理 28 災害時の公衆衛生看護活動 29 災害時の健康課題とその予防 30 まとめ			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと		
	復習	30 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		

成 績 評 価 方 法	試験 100 点により評価する。レポート等の提出を求める場合は評価に含める。
教 科 書 (購 入 必 須)	対象別公衆衛生看護活動（医学書院）
参 考 書 (購 入 任 意)	

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅳ					
科 目 名（英 語）	Activity of Public Health Nursing Ⅳ		シラバスNo.	250020860		
担 当 教 員 名	播本 雅津子・井上 靖子・野口 直美					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	担当教員はそれぞれ保健所保健師・産業保健師・養護教諭の経験を有している。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは活動の場ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。					
対応する ディプロマ・ポリシー	3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	産業保健および学校保健の概要について理解する。 労働者の後口調と健康課題および産業保健師活動について理解する。 児童・生徒の特長と健康課題について理解する。 学校保健における養護教諭の活動について理解する。 地域の保健師と、養護教諭や産業保健師との協働について理解する。					
受 講 の 留 意 点	オムニバス授業である。2本立てで進行するため順番は上記とは異なり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	講義と演習を組み合わせながら進める。産業保健および学校保健に関する理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。					
	アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワークおよびロールプレイングを取り入れて実施する。					
授 業 の 計 画	1 学校保健の概要	16 産業保健の歴史				
	2 養護教諭の職務	17 産業保健行政				
	3 学校の目的・教育職の役割	18 労働安全衛生法				
	4 学校保健に関する法体系	19 社会における労働と健康				
	5 学童期・思春期における発達課題と健康	20 労働衛生統計				
	6 発達障害における課題と教育支援	21 産業保健の組織的展開				
	7 学校保健計画と保健室経営	22 労働環境対策				
	8 疾患をもつ児童・生徒の健康管理	23 産業保健におけるメンタルヘルス対策				
	9 児童虐待の早期発見と学校における取り組み	24 ストレスチェックと保健活動				
	10 児童・生徒の健康管理①（健康相談）	25 労働安全衛生マネジメント				
	11 児童・生徒の健康管理②（健康診断）	26 安全衛生計画・産業保健計画の策定				
	12 感染症と学校保健	27 特殊健康診査				
	13 自治体保健師と学校保健の関わり	28 特定健康診査・特定保健指導				
	14 学校保健まとめ	29 外国人労働者の健康課題				
	15 産業保健の役割と意義	30 産業保健まとめ				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	15 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと
	復 習	30 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること
成 績 評 価 方 法	試験 100 点により評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で 60 点以上取ること。		
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護活動Ⅱ 医歯薬出版株式会社		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	公衆衛生看護管理論			
科 目 名 （ 英 語 ）	Management of Public Health Nursing		シラバスNo.	250020870
担 当 教 員 名	播本雅津子・室矢剛志			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義・演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件 保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護管理に必要な知識について学習した上で、地域診断に基づく情報から事業計画策定までの一連の過程について総合的に学習する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	保健師の人事管理・現任教育などについて理解できる。 健康な地域づくりを目指した保健活動計画の策定・実施・評価のプロセスについて理解する。 地域住民の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢を理解する。			
受 講 の 留 意 点	これまで公衆衛生看護学で学習した内容を復習しながら取り組むとより一層の成果が得られるため、予習復習を心掛けること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	講義を主軸に演習を取り入れながら進める。保健師教育の最終段階の科目として実習での実地体験および就業時のイメージを高めるよう工夫して授業を進める。 アクティブ・ラーニングの内容 PBL 型のグループワークを取り入れて実施する。			
授 業 の 計 画	1 公衆衛生看護管理とは 2 人材育成・人事管理 3 統括保健師について 4 保健福祉計画の策定について 5 総合計画・基本計画・実施計画 6 業務管理 7 保健事業の評価 8 様々な評価方法 9 統計資料の種類と活用方法 10 演習：統計資料から健康課題を抽出する① データ収集 11 演習：統計資料から健康課題を抽出する② データ分析 12 演習：統計資料から健康課題を抽出する③ 資料作成 13 演習：統計資料から健康課題を抽出する④ 健康課題の抽出 14 報告会 各地域の健康課題 15 まとめ			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと	
	復習	30 分	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること	

成 績 評 価 方 法	試験 100 点により評価する。
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第3版（中央法規）
参 考 書 (購 入 任 意)	なし

科 目 名	公衆衛生看護学実習 I					
科 目 名 （ 英 語 ）	Practice in Public Health Nursing I		シラバスNo.	250020880		
担 当 教 員 名	播本雅津子・室矢剛志・松下由惟					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護学実習 I では保健師活動の基本となる個人・家族への保健指導および集団・組織等への保健指導について実習施設の指導者より対象者の紹介を受けて実施する。					
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	個人・家族の健康課題の解決に向けて実施する家庭訪問の一連の過程を複数の事例に実施すること、および集団への健康教育を複数回実施し、その技術を習得すること、家庭訪問や健康教育は地域の健康課題の解決の方法の1つであることを理解することを目標とする。					
受 講 の 留 意 点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	市町村で実習を行う。臨地において指導保健師の協力の下、家庭訪問および健康教育を実施する。内容は公衆衛生看護学実習Ⅱと連動するため、この2科目の実習は継続した日程で実施する。家庭訪問は継続的な取り組みを目指し、面接と家庭訪問、健康教育と家庭訪問、継続訪問など、同じ事例に複数回関わる。健康教育は企画・実施・評価の一連の過程に取り組む。					
	アクティブ・ラーニングの内容 臨地において保健師活動および保健事業の見学・実施・カンファレンスを行う					
授 業 の 計 画	事前に学内で「実習オリエンテーション」を実施する。公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ実習要項に基づき、教員の指導の下で実習事前学習を行う。実習場所は市町村とする。実習施設での実習中は、臨地実習指導者および教員が協力して指導にあたる。 1 臨地オリエンテーション・家庭訪問事例紹介<事例1・事例2> 2 事例1指導者同行訪問・事例2学生ペア訪問 3 事例1学生単独訪問・事例2継続訪問 4 訪問カンファレンス 5 事例検討会 6 健康教育見学・参加 7 健康教育準備・デモンストレーション 8 健康教育1実施および評価 9 健康教育2実施および評価 10 公衆衛生看護学実習Ⅰカンファレンス					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	予習復習として実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。			
	復習	分	予習復習として実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。			
成 績 評 価 方 法	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。					

教科書 (購入必須)	なし
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	公衆衛生看護学実習Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Practice in Public Health NursingⅡ		シラバスNo.	250020890	
担 当 教 員 名	播本雅津子・室矢剛志・松下由惟				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護学実習Ⅱでは保健所と市町村それぞれの活動について理解するとともに、地域診断を基盤とした公衆衛生看護管理および健康相談事業について学習する。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	保健所の担う公衆衛生看護活動および保健所保健師の役割を理解する。 地域の健康問題を組織的に解決する方法を理解する。 地域保健活動における機関や職種の連携について理解する。				
受 講 の 留 意 点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健所および市町村にて実習を行う。市町村での実習は公衆衛生看護学実習Ⅰと連動するためこの2科目の実習は継続した日程で実施する。保健所実習では公衆衛生の専門機関である保健所の機能および各専門職の役割を理解した上で保健所保健師活動の実際を学習する。市町村実習では、健康相談、地区組織活動、公衆衛生看護管理等、多様な活動について学習する。保健所実習は7～8人、市町村実習は2～4人のグループに分かれる。 アクティブ・ラーニングの内容 臨地において保健師活動および保健事業の見学・実施・カンファレンスを行う。				
授 業 の 計 画	事前に学内で「実習オリエンテーション」を実施する。公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ実習要項に基づき、教員の指導の下で実習事前学習を行う。実習場所は保健所および市町村とする。実習施設での実習中は、臨地実習指導者および教員が協力して指導にあたる。 1 保健所の機能と役割 2 保健所で働く様々な職種の理解 3 保健所保健師の活動 4 保健所保健師活動の実際1（家庭訪問・事例検討等） 5 保健所保健師活動の実際2（集団指導・他機関連携等） 6 市町村保健活動の概要 7 地域診断1（既存資料からの情報収集・地区踏査） 8 地域診断2（関係職種および住民へのインタビュー） 9 地域診断3（分析・健康課題の抽出） 10 地域診断4（事業計画策定・保健計画の見直し） 11 健康相談1（母子保健） 12 健康相談2（成人保健） 13 健康相談3（高齢者保健） 14 健康相談4（地区組織活動） 15 公衆衛生看護学実習Ⅱカンファレンス				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	分	予習復習として実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。
	復 習	分	予習復習として実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。
成 績 評 価 方 法	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	なし		
参 考 書 (購 入 任 意)	なし		

科 目 名	助産学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Midwifery		シラバスNo.	250020900
担 当 教 員 名	加藤千恵子、高田昌代			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学の概観を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	助産の基本概念を助産の歴史・文化からその意義を捉え、助産の対象、原理原則、役割、ケアと支援、職性と業務、倫理、助産師としてのアイデンティティや自律について理解する。 母性保護の変遷と母子保健について助産師のあり方と将来を展望する。また、助産師教育（研究）や諸外国の助産師教育を学ぶ。			
受 講 の 留 意 点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。 科学的根拠に基づく助産実践について学びましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	助産実践の基礎となる助産の概念、理論を理解し、女性のライフサイクルに応じた性と生殖に関する女性の健康を支える助産師としての能力を養う。 社会的責務を遂行するための助産師の役割や業務範囲、関係する法的基盤を理解する。 助産ケアの基盤となる概念として、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史的背景、国内外の動向を学修する。 助産の現状と動向、母子保健の変遷、助産師の責務、職業倫理、諸外国の動向を学修し、これからの助産学の方向と助産師のあり方について考える。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 1.助産の概念の変遷 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2 3. ジェンダー・性差医療 3 4. 助産の定義・対象 助産の倫理、助産師の自律 4 5. 助産学を支える理論： 1) 危機理論、セルフケア理論、 2) アタッチメント理論 5 6. 助産の歴史（産育習俗の変遷） 7. 助産師教育 1) わが国における助産師教育の変遷 2) 諸外国の助産師教育 6 8. 助産師に関わる関連法規 7 9. 時代背景・母子保健施策に沿った理解 10. 周産期各期に沿った理解 8 11. 産科医療の現状と今後の展望 12. 助産師活動と将来 まとめ			

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	助産の概念や理論などの関係した章を読み込む
	復習	90 分	授業の内容のポイントをまとめる
成績評価方法	プレゼンテーション内容等（50%）、グループワークの発表内容（10%）、課題レポート（40%）にて総合的に評価する。		
教科書 （購入必須）	基礎助産学[1]助産学概論 第6版我部山キヨ子、武谷 雄二編集 医学書院 福井トシ子，井本寛子 編：新版 助産師業務要覧第4版Ⅰ 基礎編 2025年度版 日本看護協会出版会 福井トシ子，井本寛子 編：新版 助産師業務要覧第4版Ⅱ 実践編 2025年度版 日本看護協会出版会		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	リプロダクティブヘルス			
科 目 名（英 語）	Reproductive health		シラバスNo.	250020910
担 当 教 員 名	加藤千恵子、高田昌代			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、リプロダクティブヘルスの概観を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	周産期および Reproductive Health Rights の視点におけるライフサイクル各期の健康課題の特性や健康課題を解決するための概念・理論・最新の知見を活用して、助産・母性看護学領域の対象者への看護のあり方を考察する。			
受 講 の 留 意 点	母性看護学概論でのリブダクティブヘルス・ライツの項目に関して復習し、助産学概論など並行して学び、不足した部分は復習しましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	生殖器の形態・機能的特性、遺伝と遺伝疾患、性の分化と発達、胎児の発育・胎盤機能、母子と免疫など、助産学の基礎になる科学について学修する。 女性の健康、性と生殖に関する健康に関係する最新のエビデンスおよび社会的背景を学修する。 思春期から老年期の女性のライフサイクルにおける健康問題や性と生殖の問題に対し、援助を行うための基本的知識を学修する。 思春期では性感染症や性行動、セクシャリティ、やせ、月経問題について、成熟期では月経障害、不妊、家族計画、ドメスティックバイオレンスについて、更年期では更年期障害、子宮筋腫について学修する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 科目概説、母性看護学の変遷と歴史 ヘルスプロモーション理論、母親役割理論、母子相互作用、家族システム理論、親になるプロセス、Attachment に関する理論と研究 2 母子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族関係、生涯発達、ジェンダー等、周産期における妊産婦と家族の心理、周産期のメンタルヘルス 3 Empowerment/Resilience 母子保健活動の現状と課題、社会（日本と世界の現状）のありよう、健やか親子 21 報告書、母性領域における統計資料等を分析、評価する 4 周産期ケアと諸問題；出産の意味 助産外来、院内助産、助産ケアと EBM 5 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施する(1) 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施する(2) 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施する(3) 6 母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告する 7 ハイリスク新生児と家族の支援に関する理論と研究 子育て支援・子ども虐待予防・家族生成期に関する理論と研究 親子関係に関する理論と研究 8 周産期におけるリプロダクティブヘルスの課題			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	各テーマに関する情報収集などの準備
	復 習	90 分	授業を振り返りポイントをまとめる
成 績 評 価 方 法	発表資料およびレポート（60 点）、討議内容と討議参加度（40 点）により評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	助産師基礎教育テキスト 2025 年版 第 2 巻 ウィメンズヘルスケア 吉沢豊予子 責任編集 日本看護協会出版会		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	妊娠期・分娩期の診断とケア			
科 目 名 (英 語)	Gestational period /Parturient period diagnosis and care		シラバスNo.	250020920
担 当 教 員 名	加藤千恵子、北田恵美、笹尾あゆみ、永井紅音			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠期分娩期のケアを教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	妊産婦の正常経過を理解し、妊産婦へのケアを習得できる。 妊産婦の異常を予測し、逸脱予防の保健指導ができる。 ハイリスク妊娠・分娩を学び、診断に必要な基礎知識を持ち、ケアができる。			
受 講 の 留 意 点	母性看護活動論Ⅰまたは看護基礎教育における母子看護での妊娠期から分娩期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	妊婦の健康状態および妊娠経過に関わる助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の異常と異常経過における妊婦のケアを学修し、妊婦に対して適切な助産診断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。妊娠期の母体の生理的機能を学修し、妊婦と胎児の正常経過と異常を判断し、健康を支える必要な基本的知識（妊婦健康診査や保健指導含む）を学修する。 ハイリスク妊婦へのアセスメントとケアを学修する。 助産診断の意義、対象の理解に必要な概念を学び、妊娠期の診断・アセスメント・助産ケア立案・助産技術を修得する。 産婦の健康状態と分娩経過の助産診断、産婦の援助技術と分娩助産技術を学修し、産婦に適切な助産診断と分娩助産を含む助産技術を実践できる基礎的能力を養う。 分娩期の母体の生理的機能、正常経過と異常(ハイリスクを含む)の診断に必要な基本的知識を学修する。 分娩助産、主体性を尊重した産婦や家族への支援、異常分娩や産科医療処置等を学修する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 助産師が行う妊娠期のケア 妊娠期とは、妊娠期ケアの理念、妊婦(胎児)の全人的アセスメント、妊娠期ケアの特徴 2 妊娠の整理と確定診断 妊娠の成立、妊娠の早期診断、妊娠に伴う全身の変化、胎児の発育と器官形成、胎児付属物 3 妊娠経過と産科学的診断 妊娠経過の診断、妊娠に関連した検査、出生前検査とスクリーニング、血液型不適合に関する検査、母子感染症に関する検査、胎児の発育の診断、胎児モニタリング 4 妊婦の心理社会的側面のアセスメント 日常生活状況、セルフケア・親になること・出生準備に関する・家族機能に関するアセスメント 5 妊娠経過に対応したケア 妊娠経過のアセスメントとケア、異常の早期発見と予防、妊娠初期・中期・後期のアセスメントとケア 6 妊娠の日常生活におけるケア マイナートラブル、不安など否定的な感情へのケア、食・衣・住生活、運動と安静、性生活 7 妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 初産婦とその家族の親準備のケア、経妊婦と家族のケア、出産準備教育 8 助産師が行う分娩期のケアの基本 助産師が行う分娩期的な考え方 9 分娩経過の診断に必要な知識			

	分娩の概念、分娩の3要素、分娩経過と所要時間、分娩の機序、分娩が母体・胎児に及ぼす影響 10 分娩経過の診断・アセスメントの視点 分娩開始の診断、分娩の3要素の関連性、娩出力の状態、産道および胎児の下降度の状態、胎児の発育・健康状態、胎児付属物の状態、産婦の心理的、社会的、文化的な状態 11 分娩経過に伴う診断・アセスメントと助産過程の展開 分娩期の診断・アセスメントの特徴と助産過程の展開、入院時の診断・アセスメントとケア、分娩第1期、第2期、第3期、第4期の診断とアセスメントとケア 12 分娩介助技術(1)分娩介助の意義と原理、分娩介助に伴う技術 13 分娩介助技術(2)分娩体位と分娩介助法、胎児付属物の精査と計測 14 分娩介助技術(3)出生直後の新生児のアセスメント、新生児蘇生 15 正常経過逸脱の予測と予防 身体的側面、緊急事態への対応準備		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	30分	各章の内容の読み込みを行う。
	復習	30分	授業の内容を振り返り、ポイントをまとめる。
成績評価方法	課題提出（30%）、試験（70%）により評価する。		
教科書 （購入必須）	助産師基礎教育テキスト 妊娠期の診断とケア 2025年度版 第4巻 森恵美（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト 分娩期の診断とケア 2025年度版 第5巻 佐々木くみこ（日本看護協会出版会）		
参考書 （購入任意）	助産診断・技術学Ⅱ 第6版[1]妊娠期 編集我部山 キヨ子 / 武谷 雄二（医学書院） 助産診断・技術学Ⅱ 第6版[2]分娩期・産褥期 編集我部山 キヨ子 / 藤井 知行（医学書院）		

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）			
科 目 名（英 語）	Diagnosis and Nursing Skills in MidwiferyⅠ （Pregnancy period）		シラバスNo.	250020940
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	ME 機器を用いた諸検査（胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など）、今後、助産師に必要なとなる発展的な知識・技術を学習する。 助産を系統的に行うための診断技術の理論と実際を学ぶ。具体的には次の通り。 ①助産診断過程に必要な概念や基礎理論 ②助産過程の展開方法 ③周産期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法			
受 講 の 留 意 点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。 確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学修していきましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	妊娠期の援助を行うために必要な技術を修得する。 妊婦健康診査技術、基本的な超音波画像診断技術、妊娠期の生活支援等について修得する。 出産準備クラスの企画・運営についても学修する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 1. 助産診断の概念と枠組み 2 2. 妊娠期の診断とケア 1) 妊娠の生理な変化 3 2) 心理・社会的な変化 4 3) 心理・社会的な診断・ケア 5 4) 妊娠経過と助産診断 6 5) フィジカルアセスメント 7 6) 日常生活の適応とマイナートラブル 8 7) 助産ケアと保健指導 9 8) ハイリスク・異常妊婦の診断・ケア 10 9) 妊娠期の助産過程 11 3. 妊娠期の助産診断（フィジカルアセスメント）に必要な専門技術 1) 妊娠期の検査法 12 2) 妊娠期の薬剤 13 3) 産科手術 14 4. 妊娠期の助産ケア・保健指導の実際 15 5. 妊産褥婦のケアに必要なカウンセリング技術			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各章の読み込み。	
	復習	30 分	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う。	

成績評価方法	試験（80%）、GW レポート（20%）により評価する。
教科書 （購入必須）	我部山 キヨ子 / 武谷 雄二編：助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期第6版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン（産科編 2023）日本産科婦人科学会
参考書 （購入任意）	

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅱ（分晩期）			
科 目 名（英 語）	Midwifery diagnosis/technology exercise Ⅱ （Delivery period）		シラバスNo.	250020950
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	助産診断・技術学Ⅰで学んだ対象理解・助産診断・助産技術・助産ケアの考え方をもとに、助産実践に必要な専門的技術を修得する。 また、ME 機器を用いた諸検査（胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など）、会陰切開・縫合など、今後、助産師に必要となる発展的な知識・技術を学習する。 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断に必要な専門的技術を学習し、実践できる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケア・保健指導の実践を理解し、実践できる。 3. ME 機器を用いた諸検査について理解し、実践できる。			
受 講 の 留 意 点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。 確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学習していきましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	助産診断・技術学Ⅱで学んだ理論や知識をもとに、分晩期の援助を行うために必要な助産診断および分娩助産技術、出生直後の児のケアや技術を修得する。 ハイリスク分娩時の助産技術や会陰裂傷縫合術、産科危機的出血時の対応等について理解する。 分晩期における診断・アセスメント・助産ケア立案・分娩助産にかかわる基本的な助産技術を修得する。 アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1	1. 分晩期の診断とケア 1) 分娩に関連する概念、分晩期の助産診断		
	2	2) 分娩の3要素と分娩機転		
	3	3) 正常分娩の経過と母子に及ぼす影響		
	4	4) 分晩期における心理・社会的変化		
	5.6	5) 分娩助産法 分娩助産法、 付属物の検査と計測、出生直後の新生児のケア 分娩第4期の母児のケア（早期接触、初回直母）		
	7	6) 分晩期のフィジカルアセスメント		
	8	7) 分晩期の助産診断		
	9	8) 正常からの逸脱		
	10	9) 異常の診断とケア		
	11	10) 産科麻酔・麻酔分娩		
	12	11) 急遂分娩術の適応・禁忌（吸引・鉗子分娩、帝王切開など）		
	13.14.15.16	2.分晩期の助産診断（フィジカルイグザミネーション）に必要な専門技術		
	17.18	3.分晩期の検査と薬剤		
	19.20.21.	4.分娩助産に必要な専門技術（フリースタイル分娩技術）		
	22.23	5.産科手術、処置 会陰縫合術の実践（医師）		
	24.25	6.救急処置		
	26.27.28.29.30	7.分娩助産技術演習		

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各章の読み込み
	復習	30 分	授業の振り返りとポイントのまとめ
成 績 評 価 方 法	筆記試験（30%）、実技試験（70%）により評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 第 5 版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン（産科編 2020）日本産科婦人科学会 細野茂春監：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥・新生児期）				
科 目 名（英 語）	Midwifery diagnosis / technology exercise Ⅲ		シラバス№.	250020960	
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音、産婦人科医				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	産褥、新生児ケアを系統的に行うための技術の理論と実際を学ぶ。 具体的には次の通り。 ①産褥・新生児期に必要な概念や基礎理論 ②産褥・新生児期の看護過程の展開方法 ③産褥・新生児期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法				
受 講 の 留 意 点	新生児蘇生法については、資格取得につながるためです。新生児蘇生法テキストをもとに十分な学習が必要です。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	産褥・新生児期のケアで学んだ知識・技術をもとに、産褥期、新生児期の援助を行うために必要な技術を習得する。 健康な母子に対する助産診断を行った上で必要な保健指導を主体的に行う能力を養う。 新生児においては、「新生児蘇生法「専門」コース（Bコース）」の取得を目指し、実践力をつける。 アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1.産褥期の診断とケア 1) 産褥の定義、産褥期の全身の変化 2) 産褥期の心理社会的な変化と支援 3) 母乳育児支援 4) 退院後の支援 5) ハイリスク・異常褥婦の診断とケア 6) 産褥期の助産診断 7) 助産ケアと保健指導 パンフレット作成（1） パンフレット作成（2） ロールプレイ（1） ロールプレイ（2） 2.新生児期の診断とケア・養護 1) 早期新生児・新生児の生理 2) フィジカルアセスメント・診断 3) ケアの実際（新生児蘇生法「専門」コース（Bコース）含む）（1） ケアの実際（2）		ケアの実際（3） ケアの実際（4） ケアの実際（5） ケアの実際（6） 4) ハイリスク・異常児の診断・ケア 3.周産期における検査（医師） ・胎児の出生前診断 ・ME 機器による管理と評価 （CTG、超音波診断） 4.周産期に使用される薬剤（医師） 1)産科で行われる薬物療法 （薬物効果および禁忌） 2)胎児及び母乳への影響 各期の助産過程展開の実際（1） 各期の助産過程展開の実際（2） 各期の助産過程展開の実際（3） 各期の助産過程展開の実際（4） 助産過程展開のまとめ		

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	各演習内容の読み込み
	復習	90 分	演習の振り返りとまとめ
成績評価方法	課題レポート（20%）、実技試験（80%）により評価する。		
教科書 （購入必須）	我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 第 6 版 医学書院 石井邦子他編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 第 6 版 医学書院 NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児スタンダード第 2 版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン（産科編 2023）日本産科婦人科学会 仁志田博司：新生児学入門 第 6 版 医学書院 細野茂春監：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	助産過程演習			
科 目 名（英 語）	Midwifery Process		シラバスNo.	250020970
担 当 教 員 名	加藤千恵子、笹尾あゆみ、永井紅音			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産過程を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	アセスメントに必要な知識、事例の情報の整理と情報分析・解釈、統合（アセスメント）ができる。 事例の助産診断の導き方を理解し、助産診断の決定ができる。			
受 講 の 留 意 点	事例展開においてウエルネスの看護診断も参考に、リスク型・ウエルネス型両面からの展開ができることが重要です。GW で討論し、全体像のイメージ力を養ってください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	母児やその家族の特性を理解し、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の事例を用いて助産過程の展開を振り返り、助産診断・実践・評価能力を修得する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 分娩期のアセスメントとケア 1) 初妊婦の分娩期の援助 分娩第 1 期電話連絡時、入院時 （事例展開とロールプレイ）	16	生後 24 時間以内の新生児のケア （ロールプレイ）	
	2 分娩第 2 期（事例展開）	17	帝王切開で生まれた新生児のケア （事例展開）	
	3 分娩第 2 期（ロールプレイ）	18	帝王切開で生まれた新生児のケア （ロールプレイ）	
	4 分娩第 3 期(事例展開)	19	5)ハイリスク産婦の新生児のアセスメントと ケア 予定帝王切開を受ける産婦の援助 （事例展開とロールプレイ）	
	5 分娩第 3 期(ロールプレイ)	20	分娩誘発を行う産婦の援助 （事例展開とロールプレイ）	
	6 分娩第 4 期(事例展開)	21	産科合併症によるハイリスク産婦の分娩 （妊娠高血圧症候群の事例展開）	
	7 分娩第 4 期(ロールプレイ)	22	（妊娠高血圧症候群のロールプレイ）	
	8 分娩 2 時間 （事例展開とロールプレイ）	23	産科合併症によるハイリスク産婦の分娩 （妊娠糖尿病の事例展開）	
	9 その後から初回歩行まで （事例展開とロールプレイ）	24	（妊娠糖尿病のロールプレイ）	
	10 2)経産婦の分娩期の援助	25	妊娠糖尿病から生まれた新生児ケア （事例展開）	
	11 3)正常から逸脱した産婦の援助 疲労性微弱陣痛、回施異常、分娩 停止による帝王切開分娩(1) （事例展開と準備）	26	妊娠糖尿病から生まれた新生児ケア （ロールプレイ）	
	12 疲労性微弱陣痛、回施異常、分娩 停止による帝王切開分娩(2) （ロールプレイ）	27	産科合併症によるハイリスク産婦の分娩、 早産（32-36 週） 産婦の援助（事例展開とロールプレイ）	

	13	胎児機能不全に伴う吸引分娩(1) (事例展開と準備)	28	早産で生まれた新生児のケア (ロールプレイ)
	14	胎児機能不全に伴う吸引分娩(2) (ロールプレイ)	29	多胎分娩をする産婦の援助 (事例展開とロールプレイ)
	15	4)新生児のアセスメントとケア 生後 24 時間以内の新生児のケア (事例展開)	30	多胎で生まれた低出生体重児のケア (ロールプレイ)
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各章の読み込みを行う。	
	復習	90 分	授業の振り返りとまとめを行う。	
成 績 評 価 方 法	課題レポート(70%)、GWの参加度(30%)により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	助産学実習プレブック(第2版) 助産課程の思考プロセス 町浦美智子編著(医歯薬出版株式会社) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美(医学書院)			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	地域・国際母子保健学			
科 目 名 (英 語)	加藤千恵子、永井紅音、多々良友加利		シラバスNo.	250020980
担 当 教 員 名	Community・Global health for mothers and children			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域・母子保健学を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 地域の特性をアセスメントして、母子の環境改善に向けた行政への関与ができる。 2. コミュニケーションの種類、方法について工夫することの必要性を理解できる。 3. 国際母子保健の基本的知識について理解する。 4. 諸外国における保健医療サービスや助産システムおよびケアの特徴を理解する。 5. 日本と諸外国との比較から、日本の母子保健を支える助産ケアのあり方と課題を考察できる。			
受 講 の 留 意 点	学部内または看護教育における国際看護の内容を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	地域における母子保健活動を推進するために必要な知識を学び、社会資源やソーシャルサポートを活用し、実践する幅広い能力を養う。 国内外の地域母子保健政策や地域母子保健事業の現状や課題について学び、地域母子保健における助産師の役割を探究する。 周産期を含めたリプロダクティブヘルスケアの地域での連携や実践活動のあり方を考える。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 1.この講義の進め方、内容・評価法などの説明、学習の仕方などのオリエンテーション 2.地域母子保健の意義 1) 地域概念（コミュニティ、生活圏、医療圏としての地域） 2) 地域の特性と地域母子保健（1）（地勢と気候、歴史や文化、人口構成） 地域の特性と地域母子保健（2）（交通条件、産業構造と経済状況、医療資源） 2 3.地域母子保健活動の意義（目的、目標） 母子保健の現状と動向（統計資料の分析；人口動態統計、母体保健統計） 3 4.母子保健をめぐる諸問題と課題 1) トピックをリサーチし、まとめる。 2) プレゼンし、課題解決に向けた GW を展開する 4 5.日本の母子保健行政と母子保健関係法規 国・都道府県・市町村の役割、母子保健行政の財源 6.日本の母子保健制度と母子保健施策 7.健康診査、保健指導、療養支援、医療対策、予防接種 8.新エンゼルプラン、健康日本 21 と健やか親子 21、次世代育成支援対策 地域母子保健活動の展開 5 9.女性のライフサイクルへの支援 新生児および褥婦訪問指導の理論と実際、地域子育て支援の実際 6 10.国際化社会と母子保健、在日外国人の母子保健 海外在住日本人の母子保健 諸外国の母子保健活動 地域諸外国の母子保健活動、海外在住日本人、在日外国人の母子保健 11.諸外国の母子保健活動、JICA、NGO の役割事前学習			

	12.国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割 看護・助産分野における国際協力のあり方について 7 13.講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について ゲスト講義（徳永氏） DVD 視聴とレポート提出（徳永氏） 14.諸外国と日本との比較から 日本の現状と課題の検討、まとめ 8 15.地域に在住する外国人の妊娠期を支えるもの 母子健康手帳の日本版、他国版を知り、活用状況を把握する 16.コミュニケーションのあり方と工夫 場面設定を考えた教材作成と活用、まとめ		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各章の読み込みを行う。
	復習	90 分	授業の振り返りとポイントのまとめ
成 績 評 価 方 法	課題レポート（40%）制作物（40%）授業参加度（20%）により評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	我部山キヨ子編 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 第 6 版 医学書院		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	地域母子保健演習			
科 目 名 (英 語)	Community health for mothers and children exercise		シラバスNo.	250020990
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音、野口智子			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域母子保健演習を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	地域に居住する母子の健康状態を高めるために展開する活動を通して対象理解を深め、地域の文化、生活共同体の中で生きる対象がイメージできる。居住環境を共有する住民の母子保健に関する認識と行動を知り、地域の保健や国の保健行政に及ぼす影響を知り、指導技術を学修し、身につけることができる。			
受 講 の 留 意 点	地域・国際母子保健と共通するものがあります。併行して学修しましょう。 ロールプレイに使用する資料作成と積極的参加が必要です。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1.地域母子保健の概念を知り、その活動を知ることができる。 2.地域母子保健の活動の基礎理論がわかる。 3.地域母子保健の状態を疫学の視点から説明できる。 4.地域母子保健の実際を知り、ネットワークづくりの大切さがわかる。 5.地域母子保健活動が行われている場と役割の違いに着目し、各部門（開業助産師、学校、産業、市町村）の特徴が理解できる。 6.国際的視野に立ち国際協力の活動について知り、今後のあり方を考えることができる。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1	1.地域母子保健の概念	16	プレゼンテーション（報告会）
	2	2.地域母子保健活動の軌跡	17	学校保健の健康課題のまとめ
	3	3.地域母子保健活動の基礎理論	18	4) 産業保健における母子保健活動・母子の労働環境
	4	1) 地域母子保健活動と母子保健	19	資料から健康課題を抽出する
	5	2) 地域母子保健と疫学	20	プレゼンテーション（報告会）
	6	統計資料から健康課題を抽出する	21	産業保健の健康課題のまとめ
	7	4.地域母子保健の実際	22	5) 市町村における母子保健活動・メンタルヘルス対策、ストレスチェックと保健指導
	8	1) 地域の子育てネットワーク作り	23	地域のママさん教室の企画
	9	2) 開業助産師による母子保健活動・産後ケア事業などの取り組み	24	地域のママさん教室の開催と振り返り
	10	・地域における母子保健や健康教育・性教育活動	25	6) 病院における母子保健活動 妊婦健診に関するロールプレイの演習と振り返り（1）
	11	3) 学校保健における母子保健活動・学校の目的と教育職の役割	26	妊婦健診の問診に関するロールプレイの演習と振り返り（2）
	12	・発達障害と教育支援	27	妊婦健診の検査に関するロールプレイの演習と振り返り（3） 母親教室の演習と振り返り（4）

	13	・児童生徒の健康管理（健康相談）	28	7) 育児期；産後 2 週間健診に関するロールプレイの演習と振り返り（1）
	14	・児童生徒の健康管理（健康診断）	29	産後、電話訪問に関するロールプレイの演習と振り返り（2）
	15	資料から健康課題を抽出する	30	育児期；産後 1 か月健診に関するロールプレイの演習と振り返り（3）
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各章の読み込みを行う。	
	復習	30 分	授業の振り返りとポイントのまとめ。	
成 績 評 価 方 法	課題レポート（60%）、GW における参加度（20%）、講義課題の提出（20%）により評価する。			
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	地域母子保健・国際母子保健 第 6 版 編集我部山 キヨ子 医学書院			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）				

科 目 名	助産管理学				
科 目 名（英 語）	Midwifery Management		シラバスNo.	250021000	
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産管理を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	助産業務管理に必要な知識、法的範囲と責任について理解し、助産管理の基礎を学修する。 助産施設のマネジメントとしての管理、運営、役割などを学ぶと共に、周産期医療を取り巻く助産管理の実際を、さまざまな助産活動の場を通して理解する。また病院・地域との連携とシステム、医療事故等について学び、リスクマネジメントの視点からも理解を深める。 加えて、助産サービスの評価、助産管理に必要な社会保障制度および助産所の管理運営の基本を学修する。 諸外国の助産師についても学ぶ。				
受 講 の 留 意 点	助産管理の基本を学び、さらに、助産管理の実際（含医療事故防止・対応）を病院・助産院等の助産活動の場を通して理解していく。実習の場では、この視点でも見てくること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	助産管理の基本概念、助産業務に関連する法規を理解し、助産管理を実践できる基礎的能力を養う。 周産期管理システムの運用と地域連携、助産所・診療所及び産科病棟の管理運営について学習する。 周産期の医療事故と予防対策、災害時の助産管理のあり方を学び、助産師の危機管理について理解する。 助産管理の視点から助産師の専門性を考える。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 1.助産管理の基本 助産管理の概念（助産業務・助産管理の定義・特性） 2 2.助産管理と関係法規（医療法、保健師助産師看護師法、医師法、母子保健法、母体保護法） 3.児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、助産師の法的責任と業務就業規則、助産師の法的責任と義務 3 4.周産期管理システム/病院における助産管理 5.新生児集中治療室、母体搬送システム、オープンシステム 4 6.周産期医療と助産管理（MFICU/NICU） 5 7.医療事故とリスクマネジメント 8.病院における助産業務管理の過程と方法 6 9.産科等の管理（院内助産含む） 10.外来の助産管理（助産師外来） 11.感染管理 7 12.助産所における助産業務管理 管理と実際・助産所の形態 13.法的な業務範囲と責務 8 14.職業的・社会的責務（ガイドラインに基づく運営管理、業務内容、リスクマネジメント、地域連携、地域母子保健活動 等） 15.災害時における助産活動、避難所における助産師の役割（災害時演習）				

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	各章の読み込みを行う。
	復習	90 分	授業の振り返りとポイントのまとめ。
成績評価方法	プレゼンテーション（10%）、グループワークの内容（10%）、課題レポート（80%）により評価する。		
教科書 （購入必須）	我部山キヨ子編：助産学講座 10 助産管理 第 6 版 医学書院 日本助産師会編：助産所開業マニュアル（2021 年版） 日本助産師会 成田伸編：助産師基礎教育テキスト 2025 年度版第 3 巻 助産サービス管理 日本看護協会出版 工藤美子編：助産師基礎教育テキスト 2024 年版 第 1 巻 助産概論・母子保健 日本看護協会出版		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	助産学実習 I（妊娠期）			
科 目 名（英 語）	Clinical Practice in Midwifery I (Pregnancy period)		シラバスNo.	250021010
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	周産期ケアから女性の健康支援まで幅広くリプロダクティブヘルス/ライツに関わる助産師としての役割を明確にする。妊娠期の対象理解を進め、妊婦健康診査におけるケアを通して正常経過と逸脱、正常経過へと向けたケアや保健指導ができ、妊婦とその家族などへの支援を学ぶ。 目標 1. 正常な妊娠経過をたどる母児と家族に対する基本的な助産実践について理解できる。 2. 女性の健康に関する援助の実際と助産師の役割について考察できる。 3. 助産師像を明確に描くことができる。			
受 講 の 留 意 点	助産学実習関連の全ての資料を活用して準備する。 看護基礎教育における母性看護学での妊娠期の看護展開を復習しておくこと。 この実習で、妊娠 6 か月以降の受け持ち事例の中から継続事例 1 例を確保し、展開する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	妊婦の健康診査と保健指導を実践できる能力、妊婦の健康診査結果、異常への逸脱徴候について判断できる能力など、妊婦とその家族に対する助産診断及び援助技術を習得する。 妊婦とその家族のセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。集団指導の健康教育を含む。 助産師外来においては、正常妊婦の経過を診断し、well-being のための相談・教育を行える診断技術を修得する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	実習目標 1. 妊婦について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。 2. 妊婦健康診査において、妊娠経過の正常からの逸脱を予測し、異常の早期発見、マイナートラブルに関するケアが提供できる。 3. 提供したケアを評価し、自己の課題を明らかにし、次のケアに活かすことができる。 4. 事例の受け持ちを通して、アセスメントし、妊娠期の個別的な援助を提供できる。 （妊婦を受け持ち、継続事例 1 例を含む）。 実習内容 1. 妊婦健康診査の経過（問診、触診、視診など）、血液検査、尿検査、血圧測定、浮腫の観察、モニタリング、エコー診断、一連の流れを経験する。 2. 妊婦の受け持ちを通して、保健指導の実際を学ぶ（マイナートラブル、合併症に関して）、入院の準備、両親学級などの準備教育に関わり、妊娠期に必要とされる妊婦への教育内容を経験する。 妊婦健康診査における観察及びケア、状況に応じて、帰院までの妊婦のケアを行う。 実習の展開方法 1. 承諾が得られた妊婦を受け持ち、妊婦健診の一連の流れを経験する。 ケアの振り返り、アセスメントを行う。 2. 実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。 3. 受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。 終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。			

	4.受け持ち事例の評価を 1 例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に行い、自己課題あるいは目標を明確にする。		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	分	
	復習	分	
成績評価方法	実習レポート（20%）、実習内容（70%）、実習態度（10%）により評価する。		
教科書 （購入必須）	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美 （医学書院） 実習要項、資料配布等にて提示 日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	助産学実習Ⅱ(分娩・産褥・新生児期)			
科 目 名 (英 語)	Clinical Practice in MidwiferyⅡ (Practice of clinical care delivery)		シラバスNo.	250021020
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	6 単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断を行い、立案した計画に沿って、対象者の分娩介助およびケアを実践する。 さらに提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かしていく。 事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供する。			
受 講 の 留 意 点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	正常分娩の介助技術の修得、産婦やその家族の主体性を尊重した助産ケアの提供、正常・異常を診断するための実践能力を養う。 助産ケアの実践を通して、妊産褥婦のセルフケア能力を高め、新生児の母体外生活の適応をはかる助産実践能力を修得する。主に病院や診療所において、正常な経過をたどる産婦の入院から退院までを受け持ち、助産計画に沿って分娩介助を 10 例実施する。			
授 業 の 計 画	アクティブ・ラーニングの内容 実習目標 1.妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。 2.助産診断に基づいて計画を立案し、対象者の分娩介助およびケアが提供できる。 3.提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かすことができる。 4.事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供できる。 実習内容 1.産婦を受け持ち、助産過程の展開を用いて正常分娩の介助を 10 例程度実践する（長期継続事例含む）。 実習展開方法 1.妊産婦を分娩第 1 期から受け持ち、入院時の援助・分娩各期の観察及びケア(分娩介助含む)・褥室への移送・分娩後 2 時間後の新生児の健康診査、状況に応じて、退院時までの母児のケアを行う。 2.受け持ち助産実習中に受け持ち産婦がいない時は、間接介助の待ち時間等を利用して、今まで受け持った産婦へのケア（分娩の振り返り、産褥・新生児へのケア等）に入る。 実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。 3.受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。 終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。 4.受け持ち事例の評価を 1 例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に引き、自己課題あるいは目標を明確にする。			

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	分	
	復習	分	
成績評価方法	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。		
教科書 （購入必須）	実習要項、資料配布等にて提示。 日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	助産学実習Ⅲ(継続事例)				
科 目 名 (英 語)	Clinical Practice in MidwiferyⅢ		シラバスNo.	250021030	
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	妊娠中期から妊婦を受け持ち、妊娠期から分娩期および産後 1 か月までの、継続した助産ケアを行う。 具体的には以下の通り。 ①妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 ②妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し実施する。 ③退院後の母児への援助や家庭訪問の必要性についてもアセスメントし、必要なケアを実施する。 ④新生児の出生直後から生後 1 か月の家庭訪問までの経過について、助産診断と必要なケアを実施する。				
受 講 の 留 意 点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内又は看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	妊娠中期から出産後 1 か月までの長期にわたって 1 事例を受け持ち、継続事例の観察と援助を行い、継続した助産ケアの実際を通して、対象とその家族へのセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。 アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	実習目標 1.妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 2.妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し、実施できる。 3.退院後の母児への援助が考えられる。 4.家庭訪問の必要性が考えられる。 実習内容 1.妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 2.妊娠中期から妊婦を受け持ち、分娩介助から産後 1 か月までの継続したケアを実施する。 実習の展開方法 1.妊娠期の助産診断を各健診毎に実施し、必要な助産計画の立案、実施を行う。 ・受け持ち妊婦へのケアは助産計画立案のもと行う。 ・助産計画や保健指導は、事前に教員および臨床指導者の確認を得て実施する。 ・妊娠期のサマリーは、分娩に至った段階で実施する。 2.受け持ち対象者への援助を最優先して行う。受け持ち対象者が異常に移行した場合、 臨地実習指導者の指示に従い、可能な範囲で援助を実施する。				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分			
	復習	分			
成 績 評 価 方 法	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。				

教科書 （購入必須）	実習要項、資料配布等にて提示。
参考書 （購入任意）	

科 目 名	助産学実習Ⅳ（周産期ハイリスクケア）			
科 目 名（英 語）	Clinical Practice in Midwifery Ⅳ（High-risk Pregnancy）		シラバスNo.	250021040
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	ハイリスク状態にある母児の特徴や援助、周産期の新生児医療システムの現状や課題についての理解を深めるため、NICU におけるハイリスク母児のケアの見学実習を通して学ぶ。 新生児・乳児および母親への健康診査や保健指導等、地域社会で生活する母子に対する継続支援の実践を学ぶ。			
受 講 の 留 意 点	学習ガイダンスおよび助産学関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	異常分娩に対する応急処置の見学・実施を行い、助産師に必要なアセスメント能力と業務を学ぶ。 ハイリスク妊娠（妊婦・胎児，および合併症妊娠）妊婦と、ハイリスク妊産婦および児のケアの実践を学修しながら、その家族も含めた助産ケアの実践を通して学ぶ。 ハイリスク妊婦 1 例を受け持ち、妊娠中から産褥期、可能であれば家庭訪問指導までを通して継続的な援助について理解する。 NICU におけるハイリスク新生児とその家族のケアの実践について学ぶ。 ハイリスク妊娠のケアとハイリスク新生児のケアの連携について考える。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	実習目標 1. ハイリスク状態にある母児の特徴を理解できる。 2. ハイリスク状態にある母児への援助の実践を理解できる。 3. 周産期医療システムの現状を理解できる。 4. 周産期医療の今後の課題について考察できる。 5. 母子保健活動における助産師の役割と実際がわかる。 6. 地域社会で生活する母子のニーズと支援について理解する。 7. 他職種の連携の実践を理解する。 実習内容 1. 市内 1 施設における NICU を見学する。 2. 施設の母子保健活動（退院後健診及び乳幼児健診、フォローアップ検診）を見学する。 3. 周産期の新生児医療システムとハイリスク母児のケアについて学ぶ。 4. 臨地にて実習カンファレンスを行う。 5. 実習終了後、目的に沿って考察したことをレポートにまとめる。			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分		
	復習	分		
成 績 評 価 方 法	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。			
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	実習要項、資料配布等にて提示。 参考図書；仁志田博司：新生児学入門 第 6 版 医学書院			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）				

科 目 名	助産学実習Ⅴ（地域母子保健）			
科 目 名（英 語）	Clinical Practice in Midwifery Ⅴ（Community health for mothers and children）		シラバスNo.	250021050
担 当 教 員 名	加藤千恵子、永井紅音			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	助産所における自然分娩を支える助産師の実践と、施設の特性をふまえた助産官営を学ぶ。さらに、地域母子保健活動について視野を広げ、地域における助産師の役割を発展的に考える能力を養う。 1.開業助産師の母子や家族に対する姿勢を理解できる（助産院） 2.実習を通じて自身が必要とする助産像を描くことができる（助産院） 3.開業助産師の助産実践の実際を見学し、助産所の役割を理解することができる（助産院） 助産所における管理・運営の実際が理解できる 4.開業助産師の役割を理解することができる（助産院） 妊娠から子育ての切れ目ない支援における、助産師の役割について考察できる 5.病院の外来受診をしている妊婦のケアのあり方について考察できる 対象のニーズや助産師が行う妊婦健康診査、自然分娩の意義を理解し、開業助産師の自立した実践について考察できる 6.病院の分娩見学などを通して望ましい助産ケアのあり方を考察できる 7.病院の褥室見学などを通して望ましい産後ケアのあり方を考察できる 8.臨地実習での学びや課題を発表し、学びを共有する 9.妊産婦に対する健康教育の基本が説明できる 10.対象への倫理的配慮を遵守し、助産学生として真摯に実習に取り組み、専門職としての態度を身につけることができる まとめ；病院施設内と助産所における助産師の助産実践の違い（共通点・相違点）を分析することができる。 地域保健における組織・機能・役割について、助産師の活動から考察することができる。 地域での助産師の役割や活動について、また今後の課題について述べることができる。			
受 講 の 留 意 点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母性看護活動論Ⅰ・Ⅱの妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	この科目は、早期体験実習としての助産所実習、スタートアップ実習としての助産学実習（基礎）、臨地での学びを支える学内（サテライト）実習で構成されている。 臨地実習は①助産院、②病院（外来、分娩室、褥室）で見学、実施する。 早期体験実習では、熟練した開業助産師による助産実践や助産の哲学に触れ、助産師としてのアイデンティティ獲得の第一歩を踏み出す。また、病院実習では施設助産師の指導の下、外来、分娩室、褥室での対象の状態を見学し、基礎的な対象の生活背景をイメージしながら対象理解を深め、基礎的な助産実践を行う。 学内では、妊産婦の対象理解の基礎となる身体的、心理社会的知識、臨地実習で必要な援助技術を獲得する。 アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	助産学実習オリエンテーション： 月 日（ ） 2020年〇月〇日－〇月〇日 助産所見学、病院施設見学 つるべ助産院（3年次）、さくら助産院（4年次）、マタニティウィメンズホスピタル（4年次）			

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	
	復習	分	
成 績 評 価 方 法	実習レポート（20%）、実習内容・記録（80%）により評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	実習要項参照。助産管理の資料参照のこと。		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	心理学				
科 目 名（英 語）	Psychology			シラバスNo.	250000240
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	社会福祉：必修 栄・看・保：選択	資 格 要 件	教職(高公)・社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	心理臨床の現場（児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センター）において心理職（判定員・福祉専門員・心理士）として勤務した経験を有し、現在も児童相談所で児童心理司研修の講師も務めている実務家出身教員が、人間（動物）の心と行動に関する科学的な理解と支援の方法について指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	<栄養学科> 2 幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 <看護学科> 1 職業人としての幅広い教養や基本的なリテラシーを身につけ、人間の基本的権利を尊重し、全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 <社会福祉学科> 1 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 <社会保育学科> 1 人間の尊厳と権利を尊重し、豊かな人間性と幅広く深い知識・教養を基盤として、社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①人間の心の基本的なしくみとはたらき、環境との相互作用によって生じる心理と行動について理解し、臨床や実践に応用できる。②人間の発達段階に応じた心理的課題について知り、臨床や実践が行える。③日常生活と心の健康との関係性について理解し、臨床や実践に活かすことができる。④心理学的なものの見方や考え方に基づいたアセスメントなどの諸方法について知り、対象者を支援することができる。				
受 講 の 留 意 点	保健医療福祉分野の対人援助職者に必要な素養の一つであり、積極的な受講を期待する。スライドを用いた心理学実験も時々行うので楽しみながらもアクティブに、実践的に学修していただきたい。配布資料は順番に綴り、遺漏なく管理し、期末レポートの作成にも活用すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	人間（動物）の心と行動を客観的・科学的に探究する学問としての「心理学」について、日常生活にひそむ心理学的な現象を実際に体験していただきながら進める。また、多数の写真・イラスト・マンガなどのビジュアル・プラクティスも活用し、人間の認知と行動、子どもから大人までの生涯発達、心理的支援などについて考えていく。 アクティブ・ラーニングの内容 脳に良い意味でのハッキングをかけたり、心理系の映画や映像などを視聴したりしたあとに、その体験を他者と語り合う時間を多く取り、主体的・対話的に深く学べるような機会を頻繁に設ける。				
授 業 の 計 画	1 学習心理学を学ぶ：学習理論、アクティブラーニング、刺激・反応（反射）、古典的（レスポナント）条件づけ、強化、消去、自発的回復、般化、弁別（分化）、実験神経症、生物学的制約、オペラント（道具的）条件づけ、問題箱、試行錯誤学習、動因低減説、潜在学習、洞察学習、アハ！体験、認知バイアス、間歇強化、行動形成、社会的認知（社会的学習）理論、模倣、正統的周辺参加、認知的徒弟制、発達の最近接領域、履修上の注意事項、成績評価の方法 2 認知心理学（感覚・知覚）を学ぶ (1)：脳、神経システム、感覚遮断（SD）、順応、閾（いき）、サブリミナル効果、プライミング効果、ニュー・ルック心理学、文脈効果、知覚的構え、選択的注意、非注意による見落とし、盲点の実験、目、視覚 3 認知心理学（感覚・知覚）を学ぶ (2)：色彩視、色覚多様性、図と地、ルビンの盃、多義図形（曖昧図形）、ゲシュタルト知覚、両眼視差、立体視、奥行知覚、エイムズの部屋 4 認知心理学（感覚・知覚）を学ぶ (3)：錯視、錯覚、ミュラー＝リヤー錯視、サッチャー（トンブソン）錯視、シェパード錯視、カフェウォール錯視、恒常性、共感覚（異感性間協応）、擬態				

	5 認知心理学（感覚・知覚）を学ぶ (4) : 耳、聴覚、聴覚情報処理障害 (APD)、音源定位、腹話術効果、錯聴、マカーク効果、感覚の相補性、鼻、嗅覚、舌、味覚、umami (うまみ)、味覚嫌悪学習 (条件づけられた味覚忌避)	
	6 認知心理学（感覚・知覚）を学ぶ (5) : 触覚、ホムンクルス (身体地図)、アリストテレスの錯覚、ベクション (視覚誘導性自己運動感覚)、アフオーダンス、応用心理学、認識 (認知) と文化、ツァイガルニク効果	
	7 認知心理学（感覚・知覚）を学ぶ(6) : 記憶の種類、感覚記憶、残像、残効、直観像、多重 (二重) 記憶モデル、系列 (内) 位置効果、H・M氏、ワーキングメモリー (短期記憶)、リハーサル、チャンク、記憶方略、長期記憶、プライミング記憶、フラッシュバルブ記憶、スキーマ理論、記憶術、忘却、虚偽記憶	
	8 発達心理学 (障害心理学) を学ぶ : 生涯発達、発達段階、発達課題、遺伝・環境、輻輳説、相互作用説、行動遺伝学、エソロジー (比較行動学)、アタッチメント (愛着)、発生的認識論 (認知発達理論)、道徳性の発達、アイデンティティ (自我同一性)、中年期の危機、結晶性知能・流動性知能、高齢者心理、認知症、神経発達症 (発達障害)、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症	
	9 教育 (思考・言語・知能) 心理学を学ぶ : 思考、概念、推論、問題解決、ウェイソン選択課題、演繹、帰納、アブダクション推論、ヒューリスティックス、認知バイアス、言語発達、言語相対性仮説、言語獲得、失語症、言語検査、知能理論、知能検査 (ビナー法・ウェクスラー法・カウフマン法)、I Q (知能指数)、知的能力障害 (知的発達症)	
	10 社会心理学 (社会・集団) を学ぶ : 社会的促進、社会的抑制、社会的な援手、向社会的行動、社会的比較過程理論、自己開示、対人魅力、帰属理論、リーダーシップ、集団浅慮、態度、バランス理論、同調、服従、偏見・差別、流言、パニックの心理、説得、心理的リアクタンス、認知的不協和	
	11 感情 (情動・動機づけ) 心理学を学ぶ : 感情生起メカニズム、原因帰属理論、顔面フィードバック説、コンフリクト (葛藤)、フラストレーション (欲求不満)、動機づけ (モチベーション)、内発的動機づけ、欲求階層説、原因帰属理論、自己効力感、学習性無力感、アンダーマイニング効果	
	12 パーソナリティ心理学を学ぶ : 気質、類型 (タイプ) 論、似非科学的 (迷信的) 類型、特性論、バーナム効果、ビッグ・ファイブ、力動論、防衛メカニズム、状況論、相互作用論、心理検査法、人格検査、質問紙法、投影法、ロールシャッハ検査、TAT (主題統覚検査)、P-Fスタディ (絵画欲求不満検査)、Y-G性格検査、Baumtest (樹木画検査)、作業検査法	
	13 臨床心理学 (心理臨床・心理的支援) を学ぶ(1) : 不適応 (適応障害)、ストレス理論、汎適応症候群、タイプA、トラウマ、心的外傷後ストレス症 (PTSD)、サバイバーズ・ギルト、依存症、レジリエンス、首尾一貫感覚、心理アセスメント、ケース・フォーミュレーション (事例定式化)、ソーシャルワーク、社会構成主義	
	14 臨床心理学 (心理臨床・心理的支援) を学ぶ(2) : カウンセリング (支持的精神療法)、サイコセラピー (心理療法/精神療法)、系統的脱敏化 (脱感作) 法、精神分析療法、交流分析 (エゴグラム)、応用行動分析、認知行動療法、ソーシャル・スキル・トレーニング (SST)、家族療法、解決志向アプローチ (SFA)、心理劇、遊戯療法、公認心理師	
	15 心理学の歴史を学ぶ : 哲学的心理学、要素主義・構成主義、機能主義、精神分析、行動主義、ゲシュタルト心理学、認知心理学、生態学的心理学、進化心理学、自制心の熟達化、行動 (諸) 科学、まとめ	
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分 上記授業計画に記載されている心理学的トピックスについて、事前に子安増生著『基本がわかる 心理学の教科書』(実務教育出版)を読み、子安増生・丹野義彦・箱田裕司監修『有斐閣 現代心理学辞典』(有斐閣)、大学図書館、インターネットなどで専門用語の意味を理解しておく。
	復習	90分 授業で配布された PowerPoint の紙媒体資料とそれに書き加えられたメモ書きをもとに、事後は『心理学』『心理学辞典』などの文献、大学図書館、インターネットなどのツールとリソースを用いて復習していただく。
	認知心理学を学ぶ (感覚・知覚) では、 https://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/ の「北岡明佳の錯視のページ」が参考となり、予習・復習において活用していただきたい。	
成績評価方法	(1) 期末レポート : 70% (2) 授業毎のリアクション・ペーパー : 30%	

教科書 (購入必須)	子安増生 著 『基本がわかる 心理学の教科書』 実務教育出版 2024 年
参考書 (購入任意)	子安増生・丹野義彦・箱田裕司 監修 『有斐閣 現代心理学辞典』 有斐閣 2021 年 『社会福祉学習双書』編集委員会 著 『心理学と心理的支援』 全国社会福祉協議会 2024 年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 『心理学：第 5 版補訂版』 東京大学出版会 2020 年 山村豊・高橋一公 共著 『心理学 [カレッジ版]』 医学書院 2017 年 ナイジェル・C・ベンソン著 (清水・大前 訳) 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社 (ブルーバックス) 2001 年

科 目 名	社会福祉経営論				
科 目 名（英 語）	Social welfare management theory		シラバスNo.	250030060	
担 当 教 員 名	石田 力				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	対面
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験あり。社会福祉法人において障害者支援及び共同生活援助事業（グループホーム）、相談支援事業に管理者として携わった経験をもとに、ソーシャルワーカーに求められる社会福祉経営の在り方について、実務経験に基づき実践的な授業を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	D P 1：幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとり を大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 D P 2：人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、 具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 D P 3：優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉 社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活 の形成に貢献できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①社会福祉法人、N P O法人、医療法人について理解し説明できる ②非営利ホールディングカンパニー、多機関協働、地域連携について理解し説明できる ③モチベーションに関する理論とグループダイナミクスについて説明できる ④リーダーシップの変遷と理論について理解し説明できる ⑤コンプライアンスとガバナンスの関係について理解し説明できる ⑥サービスのマネジメント及びS D C Aモデル及びS E C Iモデルを理解し説明できる ⑦虐待の発生原因を組織構造として捉えたリスクマネジメントについて理解し説明できる ⑧各種休暇・休業およびメンタルヘルスケアについて理解し説明できる ⑨被災後における事業継続計画（B C P）について理解し活用できる ⑩職員教育におけるキャリアパス、スーパービジョン、O J T、O F F - J Tについて説明できる				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会福祉サービスにおいて、当事者のニーズを支援する社会福祉援助技術は、安定的かつ継続性が担保された組織がそのサービスの質を支えている。しかし、人材不足が叫ばれる社会情勢において、福祉サービスの質を継続的に維持するためには、効率的で効果的な社会福祉経営が求められている。そのためには、働きやすい職場環境は勿論、自己実現に向けたキャリアパス、コンプライアンスを維持するための理論と組織的構造、さらには職員の動機づけと現場の状況に適したリーダーシップの存在が欠かせない。さらには、気候変動に伴う、災害における事業継続計画（B C P）の重要性について理解する。また、後を絶たない施設内虐待について、その構造的な原因と防止策について様々な社会実験を概観しながら構造的に理解していく。 アクティブ・ラーニングの内容 リスクマネジメントにおけるインシデント・アクシデントの分析について、発見学習を目的としたディスカッションを通して、分析手法による多角的な問題の発見と多様な問題解決策を学び、より能動的及び実践的な学修を行う。講義後にリアクションペーパーを提出して頂きます。				
授 業 の 計 画	1 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割-1 福祉サービスを提供する組織 2 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割-2 福祉サービスの沿革と概況 3 福祉サービスに係る組織や段位の概要と役割-3 組織間連携と促進 4 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論-1 組織運営に関する基礎理論 5 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論-2 集団の力学に関する基礎理論 6 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論-3 リーダーシップに関する基礎理論 7 福祉サービス提供組織の経営と実際-1 経営体制 8 福祉サービス提供組織の経営と実際-2 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス 施設内虐待 9 福祉サービス提供組織の経営と実際-3 適切な福祉サービスの経営管理 10 福祉サービス提供組織の経営と実際-4 情報管理 11 福祉サービス提供組織の経営と実際-5 会計管理と財務管理				

	12 福祉人材のマネジメント-1 福祉人材マネジメント 13 福祉人材のマネジメント-1 福祉人材の育成 14 福祉人材のマネジメント-1 働きやすい労働環境の整備 15 まとめ		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分／1コマ	テキスト・参考資料を読み込んでおく。参考資料の要点を確認しておく。
	復習	90分／1コマ	講義内容の重要ポイントを再確認しておく。講義の疑問点をまとめる
成績評価方法	試験 70% リアクションペーパー30%		
教科書 (購入必須)	中央法規出版 2021 年 初版 最新 社会福祉士養成講座「1 福祉サービスの組織と経営」		
参考書 (購入任意)			

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Social Work Theory Ⅱ		シラバスNo.	250030080	
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。 専門的援助関係の形成、ソーシャルワーカーとしての面接技術、アウトリーチ、カンファレンスの実践など具体的に授業を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	社会福祉学科： 1 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 3 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①社会福祉士の職域と求められる役割について理解できる。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解できる。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解できる。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解できる。 1 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質を理解できる。 2 ソーシャルワークの概念と相談援助の担い手であるソーシャルワーカーの範囲を理解できる。 3 総合的かつ包括的な相談援助における専門機能について実践例を基に理解できる。				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク論Ⅰで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、今までソーシャルワーク論Ⅰで学んだことを復習しておくこと。 テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面にに基づいた演習も行うため、予習復習に努めること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	シラバスに沿って基本事項の理解に努め、学期末には以下の項目の把握を目指す。 ①ソーシャルワークにかかる専門職の概念と範囲、②ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるソーシャルワーク、③総合的かつ包括的な支援と多職種連携の内容 アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 3 社会福祉士の職域①－（子ども・高齢・障害・生活困窮者・学校・司法・その他）① 4 社会福祉士の職域②－（子ども・高齢・障害・生活困窮者・学校・司法・その他）② 5 社会福祉士の職域③－（保健医療、学校教育、司法関係・独立型事務所 等） 6 福祉行政等における専門職 7 民間の社会福祉施設・組織における専門職① 8 民間の社会福祉施設・組織における専門職② 9 諸外国の動向 10 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 11 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 12 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容① 13 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容② 14 ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容 15 まとめ				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	授業計画の項目に沿ったテキストの該当箇所や資料を読み込んでおくこと
	復 習	90 分	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 11、ソーシャルワークの基盤と専門職』（中央法規）		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書については別途指示する		

科 目 名	感染微生物学				
科 目 名（英 語）	Clinical Microbiology and Infectious Disease		シラバスNo.	250030170	
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の 3 要素、検査、化学療法、感染制御、感染対策について説明できる。主要な感染症の病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。				
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単なる知識の暗記ではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後に質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な考え方を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 微生物学総論：歴史、微生物の種類と特徴 2 細菌総論：形態と構造、グラム染色性、病原性 3 ウイルス・真菌・寄生虫総論 4 免疫：自然免疫、獲得免疫、アレルギー 5 ワクチン・感染症総論：予防接種、感染の 3 要素、感染経路、検査、診断、治療 6 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 7 呼吸器感染症 1：上気道感染症、インフルエンザ 8 呼吸器感染症 2：感染性肺炎、結核、新興呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼・特殊な細菌による感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 敗血症・人獣共通感染症・新興再興感染症 15 感染制御：感染対策、消毒と滅菌				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	神谷茂監修『標準微生物学第 15 版』医学書院（2024 年） 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院（2022 年）				

科 目 名	生涯発達論				
科 目 名（英 語）	Introduction to the Human Development		シラバスNo.	250030180	
担 当 教 員 名	結城 佳子 長谷川 博亮				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を教授する科目				
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	・広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 ・人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。 1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。 2. 主な生涯発達理論について、説明できる。 3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べることができる。				
受 講 の 留 意 点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。 アクティブ・ラーニングの内容 少人数でのグループワークを取り入れた講義である。				
授 業 の 計 画	1 生涯発達とは 発達段階と発達課題 2 生涯発達の基本的理解 人の生涯発達にかかわる理論 3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信 4 乳児期後期 信頼 対 不信 5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑 6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感 7 学童期 勤勉性 対 劣等感 8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者 9 思春期・青年期 同一性 対 拡散（1）思春期・青年期のからだところの変化 10 思春期・青年期 同一性 対 拡散（2）アイデンティティとその危機 11 思春期・青年期 同一性 対 拡散（3）成年期へ 12 成人前期 親密性 対 孤独感 13 成人後期 生成継承性 対 停滞 14 成熟期 統合 対 絶望 15 まとめ 人が生きるということ				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。
	復 習	90 分	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。
成 績 評 価 方 法	レポート課題：中間、最終各50点、計100点 5段階評価 S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下 C以上の評価について単位を認定する。D評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点69点までとする。		
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、資料を配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。		

科 目 名	地域福祉論 I				
科 目 名（英 語）	Community-Based Social Work I		シラバスNo.	250030240	
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職（高福）・社福士・精保士・必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 4 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。 5 地域福祉の観点をもち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①地域社会の概念・理論・変化について理解できる ②地域包括ケアについて理解する ③地域福祉の理論や概念が理解できる ④地域福祉の推進主体や包括的支援体制について理解できる				
受 講 の 留 意 点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。そのため、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。 本科目では、地域社会、地域福祉の概念や理論、歴史的発展過程を踏まえ、地域福祉実践がどのような役割を担うのか、考察を深めていく				
	アクティブ・ラーニングの内容 学んだことを確認して次へつなげるために、小テストを実施する。				
授 業 の 計 画	1. オリエンテーション 2. 地域福祉の概念と理論、コミュニティ政策 3. 地域社会の変化 4. 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ 5. 地域福祉と社会的孤立、地域包括ケアシステム① 6. 地域包括ケアシステム②、生活困窮者自立支援制度① 7. 生活困窮者自立支援制度②、包括的支援体制と地域共生社会 8. 地域福祉ガバナンス 9. 多機関協働、各種相談機関の連携協働 10. 多職種連携、福祉以外の分野との機関協働の実例 11. 地域福祉の概念と理論① 12. ゲスト講師による講義 13. 地域福祉の概念と理論②、地域福祉の歴史 14. 地域福祉の動向 15. 地域福祉の推進主体①				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。		
	復習	90 分	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。		
	講義 100%				
成 績 評 価 方 法	学期末試験 80 点、小テスト 20 点				

教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑥ 『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)
参考書 (購入任意)	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)

科 目 名	地域福祉論Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Community-Based Social Work Ⅱ		シラバスNo.	250030250	
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職（高福）・社福士・精保士・必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 4 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。 5 地域福祉の観点をもち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①地域を基盤としたソーシャルワークの方法について理解できる ②災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解できる ③福祉計画の機能や策定過程について理解できる ④福祉行政と財政について理解できる				
受 講 の 留 意 点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの内 容	今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。 本科目では、地域で展開されるソーシャルワークや、災害時の支援体制、地域福祉計画、福祉行政について学んでいく。また、具体的な事例を踏まえて学生が考察できるようになることも目標とする。				
	アクティブ・ラーニングの内容 学んだことを確認して次へつなげるために、小テストを実施する。				
授 業 の 計 画	1. オリエンテーション 2. 地域福祉の推進主体② 3. 地域福祉の主体と福祉教育、地域を基盤としたソーシャルワークの方法① 4. 地域を基盤としたソーシャルワークの方法②、住民の主体形成 5. 住民の主体形成②、地域を基盤としたソーシャルワークの展開、子どもと地域福祉 6. 非常時や災害時における法制度 7. 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援 8. 災害時のソーシャルワーク 9. 福祉計画の目的・機能、都道府県や市町村の福祉計画 10. 福祉計画の策定方法 11. 福祉計画のニーズ把握と評価 12. 国、都道府県、市町村の役割 13. 福祉行政の組織と専門職① 14. 福祉行政の組織と専門職②、福祉の財源① 15. 福祉の財源②				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。		
	復習	90 分	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。		
	講義 100%				
成 績 評 価 方 法	学期末試験 80 点、小テスト 20 点				

教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑥ 『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)
参考書 (購入任意)	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)

科 目 名	権利擁護と成年後見				
科 目 名（英 語）	Advocacy and adult guardianship		シラバスNo.	250030280	
担 当 教 員 名	佐藤 みゆき				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	社福士・精保士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	権利擁護(苦情解決第三者機関)の相談員の経験を持つ教員が、社会福祉士、精神保健福祉士として必要とされる権利擁護に関する法制度の知識、支援の実際について教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要に力を身につけている。 4 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民の交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 2 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 3 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 4 権利擁護かつ等を実践する過程で直面する問題を、法的観点から理解する。 5 ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク、日常生活と法との関連について、常に考察しながら主体的に学びを深めてほしい。六法を活用し、条文をこまめに引くこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業は、権利擁護の意義とそれを支える法制度への理解を深め、ソーシャルワーカーが関わる成年後見制度の概要を学び、その実際を知ることを目的とする。 アクティブ・ラーニングの内容 授業の最後にリアクションペーパーでその回の感想、質問を書いてもらい、次回取り上げることで双方化を図る。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーションと法の基礎 2 ソーシャルワークと法の関わり(1) -憲法 3 ソーシャルワークと法の関わり(2) -行政法 4 ソーシャルワークと法の関わり(3) -民法①民法総則 5 ソーシャルワークと法の関わり(4) -民法②契約 6 ソーシャルワークと法の関わり(5) -民法③不法行為 7 ソーシャルワークと法の関わり(6) -民法④親族 8 ソーシャルワークと法の関わり(7) -民法⑤相続 9 権利擁護の意義と支える仕組み(1) -権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用、苦情解決の仕組み 10 権利擁護の意義と支える仕組み(2) -虐待防止法の概要、差別禁止法の概要、意思決定支援ガイドライン 11 権利擁護で直面しうる法的諸問題 12 権利擁護に関わる組織、団体、専門職 13 成年後見制度(1) -成年後見の概要、後見の概要、保佐の概要、補助の概要 14 成年後見制度(2) -任意後見の概要、成年後見制度の最近の動向、成年後見制度利用支援事業 15 成年後見制度(3) -日常生活自立支援事業				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	次回の項目に関する福祉課題を想起し、関心に応じて専門用語などをインターネットなどで調べておく。		
	復習	90 分	講義レジュメの振り返りをし、各回の内容に応じた国家試験問題を解いて理解度を確認する。		
成 績 評 価 方 法	定期試験 60 点 中間レポート 30 点 毎回のリアクションペーパーによる授業への積極的参加状況 10 点の合計点で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	教員作成のレジュメを毎回配布して教材とする。 ミネルヴァ社会福祉六法 2025 ミネルヴァ書房 は必携。				

参 考 書
(購 入 任 意)

講義の中で適宜指示する。

科 目 名	医学概論		
科 目 名 (英 語)	Introduction to Medicine	シラバスNo.	250030300
担 当 教 員 名	塚原 高広		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	選択
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。		
対応する ディプロマ・ポリシー	2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができる。		
受 講 の 留 意 点	教科書および講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義時などに質問すること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、はじめに総論および人体の解剖生理の基本的な知識を学んだのち、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り		
授 業 の 計 画	1 ライフステージにおける心身の特徴 2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題 3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）：器官 4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器 5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器 6 身体構造と心身の機能（4）消化器・神経 7 身体構造と心身の機能（5）内分泌・生殖器 8 身体構造と心身の機能（6）筋・骨格・皮膚 9 身体構造と心身機能（7）免疫・感覚器 10 疾病と障害（1）疾病の発生原因と成立機序、リハビリテーション 11 疾病と障害（2）神経疾患、脳血管疾患、心疾患 12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患 13 疾病と障害（4）消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患 14 疾病と障害（5）免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患 15 疾病と障害（6）精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を通読して、知識を整理しておくこと。
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021 年）		
参 考 書 (購 入 任 意)	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第 4 版』医学書院（2015 年）		

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅴ				
科 目 名（英 語）	Social Work ApproachⅤ			シラバスNo.	250030320
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職（高福）・社福士・必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①学生がソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解することができる。 ②学生がグループを活用した支援について理解することができる。 ③学生がソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解することができる。				
受 講 の 留 意 点	・テキストと講義資料を中心に講義を進める。 ・ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。 ・本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。 ・予習はシラバスに沿ってテキストを通度しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本講義では、学生が実践で活かせるように、ソーシャルワークにおける代表的な実践モデルとアプローチについて学ぶ。また、地域に根ざしたソーシャルワーク実践を行うために、コミュニティワークの意義と目的および展開過程を概観する。さらに、実践を振り替えるために、スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解を深める。学生はこれらの学びを通して、社会福祉士あるいは精神保健福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得できるようにする。 アクティブ・ラーニングの内容 学んだことを確認して次へつなげるために、小テストを実施する。				
授 業 の 計 画	1. オリエンテーション 2. ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル（ライフモデル） 3. 心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ 4. 課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ 5. 危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、 6. 解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ 7. 記録の意義と目的、内容、フォーマット 8. ケアマネジメントの原則、意義、方法 9. ケアマネジメントの展開 10. グループワークの意義と目的 11. グループワークの展開過程 12. コミュニティワークの意義、目的 13. コミュニティワークの展開 14. ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション 15. スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。		
	復習	90 分	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。		
成 績 評 価 方 法	学期末試験 80 点、小テスト 20 点				

教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑫ 『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』（中央法規）
参考書 (購入任意)	・フランシス・J. ターナー、北島英治監訳、上田洋介訳（2023）『ソーシャルワーク・トリートメント第6版』（中央法規） ・北島英治(2016)『グローバルスタンダードにもとづくソーシャルワーク・プラクティスー価値と理論ー』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	精神医学と精神医療				
科 目 名（英 語）	Psychiatry			シラバスNo.	250030380
担 当 教 員 名	久 智 行				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で医師としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解し、説明できる。 ②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中での精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解し、説明できる。 ③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解し、説明できる。 ④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解し、説明できる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。さらに、精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解をめざすとともに、精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。また、今日、精神保健医療福祉における連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解することをめざす。 アクティブ・ラーニングの内容 意見の表現を目的としたリアクションペーパーや小レポートの記述、他受講生との話し合いや意見交換を行うディスカッション、グループワーク等を交えて行う。				
授 業 の 計 画	1 精神医学・医療の歴史	16	入院治療・専門病棟①		
	2 精神現象の生物学的基礎	17	入院治療・専門病棟②		
	3 精神障害の概念・健康	18	入院治療と人権擁護①		
	4 精神疾患の診断分類①	19	入院治療と人権擁護②		
	5 精神疾患の診断分類②	20	外来治療、在宅医療・外来①		
	6 診断、検査・診断手順と方法	21	外来治療、在宅医療・外来②		
	7 代表的な疾患とその症状、経過、予後①	22	医療観察法における入院・通院治療①		
	8 代表的な疾患とその症状、経過、予後②	23	医療観察法における入院・通院治療②		
	9 精神疾患の治療①(薬物治療、精神療法、脳刺激法)	24	精神科医療機関における精神保健福祉士の役割①		
	10 精神疾患の治療②(作業療法、地域精神医療)	25	精神科医療機関における精神保健福祉士の役割②		
	11 精神疾患患者の動向①	26	精神保健福祉士と協働する職種①		
	12 精神疾患患者の動向②	27	精神保健福祉士と協働する職種②		
	13 医療制度改革と精神医療①	28	治療導入に向けた支援		
	14 医療制度改革と精神医療②	29	再発予防や地域生活に向けた支援		
	15 医療機関の医療機能の明確化	30	まとめ		

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。
	復習	90 分	授業で使用了資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。
成 績 評 価 方 法	定期試験（70%）、課題・小テスト（30%）		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療』中央法規.		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	別途周知する。		

科 目 名	精神障害リハビリテーション論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Mental Rehabilitation		シラバスNo.	250030390	
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。				
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。 精神障害リハビリテーションの概念とプロセスや精神保健福祉士の役割について学び、活用できることをめざす。さらに精神障害リハビリテーションプログラムの知識を得て、援助場面で活用できるよう学修を進める。 アクティブ・ラーニングの内容 講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。				
授 業 の 計 画	1 精神障害リハビリテーションの理念と定義 2 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション 3 精神障害リハビリテーションの基本原則 4 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係 5 地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 6 精神障害リハビリテーションの構成及び展開①；精神障害リハビリテーションの対象 7 精神障害リハビリテーションの構成及び展開②；チームアプローチ・多職種連携 8 精神障害リハビリテーションの構成及び展開③；精神障害リハビリテーションのプロセス、精神保健福祉士の役割 9 医学的リハビリテーションプログラム 10 職業的リハビリテーションプログラム 11 社会的リハビリテーションプログラム 12 教育的リハビリテーションプログラム 13 家族支援プログラム 14 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション 15 依存症のリハビリテーション				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分			
	復習	90 分			

	予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。 復習は、授業で使用了資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。
成績評価方法	課題の提出(40点) 定期試験(60点)
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論、中央法規
参考書 (購入任意)	別途周知する。

科 目 名	精神保健福祉制度論				
科 目 名（英 語）	Mental Health and Social Welfare		シラバスNo.	250030400	
担 当 教 員 名	直嶋 美恵子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 ②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ④生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ⑤障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。				
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。 精神障害者に関する法制度について学び、精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解することをめざす。さらに、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、幅広い視野で援助場面で活用できるよう学修を進める。				
	アクティブ・ラーニングの内容 講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。				
授 業 の 計 画	1 精神障害者に関する法律の体系 2 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割① 3 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割② 4 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割① 5 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割② 6 精神障害者の医療に関する課題① 7 精神障害者の医療に関する課題② 8 相談支援制度と精神保健福祉士の役割 9 居住支援制度と精神保健福祉士の役割 10 就労支援制度と精神保健福祉士の役割 11 精神障害者の生活支援制度に関する課題 12 生活保護制度と精神保健福祉士の役割 13 生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割 14 低所得者対策と精神保健福祉士の役割 15 精神障害者の経済的支援制度に関する課題				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	
	復 習	90 分	
	予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。復習は、授業で使用了資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックス、関連知識について、最新の情報を探べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。		
成 績 評 価 方 法	課題の提出(40 点) 定期試験 (60 点)		
教 科 書 (購 入 必 須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉制度論、中央法規		
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。		

科 目 名	医療福祉論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Medical Welfare		シラバスNo.	250030440	
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。 その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の 連携・協働について授業を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 3 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得できるようになる。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実践方法を習得できるようになる。				
受 講 の 留 意 点	保健医療福祉領域の広がりや連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努めること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向 3 保健医療における福祉的課題 4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解 5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題 6 患者の権利と保健医療における意思決定支援 7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割） 8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度） 9 介護保険制度と地域包括ケア 10 保健医療における社会福祉士の役割 11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法） 12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW） 13 地域の関係機関との連協・協働 14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援） 15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込んでおくこと
	復習	90 分	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規) 2021 年		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書については別途指示する		

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅳ				
科 目 名（英 語）	Social Work Ⅳ		シラバスNo.	250030450	
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。 専門的援助関係の形成、ソーシャルワーカーとしての面接技術、アウトリーチ、カンファレンスの実践など具体的に授業を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	社会福祉学科： 1 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 3 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	シャルワークにおける援助関係の形成について、人間関係と援助関係の違いを理解し、その概念と基本的な面接技術、援助関係形成方法等が習得できるようになる。更に臨床現場に必要なアウトリーチの意義や、ソーシャルワークに関連するコミュニケーションスキルの技法、実践場面を意識したカンファレンスを通し、その理論と方法を習得できるようになる。				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅲで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、今までソーシャルワーク論で学んだことを復習をしておくこと。 テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面に基づいた演習も行うため、予習復習に努めること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うために、適切なコミュニケーションスキルや面接技術を学ぶ。 ②社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、制度の狭間に陥っているクライアントへのアウトリーチ方法など、より実践的かつ効果的なソーシャルワークを実践的に学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 援助関係の意義と概念 2 援助関係の形成方法①：自己覚知と他者理解 3 援助関係の形成方法②：コミュニケーションとラポール 4 面接技術①：面接の意義、目的、方法、留意点 5 面接技術②：面接の場面と構造 6 面接技術③：面接技法 7 アウトリーチ①：アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 8 アウトリーチ②：アウトリーチを必要とする対象 9 アウトリーチ③：ニーズの掘り起こし 10 ソーシャルワークに関連する技法①：ネゴシエーション 11 ソーシャルワークに関連する技法②：ファシリテーション 12 ソーシャルワークに関連する技法③：プレゼンテーション 13 カンファレンスの意義、目的、留意点 14 カンファレンスの運営と展開①：同一機関内におけるケース 15 カンファレンスの運営と展開②：複数機関にまたがるケース				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業計画の項目に沿ったテキストの該当箇所や資料を読み込んでおくこと
	復習	90 分	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 6、ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』（中央法規） 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 12、ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』（中央法規）		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書については別途指示する		

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅵ				
科 目 名（英 語）	Social Work Ⅵ		シラバスNo.	250030460	
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。 その経験を通して、社会資源の開発、ソーシャルアクション、事例分析など具体的に授業を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	社会福祉学科： 1 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 5 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	フォーマル・インフォーマルな社会資源活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて習得できるようになる。 個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や普遍性を見出すための、事例分析の意義や方法を習得できるようになる。				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅴで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。 テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面に基づいた演習も行うため、予習復習に努めること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	①ソーシャルワーク実践に必要な社会資源の活用・調整・開発およびソーシャルワーク実践における多様なネットワークの開発・形成・調整等について学ぶ。 ②これまでのソーシャルワーク論で学んできたことを基に、具体的な事例を踏まえて分析・研究し、ソーシャルワーカーの専門性を発揮できるよう、総合的かつ包括的な支援の実践を学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 社会資源の活用・調整・開発①(意義、目的、方法の理解) 2 社会資源の活用・調整・開発②(ニーズ集約、提言、計画策定、実施、評価の理解) 3 社会資源の活用・調整・開発③(ソーシャルアクションの意義・目的・方法の理解) 4 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成①(ネットワーキングの意義・目的・方法の理解) 5 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成②(重層的なネットワーキングの理解) 6 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成③(コーディネーションの意義・目的・方法の理解) 7 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践①(総合的かつ包括的な支援の考え方の理解) 8 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践②(家族支援の理解) 9 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践③(地域支援の理解) 10 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践④(非常時や災害時支援の理解) 11 事例分析①(事例分析の意義・目的の理解) 12 事例分析②(具体的な事例分析) 13 事例研究①(事例研究の意義・目的・方法の理解)				

	1 4 事例研究②(具体的な事例研究 1 : 社会福祉施設を中心に) 1 5 事例研究③(具体的な事例研究 2 : 社会福祉相談機関を中心に)		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	授業計画の項目に沿ったテキストの該当箇所や資料を読み込んでおくこと
	復習	90 分	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること
成績評価方法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する		
教科書 （購入必須）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 6、ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』（中央法規）		
参考書 （購入任意）	参考書については別途指示する		

科 目 名	精神保健福祉の原理 I				
科 目 名（英 語）	Principle of Mental Health and Welfare I		シラバスNo.	250030510	
担 当 教 員 名	直嶋 美恵子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。				
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷や障害者福祉の基本的枠組み、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義やその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。				
授 業 の 計 画	1 障害者福祉の思想と原理 2 障害者福祉の理念・リハビリテーション① 3 障害者福祉の理念・リハビリテーション② 4 障害者福祉の歴史的展開① 5 障害者福祉の歴史的展開② 6 国際生活機能分類（ICF） 7 制度における「精神障害者」の定義 8 精神障害の障害特性 9 会的排除と社会的障壁①；諸外国の動向 10 社会的排除と社会的障壁②；日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 11 社会的排除と社会的障壁③；日本の社会的障壁 12 精神障害者の生活実態①；精神保健医療福祉と精神障害者 13 精神障害者の生活実態②；精神科医療の特性 14 精神障害者の生活実態③；精神障害者と家族 15 精神障害者の生活実態④；精神障害者と社会生活				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	
	復 習	90 分	
	予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。復習は、授業で使用了資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、現在の実践上の課題や、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。		
成 績 評 価 方 法	課題の提出(40 点) 定期試験 (60 点)		
教 科 書 (購 入 必 須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理、中央法規		
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。		

科 目 名	精神保健福祉の原理Ⅱ					
科 目 名（英 語）	Principle of Mental Health and WelfareⅡ		シラバスNo.		250030520	
担 当 教 員 名	直嶋 美恵子					
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容					
対応する ディプロマ・ポリシー	1.人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。					
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。 史的に精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティを理解するとともに、精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解することをめざす。さらに、近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。 アクティブ・ラーニングの内容 講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。					
授 業 の 計 画	1 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯① 2 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯② 3 精神保健福祉の原理・価値① 4 精神保健福祉の原理・価値② 5 精神保健福祉の観点・視点① 6 精神保健福祉の観点・視点② 7 精神保健福祉における“関係性” 8 精神保健福祉士法 9 精神保健福祉士の職業倫理 10 精神保健福祉士の業務特性① 11 精神保健福祉士の業務特性② 12 精神保健福祉士の職場・職域					

	13 精神保健福祉士の業務内容と業務指針① 14 精神保健福祉士の業務内容と業務指針② 15 まとめ	
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分
	復習	90分
	予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、現在の実践上の課題や、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。	
成績評価方法	課題の提出(40点) 定期試験(60点)	
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理、中央法規	
参考書 (購入任意)	別途周知する。	

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅷ			
科 目 名 (英 語)	Social Work Ⅷ(MHSW)		シラバスNo.	250030540
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 5.地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係、及び家族への支援方法を理解し、説明できる。 ②精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解し、説明できる。 ③精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解し、説明できる。 ④個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解し、説明できる。 ⑤精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解し、説明できる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学修するとともに、精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法や精神保健福祉士の役割について学ぶ。また、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法や個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解することをめざす。 アクティブ・ラーニングの内容 意見の表現を目的としたリアクションペーパーや小レポートの記述、他受講生との話し合いや意見交換を行うディスカッション、グループワーク等を交えて行う。			
授 業 の 計 画	1 精神障害者家族の課題①；精神保健福祉法と家族、介護家族という社会的役割 2 精神障害者家族の課題②；精神障害に関連したケアラーのニーズ、ケアラー・ヤングケアラー支援 3 家族理解の変遷①；家族病因論、家族ストレス対処理論 4 家族理解の変遷②；家族システム論、家族の感情表出（EE）研究 5 家族支援の方法①；家族療法的アプローチ、家族相談面接 6 家族支援の方法②；家族関係における暴力への介入（DV 被害者支援、DV 加害者プログラム） 7 家族支援の方法③；家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ 8 多職種連携・多機関連携の意義と目的 9 多職種連携・多機関連携の留意点、連携における精神保健福祉士の役割 10 多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）の実際（事例分析） 11 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法① 12 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法② 13 コミュニティワーク			

	14 個別支援からソーシャルアクションへの展開 15 関連分野における精神保健福祉士の実践展開		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。
	復習	90 分	授業で使用了資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックスや関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。
成 績 評 価 方 法	定期試験（70%）、課題・小テスト（30%）		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法〔精神専門〕』中央法規出版。		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	別途周知する。		

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅵ			
科 目 名（英 語）	Social Work Seminar(MHSW)Ⅵ		シラバスNo.	250030570
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。			
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習Ⅵは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	個別指導・集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークの事例（集団に対する事例を含む。）をソーシャルワーク実習Ⅲの事前学習として深める。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを実施。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、ソーシャルワーク演習の意義と構成 2 精神保健ソーシャルワークの領域① 医療機関、障害福祉サービス事業所 3 精神保健ソーシャルワークの領域② 行政、社会福祉協議会、高齢者福祉施設 4 精神保健ソーシャルワークの領域③ 教育、司法、産業・労働、児童、合議体 5 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題① 社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援 6 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題② 自殺対策、ひきこもり支援、児童虐待への対応、アルコール依存、薬物依存、ギャンブル依存等の予防や回復、家族支援 7 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題③ 就労（雇用）支援、職場ストレス、リワーク支援、貧困、低所得、ホームレス支援、災害被災者、犯罪被害者支援、触法精神障害者支援、その他 8 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、医療観察法 9 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス② 生活保護制度、障害年金制度、各種手当、障害者雇用促進法、労働安全衛生法、介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法、児童福祉法、児童虐待防止法 10 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス③ アルコール健康障害対策基本法、刑の一部執行猶予制度、覚せい剤取締法等、自殺防止対策基本法、当事者活動（自助グループ、ピアサポート）、その他（居住支援制度、生活困窮者自立支援制度、成年後見制度等）			

	11 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術① ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア） 12 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術② 個別面接、グループワークの展開、ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント、リハビリテーションプログラムの実施（行動療法、作業療法、回復支援プログラム）、アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開 13 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術③ 社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源創出、政策提言、普及啓発活動、人材育成（住民への啓発、ボランティア養成、実習生指導）、記録（個別支援記録、公文書作成、業務（日誌・月報等）の記録、スーパービジョンのためのレポート作成等）、その他 14 事例検討の意義と方法① 事例検討の意義と要点 15 事例検討の意義と方法② 事例検討の方法		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	
	復習	90 分	
	予習は、次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。復習は、授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。		
成績評価方法	課題の提出（70 点）、実践的課題への主体的能動的取組姿勢（30 点）により評価する。		
教科書 （購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]、中央法規		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅶ				
科 目 名（英 語）	Social Work Seminar(MHSW)Ⅶ		シラバスNo.	250030580	
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 ④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習Ⅶは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵと一体的に学修することが必要となる。 以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。 ①領域：医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関・社会福祉協議会等 ②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等 ③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等 ④援助技術：ソーシャルワークの過程を通した援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等 アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを実施。				
授 業 の 計 画	1 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①；入院病棟における事例 2 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；外来における事例 3 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；訪問、デイ・ケアにおける事例 4 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④；精神科以外の医療機関における事例				

	5 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；相談支援における事例		
	6 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；就労支援における事例		
	7 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；生活訓練における事例		
	8 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④；地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助、地域生活支援等における事例		
	9 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；精神保健福祉センター、保健所		
	10 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；市町村		
	11 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；ハローワーク、その他		
	12 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；生活困窮における事例		
	13 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；地域づくりにおける事例		
	14 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；権利擁護における事例		
	15 まとめ、事例検討の意義		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	
	復習	90 分	
	予習は、次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。 復習は、授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。		
成 績 評 価 方 法	課題の提出（70 点）、実践的課題への主体的能動的取組姿勢（30 点）により評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]、中央法規		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅷ		
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar(MHSW)Ⅷ	シラバスNo.	250030590
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	選択
		資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容		
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ③精神疾患や精神障害、精神保健のための課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにする。 ④精神疾患や精神障害、精神保健のための課題のある人を取り巻く社会や環境を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。		
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習Ⅷは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお本科目はソーシャルワーク演習Ⅵ・Ⅶと一体的に学修することが必要となる。以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士における原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。 ①領域：高齢者福祉施設、教育機関（学校・教育委員会）、司法、産業、労働、児童等 ②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受領、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等 ③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険、児童福祉法等 ④援助技術：ソーシャルワーク過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等 アクティブ・ラーニングの内容 ロールプレイ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを実施。		
授 業 の 計 画	1 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 ①地域包括支援センターにおける事例 2 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 ②介護療養型施設における事例 3 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 ③生活施設における事例 4 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施		

	5 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 6 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 7 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 8 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 9 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 10 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 11 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 12 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 13 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 14 事例検討：独立型による精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 15 まとめ、事例検討の意義		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	
	復習	90 分	
	予習は、次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。 復習は、授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。		
成 績 評 価 方 法	課題の提出（70 点）、実践的課題への主体的能動的取組姿勢（30 点）により評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]、中央法規		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
科 目 名 （ 英 語 ）	Social Work Practicum Guidance Ⅲ(MHSW)		シラバスNo.	250030640	
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
対応する ディプロマ・ポリシー	1.幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 5.地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①ソーシャルワーク実習の意義について説明できる。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できる。 ③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、その技術等を実践できる。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての行動がとれる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	個別指導および集団指導を通して、ソーシャルワーク実習Ⅲに向けた事前学習を行う。板書と視聴覚メディア（DVD）を活用しながら進めるが、一部グループ学習・体験学習を取り入れる。 アクティブ・ラーニングの内容 意見の表現を目的としたリアクションペーパーや小レポートの記述、他受講生との話し合いや意見交換を行うディスカッション、グループワーク等を交えて行う。				
授 業 の 計 画	1 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ① 実習の構造 2 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ② 実習の流れと学習課題 3 精神保健医療福祉の現状① 日本の精神保健医療福祉施策の沿革 4 精神保健医療福祉の現状② 精神障害者の現状 5 実習施設の理解①；施設見学(医療機関) 機関の理解 6 実習施設の理解②；施設見学(医療機関) 援助方法の理解 7 実習施設の理解③；施設見学(障害福祉サービス事業所) 事業所の理解 8 実習施設の理解④；施設見学(障害福祉サービス事業所) 援助方法の理解 9 当事者による講話① 当事者の理解 10 当事者による講話② 家族の理解 11 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識 12 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る技術 13 精神保健福祉士に求められる職業倫理に関する理解 14 精神保健福祉士に求められる法的責任に関する理解 15 まとめ				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90 分	教科書の指定部分を読み、不明な点を事前に明らかにしておくこと
	復 習	90 分	授業で使用了た資料を読み直し、ノートに整理すること。
成 績 評 価 方 法	各回終了時のリアクションペーパー（30%）、課題・レポート（70%）		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]』中央法規出版。		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	別途周知する。		

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ			
科 目 名（英 語）	Social Work Practicum Guidance Ⅳ(MHSW)		シラバスNo.	250030650
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 5.地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	①ソーシャルワーク実習の意義について説明できる。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できる。 ③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、その技術等を実践できる。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての行動がとれる。 ⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	個別指導および集団指導を通して、ソーシャルワーク実習Ⅲの事前・事後学習を深める。実習前は、事前学習を進めるとともに、実習課題計画書の作成および事前訪問等を行う。また実習後は、実習報告会資料および実習報告書の作成を行い、作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。 アクティブ・ラーニングの内容 意見の表現を目的としたリアクションペーパーや小レポートの記述、他受講生との話し合いや意見交換を行うディスカッション、グループワーク等を交えて行う。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 事前学習の概要 3 実習計画書の意義 4 実習計画書の作成 5 実習におけるジレンマ事例 6 実習におけるスーパービジョン事例 7 職業倫理と法的責任(実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解等) 8 面接技術、アセスメント 9 個別支援計画 10 精神保健福祉士の業務と役割①；外部講師（医療機関） 11 精神保健福祉士の業務と役割②；外部講師（障害福祉サービス事業所等） 12 実習指導者との面談(実習打ち合わせ会における学生・実習指導者・教員の三者による実習計画作成・見直し)	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27	オリエンテーション 実習の振り返り ジレンマ体験 スーパービジョン体験 実習報告会準備 実習報告会資料作成と発表会① 医療機関 実習報告会資料作成と発表会② 障害福祉サービス事業所等 実習報告会① 医療機関 実習報告会② 障害福祉サービス事業所等 実習報告書の作成① 実習施設の概要 実習報告書の作成② 実習全体の流れと内容 ケース研究レポートの作成① 医療機関	

	13	事前学習報告会	28	ケース研究レポートの作成② 障害福祉サービス事業所等
	14	確認学修、実習記録の内容・作成方法	29	実習報告書・ケース研究レポート報告会① 医療機関
	15	まとめ、必要書類の作成	30	実習報告書・ケース研究レポート報告会② 障害福祉サービス事業所等、まとめ
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書の指定部分を読み、不明な点を事前に明らかにしておくこと。	
	復習	90 分	授業で使用了資料を読み直し、ノートに整理すること。	
成 績 評 価 方 法	各回終了時のリアクションペーパー（30%）、実習報告書（25%）、実習報告会におけるプレゼンテーション（25%）、その他の提出物（20%）			
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]』中央法規出版。			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	別途周知する。			

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅲ			
科 目 名 (英 語)	Social Work PracticumⅢ(MHSW)		シラバスNo.	250030660
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	5 単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
対応する ディプロマ・ポリシー	1.幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2.人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 4.優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。 5.地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	①ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により体得した技術等を実践できる。 ②精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握できる。 ③実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての行動がとれる。 ④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容について説明できる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	実習体験とその考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョン及びソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。			
	アクティブ・ラーニングの内容 専門的知識や技術の理解に基づき、精神保健福祉現場で試行と省察を反復する臨地実習を行う。			
授 業 の 計 画	1 精神科医療機関や精神科診療所等における配属実習(105 時間以上) ・受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ・退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ・入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 ・病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク ・受診前や診療所において治療中の患者及びその家族への相談援助 ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ・外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 ・地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク 2 障害福祉サービス事業所等における配属実習(105 時間以上) ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成			

	・利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び相談支援（エンパワメントを含む）とその評価 ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加 上記両実習に共通の事項 ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚 ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察 ・当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察 ・実習先施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察 ・実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション 実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	分	
	復 習	分	
	実習期間中は、毎日実習日誌を作成し、その日の実習内容を整理・考察を行い、その内容について実習指導者から指導を受ける。なお全体的な事前学習は、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（４年前期）において実施する。また事後指導は、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（４年後期）において実施する。		
成 績 評 価 方 法	実習指導者（40 点）および巡回指導担当教員（40 点）の評価、実習日誌、その他の課題等（20 点）を総合的に評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	障害児教育学					
科 目 名（英 語）	Pedagogy for handicapped child		シラバスNo.		25030760	
担 当 教 員 名	矢口 明					
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、各項目において経験に基づく具体的な内容を盛り込み、学生が興味や関心を持つことができるようにしていく。					
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。					
学 修 到 達 目 標	障害者の権利に関する条約の批准に伴い、2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、教育や福祉は、大きな転換点が訪れている。2007年に特別支援教育が本格的に始まってから16年が経過し、障害のある子どもへの教育に対する考え方も変化してきている。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義と継承すべき視点について理解することができる。 障害児教育を学ぶスタートラインとして、特別支援教育に関わる教員としての職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、特別支援学校教諭としてのキャリア意識を持つことができる。					
受 講 の 留 意 点	各講義の終了後に配布するリアクションペーパーには、講義の感想やもっと知りたいこと、専門職として生かしていきたいことを書いて提出することになっている。次の講義で質問やもっと知りたいことについて補足の説明をする。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別支援教育が何を目指しているのかについて学び、これまで行われてきた障害児教育の歴史、特にわが国における歴史を、明治、大正、昭和にわたって学習するとともに、世界の動向について知る。また、わが国における優れた教育実践とその創意工夫から、現在の制度や教育実践を理解する。 各障害の概要や障害のない子どもの発達を知り、障害や特性に応じた根拠のある支援の基本的理解を目指す。障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とすることができる。 リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 特殊教育から特別支援教育への転換の経緯 2 障害児教育の歴史(1) 欧米における障害児教育の成立と展開 3 障害児教育の歴史(2) わが国における明治期・大正期・昭和前期の障害児教育 4 障害児教育の歴史(3) わが国における第二次大戦後の障害児教育 5 特別支援教育の理念、特別支援教育の現状と課題 6 学習指導要領と関連する教育法規(1) 学習指導要領改訂の経緯 7 学習指導要領と関連する教育法規(2) 新学習指導要領 8 障害のある子どもの就学支援 9 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導を受けている児童生徒 10 ライフステージと教育（1）出生から幼児期まで 11 ライフステージと教育（2）学童期から青年期まで 12 個別の教育支援計画と個別の指導計画 13 卒業後の就労に向けた支援 14 交流及び共同学習の変遷とインクルーシブ教育システム 15 関係機関との連携と特別支援教育					

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	配布資料を事前に確認しておくこと。
	復習	90 分	学んだ内容を確認しておくこと。
成 績 評 価 方 法	授業への出席とリアクションペーパーの記述内容（５０点）、学習内容の理解度のレポート（５０点）		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	「特別支援教育の基礎・基本 2020」、ジアース教育新社		

科 目 名	障害児教育方法論				
科 目 名（英 語）	methodology for handicapped child		シラバスNo.		250030770
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、知的障害のある児童生徒への具体的な支援について、経験に基づいた具体的な内容を盛り込み、理解を深めることができる。				
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。				
学 修 到 達 目 標	知的障害児の実態把握の具体的な方法についての理解を深め、適切な行動を獲得していくことや不適切な行動を減少させていく方法について理解することができる。指導の効果を評価・改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義について理解を深める。応用行動分析に基づいた行動の理解や課題分析のプロセスの基本を理解することができる。				
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、他の障害領域の学びを慣例づけながら理解を深めていくことが望ましい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	知的障害や発達障害、自閉スペクトラム症は、認知、コミュニケーション、社会性、行動の調整などの困難な状態が、継続しているものである。したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。障害の特性の評価を行うアセスメントから指導計画の作成、指導方法の検討と指導、評価を行っていく一連のプロセスについて理解する。視覚情報を活用した教材の作成を通して、教材の果たす役割を理解する。				
	リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。				
授 業 の 計 画	1 知的障害教育がめざす自立とは（イントロダクション） 2 行動観察とアセスメント 3 ICT や教材教具の活用 4 応用行動分析による行動の理解 5 学習に見通しを持って主体的に行動するための支援方法 6 家庭や地域と連携した具体的な支援方法 7 主体的な活動を促す支援とツール 8 コミュニケーションの発達を促す支援 9 社会性の発達と支援 10 知的障害教育における自立活動の指導の実際① 目標と内容 11 知的障害教育における自立活動の指導の実際② 指導計画の作成 12 自閉スペクトラム症の理解 13 自閉スペクトラム症児への支援と自立活動 14 視覚情報を活用した教材の作成 15 視覚情報を活用した教材の活用方法の発表				

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	配布資料を事前に確認しておくこと。
	復習	90 分	学んだことが日常生活とどのように関連しているかについて考える。
成績評価方法	出席の状況(20 点)、リアクションペーパーへの記述内容(40 点)、作成した教材(40 点)を総合的に判断して評価する。		
教科書 (購入必須)			
参考書 (購入任意)	「イラストでわかる A B A 実践マニュアル」、合同出版		

科 目 名	教育心理学		
科 目 名 (英 語)	Educational Psychology	シラバスNo.	250050040
担 当 教 員 名	糸田 尚史		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	心理臨床の現場（児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センター）において心理職（判定員・福祉専門員・心理士）として勤務した経験を有し、現在も児童相談所で児童心理司研修の講師も務めている実務家出身教員が、人間性にとって不可欠な「教育」という営為に寄与する科学としての心理学について指導する科目		
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	教育にかかわる心理学の理論と実践について学び、知識や応用力を修得する ・教育にかかわる心理学の理論を理解している ・教育にかかわる心理学の知識を有し、教育現場で活用できる力が身についている ・教師としての自覚と責任をもつことができる		
受 講 の 留 意 点	教育心理学の実験や演習も行うので積極的に参加してほしい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	発達、神経発達症（知的能力障害・ASD・ADHD・SLDなどの発達障害）、学習、記憶、モチベーション（動機づけ）、知能、学校心理学、教育心理学史など、教育と関連の深い心理学的なトピックスについて解説する。 アクティブ・ラーニングの内容 実際の知能検査用具や教育相談事例などにもふれ、検討する。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材、教育にかかわる優れた絵本などのビジュアルなコンテンツ、教育的な遊びなども織り交ぜ、その体験をシェアリングし合う。		
授 業 の 計 画	1 発達(1)：発達（獲得と喪失）、生理的早産（ポルトマン）、遺伝・環境、比較行動学（ローレンツ）、パーソナリティ発達理論（フロイト）、ライフサイクル論（エリクソン）、発生的認識論（ピアジェ）、愛着（アタッチメント）理論、発達の最近接領域（ヴィゴツキー） 2 発達(2)：言語発達、概念発達、認知発達、遊びの発達、道徳性の発達、アイデンティティ（自我同一性）論 3 発達の障害（神経発達症群）と特別支援教育(1)：知的能力障害、ASD（自閉スペクトラム症）、心の理論、サリーとアン課題（誤信念課題）、発達検査（新版 K 式 2020） 4 発達の障害（神経発達症群）と特別支援教育(2)：SLD（限局性学習症）、ADHD（注意欠如多動症）、教育（発達支援）法 5 学習(1)：レスポナント（古典的）条件づけ（パブロフ）、オペラント（道具的）条件づけ（スキナー）、社会的学習（社会的認知）理論（バンデューラ） 6 学習(2)：状況論的アプローチ（レイブとウエンガー）、生態学的システム理論（Bronfenbrenner）、 7 学習(3)：発見学習（ブルナー）、有意味受容学習（オズベル）、適性処遇交互作用（クロンバック） 8 記憶(1)：二重貯蔵モデル（記憶の貯蔵庫モデル）、感覚記憶、ワーキングメモリー（中央実行系、視空間スケッチパッド・音韻ループ・エピソードバッファ）、長期記憶 9 記憶(2)：陳述記憶（エピソード記憶、意味記憶）、非陳述記憶（非連合学習（馴化・鋭敏化）、条件づけ、プライミング記憶、手続き記憶）、系列（内）位置効果、忘却、メタ認知、記憶方略 10 動機づけ(1)：欲求階層説（マズロー）、内発的動機づけ・外発的動機づけ、好奇心、過剰正当化効果 11 動機づけ(2)：学習性無気力（セリグマン）、原因帰属理論（ワイナー）、自己効力感（バンデューラ） 12 知能(1)：2 因子説（スピアマン）、多因子説（サーストン）、流動性知能・結晶性知能（キャッテル）、CHC（キャッテル・ホーン・キャロル）理論		

	13 知能(2)：知能検査法、ビネー法、ウェクスラー法（WPPSI-Ⅲ、WISC-V、WAIS-Ⅳ）、カウフマン法（KABC-Ⅱ）、知能指数（IQ） 14 学校心理学：教育評価、教育相談、不登校、心理検査法、心理的支援 15 教育心理学史：まとめ		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	上記授業計画に基づき、事前に当該の教育心理学的トピックスについて、山村豊・青木智子 編著『改訂版 学びのための心理学』（北樹出版）の教科書を読み、大学図書館、インターネットなどを活用し、専門用語の意味を理解しておく。
	復習	90分	授業で配布された PowerPoint の紙媒体資料とそれに書き加えられたメモ書きをもとに、事後にも教科書、参考書、大学図書館、インターネットなどのツールやリソースにより、復習していただく。
成績評価方法	(1) 期末レポート：70% (2) 授業毎のリアクション・ペーパー：30%		
教科書 (購入必須)	山村豊・青木智子 編著 『改訂版 学びのための心理学』 北樹出版 2020年		
参考書 (購入任意)	斎藤富由起・守谷賢二 編著 『教育心理学の最前線』 八千代出版 2019年 子安増生・丹野義彦・箱田裕司 監修 『有斐閣 現代心理学辞典』 有斐閣 2021年 ナイジェル・C・ベンソン 著（清水・大前 訳） 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年		

科 目 名	特別支援教育の基礎				
科 目 名（英 語）	fundament of Special Needs Education		シラバスNo.	250050050	
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資 格 要 件	教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、各項目において経験に基づく具体的な内容を盛り込むことで、学生が興味や関心を持つとともに教育のやり甲斐を感じることができるようにする。				
対応する ディプロマ・ポリシー	・ 人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる視点を身に付けている。 ・ 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。				
学 修 到 達 目 標	教育職員免許法の改正に伴って、本授業が設定された経緯について理解する。インクルーシブ教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子どもの教育の在り方について理解する。障害についての基本的な理解や具体的な支援の方法について理解する。障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。感覚過敏などによって障害等のある子どもが感じている生きづらさ（偏食など）について理解する。				
受 講 の 留 意 点	授業の終了後に配布するリアクションペーパーには、講義の感想やもっと知りたいこと、学んだことを専門職としてどのように生かしていくかを書いて提出することになっているが、もっと知りたいと思ったことについては、次の講義までに自分でも調べたり考えたりしてみること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	(1) インクルーシブ教育を支える理念、(2) 障害等の理解と支援 (3) 家庭及び関係機関との連携、(4) 障害等のある子どもにかかわる教育や福祉の現状と課題 (5) 感覚過敏や感覚鈍磨、(6) 発達障害児の偏食、などに関する学ぶ。 リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。				
授 業 の 計 画	1 特殊教育から特別支援教育へ転換の経緯 2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが目指すもの 3 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHDの児童生徒 4 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラムの児童生徒 5 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(3) 診断のない児童生徒 6 児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション 7 児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動 8 特別支援学級、通級指導教室の教育課程と個別の教育支援計画 9 特別支援学校の教育課程と自立活動の指導 10 就学に向けた相談支援体制と福祉制度 11 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制 12 家庭や地域と連携した支援体制の構築 13 関係機関と連携した支援体制の構築 14 発達障害児の偏食の原因とその理解 15 発達障害児の偏食への対応				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分			
	復習	90 分	授業の内容について関心を持ったことを調べる。		

成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーにより、特別支援教育への関心の持ち方や講義内容の理解の状況を把握し、評価する。
教 科 書 (購 入 必 須)	
参 考 書 (購 入 任 意)	発達障害とはなにか（古荘純一著） 発達障害児の偏食改善マニュアル（山根希代子監修）

科 目 名	教育課程論					
科 目 名（英 語）	Curriculum Theory		シラバスNo.		250050060	
担 当 教 員 名	河合 宣孝					
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択			資 格 要 件	教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	北海道立高校で 34 年間、教諭、教頭、校長の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義実践に努めている。学習指導要領と教育課程編成の学習においては、学校現場における教育課程編成の実際について体験的に学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントについて学校経営・学校運営の経験に基づく具体例を紹介しながら学びを展開していく。					
対応する ディプロマ・ポリシー	本科目は、栄養学科学位授与方針、2 幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている、6 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている、および、社会福祉学科学位授与方針 2 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている、5 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている、に対応している。					
学 修 到 達 目 標	① 教育課程に関する基本的事項やカリキュラム研究成果（理論）の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。 ② 新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握するとともに、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べることができる。 ③ 各学校における実際の教育課程表を読み取りその教育内容を考察するとともに、自らが担当する教科科目を教育課程に位置付けて教育内容を構想することができる。					
受 講 の 留 意 点	・ 学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題や学校課題解決のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。 ・ 教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと（割り当てや資料作成方法などは講義で説明します）。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	わが国の学校教育の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程・カリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、学校における教育課程編成の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、新学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、これからの学校教育の展開の在り方とその課題を考察する。あわせて法令を踏まえた教育課程の編成・実施の実際について学び、カリキュラム・マネジメントを通じて生徒に求められる資質・能力をいかにして身に付けさせるかについて考察する。 アクティブ・ラーニングの内容 ①個人ワーク、ペアワーク、グループワーク等をその都度実施することを通じて、「思考と対話の実践」を多く取り入れる。 ②学生全員が高校時代(中学時代)に経験した学習の教育課程表を再現しグループ活動で説明する。 ③学生全員が、割り当てられた教科書のPPT資料を作成・発表する「輪読発表」を通じて「まとめる力、発表する力」を獲得する機会とする。					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造 3 近代・現代日本の教育課程の歩み 4 教育課程の編成と諸要因 5 学習指導要領と教育課程編成の実際 6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 8 教育課程と評価 9 カリキュラム開発と学力向上策 10 国際学力調査の教育課程改革への影響					

	11 様々な教育課程の改革 12 新しい学習指導要領の検討（１）理念・キーワード 13 新しい学習指導要領の検討（２）改訂内容など 14 教育課程の現代的課題（カリキュラム・マネジメント等について） 15 講義のまとめ	
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	各講２時間 × 15 回 = 30 時間 大学設置基準の定める時間数は 2 単位×45 時間＝90 時間となっています。授業時間外での学修時間は 90 時間－30 時間＝60 時間となります。このため予習・復習にそれぞれ 30 時間の学修を要しますので、各講の教科書の該当ページについて事前に読んで予習をして授業に臨んでください。
	復習	各講２時間 × 15 回 = 30 時間 講義後に授業ノートや配布資料等を見直し、復習をしてください。
成績評価方法	■レポートや演習課題等の提出（30 点） ■まとめの演習課題提出（30 点） ■グループワークを含む授業への参加状況や輪読の発表成果（40 点）	
教科書 （購入必須）	古川治ほか編(2019)『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房	
参考書 （購入任意）	文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領」（平成 30 年 3 月告示） 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵（2018）「新しい時代の教育課程[第 4 版]」有斐閣	

科 目 名	生徒指導論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Student teaching theory			シラバスNo.	250050110
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件	教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	学校教育教員、社会教育主事の経験から、実際に教育現場でおこった出来事を例示しながら授業を展開していく。				
対応する ディプロマ・ポリシー	<栄養学科> 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。 <社会福祉学科> 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができるようになる。 ②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができるようになる。 ③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができるようになる。 ④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができるようになる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為の対応など幅広い生徒指導の内容を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について、事例をもとに学習を深める。教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 ケーススタディ、グループワーク、グループディスカッション				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①－目標と課題 2 生徒指導の目的②－発達観・指導観・新しい生徒指導の使命 3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導 4 生徒指導の組織と計画 5 生徒指導の意義と機能 6 生徒理解の内容 7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導 8 教育相談の理解と進め方 9 適応と発達 防衛機制と適応障害 10 問題行動①－様相 11 問題行動②－種類と原因 12 問題行動③－処遇 13 進路指導の目的と内容 14 教育現場の実際にふれる（ケーススタディ）グループ協議と発表 15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師」講義のまとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	次時の学習内容について、生徒指導提要（改訂版）の該当部分を予習する。		
	復習	30 分	授業の内容を整理し、ノートにまとめる。		

成 績 評 価 方 法	1. 定期試験 85 点 2. リアクションペーパー 15 点（授業の感想、課題提出など） 3. 授業態度を加味する
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	授業ごとに資料を用意する。
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義の中で適宜紹介する。生徒指導提要（改訂版）（文部科学省 令和4年 12 月）については、文科省の hp から閲覧できるので適宜活用すること。

科 目 名	公民科指導法Ⅰ				
科 目 名（英 語）			シラバスNo.	250050210	
担 当 教 員 名	堂徳 将人				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件	教職（高公）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立高校地歴・公民科教諭としての生徒への指導、道教委指導主事や道立高校管理職として公民教育担当教員への指導・助言、大学教職課程担当教員としての学生への指導、北海道公民教育学会や日本公民教育学会での教育研究、主権者教育アドバイザーの経験を活かし、教育の現状と課題を明確にしつつ、課題解決への考察を深める。				
対応する ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	（１）公民科の教育目標、育成を目指す資質・能力を概観し、学習指導要領に示された公民科及び公民科各科目の目標や内容、内容構成等について説明できる。 （２）公民科各科目の個別の学習内容について、指導上の留意点・指導方法・評価方法などの基本的な考え方や具体的な実践方策を理解している。 （３）公民科の背景となる学問領域との関連を理解し、望ましい教育課程の編成・実施や教材研究に活用することができる。 （４）公民科が抱える今日的な課題について理解するとともに、発展的な学習内容について探求し、学習指導の改善方策について実践的に考察することができる。				
受 講 の 留 意 点	予習・復習については、その都度指示する。テキストや配布資料等は必ず持参すること。 主体的・意欲的な授業参加を期待する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	公民教育の意義と役割について理解し、個別最適化された学びと協働的な学びとの関係について考えながら、年間指導計画・内容・方法などについて検討する。 アクティブ・ラーニングの内容 PBL 型の講座とし、グループワークや ICT 活用などを図る。				
授 業 の 計 画	1 公民科の意義と役割 NO1（ガバナンス、現代社会の特質と公民的な資質・能力の育成） 2 公民科の意義と役割 NO2（公民教育の歴史的変遷、改正教育基本法の目標と公民科） 3 学習指導要領（平成 21 年告示と平成 30 年告示における公民科の目標・内容・内容構成） 4 学習指導要領の改訂の基本方針と「公民科」及び「公民科各科目」の改善の要点 5 「令和の日本型学校教育」と公民教育の改善の視点 6 「政治・経済」の目標・内容と指導の在り方（年間指導計画の作成） 7 「政治・経済」の指導上の留意点と評価の在り方（単元指導計画の作成、発表、研究協議） 8 「倫理」の目標・内容と指導の在り方（年間指導計画の作成） 9 「倫理」の指導上の留意点と評価の在り方（単元指導計画の作成、発表、研究協議） 10 「公共」の目標・内容と指導の在り方（年間指導計画の作成） 11 「公共」の指導上の留意点と評価の在り方（単元指導計画の作成、発表、研究協議） 12 公民科教育におけるクロスカリキュラムの意義と役割(演習) 13 公民科教育におけるクロスカリキュラムの実践計画（調査・発表、研究協議） 14 公民科における主体的・対話的で深い学びを求めて（調査・発表、研究協議） 15 定期試験				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	事前提示された学習課題を把握し、授業参加のための準備を行う。		
	復習	90 分	授業を通じた学習課題に対して、主体的に探究し、解決方策をとりまとめる。 （調査、研究、レポート、発表など）		

成 績 評 価 方 法	評価は定期試験の他、課題プリントへの取り組み、年間指導計画の作成や単レポート、調査・発表や研究協議・演習への参加等をもとに総合的に行う。 100点満点（授業参加態度 10%、試験60%、レポート 30%）
教科書 （購入必須）	○ 堂徳将人編著『高等学校 ICT で実現する個別最適な学び・協働的な学び』学事出版 2023 年 ○ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍 2018 年（平成 30 年）
参考書 （購入任意）	○ 堂徳将人著『公民教育の新展開』学事出版 2011 年（授業時に配布する） ○ 日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』第一学習社 2019 年 ○ 文部科学省検定済み教科書（公民科各科目）

科 目 名	公民科指導法Ⅱ				
科 目 名 （ 公 民 ）			科目ナンバリング	250050220	
担 当 教 員 名	堂徳 将人				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資 格 要 件	教職（高公）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立高校地歴・公民科教諭としての生徒への指導、道教委指導主事や道立高校管理職として公民教育担当教員への指導・助言、大学教職課程担当教員としての学生への指導、北海道公民教育学会や日本公民教育学会での教育研究、主権者教育アドバイザーの経験を活かし、教育の現状と課題を明確にしつつ、課題解決への考察を深める。				
対応する ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	（１）公民科に期待される新たな役割と課題の認識をもとに、新しい時代に求められる公民科教育の在り方について、理論と実践の両面から理解している。 （２）生徒の実態に応じた授業の重要性とともに、公民科各科目の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活かすことができる。 （３）学習指導案の構成を理解し、公民科各科目の具体的な授業を想定した学習指導案を作成するとともに、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 （４）公民科における実践研究の動向を把握し、授業設計及び授業実践の向上に取り組むことができる。				
受 講 の 留 意 点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容などについて、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的な力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に授業に参加することを期待する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	公民科指導法Ⅰで培った資質・能力をもとに、理論と実践の往還の中で授業者としての実践的な力量を高める。模擬授業の実践を中心とする。 アクティブ・ラーニングの内容 ICT の活用、主体的・対話的で深い学びを模擬授業で活かすことができるよう取り扱う。また、受講者間で改善・充実の方策を協議しつつ、実践的な指導力の向上を目指す。				
授 業 の 計 画	1 「公民科」への新たな期待（主権者教育の充実に向けて）（模擬選挙の指導計画の作成） 2 新しい時代に求められる公民の資質（公共と社会を形成する自立的な主体、ESD の考察） 3 模擬授業計画の策定（生徒の認識・思考・学力等に応じた授業計画の策定、情報機器及び教材の効果的な活用法）（演習） 4 学習指導案の策定 NO1（単元指導計画、本時の目標・内容・指導方法・評価）（演習） 5 学習指導案の策定 NO2（導入・展開・整理と指導上の留意点）（演習） 6 「政治・経済」の授業設計と指導の在り方（学習指導案の作成、発表、研究協議） 7 「政治・経済」の指導と評価（模擬授業の実施と自己・相互評価）（質疑応答、研究協議） 8 「倫理」の授業設計と指導の在り方（学習指導案の作成、発表、研究協議） 9 「倫理」の指導と評価（模擬授業の実施と自己・相互評価）（質疑応答、研究協議） 10 「現代社会」「公共」の授業設計と指導の在り方（学習指導案の作成、発表、研究協議） 11 「現代社会」「公共」の指導と評価（模擬授業の実施と自己・相互評価）（質疑応答、研究協議） 12 模擬授業を振り返って（授業改善の方策）（研究協議・レポート作成） 13 「公民科」における授業改善の視点（主体的・対話的で深い学びを重視した指導の方策） 14 「公民科」における実践研究の動き（情報機器及び教材の効果的活用の先導的な実践） 15 「公民科」における「社会に開かれた教育課程」づくりを求めて（研究協議）				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	事前提示された学習課題を把握し、授業参加のための準備を行う。		
	復習	90 分	授業を通じた学習課題に対して、主体的に探究し、解決方策をとりまとめる。（調査、研究、レポート、発表など）		

成 績 評 価 方 法	評価は定期試験の他、課題プリント、学習指導案の作成、模擬授業の実施、模擬授業の振り返りに行う研究協議、自己評価表・相互評価表の作成、レポート作成、調査・発表、演習への参加等をもとに総合的に行う。(試験 10%、模擬授業指導計画 30%、授業参加・研究協議など態度 540%、ポートフォリオ 20%)
教 科 書 (購 入 必 須)	○ 堂徳将人編著『高等学校 ICT で実現する個別最適な学び・協働的な学び』学事出版 2023 年 ○ 『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍 2018 年(平成30年)
参 考 書 (購 入 任 意)	○ 堂徳将人著『公民教育の新展開』学事出版 2011 年(授業時に配布する) ○ 日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』第一学習社 2019 年 ○ 文部科学省検定済み教科書(公民科各科目)

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理			
科 目 名（英 語）	Psychology, Physiology, and Pathology of Person with Physical Handicaps	シラバスNo.	250050290	
担 当 教 員 名	高橋和明、田中肇			
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資 格 要 件 教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。			
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	・ 肢体不自由(運動障害)の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴を理解し、配慮や留意すべき内容等について説明できる。 ・ 人間の身体の仕組み、定型発達(運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等)を理解し、肢体不自由(運動障害)がある場合の障害特性が説明できる。 ・ 肢体不自由(運動障害)の子どもがいる家族の支援や医療機関との連携の大切さについて理解し、説明できる。			
受 講 の 留 意 点	肢体不自由教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	人間の身体の仕組み、乳幼児の定型発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由者の教育において出会うことの多い疾患の特性について病理学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援、関係機関の連携等について学習します。			
	アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション / 肢体不自由とは 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます / 肢体不自由という用語の成立について学習します 2 人間の身体の仕組み 人間の身体の基本的な仕組みについて仕組みについて学習します 3 定型発達 運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等に関する定型発達について学習します 4 肢体不自由(運動障害)が発達に与える影響 肢体不自由(運動障害)があることによって発達にどのような影響があるかについて学習します。 5 肢体不自由者の心理的特性 肢体不自由者に見られる心理的特性について学習します。 6 脳性まひの理解と支援 脳性麻痺の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 7 二分脊椎の理解と支援 二分脊椎の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 8 筋ジストロフィーの理解と支援 筋ジストロフィーの病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 9 ペルテス病・骨系統疾患の理解と支援 ペルテス病・骨系統疾患の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 10 手足の先天奇形・関節拘縮症の理解と支援 手足の先天奇形・関節拘縮症の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます			

	1 1 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解と支援 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます 1 2 重度・重複障害児の理解と支援 医療的ケア児、超重症児等を含む重度・重複障害児の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます 1 3 肢体不自由者のリハビリテーション 肢体不自由者に関連するリハビリテーションの内容や方法について学習します。 1 4 肢体不自由者の家族の支援、関係機関の連携 肢体不自由者の家族の支援のあり方、関係機関の連携方法等について学習します。 1 5 まとめ / 肢体不自由者を支援する際に大切なこととは 授業で学習した内容をもとに、肢体不自由者を支援する際に大切にしていきたいことについて考えます。		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	シラバスを参考に教科書の関連箇所を読み、基礎的な内容を理解しておいてください。
	復習	90 分	講義の内容についてノートを整理し、知識の定着を図ってください。 課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。
	第 5 回～第 12 回については、みなさんに教科書の内容について報告していただきます。		
成 績 評 価 方 法	提示課題の取組状況(30 点)、振り返りレポート(30 点)、課題レポート(40 点)として総合的に評価します。		
教 科 書 (購 入 必 須)	「肢体不自由児の医療・療育・教育」(沖高司 編者、金芳堂)		
参 考 書 (購 入 任 意)	肢体不自由児の教育〔新訂〕(川真健之助 長沼静夫 著, NHK 出版)		

科 目 名	病弱心理・生理・病理				
科 目 名（英 語）	Psychology, physiology, and pathology of people with illness		シラバスNo.	250050300	
担 当 教 員 名	下村 遼太郎・高橋 和明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。				
対応する ディプロマ・ポリシー	多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている				
学 修 到 達 目 標	・ 病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。 ・ 具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。 ・ 病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。				
受 講 の 留 意 点	病弱・身体虚弱教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。				
	アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち（高橋担当） 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます ／病気の子どもの心理的状況について考えます。 2 健康、病気、障害の概念（高橋担当） 健康、病気、障害の用語の概念について整理します。 3 病気・障害の受容とセルフケア（高橋担当） 病気や障害を受容する過程、セルフケアとの関係について学習します 4 病弱者・障害者の心理的特性（高橋担当） 病弱者・障害者が有する心理的な特性について学習します 5 病弱者・障害者と家族の支援（高橋担当） 病弱者・障害者の家族への支援について学習します 6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携（高橋担当） 病弱者・障害者及びその家族を支えるための他職種連携のあり方について考えます。 7 小児期の慢性疾患Ⅰ（ぜんそく・アレルギー等）（下村担当） 小児期のぜんそく・アレルギー等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 8 小児期の慢性疾患Ⅱ（腎臓病・心臓病等）（下村担当） 小児期の腎臓病、心臓病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 9 小児期の慢性疾患Ⅲ（糖尿病等）（下村担当） 小児期の糖尿病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 10 悪性腫瘍（小児ガン、脳腫瘍等）（下村担当） 小児の悪性腫瘍の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 11 進行性筋ジストロフィー（下村担当） 小児期の筋ジストロフィー患者の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 12 てんかん、血友病、その他の疾患（下村担当） 小児期のてんかん、血友病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。				

	13 心身症・精神疾患（下村担当） 小児期の心身症、精神疾患の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 14 病弱者の支援における今日的課題（高橋担当） 病弱・身体虚弱者に関する最近のデータや政策等から今日的課題について整理し、学習します 15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと（高橋担当） 授業で学習した内容をもとに、病弱・身体虚弱者を支援する際に大切にしていきたいことについて考えます。		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	シラバスを参考に病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図ってください。
	復習	90 分	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組んでください。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ、授業内で提示された参考文献等を参考にして、ノートを整理し、知識の定着を図ってください。
成績評価方法	下村授業担当分 50 点(定期試験)、高橋担当授業分 50 点(授業振り返りシート 20 点、提示課題の取組状況 10 点 課題レポート 20 点)として、2 名の教員の総合点(満点は 100 点)によって評価します。		
教科書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です		
参考書 (購入任意)	特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理（小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一 編著、ミネルヴァ書房） 病気がみえる vol.15 小児科(医療情報科学研究所 編、メディックメディア) イラストを見せながら説明する 子どもの病気とその診かた(金子堅一郎 編、南山堂)		

科 目 名	障害児教育課程論				
科 目 名（英 語）	Curriculum for handicapped child			シラバスNo.	250050310
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、教育課程や学習指導要領の重要性について、経験に基づく具体的な内容を盛り込み、理解を深めることができる。				
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。				
学 修 到 達 目 標	児童生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校の教育実践において、各学部間で系統性と一貫性がある教育課程の編成について理解することができる。授業改善とカリキュラムマネジメントの関連を理解することができる。				
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義であるため、知的障害以外の障害に関する学びと関連付けながら、教育課程に関する理解を深めていくことが望ましい。講義内容については、特別支援学校学習指導要領解説で確認すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	視覚障害教育や聴覚障害教育から始まった「特殊教育」の時代から、現在の「特別支援教育」に至る過程を理解した上で、今後の展望を見通し、特別支援教育の理念を十分に理解しながら、知的障害の障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、改訂された学習指導要領に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と作成の際の留意点等について理解する。自立活動について、実態把握から指導計画の作成までの流れを学ぶ。特別支援学校の見学を通して、特別支援教育の現状を理解する、				
	リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。				
授 業 の 計 画	1 知的障害教育の専門性 2 特別支援学校の教育課程① 3 特別支援学校の教育課程② 4 教育課程と個別の指導計画の関連 5 個別の指導計画とカリキュラムマネジメント 6 学習指導要領改訂の変遷と意義 7 養護・訓練から自立活動への変遷の経緯と具体的な指導内容 8 学習指導要領の改訂のポイント① 小・中学部の教育課程 9 学習指導要領の改訂のポイント② 高等部の教育課程 10 各教科等を合わせた指導 11 重複障害者等に関する教育課程の取り扱い 12 見学予定の特別支援学校の特色と教育課程 13 特別支援学校の見学①（小中高等部設置校） 14 特別支援学校の見学②（高等部単独設置校） 15 見学のまとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分			
	復習	90 分	個別の指導計画との関連を考えながら教育課程について考える。		

成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーの記述内容（30 点）、レポート（70 点）で評価する。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）上・下 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
科 目 名（英 語）	Curriculum Theory for Person with Physical Handicaps		シラバスNo.		250050320
担 当 教 員 名	森田 隆行				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。				
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・ 肢体不自由教育の教育内容、指導方法等の現状や課題を整理して報告することができる。 ・ 特別支援学校(肢体不自由)の学習指導要領に提示されている教育課程、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について理解し、説明することができる。 ・ 肢体不自由者の実態に合わせた学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。				
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のために必要な必須の講義です。他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害等）の教育課程、指導法、心理学・生理学・病理学的知見等についても理解を深めておいてください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	文献研究を通して肢体不自由教育の現状や課題について理解を深めます。そのうえで、既習の学習指導要領、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について再学習を通して肢体不自由教育に関する知識の定着を図った後、模擬授業と授業研究を通して学習指導案の作成や授業方法、内容について、体験的に学びます アクティブ・ラーニングの内容 提示された課題について各自でまとめた後、受講生間でお互いに考えた内容について意見交換をします。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション / 肢体不自由教育とは 授業の進め方、評価方法等の概要を共有します。さらに、肢体不自由教育の概要を学習します 2 肢体不自由教育の歴史と現状 肢体不自由教育のこれまでの歩みと現状について学習します 3 肢体不自由教育の制度 特別支援教育の制度の中での肢体不自由教育の現状を学習します 4 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴） 肢体不自由教育の教育課程の特徴、類型等について学習します 5 個別の教育支援計画・指導計画の作成 肢体不自由者を対象とした個別の教育支援計画・指導計画の作成、意義等について学習します 6 肢体不自由教育の内容と指導法① 自立活動 自立活動について全体的に再学習した後、肢体不自由教育における自立活動の内容、指導方法等について学習します 7 肢体不自由教育の内容と指導法② 身体の動き 肢体不自由者の身体的特徴を整理し、自立活動における身体の動きの内容、実際の指導方法について学習します 8 肢体不自由教育の内容と指導法③ コミュニケーションの指導 肢体不自由者のコミュニケーションの特徴を整理し、自立活動におけるコミュニケーションの指導の内容、指導方法等について学習します 9 肢体不自由教育の内容と指導法④ 各教科の指導 肢体不自由者が各教科を学習する際の困難さ、支援の内容や方法等について考えます				

	10 肢体不自由教育の内容と指導法⑤ 体育等の指導 肢体不自由者の体育の授業における指導の内容、方法等について考えます 11 肢体不自由教育の内容と指導法⑥ 重度・重複障害者の特性と配慮 肢体不自由教育が対象とする重度・重複障害者の特性や配慮事項等について考えます。 12 肢体不自由教育の内容と指導法⑦ 重度・重複障害者の指導計画と実際の指導 肢体不自由教育が対象とする重度・重複障害者の特性を踏まえた指導計画を立て、具体的な指導方法や教材について考え、発表します。 13 肢体不自由教育の内容と指導法⑧ キャリア教育・進路指導 キャリア教育、進路指導の基礎的事項を確認し、肢体不自由者におけるキャリア教育、進路指導の在り方について考えます。 14 肢体不自由教育の動向と課題 肢体不自由教育が対象とする幼児児童生徒に関連する政策等の動向や課題等について整理し、学習します 15 まとめ / 肢体不自由教育における専門性 授業全体を振り返り、肢体不自由教育における専門性について自身の考えをまとめます		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業に関連する特別支援教育の基本的な用語や知識について整理し、理解をしておく
	復習	90 分	授業課題が出された時には、その課題に取り組む。全ての授業内容について、配布されたプリントや教科書を活用してノートにまとめ、知識の定着を図る
成 績 評 価 方 法	振り返りレポート(30 点)、提示課題の取組状況(30 点)、課題レポート(40 点)とし総合的に評価します		
教 科 書 (購 入 必 須)	テキスト ・特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部) ・特別支援学校高等部学習指導要領 ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) * その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します		
参 考 書 (購 入 任 意)	特別支援教育概論 (杉野学 編者、大学図書出版) * その他、講義内で適宜紹介します。		

科 目 名	肢体不自由教育演習				
科 目 名（英 語）	Practice of Teaching the Orthopedically Impaired		シラバスNo.	250050330	
担 当 教 員 名	森田 隆行				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。				
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・ 肢体不自由教育の教育内容、指導方法等の現状や課題を整理して報告することができる。 ・ 特別支援学校(肢体不自由)の学習指導要領に提示されている教育課程、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について理解し、説明することができる。 ・ 肢体不自由者の実態に合わせた学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。				
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、聴覚障害、視覚障害、発達障害等）の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	文献研究を通して肢体不自由教育の現状や課題について理解を深めます。そのうえで、既習の学習指導要領、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について再学習を通して肢体不自由教育に関する知識の定着を図った後、模擬授業と授業研究を通して学習指導案の作成や授業方法、内容について、体験的に学びます。				
	アクティブ・ラーニングの内容 ①肢体不自由教育の動向を整理した文献兼研究レポートの作成と発表、及び意見交換 ②模擬授業指導案の作成・実施及び意見交換				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション / 授業の進め方 授業の概要、課題の内容、授業の進め方について説明をします 2 肢体不自由教育に関する動向の理解①文献検索の方法と実際 インターネットの論文検索サイト活用した文献検索方法を学習し、興味のある一論文について概要をまとめた報告書の作成方法を学習します 3 肢体不自由教育に関する動向の理解②文献検索の報告 前授業で作成した報告書について発表し、意見交換を行います 4 肢体不自由教育に関する研究動向の理解①文献研究レポートのまとめ方及び課題設定 肢体不自由教育に関する文献研究レポートの作成方法、報告の方法等について説明後、自身が調査する課題を設定します 5 肢体不自由教育に関する研究動向の理解②検索文献整理及び文献研究レポートの作成 設定した課題に合った文献の検索、収集及び文献研究レポートを作成します 6 肢体不自由教育に関する文献研究の実際③文献研究報告資料の作成 前授業に引き続き、文献研究レポートの作成及び発表資料を作成します 7 肢体不自由教育に関する文献研究の実際④文献研究の報告 文献研究レポートの概要について発表し、意見交換を行います 8 学習指導要領の理解① 肢体不自由の教育課程について 肢体不自由教育の教育課程について再学習します 9 学習指導要領の理解② 自立活動の目標及び内容について 自立活動の目標及び内容について、再学習します 10 学習指導要領の理解③ 個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係 個別の教育支援計画、個別の指導計画について再学習します 11 肢体不自由者を対象とした模擬授業①学習指導案の作成方法 肢体不自由者を対象とした授業の学習指導案の作成方法を学習します				

	12 肢体不自由者を対象とした模擬授業②学習指導案の作成と模擬授業の準備 模擬授業に向けた学習指導案の作成及び教材作成等授業準備を行います 13 模擬授業演習①(振り返り、評価) 作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施後、意見交換を行います 14 模擬授業演習②(振り返り、評価) 作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施後、意見交換を行います 15 まとめ 15回の授業の振り返りとまとめを行います		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業内容に関連する特別支援教育、肢体不自由教育に関する知識を整理する。研究レポートの作成・報告会資料・模擬授業の事前準備等を行う
	復習	90 分	授業内で提示された課題について、取り組む。全ての授業後に、授業内で使用した資料や配布物の内容をノートにまとめ、知識・技術の定着を図る。
成 績 評 価 方 法	文献検索及び文献研究課題(40 点)、提示課題の取組状況(10 点)、学習指導案(30 点)、模擬授業(20 点)として総合的に評価します。		
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜、資料配布及び視聴覚教材を提示します		
参 考 書 (購 入 任 意)	・特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部) ・特別支援学校高等部学習指導要領 ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) * * その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します		

科 目 名	病弱教育学					
科 目 名（英 語）	Education of people with illnesses		シラバスNo.		250050340	
担 当 教 員 名	高橋 和明					
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択			資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。					
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	・ 病弱・身体虚弱教育の歴史的変遷について知り、病弱・身体虚弱教育の意義、主な対象疾患の特性や配慮事項等について説明できる。 ・ 病弱・身体虚弱教育の教育課程、教育内容、指導方法についての基本的視点について説明できる。 ・ 肢体不自由教育に必要な専門性について自身の考えをまとめ、説明できる。					
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。その他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法についても理解を深めておいてください。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	病弱・身体虚弱教育の歴史を通して、病弱・身体虚弱教育が果たしてきた役割、病弱・身体虚弱教育の意義、ニーズや課題について学習をします。また、病弱・身体虚弱教育の対象としている主な疾患とその特徴について理解を図ります。さらに、病気の子どもに対する教育において実際に行われている支援内容や指導方法、配慮事項等についても学びます。このような授業を通して、病弱教・身体虚弱育に携わる教員に必要な専門性とは何か、を考えていきます					
	アクティブ・ラーニングの内容 提示された課題について各自でまとめた後、受講生間でお互いに考えた内容について意見交換をします。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション / 病気とは 授業の概要を説明します。その後、病気の概念について学習します 2 病気の子どもの教育の歴史と現状 病気の子どもの教育の歴史的な流れ、現状について学習します 3 病気の子どもの多様な学び場 病気の子どもが学習する多様な場所や学習形態について学びます 4 学習指導要領を踏まえた指導① 特別支援学校学習指導要領の概要 特別支援学校学習指導要領の変遷、病弱・身体虚弱教育に関連する箇所を中心に、概要を確認する。 5 学習指導要領を踏まえた指導② 病気の状態に応じた指導の工夫と合理的配慮 学習指導要領の記載事項を確認しながら、病気の状態に合わせた学習指導の際の工夫点、病気の子どもの合理的配慮について考えます 6 各校における指導事例① 特別支援学校における教育課程、指導内容・方法 特別支援学校（病弱・身体虚弱）における教育課程、指導内容、指導方法について理解を図ります 7 各校における指導事例② 小・中学校等の特別支援学級における教育課程、 小・中学校等の特別支援学級（病弱・身体虚弱）指導内容、指導方法について理解を図ります 8 各校における指導事例③ 特別支援学校におけるセンター的機能 特別支援学校（病弱・身体虚弱）にて実施されているセンター的機能の内容、役割等について学習します 9 病気等の必要に応じた指導と配慮事項① ～悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患 悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患の病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します					

	10 病気等の必要に応じた指導と配慮② ～骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患 骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患の病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します 11 病気等の必要に応じた指導と配慮③ ～腎疾患、循環器系疾患、てんかん 腎疾患、循環器疾患、てんかんの病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します 12 病気等の必要に応じた指導と配慮④ ～心身症及び精神疾患 心身症及び精神疾患の病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します 13 病気等の必要に応じた指導と配慮⑤ ～重症心身障害、医療的ケアが必要な子ども 重症心身障害、医療的ケアが必要な子どもの病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します 14 病気等の必要に応じた指導と配慮⑥ ～ターミナル期にある子ども ターミナル期にある子ども及び家族の心理的状況を知り、教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します 15 まとめ / 病弱教育における専門性 授業全体を振り返り、肢体不自由教育における専門性について自身の考えをまとめます		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	シラバスを参考に教科書の関連箇所を読み、基礎的な内容を理解しておいてください。
	復習	90 分	講義の内容についてノートを整理し、知識の定着を図ってください。課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。
成績評価方法	振り返りレポート(30 点)、提示課題の取組状況(30 点)、課題レポート(40 点)とし総合的に評価します		
教科書 (購入必須)	特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携(全国特別支援学校病弱教育校長会 編著、ジアース教育新社) ＊その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します		
参考書 (購入任意)	特別支援教育概論 (杉野学 編著、大学図書出版) ＊その他、講義内で適宜紹介します。		

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導					
科 目 名（英 語）	Education for handicapped child teaching practice Pre-post guidance		シラバスNo.		250050370	
担 当 教 員 名	矢口 明					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択			資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	事前指導では、過去の障害児教育実習の研究授業の動画を視聴し、授業の進め方について学ぶ。合わせて学習指導案の書き方について学ぶ。 事後指導では、研究授業の録画を視聴しながら、指導の在り方についての協議を通して課題を明らかにする。実習報告会では、障害児教育実習で得たことをまとめて報告する。					
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。					
学 修 到 達 目 標	障害児教育実習は、特別支援学校において障害のある児童生徒への指導を行う重要な場となる。事前指導と事後指導を通じて、児童生徒の障害についての的確に理解し、指導目標を達成するための指導の手立てや評価の方法について理解することができる。					
受 講 の 留 意 点	高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	事前指導では、学習指導案を参照しながら過去の障害児教育実習の動画を視聴して、授業についての協議を行い、学習指導案の作成方法について学ぶ。事後指導では、自分自身の研究授業の動画を視聴し、課題点等を協議する。実習報告会では、実習の概要や課題、感想等について発表する。 視聴した授業について、児童生徒への働きかけの工夫や課題点などに関して協議することで、授業研究の在り方を理解する。					
授 業 の 計 画	事前指導 1. オリエンテーション 2. 過去の研究授業の動画を視聴し、授業についての協議を行う 3. 学習指導案の作成 4. 模擬授業 事後指導 1. 障害児教育実習の反省 2. 実習についての協議 3. 障害児教育実習報告会の資料作成、報告会参加					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分				
	復習	分				
	予習復習の内容については適宜指示をする。					
成 績 評 価 方 法	講義への参加態度（30 点）、学習指導案の評価（30 点）、実習報告会（40 点）を総合的に判断して評価する。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	教育実習日誌（第 4 版）、学術図書出版社、2019 年					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）						

科 目 名	障害児教育実習					
科 目 名（英 語）	Education for handicapped child teaching practice		シラバスNo.		250050380	
担 当 教 員 名	矢口 明					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択			資 格 要 件	教職（特支）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	障害のある子どもたちが在籍している特別支援学校において実習を行う。指導教諭の指導のもと、授業参観や児童生徒への授業を行うことなどを通して特別支援学校の現状に触れることにより、特別支援学校教諭にとって必要不可欠な「子どもたちの障害（特性）の理解」や「障害の状態に応じた適切な関わり」について学ぶ。授業実践を通してティームティーチングの在り方について学ぶ。					
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。					
学 修 到 達 目 標	実習を通して特別支援教育についての理解と認識を深め、特別支援学校教諭の職務や役割について理解することができる。児童生徒の障害についての的確に理解し、指導目標を達成するための指導の手立てや評価の方法について理解することができる。					
受 講 の 留 意 点	高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、これまで学んできた障害のある児童生徒への教育に関する専門的な知識を生かして、授業を計画・実践・評価を行うこと。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別支援学校において、配属された学級または担当する指導グループの児童生徒の教科・領域について、学習指導案の作成や教材研究を基に授業を行う。 実習中は、指導教諭から受ける指導内容や教育実習録への記載を通して、特別支援学校の学級経営等の在り方や学習指導案の作成、教材研究、授業実践と反省等を行い、特別支援教育への理解を深めることができる。					
授 業 の 計 画	実習先の特別支援学校の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に学習する。 0. 実習校における事前指導 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面や生活指導場面の観察 3. 学習場面や生活指導場面の部分的指導 4. 指導計画及び学習指導案の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業の実施（学習指導案作成、教材研究、授業、反省会） 8. 教育実習日誌の記入					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分				
	復習	分				
成 績 評 価 方 法	実習先の特別支援学校の評価及び研究授業の評価を基に、総合的に判断して評価を行う。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	教育実習日誌（第4版）、学術図書出版社、2019年					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）						

科 目 名	感染微生物学				
科 目 名（英 語）	Clinical Microbiology and Infectious Disease		シラバスNo.	250040010	
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の 3 要素、検査、化学療法、感染制御、感染対策について説明できる。主要な感染症の病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。				
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単なる知識の暗記ではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後に質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な考え方を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 微生物学総論：歴史、微生物の種類と特徴 2 細菌総論：形態と構造、グラム染色性、病原性 3 ウイルス・真菌・寄生虫総論 4 免疫：自然免疫、獲得免疫、アレルギー 5 ワクチン・感染症総論：予防接種、感染の 3 要素、感染経路、検査、診断、治療 6 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 7 呼吸器感染症 1：上気道感染症、インフルエンザ 8 呼吸器感染症 2：感染性肺炎、結核、新興呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼・特殊な細菌による感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 敗血症・人獣共通感染症・新興再興感染症 15 感染制御：感染対策、消毒と滅菌				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	神谷茂監修『標準微生物学第 15 版』医学書院（2024 年） 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院（2022 年）				

科 目 名	医学概論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Introduction to Medicine		シラバスNo.	250040030	
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができる。				
受 講 の 留 意 点	教科書および講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義時などに質問すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、はじめに総論および人体の解剖生理の基本的な知識を学んだのち、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。				
	アクティブ・ラーニングの内容：課題（演習問題・リアクションペーパー）提出と教員による振り返り				
授 業 の 計 画	1 ライフステージにおける心身の特徴 2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題 3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）：器官 4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器 5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器 6 身体構造と心身の機能（4）消化器・神経 7 身体構造と心身の機能（5）内分泌・生殖器 8 身体構造と心身の機能（6）筋・骨格・皮膚 9 身体構造と心身機能（7）免疫・感覚器 10 疾病と障害（1）疾病の発生原因と成立機序、リハビリテーション 11 疾病と障害（2）神経疾患、脳血管疾患、心疾患 12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患 13 疾病と障害（4）消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患 14 疾病と障害（5）免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患 15 疾病と障害（6）精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。		
	復習	9 0 分	指定教科書や参考書の講義範囲を通読して、知識を整理しておくこと。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第 4 版』医学書院（2015 年）				

科 目 名	食生活論		
科 目 名 (英 語)	Diet and eating habits theory	シラバスNo.	250040040
担 当 教 員 名	黒河 あおい		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	後期	必修選択	選択
		資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習的效果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化・食習慣に関する知識を修得させる科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 5 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践する力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習的效果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化・食習慣に関する知識を修得する。		
受 講 の 留 意 点	幼児のみではなく総てのライフステージの食生活の現状・課題、さらに地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食変遷を確認する。 後半は日本における食文化を概観し、地域や家庭の食事、学校給食の変遷を確認する。		
	アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・授業終了前 15 分は GW で意見交換を行う。 ・11 回～15 回は、調べ学習・献立作成などの演習を行う。		
授 業 の 計 画	1 ガイダンス：食生活論で何を学ぶか（講義概要の説明）、日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状と課題 3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食生活状況と課題 4 家庭における食事の変遷 5 学校給食の変遷 6 子どもの発達と生活状況 7 幼児・児童生徒の食物アレルギー 8 「国民健康・栄養調査」について 9 「食事バランスガイド」について 10 地場産物と学校給食（実践事例） 11 演習①関心のある地域の地場産物を食べる 12 演習②保育所・幼稚園給食における地場産物の活用を考える 13 演習③幼児向けの地場産物を活用したメニューを考える 14 演習④幼児向けの地場産物を活用したメニューを考える 15 演習⑤についての発表、レポート提出		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業計画に沿って新聞・ネットなどで予習する
	復習	90 分	配布資料・GW の内容に沿って授業を振り返る
	＊毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。		

成績評価方法	発表レポート 40 点・毎回授業の GW と振り返りレポート 60 点により総合的評価する。	
	成績の評価基準	
	3	食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を理解し、その現状から課題を見出し、幼児にとって必要な 1 食分の食事のメニューをたてることができる。
	2	食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を理解し、その現状から課題を見出すことができる。
教科書 (購入必須)	1	食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を理解できる。
	適宜、資料等を配布する。	
参考書 (購入任意)		

科 目 名	子ども家庭福祉 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Child and Family Welfare I		シラバスNo.	250040170	
担 当 教 員 名	鈴木 勲・長津 詩織				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験をもとに、子ども家庭福祉の基礎、応用について教授する。内容には、子ども家庭福祉の理念と概要、制度と実施体系、方法、関係機関との連携や協働などを含む。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を見につけている。				
学 修 到 達 目 標	1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
受 講 の 留 意 点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史的変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また、子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状と動向を学び、今後の課題や展望についても考える。 アクティブ・ラーニングの内容 児童虐待の事例や子ども家庭福祉の課題に関する事例検討を行い、学生に分析と討論を促す。それぞれのケースに対してどのような介入が最適かを考えることで、現実の問題解決能力を養う。また、子ども家庭福祉領域の専門家を招き、実務経験に基づく話を聞く機会を設ける。現場の生の声を聴くことで、理論だけでなく実践の重要性も理解する。				
授 業 の 計 画	1 子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史的変遷 3 子どもの人権擁護 4 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5 母子保健と子どもの健全育成 6 多様な保育ニーズの対応 7 子ども虐待・DV（ドメスティック・バイオレンス）とその防止 8 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 9 障害のある子どもへの対応 10 少年非行等への対応 11 少子化と地域子育て支援 12 子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難 13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14 子ども家庭福祉の施設と専門性 15 地域における連携・協働とネットワーク				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	子どもと家庭に関する日頃のニュース等に関心をもち、自分なりの考えをまとめておく。
	復習	90 分	講義の内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。
成 績 評 価 方 法	最終レポート 70 点、講義内での提出物 30 点		
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜資料等を配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとするこ と。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。		

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Child and family welfareⅡ	シラバスNo.	250040180
担 当 教 員 名	小山 貴博・家村 昭矩・糸田 尚史・小山 和利・鹿野 誠一・藤原 浩		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	後期	必修選択	選択
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	通信制高等学校等での実務経験を有する専任教員（小山貴博）、児童相談所での実務経験を有する専任教員（家村）児童相談所・心身障害者総合相談所・児童家庭支援センターでの実務経験を有する専任教員（糸田）、児童相談所・精神保健福祉センター・心身障害者総合相談所・児童自立支援施設での実務経験を有する非常勤講師（小山和利）児童相談所・旧女子教護院・子ども総合療育センター・児童養護施設での実務経験を有する非常勤講師（鹿野）、児童自立支援施設・児童心理治療施設等での実務経験を有する非常勤講師（藤原）、による多様で特別な支援を必要とする子どもと家庭を理解し、地域社会に根差す視点を養うための科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。 4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。		
学 修 到 達 目 標	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭の課題を理解し、介入や支援を行うことができる。子どもの最善の利益を地域で保障する実践について理解し、子ども家庭福祉の観点から対応することができる。		
受 講 の 留 意 点	積極的に講義や演習に参加し、対話的に深く学ぶことを期待する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭を理解して、関わり方および課題を学ぶ。子どもの最善の利益の保障がどのように地域で取り組まれているかの実践を紹介し、子ども家庭福祉の視野を広げる。 アクティブ・ラーニングの内容 各回テーマを提示して、受講生同士、時には担当教員と共にディスカッションを行う。		
授 業 の 計 画	1 はじめに：（小山貴博） 2 子ども家庭福祉の実践と援助技術（小山貴博） 3 子どもを取り巻く社会的課題としての貧困：通信制高等学校の事例から（小山貴博） 4 社会的養護の種類（小山貴博） 5 里親制度（小山貴博） 6 地域で取り組む社会的養護：児童相談所・心理診断と心理的支援・里親（藤女子大学人間生活学部子ども教育学科教授・元北海道帯広児童相談所長 小山和利） 7 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・旧女子教護院・子ども総合療育センター・児童養護施設（元旭川大学教授・元旭川育児院院長 鹿野誠一） 8 地域で取り組む社会的養：児童自立支援施設（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩） 9 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩）		

	10 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩） 11 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩） 12 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩） 13 地域で取り組む児童虐待：（元名寄市立大学教授 糸田尚史） 14 地域で取り組む児童虐待：（元名寄市立大学教授 糸田尚史） 15 まとめ：望ましい子ども家庭福祉の実現に向けて（小山貴博）		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	施設実習を行う点を考慮して、将来、実習に参加する予定の施設の種別について調べる。
	復習	90 分	講義をまとめる。
成 績 評 価 方 法	筆記試験：100%		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	講義時に適宜資料を配布する。		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	小山貴博「あなたはパンをぬすみませんか：通信制高等学校生の居場所と学習」（浅沼茂編『思考力を育む道徳教育の理論と実践◇コールバーグからハーバーマスへ』黎明書房） 陳省仁・古塚孝・中島常安編著 糸田尚史ほか著 『子育ての発達心理学』 同文書院 坂本健編著 糸田尚史ほか著 『子どもの社会的養護』 大学図書出版 小山充道編著 糸田尚史ほか著 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版		

科 目 名	子ども家庭支援論				
科 目 名 （ 英 語 ）			科目ナンバリング	250040190	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について講義し、家庭支援における保育者の役割について学ぶ科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。 5 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	子育て家庭に対する支援について体系的に学び、説明できるようになる。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状を知り、課題について考察することにより、よりよい支援をできるようになる。				
受 講 の 留 意 点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、家庭支援の意義について理解する。様々な機関の家庭支援の取り組みを学び、連携・協力のあり方を考察する。また、保育者として家庭支援を行っていくために必要な基本的態度について、実際の保育場面等をイメージしながら学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション、模擬支援場面による演習とディスカッション				
授 業 の 計 画	1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書等の関連する箇所を事前に目を通しておく		
	復習	90 分	授業で取り上げられた内容に関して、実際の子育て支援等に結びつけて振り返る		
	講義（70%）と演習（30%）を併用する				
成 績 評 価 方 法	期末レポート（70%）、毎回のコメントシート（30%）				

教科書 (購入必須)	特に指定しない。
参考書 (購入任意)	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院

科 目 名	社会的養護 I				
科 目 名 （ 英 語 ）	Social Care and Protection I		シラバスNo.	250040200	
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験を基に、社会的養護の基礎と応用について教授する。授業では、社会的養護の原理、理念、仕組み、子どもの権利擁護に焦点を当てる。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1.児童福祉施設における保育士の仕事と役割について学ぶ。 2.社会的養護の原理や理念、仕組みについて理解する。 3.社会的養護領域の事例を活用し、社会的養護を必要とする子どもについての理解を深める。				
受 講 の 留 意 点	社会的養護の基礎原理及び社会的養護下にある子どもの現状、児童福祉施設の役割を学び、養護を必要とする子どもの自立支援のための基礎知識を身に付けていくことを目的とする。また、社会的養護の基礎理念、社会的養護の法制度、子どもの権利擁護などの観点から授業を進めていく。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業展開については、授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。 アクティブ・ラーニングの内容 1．実際の児童養護施設や児童相談所の事例を使って、学生が小グループで討議し、社会的養護が必要な子どもに対する具体的な対策を考案する。 2．学生が児童養護施設や児童相談所の専門家や子ども、保護者の役割を演じ、実際の相談シーンを再現する。 3．授業の終わりに、その日のトピックについて意見交換を行う。 4．学生には、授業で学んだ内容や感想、疑問点を記録してもらう。 5．グループまたは個人で、社会的養護を必要とする子どもを支援するプロジェクトを計画し、報告してもらう。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 2 子どもと家庭を取り巻く環境と社会的養護 3 社会的「養護」と子どもの権利「擁護」とは 4 要保護児童や要保護児童とは何か 5 児童福祉施設の機能と役割について 6 家庭と同様の養育環境の保障について 7 社会的養護の変遷について 8 社会的養護の理念と概念 9 社会的養護の基本原則 10 社会的養護の理論について 11 社会的養護のしくみと実施体制 12 社会的養護の専門職に求められる専門性と役割 13 被措置児童等の虐待防止 14 社会的養護の課題と地域福祉 15 全体のまとめと振り返り				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。
	復習	90 分	講義内容を振り返り、考えを深めること。
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーの内容 7 5 % 学期末レポート 2 5 %		
教 科 書 (購 入 必 須)	特に指定しない。適宜資料等を配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミ ネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、 新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。 和田一郎、鈴木勲編著「児童相談所一時保護所の子どもと支援 2 版」明石書店 (ISBN-10 : 4750356514)		

科 目 名	保育者論				
科 目 名 （ 英 語 ）	Theory of Teacher			シラバスNo.	250040210
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・長津 詩織				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について講義し、保育における保育者の役割について学ぶ科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	保育者の役割、倫理、保育士に関する制度を学び、説明できるようになる。 保育士の専門性や保育者同士の協働について考察することにより、専門職として成長していくことができるようになる。				
受 講 の 留 意 点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育者の社会的役割や倫理、職務内容について理解を深めるとともに、保育士の制度的位置づけや専門性、保育者に求められる連携や協働について学ぶ。また、保育実践から専門職者としての成長について考え、自らの目指すべき保育者像を追求する。 現代社会における保育者の役割について、制度や他の専門機関、家庭との関わりなどを踏まえながら学修する。また、保育者として必要とされる知識・技術や保育者の専門職としての成長について、事例等を通じながら学ぶことによって、社会的役割を果たすための保育者像について考える。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション				
授 業 の 計 画	1 保育者の役割と倫理（担当 傳馬） 2 保育士の制度的位置づけ（担当 傳馬） 3 保育士の専門性 養護と教育（担当 傳馬） 4 保育士の専門性 保育士の資質・能力（担当 傳馬） 5 保育と保護者支援にかかわる協働（担当 傳馬） 6 保育者の協働 専門職観及び専門機関との連携（担当 傳馬） 7 保育者の協働 保護者及び地域社会との連携（担当 傳馬） 8 保育者の協働 家庭的保育者等との連携（担当 傳馬） 9 保育士の専門性 知識・技術及び判断（担当 長津） 10 保育士の専門性 保育の省察（担当 長津） 11 保育者の専門職的成長 専門性の発達（担当 長津） 12 保育者の専門職的成長 生涯発達とキャリア形成（担当 長津） 13 保育職場の諸課題：保育者集団とリーダーシップ（担当 長津） 14 保育職場の諸課題：保育者集団と労働条件（担当 長津） 15 まとめ より良い保育者を目指して（担当 傳馬）				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	自ら受けた保育の記憶や実習で出会った保育者を思い出しながら「保育者とは」との視点で予習を行う		
	復習	90 分	復習は、講義内容を振り返り、ノートなどにまとめる		
	講義（70%）と演習（30%）を併用する				

成 績 評 価 方 法	期末レポート（70%）、リアクションペーパー（30%）
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特に指定しない。
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	岸井・無藤・柴崎監修『保育者論—共生へのまなざし—』同文書院 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院

科 目 名	幼児教育史		
科 目 名 (英 語)	History of Early Childhood Education	シラバスNo.	250040220
担 当 教 員 名	稲井 智義		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	選択
		開 講 形 態	講義・演習
		資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及びそれに関わる授業内容	北海道史編さん調査研究委員、北海道教育大学附属旭川幼稚園研究協力者、幼児教育史学会理事の実務経験をふまえ、道内の幼児教育と子ども福祉の展開、幼児教育史研究について紹介します。		
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を尊重し、豊かな人間性と幅広く深い知識・教養を基盤として、社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮する力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	この授業の目標は、受講者が幼児教育の歴史と研究動向を理解して、子どもと教育、社会を完全にわかったつもりにならず、自分で探究をはじめて歴史をつくるための技法を身につけることです。		
受 講 の 留 意 点	22 年度受講者いわく「私は最初稲井先生が苦手でした」。4 月に出席して受講するかしないか判断する。恥も外聞も捨てて全力で深く勉強しませんか。原則 zoom 顔出しで準備してください。		
授 業 の 概 要 とアクティブ・ラーニングの内容	社会や政治との関わりから幼児教育の歴史を講義する。第二次世界大戦後イタリアのレッジョ・エミリアの幼児教育を、市民性教育やファンタジー、『保育の質を超えて』の視点から取り上げる。受講者が研究するための調査方法を紹介する。後半では、『幼児教育へのいざない』を読み解く。 受講者は指定箇所をグループで調べて、わからないことを報告し、質疑応答と対話をする。これからの幼児教育と社会を協同作業で深く考えたい。わからないと言うことは勇気があることです。		
授 業 の 計 画	1 ガイダンス、自分の問題関心の紹介、幼児教育における探究と「公共心」 2 社会保育の歴史：「近代日本の子ども観と母性、社会改革」と岡山孤児院 3 すべての子どもの学習権を保障する『みんなの学校』映像：大空小とフル・インクルーシブ 4 『どろぼうがっこう』（1973 年）とフーコー『監獄の誕生』：しつけと学校、家族 5 近代の教育思想：「子どもの発見」（ルソー）と「子ども観の変化の発見」（アリエス） 6 市民としての子どもがつくるレッジョ・エミリアの幼児教育映像：アート、ファンタジー 7 1988 年子ども文学『となりのトトロ』『にやーご』と 1989 年幼稚園教育要領の断絶 8 施設保育がもたらす余暇とアナーキズム：こどもの里、ブレイディみかこ、ケア 9 「あとがき」「第 1 章 1 子どもを具体的に見る 2 「けんちゃんの絵日記」からの脱出」 10 「3 「子どもを見る」行為 4 「子どもに寄り添う」 5 子どもを「集団の一員」として見る」 11 「第 2 章 子どもが「発達する」ということ」 12 「第 3 章 保育思想の源泉をさぐる」 13 「第 4 章 「ともに生きる」保育」 14 「第 5 章 「アートの思考」の教育」「増補改訂版の刊行にあたって」 15 まとめ、「勉強は自己破壊である」（千葉『勉強の哲学』）、みなさんは何が変わりましたか。		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	教科書指定箇所を読み、わからない箇所・単語をすべて書いた資料を作成する。
	復習	9 0 分	教科書と講義を手がかりに自分が探究すべき課題について図書館で調べ始める。
	『保育学用語辞典』2019 年（稲井も執筆）、小玉亮子編『幼児教育』2020 年（22 年度教科書）、小国喜弘『戦後教育史』中公新書、木村元『学校の戦後史』岩波新書を読み、関連内容を調べる。		
成 績 評 価 方 法	授業内に提出する小レポートと質疑応答と対話（84%）、グループレポート報告（16%）。遠隔授業（zoom・リアルタイム・原則顔出し、6 月 2 週間実習はオンデマンド映像）で実施。		

教科書 (購入必須)	佐伯胖『幼児教育へのいざない：円熟した保育者になるために』増補改訂版、東京大学出版会、2014年（23年度も指定）。5月に分担を決めて各自で事前に読み、第9～14回目に検討します。
参考書 (購入任意)	千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書、2022年。（勤務校「領域・環境」教科書） キャロル・ギリガン『もうひとつの声で：心理学の理論とケアの倫理』風行社、2022年。 浅井幸子ほか編『アトリエからはじまる「探究」』2023年。（Amazon 試し読み推奨） ブレイディみかこ『ジンセイハ、オンガクデアル』ちくま文庫、2022年。 名寄の先生が推薦した本、川端美穂先生シラバス記載文献、小玉亮子「子ども学で考える」動画。

科 目 名	子どもの保健			
科 目 名 (英 語)			シラバスNo.	250040270
担 当 教 員 名	塚原、播本、池上			
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件 保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	医学的知識のある医師の資格を有する教員と小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもの成長発達、健康状態の把握の仕方について講義を通して指導する。 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と現在の健康問題について、ディスカッションを通して理解・考察していく。子どもの身体発育や生理・運動機能については、成長発達の変化から捉えられるように、また子どもの健康問題とその対応、疾病については、子どもに特異的なものを中心として写真・イラストなどを用いて解説する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の尊厳と権利を尊重し、豊かな人間性と幅広く深い知識・教養を基盤として、社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮する力を身につけている。 2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 5 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解することができる。 5. 子どものこころとからだ、「虐待」から現代的問題を理解することができる。			
受 講 の 留 意 点	子どもの健康や安全を守り、心身ともに健やかに育てること、また子どもに自分の健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育むための指針を示すものである。積極的な授業参加を期待したい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもの健康問題については、グループ学習を行う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションにより、学びを共有する。			
授 業 の 計 画	1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的、健康の概念と健康指標 ・保健活動の意義と目的 ・健康の概念と健康の指標 2 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、地域の保健活動と子ども虐待の防止 ・子どもたちを取り巻く現状 ・地域の子育て支援と保健活動 3 子どもの身体的発育・発達と保健（１）身体発育及び運動機能の発達と保健 ・成長と発育 ・発育の原理原則 ・運動機能の発達 4 子どもの身体的発育・発達と保健（２）生理機能の発達と保健 ・脳の発達 ・呼吸機能の発達 ・循環機能の発達 5 子どもの身体的発育・発達と保健（３）生理機能の発達と保健 ・体温 ・食べる機能 ・排泄する機能 6 子どもの身体的発育・発達と保健（４）生理機能の発達と保健 ・水分代謝 ・免疫機能 ・睡眠のリズム 7 子どもの心身の健康状態とその把握（１） ・健康状態の観察 ・子どもの症状の特徴 ・心身が不調の時の早期発見とその見かた 8 子どもの心身の健康状態とその把握（２） ・心身が不調の時の早期発見とその見かた 下痢・嘔吐・脱水・痛みの訴え方、腹痛、頭痛、けいれん、伝染性の発疹			

	9 子どもの心身の健康状態とその把握（３） ・発育・発達の把握と健康診断 ・発育評価 ・保護者との情報交換 10 子どもの疾病とその対応（１） ・口と歯の健康 11 子どもの疾病とその対応（２） ・感染症 ・予防接種 12 子どもの疾病とその対応（３） ・アレルギー疾患 13 子どもの疾病の予防（４） ・先天性疾患 ・染色体異常 14 子どもの疾病の予防（５） ・脳・神経の病気 ・循環器・呼吸器の病気 ・内分泌の病気 他 15 子どものこころとからだ 虐待と脳への影響 ・虐待の現状と分析 ・虐待予防と支援、保育者に求められること ・脳から見た「健やかな育ち」		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	
	復習	90 分	
	子どもの健康に関する課題を提示します。その予習を行ってください。 毎回、学習目標を設定しますので、目標に沿って復習してください。		
成 績 評 価 方 法	定期試験 100 点		
教 科 書 (購 入 必 須)	子どもの保健 遠藤郁夫/三宅捷太 編集 学建書院		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	子ども家庭支援の社会・心理学				
科 目 名（英 語）	Social and Psychological Support for Child and Family		シラバスNo.	250040290	
担 当 教 員 名	鹿嶋 桃子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子ども家庭の生涯発達・社会的状況・精神保健に関して心理学的な理解を促し、支援の方法などについて指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の尊厳と権利を尊重し、豊かな人間性と幅広く深い知識・教養を基盤として、社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮する力を身に付けている。 2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子供を支援する技能を身に付けている。				
学 修 到 達 目 標	（１）生涯に亙る発達に関する心理学的な知見、各期における発達課題、乳・幼児期の重要性等について理解し、保育することができる。 （２）家庭・家族の意義や構造-機能、親子関係や家族関係等を発達論的・システム論的に理解し、子どもと家庭を社会的・文化的・歴史的に捉え、支援することができる。 （３）現代の家庭生活に関わる問題の現状を知り、それらの問題と経済的・社会的背景とを関連づけて理解することができる。 （４）子どものメンタル・ヘルスと精神保健福祉的な課題について理解・考察することができる。				
受 講 の 留 意 点	現代社会における人間の生涯にわたる心理学的発達とそれにかかわる家族（家庭）の課題について学ぶ。また、現代の日本で家庭生活を営む中で直面する問題について、経済や産業のあり方との関係を踏まえ、社会保育的視点から検討する。予習は教科書をもとに行い、復習は教科書や配布資料によってなされることが期待される。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期などの各段階における子どもと養育者の発達課題や精神保健（心の健康）について学修する。また、家族の中で生まれ育ち、就労し、子どもを生育するという生活の営みが「今日なぜ大変と感じられるのか」についても幅広い視点から考える。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、大福帳（シャトルペーパー）への記入、グループまたはペアワーク				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス：履修上の注意事項、成績評価の方法、イントロダクション 2 生涯発達①：乳児期における社会・心理学的発達 3 生涯発達②：幼児期における社会・心理学的発達 4 生涯発達③：学童期における社会・心理学的発達 5 生涯発達④：思春期・青年期における社会・心理学的発達 6 生涯発達⑤：成人期・老年期における社会・心理学的発達 7 家族の社会・文化・歴史的理解①：ホームやファミリーの意義及び構造-機能 8 家族の社会・文化・歴史的理解②：親子関係・家族関係 9 家族の社会・文化・歴史的理解③：子育ての経験と親としての育ち 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家族とその理解 13 特別な配慮が必要な子ども家庭の理解と援助 14 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題①：子どもの生活・育成環境とその影響 15 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題②：子どもの心の健康にかかわる諸問題と家族療法				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる。適宜予習ワークシートを課す。		
	復習	90 分	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献等を読む		

成績評価方法	(1) 授業の取組・発表 10 点 (2) 毎回の大福帳（シャトルペーパー）記入 15 点 (3) 提出物 25 点（授業中に課す各種ワークシート 中間レポート 10 回目までに提出） (4) レポート 50 点 授業とは関係のないスマートフォン利用や複数回にわたる遅刻については（1）減点の対象とする。特に長時間のスマホ利用は大幅な減点の対象とする。
教科書 （購入必須）	松本峰雄（監修）「子ども家庭支援の心理学 演習ブック」 ミネルヴァ書房
参考書 （購入任意）	

科 目 名	保育内容・人間関係		
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Content: Human Relationships	シラバスNo.	250040330
担 当 教 員 名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育所や児童家庭支援センター、子育て支援 NPO などにおいて教育相談の心理臨床経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子ども家庭の生涯発達・社会的状況・精神保健に関して心理学的な理解を促し、支援の方法などについて指導する科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことができるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。		
学 修 到 達 目 標	・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。 ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・模擬保育を通じて、指導案の構成、教材研究、援助の実際を経験し、振り返りを通して改善するための視点を身に付ける。 ・現代社会と人間関係の関連について理解を深め、社会的問題への関心を身に付ける		
受 講 の 留 意 点	グループに分かれての模擬保育には積極的な姿勢で取り組むことを期待する。 手遊びやわらべうたなどの演習も多く実施するため、常に動きやすい服装で受講すること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもが人と親しみ、支えあって生活するするための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション 大福帳（シャトルペーパー） グループワーク 遊びの実践		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 領域「人間関係」とは 2 領域「人間関係」の「ねらい及び内容について」 3 子どもの探索活動としての遊び 4 子どもの協同的活動としての遊び：ルールのある遊び 5 子どもと仲間をつなぐ環境としての遊び：親子遊び、フルーツバスケット 6 遊びと人間関係の発達 0～2 歳 7 遊びと人間関係の発達 3～5 歳児 8 人との関わりを育てる保育者の役割 9 人との関わりを支える保育計画（絵本、わらべ歌、ICT） 10 人との関わりを育てる保育や保育者の役割に関するグループ発表（1）活動内容の選択と立案 11 人との関わりを育てる保育や保育者の役割に関するグループ発表（2）指導案作成 12 人との関わりを育てる保育や保育者の役割に関するグループ発表（3）模擬実践と振り返り 13 特別な配慮を要する子どもと人間関係の育ち 14 現代の子どもの人間関係を取り巻く諸課題保育現代の子どもの人間関係を取り巻く諸課題保育 15 まとめ		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる
	復習	90 分	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献を読む グループ発表の準備
	予習は教科書に沿って行い、復習は配布資料をもとに行う。		

成 績 評 価 方 法	(1) 授業の取組・発表 10 点 (2) 毎回の大福帳（シャトルペーパー）記入 15 点 (3) 提出物 25 点（授業中に課す各種ワークシート 中間レポート 10 回目までに提出） (4) レポート 50 点 授業とは関係のないスマートフォン利用については上記（1）減点対象とする。 特に長時間のスマホ利用は大幅な減点の対象とする。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	近喰晴子・小泉裕子（編著） 保育内容「人間関係」と指導法—考える、調べる、学び合う— 中央法規
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）				
科 目 名（英 語）	Early Childhood Care and Education Content : Expression II (Art)		シラバスNo.	250040400	
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3.子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。				
学 修 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえて造形表現活動を実践し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につけて子どもとかわかることができる。				
受 講 の 留 意 点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの内 容	・子どもの感性を高めることを目的として、前半の「多様な素材」においては、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した造形活動支援ができるようにする。 ・子どもに向き合うことを想定し、パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。				
	アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 多様な素材（1） 厚紙：ハンペルマン 3 多様な素材（2） 箱：カメラ 4 多様な素材（3） 土：石膏型取り 5 多様な素材（4） 水：染めあそび 6 多様な素材（5） 古紙：新聞紙であそぶ 7 多様な素材（6） 廃材：生きものをつくる 8 多様な素材（7） 廃材：街をつくる 9 パネルシアター(1) しかけの理解と内容の検討 10 パネルシアター(2) 制作・線描 11 パネルシアター(3) 制作・着色 12 パネルシアター(4) 発表会準備 13 パネルシアター(5) 発表会・前半 14 パネルシアター(6) 発表会・後半 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	25 分	ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。		
	復習	20 分	講義内容を振り返りノートにまとめる。		
成 績 評 価 方 法	提出物(70%)、発表(30%)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度、プリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。				

科 目 名	就学児保育 A（思春期）			
科 目 名（英 語）	Care for School-Aged Children A: Supporting Adolescents	シラバスNo.	250040440	
担 当 教 員 名	鈴木 勲・奥村 香澄			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童精神科医や、児童相談所等での実務経験をもつ教員が思春期の子どもたちが抱える課題への支援について教授する。この授業では、思春期の子どもたちが直面する課題（いじめ、非行、不登校など）への対応方法に焦点を当てる。児童精神科医の担当講では、神経発達症、愛着障害、ストレス因関連障害、心身症、行動障害、情緒障害、摂食障害など、幅広いトピックをカバーする。			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもを発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1．現代社会における就学児保育の意義と歴史的変遷について理解する。 2．就学児保育と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3．就学児保育の制度や実施体系等について理解する。 4．就学児保育における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5．就学児保育の現状と課題について理解する。 6．就学期の子どもたちの心の問題をよく理解した上での支援が行える。			
受 講 の 留 意 点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	思春期は、心身ともに大きな成長を遂げる時期であるが、それ故にまた、それまでの心と育ちの課題がいじめや、非行、不登校などのいわゆる「問題行動」として現れやすい時期でもある。それら「問題行動」への対応は、その後の子どもの成長に大きな影響を与える。この授業では、この時期の子どもたちをどのように理解し、支援していくかを学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 実際の事例をもとに、学生が小グループで討議し、思春期の子どもたちが直面する課題に対する具体的な対策を考察する。 学生が児童相談所の専門家や子ども、保護者などの役割を演じ、実際の相談シーンを再現する。これにより、実際の対話と問題解決のプロセスを体験する。 毎回の授業の終わりに、学生がその日のトピックについて意見交換を行う。これにより、多角的な視点からの理解を深めることができる。 学生には、授業で学んだ内容や自身の感想、疑問点をリフレクションジャーナルに記録する。これにより、自己の学習プロセスを振り返る機会を提供する。 グループまたは個人で、思春期の子どもたちを支援するためのプロジェクトを計画し、内容をクラスで発表する。			
授 業 の 計 画	1 就学児を取り巻く状況 2 神経発達症(発達障害) 3 愛着障害 4 ストレス因関連障害(適応障害、PTSD 等) 5 心身症、身体症状症(身体表現性障害) 6 反抗挑発症、素行症、窃盗症 7 うつ、情緒障害、不安症 8 嗜癮性障害(インターネットゲーム障害、電子メディア依存症等) 9 摂食障害、緘黙、チック症/トゥレット症など 10 虐待を受ける子どもたち			

	1 1 児童養護施設等の子どもたち 1 2 非行少年 1 3 ひきこもり・不登校児童 1 4 情緒障害児 1 5 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。
	復習	30 分	講義内容を振り返り、考えを深めること。
成 績 評 価 方 法	提出物 70%、講義における取組 30%		
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜資料等を配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	各教員が授業の中で適宜紹介する。		

科 目 名	就学児保育 B（学童保育）				
科 目 名（英 語）				シラバスNo.	25004450
担 当 教 員 名	河野 和枝				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	共同学童保育所勤務（パート）や一般社団法人日本学童保育士協会の実施する「学童保育士」認証講座講師の経験を持つ教員が、学童保育所の目的や社会的存在意義・役割、課題を示し、利用する子どもや保護者を理解し、実践者・学童保育士を養成する授業である。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の尊厳と権利を尊重し、豊かな人間性と幅広く深い知識・教養を基盤として、社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮する力を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性を備えている。				
学 修 到 達 目 標	・学童保育の理念・歴史・制度について理解し実践に応用できる。 ・学童保育所を利用する子どもの発達状況、生活環境を理解し発達成長を支えることができる。 ・学童保育所を利用する保護者の生活実態に寄り添い共同の子育て観を共有することができる。 ・学童保育士の業務内容と専門性を身につけ保育実践に生かし課題解決できる力量を培う。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	学童保育とは、児童福祉法で、「放課後児童健全育成事業」といい、保護者が就労等で家庭にいない小学生を対象に、放課後や学校の休業日の生活を豊かにすることを目的とした事業の総体を指す。近年、学童保育のニーズは、高まっているが、保育内容や専門職の養成など多くの課題がある。本講義では、学童保育の成り立ちや目的、関連法について学ぶとともに、学童保育における生活づくりの進め方や学童保育士の専門性について理解し現場で発揮できる力量を獲得する。 アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに設定されるテーマについてグループ討議で意見集約しグループ発表による意見交流を行い異なる視点や観点を深める学びを導く。また学童保育の現場から学ぶ機会を設け学童保育の実感を体得する。				
授 業 の 計 画	1 学童保育の目的と役割～放課後児童クラブ運営指針の概要について（講義と演習 6 対 4） 2 保育に活かす関係法と施策の歴史的変遷（講義） 3 学童期の子どもの生活と発達（講義と演習 6 対 4） 4 学童保育所に通う子どもの理解（講義と演習 6 対 4） 5 子どもの健康・安全・衛生（講義と演習 6 対 4） 6 学童保育の保育計画と生活づくり（講義と演習 6 対 4） 7 障がいのある子どもを含めた生活づくり（講義と演習 6 対 4） 8 学童保育での食事（講義と演習 6 対 4） 9 学童保育の役割と家族支援 10 保護者との連携・地域との連携（講義と演習 6 対 4） 11 学校や関係機関との連携（講義と演習 6 対 4） 12 学童保育士の専門性と子ども観（講義） 13 学童保育所視察（1）公設学童保育所（実習） 14 学童保育所視察（2）私設学童保育所（実習） 15 まとめ（演習）				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各回の授業テーマに合わせ『放課後児童クラブ運営指針』の内容を予習すること		
	復習	30 分	毎回配付する資料に「まとめ（課題）」を提起するので、基づき復習しておく		

成 績 評 価 方 法	課題の取組状況（30 点）と毎回のコメントシート（20 点）、レポート（50 点）等で評価する。 学期末レポートの締めきりは 7 月 22 日
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	『学童保育を哲学する一子どもに必要な生活・遊び・権利保障』増山均著 自治体研究社 『静かだったら、学校と同じじゃんー学童クラブの窓から』石田かつ子・増山均著、編集 新日本出版社

科 目 名	病児・病後児保育				
科 目 名 (英 語)				シラバスNo.	250040460
担 当 教 員 名	高嶋 愛里				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	小児看護の経験を持つ教員が、子どもが病児・病後児の施設・事業所などによる保育、臨床の場の保育について教授する。 病児・病後児保育の現状と課題および代表的な子どもの疾病について学習したうえで、症状を観察しながらの保育について考える。また、国内外における様々な取り組みから闘病生活を送る子どもや家族への支援の実際について学ぶ。事例による演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる保育士としての専門性や実践力の獲得を目指す。				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の尊厳と権利を尊重し、豊かな人間性と幅広く深い知識・教養を基盤として、社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮する力を身につけている。 2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 5 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 病気と共に生活する子どもたちを理解する 2. 病気の子ども、病気の回復期の子どもの保育を行う際、保育士として求められる観察や対応方法を修得する 3. 家族への支援、多職種（医師、看護師など）との連携の在り方について学ぶ				
受 講 の 留 意 点	保育の専門職者として、病気の子どもの生命を守り成長発達を促す保育とは何か、保育が担う責任を考えながら授業に参加することを望みます。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	ケーススタディを取り入れ、グループで保育計画を立てていきます。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションにより学びを共有していきます。				
授 業 の 計 画	1 病児・病後児保育とは 保育・看護の意義と専門性、病児保育の特徴、歴史、病児・病後児保育の現状と課題 2 タイプ別（施設型と訪問型）の病児保育 病児保育の一日（病児保育施設の一日）、病児保育室の特徴 3 医療・病院施設における病児保育 小児病棟での子ども達の生活、病児保育の一日、療養環境、子ども専門病院の施設設備、集団保育と個別保育（医療保育実践） 4 病気とともに生活している子どもの理解 1 慢性疾患を抱える子どもたちの生活状況 5 病気とともに生活している子どもの理解 2 事例学習、子どもの状況を理解 6 病気を持っている子どもの理解、病気についての捉え方と認知発達 保育の中にあるプレパレーション、病気の児のきょうだいの気持 7 保育施設における病児保育 1 医療的な配慮が必要な子どもの保育者の役割 8 保育施設における病児保育 2 医療的な配慮が必要な子どもを受け入れるための準備、医療的ケアの実際 9 医療的ケア児と学校教育、保護者の思い 講演会：学校現場の教諭、保護者から 10 病気を持つ子どもの保育と保育計画 様々な配慮を要するアレルギーのある子どもの保育、腎疾患で安静が必要な子どもの保育、小児がんで感染対策が必要な子どもの保育 11 保育計画の立て方 事例を基に思考過程				

	12 保育計画 グループによるディスカッション 13 保育計画 グループによるディスカッション 14 保育計画 報告会 15 病児、病後児保育 まとめ		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	
	復習	30 分	
	保育計画は、個人学習を先に行い、その後にグループディスカッションになります。事前に自己学習が必要です。実施後は事例の課題があります。振り返りながら課題作成をお願いします。		
成 績 評 価 方 法	課題レポート3回（20点×3） 保育計画課題レポート1回 40点 合計 100点		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	資料を配布します。		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）			

科 目 名	子どもの健康と安全			
科 目 名 （ 英 語 ）	Children's Health and Safety		シラバスNo.	250040470
担 当 教 員 名	笹尾 あゆみ・網野 真由美			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件 保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	小児看護の経験を有する教員が、子どもの養護、身体計測、緊急時の対応を教授する。 乳幼児の日常生活の養護、発育・健康状態の観察と評価、病気やケガなどに緊急時の対応について、 演習を通して学ぶ。			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 5 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1. 乳幼児をこころよくできる養護について理解して実施できる。 2. 乳幼児の身体計測、体温・呼吸・脈拍の測定方法がわかり実施できる。 3. 乳幼児の緊急時の応急手当てについて理解して実施できる。 4. 安全な保育環境・衛生管理について理解することができる。			
受 講 の 留 意 点	演習時は、教員がデモンストレーションを行います。事前に教科書で手順を確認し積極的に実施できるように予習・準備して臨んでください。毎回、演習に関連した課題の提出があります。 実習室と表現演習室を使用します。上履き、エプロンを持参してください。服装は動きやすいもの、爪も短く切ってください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもに係る時に必要とされる技術演習です。毎回、デモンストレーション後に実施します。 技術は2コマ続けて実施します。欠席時ご注意ください。 アクティブ・ラーニングの内容 実施体験学習			
授 業 の 計 画	1 授業概要と演習についてのオリエンテーション 2 日常における養護 着替え・おむつ交換・沐浴 1 3 日常における養護 着替え・おむつ交換・沐浴 2 4 保育環境の整備と保育現場における衛生管理（指導技術） 手洗いの仕方の指導技術 1 5 保育環境の整備と保育現場における衛生管理（指導技術） 手洗いの仕方の指導技術 2 6 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 発育状態を知る：身体計測（身長・体重・頭囲・胸囲 1 7 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 発育状態を知る：身体計測（身長・体重・頭囲・胸囲 2 8 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 健康状態を観る：体温・呼吸・脈拍の測定とその見方 1 9 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 健康状態を観る：体温・呼吸・脈拍の測定とその見方 2 10 傷害が発生した場合の対応 応急処置：出血、骨折・脱臼・打撲の固定法 など 1 11 傷害が発生した場合の対応 応急処置：出血、骨折・脱臼・打撲の固定法 など 2 12 保育の場における薬管理 保育所で預かることができる薬、薬の飲ませ方、エピペンの使用方法 1			

	13 保育の場における薬管理 保育所で預かることができる薬、薬の飲ませ方、エピペンの使用方法 2 14 いざというときの応急処置 心肺蘇生法、A E D、異物除去（ハイムリック、背部叩打法） 1 15 いざというときの応急処置 心肺蘇生法、A E D、異物除去（ハイムリック、背部叩打法） 2		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	
	復習	15 分	
	技術演習に臨む前に教科書で予習を行ってください。 演習後、振り返りの課題を行い復習してください。		
成 績 評 価 方 法	課題提出と記載内容により評価します。100 点		
教 科 書 (購 入 必 須)	松本峰雄 監修 子どもの保健と安全 演習ブック ミネルヴァ書房		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	社会的養護Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Alternative CareⅡ		シラバスNo.	250040480	
担 当 教 員 名	小山 貴博				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対応する ディプロマ・ポリシー	1.社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸問題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	児童福祉領域における社会的養護の体系や実情について学ぶ。とりわけ、児童福祉施設における支援や処遇の歴史、現状、将来展望などについて探求すると共に、自らがよき支援者となることを目標として、実践的に学習する。				
受 講 の 留 意 点	社会的養護関連のニュースや動向などに興味・関心を持って授業に臨むことを求めます。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会的養護の実践について理解を深め、子ども達や保護者の置かれた状況について、多方面から考える。そのうえで、望ましい支援について教員と学生が一体となって考察を加える。				
	アクティブ・ラーニングの内容 各回テーマを提示して、受講生同士、時には担当教員と共にディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス（講義の概要と進め方） 2 社会的養護の体系Ⅰ～社会的養護の歴史と現状 3 社会的養護の体系Ⅱ～社会的養護の法制度、支援のシステム 4 施設養護の実践Ⅰ～児童養護系の施設（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）の現状 5 施設養護の実践Ⅱ～児童養護施設の生活形態と支援の実 6 施設養護の実践Ⅲ～児童養護施設における支援のあり方と児童の権利擁護 7 家庭的養護の実践～里親制度と養子縁組制度 8 施設養護の実践Ⅳ～施設養護と家庭的養護の比較 9 施設養護の実践Ⅴ～児童自立支援施設、自立援助ホームにおける支援 10 施設養護の実践Ⅵ～障害のある子どもの施設①（知的障害児施設、情緒障害児短期治療施設） 11 施設養護の実践Ⅶ～障害のある子どもの施設②（肢体不自由児施設・重症心身障害児施設） 12 ケース記録・生活記録の意義と記録法 13 自立支援計画の策定の意義と方法 14 児童福祉施設の職員になるために～実習や就職活動の心構えと職員に求められるもの 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	資料の事前検討。		
	復習	30 分	講義の振り返り。		

成 績 評 価 方 法	筆記試験：100%
教 科 書 (購 入 必 須)	講義時に適宜資料を配布する。
参 考 書 (購 入 任 意)	小山貴博「あなたはパンをぬすみますか：通信制高等学校生の居場所と学習」（浅沼茂編『思考力を育む道德教育の理論と実践◇コールバーグからハーバーマスへ』黎明書房） 陳省仁・古塚孝・中島常安編著 糸田尚史ほか著 『子育ての発達心理学』 同文書院 坂本健編著 糸田尚史ほか著 『子どもの社会的養護』 大学図書出版 小山充道編著 糸田尚史ほか著 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版

科 目 名	子育て支援				
科 目 名 （ 英 語 ）	Parenting Support			シラバスNo.	250040490
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験をもとに、子育て支援の基礎、応用について教授する。内容には、子育て支援の概要、体系、方法、技術、関係機関との連携や協働などを含む。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1 保護者への相談、助言、情報提供、行動見本の提示等に関する特性と展開を理解する。 2 実践事例を通じて、様々な場や対象に即した子育て支援の内容と方法を具体的に理解する。				
受 講 の 留 意 点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子育て支援の概要、体系及び方法と技術、関係機関との連携や協働について基本的な知識を理解したうえで、子育て支援の具体的展開事例、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。子育て支援の個々の課題についても、理論と実際の双方から具体的に考える。 アクティブ・ラーニングの内容 子ども・子育て機関の事例をもとに、小グループで討議し、具体的な子育て支援策を考案する。 学生が保育士、保護者、児童の役割を演じ、実際の支援シーンを再現する。 それぞれのトピックについての意見交換を行い、多角的な視点からの理解を深める。 グループまたは個人で、実際の子育て支援プロジェクトを計画し、その内容を報告する。 各活動後にフィードバックを行い、自己の学びを振り返る。				
授 業 の 計 画	1 子どもの保育とともに行う保護者の支援 2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4 子ども及び保護者の状況・状態の把握 5 支援の計画と環境の構成 6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 7 職員間の連携・協働 8 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9 保育所等における支援 10 地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子ども虐待の予防と対応 14 要保護児童等の家庭に対する支援 15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。
	復習	30 分	講義内容を振り返り、考えを深めること。
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーの内容 7 5 % 学科末レポート 2 5 %		
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜資料等を配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミ ネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、 新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。		

科 目 名	子ども理解と教育相談				
科 目 名（英 語）	Understanding Children and Educational Counseling			シラバスNo.	250040500
担 当 教 員 名	鹿嶋 桃子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育所や児童家庭支援センター、子育て支援 NPO などにおいて教育相談の心理臨床経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子どもの社会性や人間関係構築の支援方法などについて指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・ 幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、指導上の省察や記録の仕方について知る。 ・ 発達障害についての理解と特別な支援を必要とする保育の留意点について説明できる。 ・ 乳幼児の発達や保育に関する保護者への共感的理解や援助を知る。 ・ 保育者に求められるカウンセリングマインドについて学び、事例に基づいた対応を検討することができる。				
受 講 の 留 意 点	授業中の演習には積極的な姿勢で取り組むことを期待する。第 2 回目以降、個人またはグループによる演習を行い、その記録を課す。出された課題は評価対象となる。また事例検討も行うので、架空の事例ではあるものの、自分なりに考えて教育相談の実際について理解を深めることを期待する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	近年の保育者は子どもたちの保育だけではなく、子育て支援の役割が期待されている。そこで保護者への子育て支援場面において必要とされるカウンセリングマインドや基本的なカウンセリング技法について学ぶ。保育の場における教育相談において重要な発達障害に関する理解を深める。また保育者が行う相談援助の役割は、子どもの個体史や子どもを取り巻く社会文化を含めた広い視野からその発達特性を理解し、支援することを通じて果たされることを事例検討を通じて学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、事例検討、ロールプレイ、グループワーク、大福帳（シャトルペーパー）への記入				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 保育の場における教育相談の基本的視点 2 子どもの発達理解と相談・支援 3 保護者への対応と子育て支援 4 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり① 5 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり② 6 子どもの発達とアセスメント 7 保育場面でのカウンセリング技法の活用①カウンセリングの基本的事項 8 保育場面でのカウンセリング技法の活用②カウンセリングの技法、コミュニケーションスキル 9 保育場面でのカウンセリング技法の活用③受容技法、繰り返し技法、明確化技法 10 保育場面でのカウンセリング技法の活用④支持技法、質問技法 11 子ども相談と連携：園や地域での専門職連携とソーシャルワーク 12 保育者の専門性と相談活動 13 基礎的対人関係のトレーニング 14 事例検討（1）保育・教育相談の実際 15 事例検討（2）保育・教育相談の実際				

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる。授業前課題に取り組む。
	復習	90 分	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献等を読む。演習をふりかえる。
	予習は教科書をもとに行い、復習は教科書や配布資料によってなされることが期待される。		
成績評価方法	(1) 授業の取組・発表 10 点 (2) 毎回の大福帳（シャトルペーパー）記入 15 点 (3) 提出物 25 点（授業中に課す各種ワークシート 中間レポート 10 回目までに提出） (4) レポート 50 点 授業とは関係のないスマートフォン利用については上記（1）減点対象とする。 特に長時間のスマホ利用は大幅な減点の対象とする。		
教科書 （購入必須）	小田豊・秋田喜代美（編）「子どもの理解と保育・教育相談」 みらい		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	児童文化演習				
科 目 名（英 語）	Seminar on Children's Culture		シラバスNo.	250040510	
担 当 教 員 名	堀川 真・石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3.子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。				
学 修 到 達 目 標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面に活用することができる。				
受 講 の 留 意 点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	・ 子どもの感性を高めることを目的として、絵本読み聞かせの実演を全員に課す。 ・ 子どもの感性を高めることを目的として、展開可能な工作指導の技術を身につける。 ・ 子どもに向き合うことを想定し、日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。 ・ 適切な作品理解のために、絵本作家による講義を通して絵本の理解を深める。				
	アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう				
授 業 の 計 画	1	オリエンテーション (担当：堀川)	16	影絵劇 (1) 構想・脚本の制作	
	2	お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17	影絵劇 (2) 人形・背景をつくる	
	3	お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18	影絵劇 (3) 発表準備・人形操作および光の理解と工夫	
	4	お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19	影絵劇 (4) 発表準備・人形操作および光の工夫と修正	
	5	お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20	影絵劇 (5) 発表会	
	6	お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21	動物を見つける(1) 鳥類 (担当:石本)	
	7	お店屋さんごっこ(5) 発表会 (担当:堀川)	22	動物を見つける(2) 類人猿 (担当:石本)	
	8	人形劇 (1) 構想・脚本の制作	23	動物を見つける(3) 哺乳類 (担当:石本)	
	9	人形劇 (2) 役割の分担	24	動物を見つける(4) 爬虫類 (担当：石本)	
	10	人形劇 (3) 人形をつくる「加工」	25	動物を見つける(5) 北海道産動物 (担当：石本)	
	11	人形劇 (4) 人形をつくる「着色」	26	動物絵本を知る(1) 構想 (担当：石本)	
	12	人形劇 (5) 人形と背景をつくる	27	動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当：石本)	
	13	人形劇 (6) 発表準備・人形操作の理解と工夫	28	動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当：石本)	
	14	人形劇 (7) 発表準備・人形操作の工夫と修正	29	動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当：石本)	
	15	人形劇 (8) 発表会	30	動物絵本を知る(5) まとめ (担当：石本)	

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	25 分	ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。
	復習	20 分	講義内容を振り返りノートにまとめる。
成 績 評 価 方 法	授業における発表（70%）、制作物(30%)		
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。		

科 目 名	子どもと造形表現Ⅰ				
科 目 名（英 語）	Children and Artistic ExpressionⅠ		シラバスNo.	250040580	
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3.子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。				
学 修 到 達 目 標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感して楽しむことができる。				
受 講 の 留 意 点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもの感性を高めることを目的として、造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作 2 絵画制作（1） 描画の発達と軟筆画（フロッタージュ） 3 絵画制作（2） 描画の発達と水彩画（デカルコマニー） 4 工作（1） お面、かぶりもの 5 工作（2） 子どもの日、ハロウィンの仮装 6 工作（3） ストロー人形 7 工作（4） 凧、飛行機凧、くるくるヘビ 8 工作（5） 折紙飛行機、折紙ロケット 9 工作（6） けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ 10 工作（7） 紙版画、ステンシル 11 工作（8） とびだすカード 12 工作（9） 折紙 13 工作（10） 音を出してみる 14 工作（11） 壁面構成 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	25 分	ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。		
	復習	20 分	講義内容を振り返りノートにまとめる。		
成 績 評 価 方 法	提出物(70%)、発表(30%)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度、プリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	『3・4・5 歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)				

科 目 名	子どもと造形表現Ⅱ				
科 目 名（英 語）	Children and Artistic Expression Ⅱ		シラバスNo.	250040590	
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、子育て支援センターや知的障害者更生施設において実践した造形あそびを基に、子どもの発想や巧緻性の発展に有効と考える技能・知見について指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3.子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。				
学 修 到 達 目 標	「子どもと造形表現Ⅰ」での学修を踏まえ、応用的造形技法の制作を通し、保育活動の幅を広げる可能性と留意点を考えることができる。				
受 講 の 留 意 点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	・子どもの感性を高めることを目的として、「子どもと造形表現Ⅰ」での学修を基礎とし、子どものための一般的な造形技法のみならず、より高度な制作活動を行う。 ・子どもに向き合うことを想定し、パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。				
	アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 木工（1）制作 3 木工（2）塗装 4 仮装（1）構想と制作 5 仮装（2）制作と発表会 6 紙版画（1）カレンダー制作・製版 7 紙版画（2）カレンダー制作・印刷 8 造形あそび（1）石に絵を描く 9 絵本づくり（1）構想 10 絵本づくり（2）下絵～彩色 11 絵本づくり（3）彩色～仕上げ 12 絵本づくり（4）製本の技法 13 絵本づくり（5）糊付け 14 絵本づくり（6）製本 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	25 分	ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。		
	復習	20 分	講義内容を振り返りノートにまとめる。		
成 績 評 価 方 法	提出物(50%)、発表(50%)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度、プリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	児童文化				
科 目 名 （ 英 語 ）	Children's Culture			シラバスNo.	250040620
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目。				
対応する ディプロマ・ポリシー	3.子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。 5.地域において子どもにかかわる多種機関の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。				
学 修 到 達 目 標	・ 児童文化に関する知識と実際を知り、日本の子ども文化の特性を理解する。 ・ 児童文化が保育分野に果たす役割を考えつつ、その特性や実践上の留意点について理解するとともに、地域と協働する文化活動に資する力を持つ。				
受 講 の 留 意 点	科目の性格上、講義科目であるが演習的要素を含むので、実技の予習復習も行い、積極的に取り組んでほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子ども理解につなげるために、伝承あそびからおもちゃ・絵本・紙芝居等まで、児童文化にかかるものを紹介し、それがはたす役割について理解する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解し、高齢者等も含む地域との連携、地域との協働を想定する意見交換を行い、発表し学びあう。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況 2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 と集団づくりに役立つ遊び 3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演 4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ 5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介 6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様 7 紙芝居について 発達史と上演の留意点 8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇 9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力 10 絵本小史 絵本の歴史と 20 世紀初頭海外の展開 11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開 12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮 13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫 14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について 15 まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。		
	復習	90 分	講義内容を振り返りノートにまとめる。		
成 績 評 価 方 法	ミニレポート(40%)、レポート(60%)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度、プリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。				

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援				
科 目 名（英 語）	Understanding and Supporting Special Educational Needs		シラバスNo.	250040630	
担 当 教 員 名	郡司 竜平				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た内容を話題に討論し指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1．インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。 2．様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3．障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4．障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5．障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。				
受 講 の 留 意 点	演習科目であり、活動や討論への積極的な発言を求める。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	(1) インクルーシブ保育を支える理念、 (2) 障害等の理解と保育における発達の援助、 (3) インクルーシブ保育の実際、 (4) 家庭及び関係機関との連携、 (5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 オンラインシステムを用いて、講義中の気づきを受講者がリアルタイムで発信し、講義内で取り上げることで全体で共有しながら学びを深める。 体験的な学習の機会を毎時間設定し、気づきを学修者同士で共有できる環境設定としている。				
授 業 の 計 画	1 障害等の理解と援助①（障害とは何か、社会的障壁） 2 障害等の理解と援助②（特別な教育的ニーズと支援） 3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度） 4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性） 5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状） 6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状） 7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育所・幼稚園の現状） 8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：適切な就学の場合） 9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携） 10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携） 11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成） 12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために） 13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで） 14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育の可能性） 15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題）				

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	30 分	教科書、講義内資料を中心に該当箇所の予習を行うこと
	復 習	30 分	演習内で提示された資料や討論で話し合われた内容の整理を行うこと
	演習終了後に Forms にて演習内容の理解度等についての振り返りを行う。		
成 績 評 価 方 法	講義におけるリアクションペーパー（30 %）、レポート（70 %）により評価する。		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年		

科 目 名	障害児支援の基礎理論			
科 目 名 (英 語)			シラバスNo.	250040650
担 当 教 員 名	森田 隆行			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭・教頭・校長及び教育委員指導主事として特別支援教育に関する実務経験を有する教員が、特別支援教育の理念、障害のある幼児、児童又は生徒の学校教育に関する歴史や思想において、特別支援教育の基本的な考え方がどのように現れてきたかについて指導するとともに、これまでの特別支援教育及び特別支援学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを指導する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	1 特別支援教育制度の成立と障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育への展開を理解している。 2 特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割を理解している。 3 障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向の変化を踏まえつつ、特別支援教育制度の成立と展開を理解している。 4 現代社会における特別支援学校における教育課題を歴史や障害者施策の視点から理解している。 5 障害のある幼児、児童又は生徒に関わる教育の思想を理解している。 6 特別支援学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 7 特別支援学校を巡る近年の様々な状況の変化及び子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 8 近年の特別支援教育政策の動向を理解している。 9 特別支援学校の目的及び教育目標と国が定めた教育課程の基準との相互関係を理解している。 10 特別支援学校教育要領・学習指導要領の性格及びそこに規定する自立活動や知的障害者である幼児、児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の取扱いの基礎的な考え方を理解している。 11 特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 12 幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営の基本的な考え方を理解している。 13 教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。			
受 講 の 留 意 点	特別支援教育に関する基礎的・基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別支援教育の理念とは何か、また、障害のある幼児、児童又は生徒の学校教育に関する歴史や思想において、特別支援教育の基本的な考え方がどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの特別支援教育及び特別支援学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。 アクティブ・ラーニングの内容 ・実践事例に対する批判的検討を中心としたディスカッション ・障害に由来する困難の擬似的体験に基づいた目標達成のためのグループ協議とシェアリング			
授 業 の 計 画	1 特別支援教育制度の成立とインクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育への展開 2 特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割 3 特別支援教育制度の成立と展開 4 現代社会における特別支援学校における教育課題 5 障害のある幼児、児童又は生徒に関わる教育の思想 6 特別支援学校や学習に関わる教育の思想 7 特別支援学校を巡る近年の状況の変化及び指導上の課題 8 近年の特別支援教育政策の動向 9 特別支援学校の目的及び教育目標と教育課程の基準			

	10 特別支援学校教育要領・学習指導要領 11 自立活動と知的障害特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の基礎 12 特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営 13 幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営 14 教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働 15 インクルーシブ教育システムと共生社会		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	「授業の計画」にある用語について、インターネットや書籍を用い、予め調べてまとめておく。問われた時に発表できるようにしておく。
	復習	90 分	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図る。
成績評価方法	毎回のリアクションペーパー（30 点）、レポート（70 点）により評価する。		
教科書 （購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部） 特別支援学校高等部学習指導要領		
参考書 （購入任意）	随時に紹介する。		

科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理				
科 目 名（英 語）	Psychology, Physiology, and Pathology of Person with Physical Handicaps		シラバスNo.		250040670
担 当 教 員 名	高橋 和明、田中 肇				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭の実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。				
対応する ディプロマ・ポリシー	多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・ 肢体不自由(運動障害)の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴を理解し、配慮や留意すべき内容等について説明できる。 ・ 人間の身体の仕組み、定型発達(運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等)を理解し、肢体不自由(運動障害)がある場合の障害特性が説明できる。 ・ 肢体不自由(運動障害)の子どもがいる家族の支援や医療機関との連携の大切さについて理解し、説明できる。				
受 講 の 留 意 点	肢体不自由教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	人間の身体の仕組み、乳幼児の定型発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由者の教育において出会うことの多い疾患の特性について病理学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援、関係機関の連携等について学習します。				
	アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション / 肢体不自由とは 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます ／肢体不自由という用語の成立について学習します 2 人間の身体の仕組み 人間の身体の基本的な仕組みについて仕組みについて学習します 3 定型発達 運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等に関する定型発達について学習します 4 肢体不自由(運動障害)が発達に与える影響 肢体不自由(運動障害)があることによって発達にどのような影響があるかについて学習します。 5 肢体不自由者の心理的特性 肢体不自由者に見られる心理的特性について学習します。 6 脳性まひの理解と支援 脳性麻痺の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 7 二分脊椎の理解と支援 二分脊椎の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 8 筋ジストロフィーの理解と支援 筋ジストロフィーの病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 9 ペルテス病・骨系統疾患の理解と支援 ペルテス病・骨系統疾患の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 10 手足の先天奇形・関節拘縮症の理解と支援 手足の先天奇形・関節拘縮症の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます				

	1 1 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解と支援 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます 1 2 重度・重複障害児の理解と支援 医療的ケア児、超重症児等を含む重度・重複障害児の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます 1 3 肢体不自由者のリハビリテーション 肢体不自由者に関連するリハビリテーションの内容や方法について学習します。 1 4 肢体不自由者の家族の支援、関係機関の連携 肢体不自由者の家族の支援のあり方、関係機関の連携方法等について学習します。 1 5 まとめ / 肢体不自由者を支援する際に大切なこととは 授業で学習した内容をもとに、肢体不自由者を支援する際に大切にしていきたいことについて考えます。		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90 分	シラバスを参考に教科書の関連箇所を読み、基礎的な内容を理解しておいてください。
	復習	90 分	講義の内容についてノートを整理し、知識の定着を図ってください。 課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。
	第 5 回～第 12 回については、みなさんに教科書の内容について報告していただきます。		
成績評価方法	提示課題の取組状況(30 点)、振り返りレポート(30 点)、課題レポート(40 点)として総合的に評価します。		
教科書 (購入必須)	「肢体不自由児の医療・療育・教育」(冲高司 編者、金芳堂)		
参考書 (購入任意)	肢体不自由児の教育〔新訂〕(川真健之助 長沼静夫 著、NHK 出版)		

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理				
科 目 名（英 語）	Psychology, physiology, and pathology of people with illness		シラバスNo.	250040680	
担 当 教 員 名	下村 遼太郎・高橋和明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。				
対応する ディプロマ・ポリシー	多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている				
学 修 到 達 目 標	・ 病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。 ・ 具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。 ・ 病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。				
受 講 の 留 意 点	病弱・身体虚弱教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。				
	アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち（高橋担当） 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます ／病気の子どもの心理的状況について考えます。 2 健康、病気、障害の概念（高橋担当） 健康、病気、障害の用語の概念について整理します。 3 病気・障害の受容とセルフケア（高橋担当） 病気や障害を受容する過程、セルフケアとの関係について学習します 4 病弱者・障害者の心理的特性（高橋担当） 病弱者・障害者が有する心理的な特性について学習します 5 病弱者・障害者と家族の支援（高橋担当） 病弱者・障害者の家族への支援について学習します 6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携（高橋担当） 病弱者・障害者及びその家族を支えるための他職種連携のあり方について考えます。 7 小児期の慢性疾患Ⅰ（ぜんそく・アレルギー等）（下村担当） 小児期のぜんそく・アレルギー等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 8 小児期の慢性疾患Ⅱ（腎臓病・心臓病等）（下村担当） 小児期の腎臓病、心臓病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 9 小児期の慢性疾患Ⅲ（糖尿病等）（下村担当） 小児期の糖尿病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 10 悪性腫瘍（小児ガン、脳腫瘍等）（下村担当） 小児の悪性腫瘍の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 11 進行性筋ジストロフィー（下村担当） 小児期の筋ジストロフィー患者の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。				

	12 てんかん、血友病、その他の疾患（下村担当） 小児期のてんかん、血友病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 13 心身症・精神疾患（下村担当） 小児期の心身症、精神疾患の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 14 病弱者の支援における今日的課題（高橋担当） 病弱・身体虚弱者に関する最近のデータや政策等から今日的課題について整理し、学習します 15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと（高橋担当） 授業で学習した内容をもとに、病弱・身体虚弱者を支援する際に大切にしていきたいことについて考えます。		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	シラバスを参考に病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図ってください。
	復習	90 分	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組んでください。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ、授業内で提示された参考文献等を参考にして、ノートを整理し、知識の定着を図ってください。
成 績 評 価 方 法	下村授業担当分 50 点(定期試験)、高橋担当授業分 50 点(授業振り返りシート 20 点、提示課題の取組状況 10 点 課題レポート 20 点)として、2 名の教員の総合点(満点は 100 点)によって評価します。		
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です		
参 考 書 (購 入 任 意)	特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理（小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一 編著、ミネルヴァ書房） 病気がみえる vol.15 小児科(医療情報科学研究所 編、メディックメディア) イラストを見せながら説明する 子どもの病気とその診かた(金子堅一郎 編、南山堂)		

科 目 名	知的障害者教育課程論			
科 目 名 （ 英 語 ）	Curriculum Theory for Intellectual Disabilities		シラバスNo.	250040690
担 当 教 員 名	郡司 竜平			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育課程編成の実際や仕組みを体系的に指導する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。			
受 講 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 オンラインシステムを用いて、講義中の気づきを受講者がリアルタイムで発信し、講義内で取り上げることで全体で共有しながら学びを深める。			
授 業 の 計 画	1 知的障害とは（イントロダクション）認知、学習、生活、自立 2 知的障害児教育の概要（1）特別支援学校の教育の実際 3 知的障害児教育の概要（2）特別支援学級の教育の実際 4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題「生きる力」を中心に 5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室） 6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準 7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備 8 教育課程の開発と編成 個別的教育支援計画、個別の指導計画 9 各教科の指導 10 領域の指導 自立活動 11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習の時間 12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価 13 ティームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発 14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編成 15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	シラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的事項を理解すること。	
	復習	9 0 分	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。	
	講義終了後に Forms にて講義内容の理解度等についての振り返りを行う。			

成 績 評 価 方 法	講義におけるリアクションペーパー（30%）、試験（70%）により評価する。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	橋本創一、三浦巧也、渡邉貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）

科 目 名	知的障害者教育方法論				
科 目 名（英 語）	Methodology of Education for Intellectual Disabilities			シラバスNo.	250040700
担 当 教 員 名	郡司 竜平				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育内容や方法について体系的に指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
受 講 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 知的障害教育における教育方法について実際に体験しながら学修する。 オンラインシステムを用いて、講義中の気づきを受講者がリアルタイムで発信し、講義内で取り上げることで全体で共有しながら学びを深める。				
授 業 の 計 画	1 知的障害のある子どもの理解と教育 2 行動観察とアセスメント 3 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について① 4 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について② 5 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について③ 6 応用行動分析学に基づく支援（１）行動分析の理論、行動の形成と強化 7 応用行動分析学に基づく支援（２）課題分析と連鎖化 8 自立活動と個別の指導計画（１） 9 自立活動と個別の指導計画（２） 10 授業の工夫と改善（１）各教科の指導 11 授業の工夫と改善（２）各教科等を合わせた指導 12 知的障害教育における ICT の活用について 13 自閉スペクトラム症のある人の事例で学ぶ 14 ダウン症のある人の事例で学ぶ 15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ）				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	講義終了時にレディネスチェックを行い、次時の学修へのレディネスを自ら把握する。把握した内容に基づきシラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的事項を理解すること。		
	復習	9 0 分	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。		
	講義終了後に Forms にて講義内容の理解度等についての振り返りを行う。				

成 績 評 価 方 法	講義におけるリアクションペーパー（30%）、レポート（70%）により評価する。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	青山新吾監修、郡司竜平、野口晃菜編著「オンライン・オフラインで考える特別支援教育」明治図書 2021
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 郡司竜平著『特別支援教育 ONE テーマブック ICT 活用新しいはじめの一步』学事出版 2019

科 目 名		肢体不自由者教育課程論				
科 目 名 （ 英 語 ）				シラバスNo.	250040710	
担 当 教 員 名		森田 隆行				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭・教頭・校長及び教育委員指導主事として特別支援教育に関する実務経験を有する教員が、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を指導するとともに、カリキュラム・マネジメントについて指導する科目					
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	1 生きる力として知・徳・体に加え、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指すために教育課程を編成することについて理解している。 2 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学習の進捗を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することを理解している。 3 各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児、児童又は生徒の実態に応じて適切な指導を行うために個別の指導計画を作成することを理解している。 4 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いを理解している。 5 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。					
受 講 の 留 意 点	肢体不自由教育に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。					
	アクティブ・ラーニングの内容 ・事例をもとにしたディスカッション					
授 業 の 計 画	1 特別支援学校教育要領・学習指導要領 2 特別支援学校（肢体不自由）で育む「生きる力」と教育課程 3 肢体不自由の状態や特性、心身の発達段階、学習進捗のアセスメント 4 就学前の療育・保育・教育とキャリア教育 5 アセスメントを踏まえた教育課程の編成（教育内容、組織、授業時数） 6 各教科の年間指導計画を踏まえた個別の指導計画の作成 7 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取り扱い 8 カリキュラムマネジメント（個別の指導計画の実施状況と教育課程の評価・改善） 9 教育課程の実際（１） 小中学校・高等学校の各学年に準ずる教育課程 10 教育課程の実際（２） 目標・内容を前各学年に替えて学習する教育課程 11 教育課程の実際（３） 知的特別支援学校の各教科の目標・内容に替えて学習する教育課程 12 教育課程の実際（４） 自立活動を主として学習する教育課程 重度重複障害 13 肢体不自由教育の実際（１） 授業の実際 14 肢体不自由教育の実際（２） 医療的ケアと学校看護師、訪問教育 15 肢体不自由教育の今後の課題 教師の専門性					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	「授業の計画」にある用語について、インターネットや書籍を用い、予め調べてまとめておく。問われた時に発表できるようにしておく。			
	復習	90 分	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図る。			

成 績 評 価 方 法	毎回のリアクションペーパー（30点）、レポート（70点）により評価する。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部） 特別支援学校高等部学習指導要領
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	随時に紹介する。

科 目 名		肢体不自由者教育方法論			
科 目 名（英 語）				シラバスNo.	250040720
担 当 教 員 名		森田 隆行			
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭・教頭・校長及び教育委員指導主事として幼児児童生徒の特別支援教育に関する実務経験を有する教員が、肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について講義し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法について指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、思考力、判断力、表現力等の育成に必要な体験的な活動を通して基礎的な概念の形成を的確に図ることについて理解している。 2 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、各教科等を効果的に学習するために必要となる姿勢や認知の特性に応じて指導を工夫することについて理解している。 3 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、指導の効果を高めるために必要となる身体の動きや意思の表出の状態に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫することや、ICT及び教材・教具を活用することについて理解している。 4 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるとともに、授業改善の視点を身に付けている。				
受 講 の 留 意 点	肢体不自由児に対する適切な指導及び必要な支援に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 アクティブ・ラーニングの内容 ・肢体不自由の個別具体事例を想定した補助具や補助手段の作成、ICT と教材教具の実際の活用 ・肢体不自由に由来する困難の擬似的体験に基づく目標達成のための指導案作成と模擬授業、協議				
授 業 の 計 画	1 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階 2 思考力、判断力、表現力等の育成に必要な体験的な活動と基礎的な概念の形成 3 効果的に学習するために必要な姿勢や認知の特性に応じた指導 4 身体の動きや意思の表出の状態に応じた補助具や補助的手段の工夫 5 身体の動きや意思の表出の状態に応じたICT及び教材・教具の活用 6 各教科等の指導と自立活動及び自立活動の指導との関連 7 各教科等の指導の実際（１） 小学校、中学校、高等学校の教育課程に準ずる教育 8 各教科等の指導の実際（２） 一人一人の障害の状態等を考慮した弾力的な教育課程 9 各教科等を合わせた指導（１） 日常生活の指導、遊びの指導 10 各教科等を合わせた指導（２） 生活単元学習、作業学習 11 授業設計（１） 学習指導案の作成方法 12 授業設計（２） 学習指導案の作成と修正 13 授業の評価・改善（１） 模擬授業 14 授業の評価・改善（２） 授業の相互検討 15 肢体不自由教育のまとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	「授業の計画」にある用語について、インターネットや書籍を用い、予め調べてまとめておく。問われた時に発表できるようにしておく。		
	復習	90 分	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図る。		

成 績 評 価 方 法	毎回のリアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部） 特別支援学校高等部学習指導要領
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	随時に紹介する。

科 目 名	病弱者教育論			
科 目 名 （ 英 語 ）	Education for Children with Health Impairments	シラバスNo.	250040730	
担 当 教 員 名	高橋 和明			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開講形態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資格要件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道内の特別支援学校や教育行政機関で 37 年間肢体不自由教育及び病弱教育に携わってきた経験を生かし、インクルーシブ教育システム下における病弱教育に必要な基礎的・基本的事項を身に付けることを目的に、具体的な事例等を取り上げて、多様なニーズを有する病弱・身体虚弱の児童生徒の理解と授業づくりのための指導内容・方法・評価について解説する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性を備えている。			
学 修 到 達 目 標	病弱教育の歴史と意義について理解し、病弱教育の特徴について学校教育の制度や教育課程を中心に概要を把握し説明できる。 病弱・身体虚弱児の教育的ニーズを理解するとともに、病気等の状態等に応じた教育内容・方法に関する基本的事項や配慮事項、自立活動の指導との関連を理解し、病弱教育に求められる専門性について自分なりの考えをまとめ説明することができる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割について学び、病弱教育の意義と現代的課題を考えるとともに、病弱・身体虚弱児の教育的ニーズや学びの場、教育課程の特徴を理解する。また、病弱教育の対象である主な疾患の特徴を知り、病類に応じた教育の在り方や配慮事項、自立活動との関連について理解し、特別支援学校(病弱)の教員としての自覚や意欲を養う。さらに、実際の事例等に基づいて病気療養児の心理や支援方法、家庭や医療機関との連携について学び、病弱教育における専門性を考える。 病弱教育における基礎的・基本的事項や留意事項について、理解が適切に図られるよう写真や図解、実践例、動画を取り入れた PowerPoint 教材を使用するとともに、受講生の主体的な学びを促し、学修したことの振り返りと定着を図るためワークシート形式の講義資料を取り入れて授業を展開する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 病弱・身体虚弱の児童生徒への支援をテーマに、KJ 法を取り入れてグループディスカッション・グループワークを行う授業を設定している。			
授 業 の 計 画	1 イントロダクション 授業の進め方、病弱教育の意義と目的 2 病弱教育の歴史的変遷と現状 3 病弱・身体虚弱の子どもとの関係法令と学びの場、教育課程の整備 4 病弱・身体虚弱の子どもとの教育目標と教育課程 5 病弱教育対象の子どもとの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、アレルギー疾患 6 病弱教育対象の子どもとの病気の種類と教育的配慮(2) 糖尿病、肥満 7 病弱教育対象の子どもとの病気の種類と教育的配慮(3) 腎疾患、心疾患 8 病弱教育対象の子どもとの病気の種類と教育的配慮(4) 神経・筋疾患 9 病弱教育対象の子どもとの病気の種類と教育的配慮(5) 重症心身障害・てんかん 10 ターミナル期にある子どもの教育 悪性新生物（小児がん） 11 ターミナル期にある子どもの教育の実際～命を見つめる～ 12 病気とともに生きるということ(1) ～グループディスカッション・グループワークを通して病気療養児の教育を考える～ 13 病気とともに生きるということ(2) ～グループディスカッション・グループワークの成果発表～、病弱教育の新たな対象～心身症～			

	14 拡大する病弱教育の対象 ～不登校、虐待～ 15 病気の状態に応じた指導の工夫と現代的課題～各教科の指導と自立活動の指導、教育の情報化、学校における医療的ケア等～		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	60 分	参考文献や学習指導要領等で、予定されている授業内容を確認しておくとともに、関心を持った話題については各種文献やネットで調べておくこと。
	復習	120 分	配付資料や学習指導要領、講義中に出題した課題、講義メモなどから授業内容を振り返り、ノートを整理することや授業で取り上げられたキーセンテンスやキーワードについて参考文献やネットで調べて理解を深めること。
成 績 評 価 方 法	学期末のレポートの提出と毎時間の履修状況（授業の中で実施する小課題・感想文やグループワークの成果物の提出）に基づいて総合的に評価する。評価点の配分割合は、学期末レポート 60%、毎時間の履修状況 40%。大学の履修規定に基づいて評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	毎時間授業のレジюмеと資料を配付する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 文部科学省『特別支援学校高等部学習指導要領』海文堂出版 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部、小学部、中学部）』開隆堂出版 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引』ジアース教育新書 全国病弱教育研究会『病気の子どもの教育入門』クリエイツかもがわ 山本昌邦・島治伸・滝川国芳『標準「病弱児の教育」テキスト』ジアース教育新社 標準宮本信也・土橋圭子『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』金剛堂 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所『病気の子どもの教育支援ガイド』ジアース教育新社 全国特別支援学校病弱教育校長会『特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』ジアース教育新社		

科 目 名	視覚障害者教育総論				
科 目 名 （ 英 語 ）				シラバスNo.	250040740
担 当 教 員 名	星 祐子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	担当教員は、視覚特別支援学校での 30 年ほどの教諭としての指導経験、8 年の管理職としての経験、また通常の学級に在籍する視覚に障害のある児童の支援業務も行っていたため、これらの指導・支援の経験に基づいた講義と演習等を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・視機能の低下の要因となる病理、心理面及び生理面の特徴について説明ができる。 ・視覚障害に対する配慮事項や指導における工夫等について説明ができる。 ・全盲児童生徒の使用文字である点字や教材を知り、その特徴と工夫等を説明することができる。 ・弱視児童生徒の視覚障害に応じた配慮を踏まえた文字や教材について知り、その特徴と工夫等を説明することができる。 ・視覚の他にも障害のある幼児児童生徒に対する指導について考えをまとめることができる。 ・視覚障害における今日的課題に対して資料等をもとに意見や考えをまとめることができる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	視覚に障害のある（全盲、弱視）幼児児童生徒の視機能の低下の要因となる病理面と心理面及び生理面の特徴、知覚や認知の特性及び教育課程、各教科や自立活動等の具体的指導内容、指導における配慮事項等について講義する。また、視覚の他にも知的・肢体不自由等、他の障害を併せ有する幼児児童生徒に対する教育や連続性のある多様な学びの場、および交流及び共同学習等について講義する。 これらの内容について、教育現場の状況と今日的課題が分かるような映像や資料、各種演習等を取り入れた授業を行う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 学修者が能動的に学修できるよう、視覚障害の疑似体験や各種演習を取り入れ、適宜、それらを基にしたディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	1 視覚障害の定義、視覚器の構造と主な視機能、主な眼疾患と見え方の特徴および配慮事項 2 視覚障害の教育的アセスメント、観察評価、家庭や関係機関との連携、視覚障害乳幼児の発達の特徴と支援 3 視覚障害教育の歴史と制度の変遷、就学先決定の仕組みと教育の場について 4 教育課程の意義と編成方法、学習指導要領による視覚障害への留意事項、カリキュラム・マネジメントについて 5 自立活動の目標と指導、個別の指導計画について、キャリア教育と進路指導 6 全盲児の指導：触察指導、文字指導を中心に（演習とディスカッション） 7 弱視児の指導：視知覚の特性と配慮を中心に（演習とディスカッション） 8 視覚の他に障害を併せ有する重複障害児の指導について 連続性のある多様な学びの場における指導と配慮事項、まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	事前に配布する資料を読んでおくこと、指定した学習指導要領の箇所を読んでおくこと		
	復習	90 分	授業終了時に示す課題を行うこと		
成 績 評 価 方 法	授業における取組状況（30 点）、レポート課題（70 点）により評価する。				

教科書 (購入必須)	事前に資料を配布し、授業内でも、適宜、プリントを配布する。
参考書 (購入任意)	・青柳まゆみ・鳥山由子編著（2020）『新視覚障害教育入門』ジアース教育新社 ・久保山茂樹・星祐子監修（2017）『視覚障害のある友だち 知ろう！学ぼう！障害のことシリーズ』金の星社 ・香川邦生編著（2016）『五訂版 視覚障害教育に携わる方のために』慶應義塾大学出版会 ・氏間和仁編著（2013）『見えにくい子どもへのサポートQ&A』読書工房 ・特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） ・特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）

科 目 名	聴覚障害者教育総論				
科 目 名 （ 英 語 ）				シラバスNo.	250040750
担 当 教 員 名	庄司 和史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校（聴覚障害）教諭として実務経験のある教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、障害が及ぼす困難を改善・克服するための自立活動の展開、保育や教科指導等における実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。				
	アクティブ・ラーニングの内容：難聴が及ぼすコミュニケーションの障がいに関する疑似体験活動を実施し、グループでディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	1 授業概要の説明 聴覚障害の定義（医学モデル、社会モデルの理解）、音声音響学の概要 2 聴覚の構造及び機能 聴覚障害の生理学及び病理学的理解 3 心理特性及び発達 疑似体験を通じた理解、聴覚障害が及ぼす言語・コミュニケーションの発達への影響 4 障害の早期発見と早期療育 新生児聴覚スクリーニングのシステム、医療等との連携、補聴器・人工内耳の装用支援と評価 5 教育課程の編成と指導法① 障害教育におけるカリキュラムマネジメント、聴覚障害の特性に応じた各領域、各教科の指導 6 教育課程の編成と指導法② 聴覚障害教育における自立活動、個別の指導計画、発語発音指導、聴覚学習、専門性及び個別の指導計画 7 指導の実際① 各発達段階における指導、乳幼児段階からの支援、保護者支援 8 指導の実際② 学習指導案・保育計画案の作成方法、まとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	事前に配布した参考資料を読み、とくに障害の医学モデルと社会モデルのとらえ方を確認し、難聴と関連付けて理解しておくこと。		
	復習	90 分	授業計画の各項目で示した課題について、配布した資料等を参照しながら授業内容の理解を深める。最終課題へ取り組む。		
成 績 評 価 方 法	講義における小レポート（20 点）、提示課題の取り組み状況（20 点）、レポート課題（60 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	授業の2週間前に参考資料を配布予定。授業全体の資料は当日配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021				

科 目 名	重複障害・発達障害の評価				
科 目 名（英 語）	Assessment of Multiple and Developmental Disabilities			シラバスNo.	250040760
担 当 教 員 名	奥村 香澄				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童家庭支援センター、市教育委員会就学支援委員会、小児科発達外来において知能検査・心理検査業務に従事経験がある。授業にて扱う知能検査・心理検査の実施手順および報告書の作成、保護者への報告について仮想事例を通して体験してもらう。				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。				
受 講 の 留 意 点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、仮想事例の検討				
授 業 の 計 画	1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活 2 アセスメントの方法 フォーマルアセスメント、インフォーマルアセスメント 3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック、生理学的評価 4 医学的評価 脳波、脳血流量、血中酸素、染色体 5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程 6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義 7 心理検査の理解③ WISC-V、KABC-II、DN-CAS 8 心理検査の実際① WPPSI-III 9 心理検査の実際② 田中ビネー式知能検査 V、新版 K 式発達検査 10 心理検査の解釈① WPPSI-III 11 心理検査の解釈② 田中ビネー式知能検査 V、新版 K 式発達検査 12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画の策定 13 保護者支援 障害受容、療育、教育・医療との連携 14 自立支援 福祉、就労支援 15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	9 0 分	参考書や関連する文献を読む		
	復習	9 0 分	授業の振り返り		
	授業終了後に、forms にて授業の理解度等についての振り返りを行います。				
成 績 評 価 方 法	中間レポート（50%）、最終レポート（50%）等で評価する。				

教科書 (購入必須)	なし
参考書 (購入任意)	授業内で資料を適宜配付する。

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導					
科 目 名（英 語）	Guidance for Teaching Practicum in Special Education		シラバスNo.	250040780		
担 当 教 員 名	郡司 竜平・奥村 香澄・森田隆行					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目					
対応する ディプロマ・ポリシー	4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
学 修 到 達 目 標	1 教育実習の意義や目的について説明することができる。 2 教育実習の内容を理解し、自らの課題を設定することができる。 3 学習指導案を作成することができる。 4 教育実習の総括と自己評価をし、新たな課題を設定することができる。					
受 講 の 留 意 点	教育実習の意義や目的を理解し、教育実習に対する意欲を高めること。 欠席・遅刻は十分に留意すること。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育実習に取り組むために、教育実習の意義や目的、流れを理解するとともに、指導案の作成をする。また、教育実習の学びを深めるために、教育実習で学んだことを教育実習報告会において発表と協議をする。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 指導案作成や教材作成等を実際に行い、結果を共有し改善を行う。 作成した指導案に基づき模擬授業を実施し、評価改善を行う。					
授 業 の 計 画	1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容（必要な書類や手続き） 3 幼児児童生徒の実態把握 4 個別支援と集団による授業における指導計画の立て方 5 領域・教科における指導案の作成 6 領域・教科における指導案の改善 7 教科等を合わせた指導の指導案の作成 8 教科等を合わせた指導の指導案の改善 9 指導案に基づく模擬授業 10 実習前の確認事項 11 教育実習報告会① 12 教育実習報告会② 13 教育実習報告会③ 14 教育実習報告会④ 15 教育実習の振り返り					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	20分	これまで履修した特別支援教育に関する授業科目の内容を理解しておくこと。			
	復習	25分	実習後は報告する内容をプレゼンテーション資料として内容をまとめておくこと。			
成 績 評 価 方 法	提出物（30%）、教育実習報告会の発表（70%）により評価する。					

教科書 (購入必須)	必要に応じて資料を配布する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	障害児教育実習				
科 目 名 （ 英 語 ）	Teaching Practicum in Special Education		シラバスNo.	250040790	
担 当 教 員 名	郡司 竜平・奥村 香澄・森田隆行				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択		資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、教育実習生への指導経験を生かした指導をする科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。				
学 修 到 達 目 標	1 特別支援学校の役割や機能について説明することができる。 2 障害児の指導方法及び保護者への支援方法を身に付けることができる。 3 特別支援学校教諭の業務内容や職業倫理について説明することができる。				
受 講 の 留 意 点	教育実習の意義や目的を理解し、教育実習に対する意欲を高めること。欠席・遅刻は十分に留意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	障害領域に対応した指導力を身に付けるために、特別支援学校での実習を通して、対象幼児児童生徒の実態把握、指導案の作成、教材研究、研究授業をする。 アクティブ・ラーニングの内容 指導案作成や教材作成等を実際に行い、結果を共有し改善を行う。				
授 業 の 計 画	1 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教師の専門性及び服務 2 幼稚部から高等部及び専攻科を通した教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） 3 各教科等の授業参観 4 配属学級における学級経営の視点と方法 5 幼児児童生徒の実態把握 6 個別の指導計画と学級経営を基盤とした指導計画の作成 7 各教科等の指導計画の作成と教材研究 8 実習授業 9 研究授業 10 実習のまとめ				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て					
成 績 評 価 方 法	学習指導、生活指導、幼児児童生徒理解、実習態度について実習校担当者が評価した評価表（80%）と実習日誌の記載内容（20%）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	保育指導論演習				
科 目 名（英 語）	Seminar on Early Childhood Care and Education		シラバスNo.	250040800	
担 当 教 員 名	田口 憲司				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、保育における幼児理解、保育記録の意義と作成、指導方法と内容について、フィールドワーク、指導計画作成、発表を通して保育者としての指導法、技法等を修得させる科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身に付けている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築する力を身に付けている。				
学 修 到 達 目 標	・保育指導論での学修を踏まえ、子どもの発達を促す保育方法について実践的な力量を身に付けることができる。 ・子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例検討やフィールドワーク、グループディスカッションを通して自ら課題解決する力を身に付けることができる。				
受 講 の 留 意 点	グループワーク等を含めるため、欠席や遅刻等をしないこと。 PCの利用が必要なため、準備しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	レポート課題に対し、能動的に調べ学習をする。 また、そのレポートについて発表し、話し合う。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、グループディスカッション、フィールドワーク				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション：保育指導論での学びの確認 2 保育三法令と保育内容：保育現場での位置づけ 3 保育における環境の意義① 子どもの主体性と環境のつながり 4 保育における環境の意義② 子どもが遊び込むための環境設定 5 保育における環境の意義③ 子遊びが広がる環境設定 6 子ども理解に基づく保育① 実践記録に学ぶ 7 子ども理解に基づく保育② 子どもの経験と援助のつながり 8 記録の意義と内容① 写真や映像を通して子どもの経験を捉える。 9 記録の意義と内容② 保育における ICT の活用 10 記録の意義と内容③ 保育記録の作成 11 実践者に学ぶ：GS の実践 12 保育計画の作成と保育展開① 模擬保育に向けて 13 保育計画の作成と保育展開② 模擬保育① 14 保育計画の作成と保育展開② 模擬保育② 15 まとめ 子ども理解と保育者の役割について				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	各回の内容をシラバスにて確認し、各自で必要箇所について調べたり、質問をまとめたりしておくこと。		
	復習	30 分	毎回の授業の内容をまとめ、理解が不十分な点について、資料を参考に学習の補完を行うこと。		
成 績 評 価 方 法	授業内レポート 30 点、期末試験 60 点、授業態度・出席 10 点				

教科書
(購入必須)

参考書
(購入任意)

科 目 名	家庭支援実践演習				
科 目 名 （ 英 語 ）			シラバスNo.	250040810	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について事前に講義し、子育て支援の場に演習として参加する。現場の保育士から子育て支援における保育者の役割について指導を受け、実際の親子に関わりながら家庭支援における保育士の役割を実践的に学ぶ演習科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	子育て家庭を取り巻く社会的状況を学び、子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援について理解し、説明できるようになる。 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携を学び、保育士の役割について考察できるようになる。 地域子育て支援センターでの家庭支援に触れ、保育士の役割と専門性について学び、よりよい支援をできるようになる。				
受 講 の 留 意 点	講義、演習、実習を含め主体的に参加することを求めます。現場（主に地域子育て支援センター、認定こども園）での演習を行うため、日程の調整があります。子育て支援拠点、保育所、認定こども園等の子育てに関する社会資源について、事前学習を行ってください。フィールドワーク後は、各自日誌による振り返りを行い、日誌の提出をもって演習の出席となります。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	家庭支援は保育所のみが行うものではなく、地域には様々な取り組みがある。保育士は、時にそれらをコーディネートする役割をもつ。この演習科目では、フィールドワークを行い、名寄地域での取り組みから家庭支援のあり方を実践的に学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 子育て支援拠点（地域子育て支援センター）、認定こども園でのフィールドワーク、振り返りのグループ・ディスカッション				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、子ども家庭支援の意義と必要性 2 名寄市における子育て支援の実際 3 保育所等での家庭支援と保育士の役割 4 演習：フィールドワーク（1）保育所等における家庭支援の実際 5 演習：フィールドワーク（2）保育所等に通う家庭への支援と保育士の役割を知る 6 家庭支援の実際と保育士の役割 7 演習：フィールドワーク（2）子育て支援センターの実際、保育士の役割を知る 8 演習：フィールドワーク（3）親子の実際を知る 9 演習に向けての準備①フィールドワークの振り返りと課題整理 10 演習：フィールドワーク（4）環境設定 11 演習：フィールドワーク（5）保護者とのコミュニケーション 12 演習に向けての準備②コミュニケーション演習 13 演習：フィールドワーク（7）保護者との関係づくり 14 演習：フィールドワーク（8）子育て支援をイメージしたかわり 15 演習の振り返りとまとめ～家庭支援における保育者の役割と専門性～				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	必修科目「子ども家庭支援論」で学んだ内容を振り返り、演習に備える		
	復習	90 分	作成した記録（日誌）を通して演習内容を振り返る		
	講義（30%）と演習（70%）を併用する				

成 績 評 価 方 法	演習後の日誌（振り返り）提出（20点×4回）と期末レポート（20点）で評価する。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特に指定しない。
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院

科 目 名	教育実習				
科 目 名 （ 英 語 ）	Teaching practicum			シラバスNo.	250040850
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対応する ディプロマ・ポリシー	3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき，子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け，他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1 幼稚園，幼保連携型認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どもとのかかわりを通して，子ども理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ，子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画，観察，記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 幼稚園教諭，保育教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
受 講 の 留 意 点	規定の実習時間の消化が前提となるため，欠席・遅刻はしないこと。また，日誌，指導案等の提出物に関しては，実習園の方針に従い提出すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	実習を通して幼稚園，認定こども園の役割や機能を理解し，直接対象に関わることにより，保育について総合的に学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 実習				
授 業 の 計 画	1 幼稚園，幼保連携型認定こども園の役割と機能 （1）幼稚園，幼保連携型認定こども園の生活と一日の流れ （2）幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解と保育の展開 2 子ども理解 （1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達過程の理解 （3）子どもへの援助や関わり 3 保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと保育内容 （4）子どもの健康と安全 4 保育の計画，観察，記録 （1）指導計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育者の役割と職業倫理 （1）幼稚園教諭，保育教諭の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）幼稚園教諭，保育教諭の役割と職業倫理				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習				
	復習				
	実習 45 時間（授業時間外 45 時間）				
成 績 評 価 方 法	事前事後指導中の取り組み態度，及び実習日誌等の提出物を 50%，教育実習の勤務状況，実習の取り組み姿勢，及び実習園の成績評価等を 50%とし，総合的に評価する。				

教科書 （購入必須）	文部科学省，2018『平成30年3月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平，2020『保育・教育実習（新しい保育講座12）』ミネルヴァ書房 小櫃智子・田中君枝ほか，2023『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
参考書 （購入任意）	

科 目 名	教育実習指導				
科 目 名（英 語）	Guidance for Teaching Practicum			シラバスNo.	250040860
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対応する ディプロマ・ポリシー	3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	・幼稚園、及び幼保連携型認定こども園における教育実習の準備を行い、教員としての実体験を図るための構えができる。 ・実習終了後には実習報告会を行い、教育実習の総括と今後の課題を明らかにし、好ましい教師像を模索することができる。				
受 講 の 留 意 点	実習に必要な事前指導を行うため、遅刻・欠席をしないよう十分留意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	実習を中心としながら、事前ならびに事後においてグループごとのディスカッション、報告を取り入れながら進める。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、ディスカッション、実習				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション：教育実習の意義と目的 2 教育実習に必要な視点と心構え 3 様々な事例に基づいた援助の多様性と保育者の役割 4 実習日誌と記録の書き方～全体の流れ、手順、PCの使用について～ 5 実習日誌と記録の書き方～グループワーク 6 保育における指導計画、指導案の位置づけ 7 指導計画、指導案の作成と保育の展～事例を通して 8 指導計画、指導案の作成と保育の展開～発表 9 実習に関する諸手続き・直前指導 10 実習後の振り返りと学びのおさえ、まとめに向けて 11 実習の振り返り～まとめの要点の確認 12 実習の振り返り～グループワーク1 13 実習の振り返り～グループワーク2 14 教育実習報告会（前半） 15 教育実習報告会（後半）				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	20 分	幼稚園教育要領ならびに授業に必要なテキストを読み授業に備えること。 また、実習先との連絡を密に取りながら実習への準備を万全に行うこと。		
	復習	25 分	実習前は、授業内容を振り返り、まとめること。 実習後は、全体の振り返りと自己評価を行うこと。		
	演習 30 時間（授業時間外 15 時間）				
成 績 評 価 方 法	事前事後指導中の取り組み態度、及び実習日誌等の提出物を 50%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢、及び実習園の成績評価等を 50%とし、総合的に評価する。				

教科書 (購入必須)	文部科学省, 2018『平成 30 年 3 月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平, 2020『保育・教育実習 (新しい保育講座 12)』ミネルヴァ書房 小櫃智子・田中君枝ほか, 2023『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社 (※「教育実習」と共通)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	保育実習 I				
科 目 名 （ 英 語 ）			シラバスNo.	250040870	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・鈴木 勲・小山 貴博				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
受 講 の 留 意 点	保育実習の基礎となる科目（履修 GUIDE 参照）の単位修得が前提となる（実質的に進級の未認定と同様となる場合があるので注意）。 実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	＜保育所における実習＞ 1 保育所の役割と機能 （保育所保育士指針の理解と保育の展開） 2 子ども理解 （1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達の理解と援助 3 保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと保育内容 （4）子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 （1）保育課程と指導計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理 ＜児童福祉施設等（保育所以外）における実習＞ 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 子どもの理解 （1）子どもの観察とその記録 （2）個々の状態に応じた対応 3 養護内容・生活環境 （1）計画に基づく活動や援助 （2）子どもの心身の状態に応じた対応 （3）子どもの活動と生活環境 （4）健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録 （1）支援計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習				
	復習				

成 績 評 価 方 法	実習先からの評価 40%、学内評価(日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出)40%、レポート課題 20%
教 科 書 (購 入 必 須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）
参 考 書 (購 入 任 意)	一般社団法人全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成』中央法規出版、2018 年

科 目 名	保育実習指導 I				
科 目 名（英 語）			シラバスNo.	250040880	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・鈴木 勲				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1．保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設等）の意義・目的を理解する。 2．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3．児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4．実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5．実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。				
受 講 の 留 意 点	保育実習の基礎となる科目（履修 GUIDE 参照）の単位修得が前提となる（実質的に進級の未認定と同様となる場合があるので注意）。 実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育実習の目的および内容の理解、保育所・児童福祉施設等の理解、保育所保育指針の理解、必要な保育技術の習得をその内容とする。実習先の決定にいたるまでの手続とその指導も行う。また、事後指導では、実習の総括や評価をもとに、課題を明確にし、学内での学修との統合を図る。 アクティブ・ラーニングの内容 模擬保育実践、グループ・ディスカッション、実習報告会での発表と討議				
授 業 の 計 画	保育実習指導 I 保育所			保育実習指導 I 施設	
	1	保育実習の概要		1	施設実習 I の目的と概要
	2	保育実習 I 保育所の目的と概要		2	児童福祉施設等（保育園以外）の予備知識 希望調査
	3	保育実習の意義・目的・内容の理解		3	児童福祉施設等（保育園以外）の理解（児童養護施設、乳児院）
	4	保育所・認定こども園の理解と実習内容（実習の段階、子ども理解など）		4	児童福祉施設等（保育園以外）の理解（障害児者関係等）
	5	プライバシーの保護と守秘義務		5	児童福祉施設等（保育園以外）での実習内容と課題
	6	実習に向けての心構え（服装、挨拶、ネット利用など）		6	児童福祉施設等（保育園以外）の記録と心構え
	7	実習記録の意義・方法の理解（日誌の記入など）		7	子どもの人権と子どもの最善の利益の考慮
	8	保育計画、保育指導の理解（園の保育計画、カリキュラムなど）		8	プライバシーの保護と守秘義務
	9	実習施設（保育所・認定こども園）の理解		9	実習計画作成 実習配属先決定回答書の指示事項確認
	10	実習に関する諸手続き（個人票の作成、検便・健診などの確認）		10	事後指導 個人の振り返り
	11	実習課題の明確化・直前指導（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて）		11	事後指導 グループでの振り返り

	12	事後指導 実習内容の振り返り	12	事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等
	13	事後指導 評価の確認（自己評価と園評価）	13	事後指導 評価の確認
	14	事後指導 課題の整理	14	事後指導 課題の整理
	15	実習総括	15	実習総括
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。	
	復習	30 分		
成 績 評 価 方 法	実習先理解の事前学習 20%、事前指導課題（実習計画書） 30%、事後指導課題（日誌の提出、自己課題の提出、報告書の提出） 50%			
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	一般社団法人全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成』中央法規出版、2018 年			

科 目 名	保育実習Ⅱ				
科 目 名（英 語）			シラバスNo.	250040890	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。				
学 修 到 達 目 標	1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確化する。				
受 講 の 留 意 点	保育実習Ⅰおよび保育実習指導Ⅰの単位を修得済みの者。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育所において所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。 アクティブ・ラーニングの内容 保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。				
授 業 の 計 画	1 保育所の役割や機能の具体的展開 2 観察に基づく保育理解 (1)子どもの心身の状態や活動の観察 (2)生活の流れや展開の把握と保育士等の支援 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2)入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1)保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己課題の明確化				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習				
	復習				
成 績 評 価 方 法	実習先からの評価 40%、学内評価(日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出)40%、レポート課題 20%				
教 科 書 (購 入 必 須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ (※保育実習指導Ⅰと共通)				
参 考 書 (購 入 任 意)	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習指導Ⅱ				
科 目 名（英 語）			シラバスNo.	250040900	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。				
学 修 到 達 目 標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
受 講 の 留 意 点	保育実習Ⅰおよび保育実習指導Ⅰの単位を修得済みの者。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し、自ら課題を克服していくなかで保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授 業 の 計 画	1 保育実習Ⅱの目的と概要 2 保育所・認定こども園での実習内容(実習の段階、子ども理解、保護者支援など) 3 子どもの最善の利益と保育 4 地域社会との連携・子育て支援の事例検討 5 実習に向けての心構え(プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など) 6 実習記録の意義・方法(日誌の記入など) 7 保育計画、保育指導の理解 その1(園の保育計画、カリキュラムなど) 8 保育計画、保育指導の理解 その2(指導案の作成) 9 保育計画、保育指導の理解 その3(模擬保育) 10 保育計画、保育指導の理解 その4(指導案の作成と模擬保育の振り返り) 11 実習課題の明確化(欠席等の連絡方法、訪問指導などについて) 12 事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価(事務確認を含む実習内容の振り返りなど) 13 事後指導 評価の確認(自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討) 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30 分	実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。		
	復習	30 分			
	講義			30 時間（授業時間外 15 時間）	
成 績 評 価 方 法	実習先理解の事前学習 20%、事前指導課題(実習計画書) 30%、事後指導課題(日誌・指導案の提出、自己課題の提出、報告書の提出) 50%				

教科書 (購入必須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ (※保育実習指導Ⅰと共通)
参考書 (購入任意)	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニмумスタンダード』北大路書房

科 目 名	保育実習Ⅲ				
科 目 名（英 語）	Childcare Practicum III			シラバスNo.	250040910
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、児童相談所等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 保育士としての自己の課題を明確化する。				
受 講 の 留 意 点	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 施設における支援の実際 （1）受容し、共感する態度 （2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 （3）個別支援計画の作成と実践 （4）子どもの家族への支援と対応 （5）多様な専門職との連携 （6）地域社会との連携 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分			
	復習	分			
成 績 評 価 方 法	実習先からの評価 40%、学内評価(日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出)40%、レポート課題 20%				

教科書 (購入必須)	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社（ISBN 978-4-905493-16-7）
参考書 (購入任意)	授業の中で適宜、紹介する。 和田一郎、鈴木勲編著「児童相談所一時保護所の子どもと支援 2 版」明石書店（ISBN-10 : 4750356514）

科 目 名	保育実習指導Ⅲ					
科 目 名（英 語）	Childcare Practicum Supervision III		シラバスNo.	250040920		
担 当 教 員 名	鈴木 勲					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目					
対応する ディプロマ・ポリシー	2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身につけている。					
学 修 到 達 目 標	1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
受 講 の 留 意 点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	児童福祉施設等(保育所以外)の基本的な理解、実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解、施設機能と保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。実習の事後指導には、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
	アクティブ・ラーニングの内容 学生主体のグループディスカッションや事例分析をとおして、保育士の専門性や職業倫理を実践的に学び、保育の実践力を高める。					
授 業 の 計 画	1 施設実習Ⅲのあり方 2 児童福祉施設（保育園以外）の予備知識 希望調査 3 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ 4 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ 5 児童福祉施設（保育園以外）での実習内容 6 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践① 7 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践② 8 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解、子どもの状態に応じた適切な支援 9 保育士の専門性と職業倫理 10 実習前最終確認 11 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等の確認 12 事後指導 評価の確認 13 事後指導 課題の明確化 14 実習報告会① 15 実習報告会② 実習の総括					

授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	15 分	次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。
	復習	30 分	講義内容を振り返り、考えを深めること。
成 績 評 価 方 法	実習先での評価 30%、提出物 70%		
教 科 書 (購 入 必 須)	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 (ISBN 978-4-905493-16-7)		
参 考 書 (購 入 任 意)	授業の中で適宜、紹介する。 和田一郎、鈴木勲編著「児童相談所一時保護所の子どもと支援 2 版」明石書店 (ISBN-10 : 4750356514)		

科 目 名	教職・保育実践演習			
科 目 名 (英 語)	Seminar on Teaching and Early Childhood Care and Education Practice		シラバスNo.	250040960
担 当 教 員 名	石本啓一郎・鹿嶋桃子・菊池稔・高島裕美・滝澤真毅・傳馬淳一郎・堀川真・三川美幸・三井登			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件 保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	1 人間の尊厳と権利を尊重し、豊かな人間性と幅広く深い知識・教養を基盤として、社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮する力を身につけている。 2 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3 子どもの発達を支える専門的な知識に基づき、子どもに寄り添うことのできるたくましくしなやかな身体と感性を備えている。 4 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築する力を身に付けている。 5 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	・ワークシートを用い、1 年次から 4 年次までの学修内容を省察することで、教員および保育者として必要な専門性について自ら考え、言語化することができる。 ・この省察をとおして、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を探り、言語化することができる。			
受 講 の 留 意 点	・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻をしないよう十分に留意すること。 ・これまでの 4 年間の学修内容について、自ら振り返ろうとする主体的な受講態度が求められる。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	フィールドワークをとおして現場の実践者と語り合う会、学生主体によるシンポジウムの開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振り返り、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見できるようにする。 さらに、教員および保育者として求められる 4 つの事項（①教育者としての使命感や責任感 / ②社会性や対人関係能力 / ③子ども理解やクラス経営、また職員・地域・家庭との連携 / ④教科・保育内容等の指導力）について、全 15 回を通じて総合的に学修する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 フィールドワーク、教室でのグループディスカッション、ディベート			
授 業 の 計 画	1 イントロダクション：4 年間の学修を捉えなおす授業としての位置付け 2 「社会保育」を考える（1）領域横断講義 社会編 3 「社会保育」を考える（2）領域横断講義 臨床編 4 幼児理解のあり方を再考する 5 家庭・地域との連携を再考する 6 児童養護に携わる職員と語りあう 7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう 8 保育と地域とのつながりを考える（1）フィールドワーク事前準備 9 保育と地域とのつながりを考える（2）フィールドワーク 10 保育と地域とのつながりを考える（3）フィールドワーク総括 11 4 年間の学びを振り返る（1）シンポジウム企画 12 4 年間の学びを振り返る（2）シンポジウム事前準備 13 4 年間の学びを振り返る（3）4 年生最終シンポジウム 1 日目			

	14 4年間の学びを振りかえる（4）4年生最終シンポジウム 2日目		
	15 活動・学修内容のまとめ		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	各回の活動に臨むのに先立って，活動のねらいや自分なりの課題を，ワークシートへの記載をとおしてあらかじめ明確にしておく。
	復習	90 分	各回の活動をとおして新たに身に付けたことや克服した課題について，ワークシートに記載し，振りかえる。
	演習 60 時間（授業時間外 30 時間）		
成 績 評 価 方 法	各回の活動や学修内容をまとめるワークシート（80%）,各回の活動や学習内容をまとめる提出課題（20%）		
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特に指定しない。		
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	内容に応じて，その都度指示・提示する。		